

## (1) 維管束植物

### 【掲載種の解説（維管束植物）に関する凡例】

#### 【分類群名等】

対象種の分類上の位置を示す門、綱、科名等を各頁左上に記述した。科の範囲、名称、配列は、科内の種の配列と共に、レッドリストに従った。

#### 【評価区分】

対象種の愛知県における評価区分を各頁右上に記述した。参考として「環境省レッドリスト 2019」の全国での評価区分も各頁右上に記述した。また、各評価区分に対応する英文略号も同じ場所に記述した。

#### 【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。

#### 【評価理由】

対象種の愛知県における絶滅のおそれの程度を評価した理由について記述した。評価の基礎になった個体数、集団数、生育環境、人為圧、固有性の階級値とその合計値も示した。

「国リスト」の種については【除外理由】として、対象種が愛知県では絶滅危惧種と判断されなかった理由を記述した。

#### 【形態】

対象種の形態の概要を記述した。この部分の記述は、特に断っていない限り全国的な資料に基づくものである。

#### 【分布の概要】

対象種の分布状況について、県内・国内・世界での概要を記述した。県内の分布は、1985 年以後に生育が確認された区画（5～7 頁参照）を略称で示し、区画毎に代表的な標本を 1 点引用した。引用標本は愛知みどりの会標本室に收藏されているものを優先し、また原則として採集年月日の新しいものを優先したが、標本の状態等を考慮してこの原則によらなかった場合もある。引用は採集者氏名（ただし小林元男氏と芹沢は名を省略）、標本番号、採集年月日、標本の所在（ただし愛知みどりの会は表示省略）にとどめたが、その区画内の既知産地で絶滅が確認されたものについては採集地（市町村名はラベルに表記されているもの）を加えた。また、必要に応じて 1985 年以前に採集された標本はあるがその後生育が確認されていない区画、記録はあるが裏付けとなる標本が確認できない区画を付記した。詳細な分布情報を公表すべきでないとは判断されたオキナグサとツゲについては、県内を尾張、西三河、東三河の 3 地域に分けて記述した。カンランについては、3 地域に分けての記述も避けた。

標本の所在は、以下の略号で示した。これ以外のものについては、収蔵機関名をそのまま表記した。

無表示：愛知みどりの会（AICH）

CBM：千葉県立中央博物館

HNSM：新城市立鳳来寺自然科学博物館

KYO：京都大学総合博物館

MAK：首都大学東京牧野標本館

NBC：名古屋市立なごや生物多様性センター

TI：東京大学総合研究博物館

TMNH：豊橋市立自然史博物館

TNS：国立科学博物館

千葉県立中央博物館については、収蔵されている故井波一雄氏、稲垣貫一氏採集の標本はほとんど標本番号がないので、同館の維管束植物標本登録番号を併記した。なごや生物多様性センターについても、採集者の標本番号がないものについては同センターの登録番号を併記した。

県内分布図は図示せず、そのかわりに、絶滅種については過去に分布していた区画に対応するすべてのメッシュ（標準地域メッシュ・システムにおける 5 倍メッシュ）、それ以外の種については 1985 年以後に分布が確認されている区画地域（その後の調査で絶滅が確認されている区画を含む）に対応するすべてのメッシュを「要配慮地区図」として表示した。今回現行市町村に分けて枝番を付した区画については、枝番区画ごとの調査が不十分であるため、枝番を付さない区画単位で表示した。詳細な分布情報を示していない種については、尾張、西三河、東三河の 3 地域に対応する全てのメ

ッシュを淡色で図示した。今となつては配慮のしようがないハマオモト、特に配慮を要しないニッケイ等は、「関連地区図」とした。標本情報が多い一部の種については、やむを得ず図を省略した。

#### 【生育地の環境／生態的特性】

対象種の生育環境及び生態的特性について記述した。また、横に地形、縦におよその水条件（草・岩は草地・岩崖地等の略）をとった区分図に、主要な生育範囲を示した。岩崖地等の樹林を構成する種は森林、草・岩双方をマークし、湿地林の構成種は湿地のみをマークした。

#### 【現在の生育状況／減少の要因】

対象種の愛知県における現在の生育状況、減少の要因等について記述した。

絶滅種については【過去の生息状況／絶滅の要因】として、対象種の愛知県における過去の生育状況、絶滅の主な要因について記述した。一部の近年増加が目立つ種は、【増加の要因】とした。

#### 【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

#### 【特記事項】

異名、近似種との識別点、和名の語源等、以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

#### 【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に示した。

#### 【関連文献】

対象種の理解の助けになる一般的文献を、著者、発行年、表題、掲載頁、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

多くの種に関連する文献については、以下の略号を用いた。

- 保シダ：田川基二，1959. 原色日本羊歯植物図鑑. 保育社，大阪。  
保草本Ⅰ：北村四郎ほか，1957. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅰ. 保育社，大阪。  
保草本Ⅱ：北村四郎ほか，1961. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅱ. 保育社，大阪。  
保草本Ⅲ：北村四郎ほか，1964. 原色日本植物図鑑 草本編Ⅲ. 保育社，大阪。  
保木本Ⅰ：北村四郎ほか，1971. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅰ. 保育社，大阪。  
保木本Ⅱ：北村四郎ほか，1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ. 保育社，大阪。  
平シダ：岩槻邦男，1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社，東京。  
学シダⅠ：海老原淳，2016. 日本シダ植物標準図鑑Ⅰ. 学研，東京。  
学シダⅡ：海老原淳，2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 学研，東京。  
平草本Ⅰ：佐竹義輔ほか，1982. 日本の野生植物 草本Ⅰ 単子葉類. 平凡社，東京。  
平草本Ⅱ：佐竹義輔ほか，1982. 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類. 平凡社，東京。  
平草本Ⅲ：佐竹義輔ほか，1981. 日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類. 平凡社，東京。  
平木本Ⅰ：佐竹義輔ほか，1989. 日本の野生植物 木本Ⅰ. 平凡社，東京。  
平木本Ⅱ：佐竹義輔ほか，1989. 日本の野生植物 木本Ⅱ. 平凡社，東京。  
平新版1：大橋広好ほか（編），2015. 改訂新版 日本の野生植物1. 平凡社，東京。  
平新版2：大橋広好ほか（編），2016. 改訂新版 日本の野生植物2. 平凡社，東京。  
平新版3：大橋広好ほか（編），2016. 改訂新版 日本の野生植物3. 平凡社，東京。  
平新版4：大橋広好ほか（編），2017. 改訂新版 日本の野生植物4. 平凡社，東京。  
平新版5：大橋広好ほか（編），2017. 改訂新版 日本の野生植物5. 平凡社，東京。  
環境省：環境省（編），2015. レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－8 植物Ⅰ（維管束植物）. 株式会社ぎょうせい，東京。  
SOS旧版：愛知県植物誌調査会，1996. 植物からのSOS－愛知県の絶滅危惧植物. 同会，刈谷。  
SOS新版：愛知県自然史研究連絡会，2002. 自然からのSOS－レッドデータブックあいち・植物編解説. 愛知みどりの会，刈谷。

【 維管束植物 執筆責任者 】

芹沢俊介

【 維管束植物 調査協力者 】

今回のレッドデータブックは、主として愛知みどりの会に保管されている愛知県産維管束植物標本と、その採集者から聞き取った観察情報に基づき作成された。これらの標本は多くの方々の協力によって集積されたもので、愛知県植物誌調査会発足以降に愛知県の自然環境情報蓄積という目的を持って採集されたもののほか、レッドデータブック作成に使用されることを全く想定せずに採集されたものも多数含まれている。結果的に、この標本集積に協力してくださった方々が調査協力者ということになる。レッドデータブック掲載種であるか否かにかかわらず数点以上の標本を集積してくださった方々は、以下の通りである。

|       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 青山正宏  | 秋山葉子  | 浅野守彦  | 新井文子  | 栗田郁男  | 飯尾俊介  | 家田晴俊  |
| 石川 敏  | 石川静雄  | 石田雄吉  | 磯貝彰宏  | 一井尚子  | 伊藤昭康  | 伊藤恭子  |
| 伊藤静江  | 伊藤泰輔  | 伊藤三也  | 伊奈知子  | 犬飼 清  | 井上美保子 | 岩田妙子  |
| 上山秀郎  | 臼井里華  | 梅田零奈  | 遠藤浩三  | 太田さち子 | 太田由美子 | 大谷敏和  |
| 大西 博  | 大原準之助 | 大宮克美  | 岡島錦也  | 岡田 速  | 岡田善敏  | 岡田美之  |
| 岡本英一  | 岡本久美子 | 奥岡啓子  | 奥村富枝  | 落合鈴枝  | 加藤潤子  | 加藤等次  |
| 加藤雅憲  | 金子律子  | 壁谷重美子 | 壁谷祥和  | 河江喜久代 | 鬼頭 弘  | 久納鉦一  |
| 畔柳英夫  | 小林元男  | 小南藤枝  | 小林彌壽昭 | 近藤洋一朗 | 斎藤雅喜  | 斉藤道也  |
| 榊原利修  | 佐藤久美子 | 佐藤徳次  | 佐分康之  | 沢井輝男  | 柴田みゆき | 清水常次  |
| 白井直子  | 杉野文昭  | 鈴木幸子  | 鈴木 淳  | 鈴木秀樹  | 鈴木 学  | 鈴木万里亜 |
| 鈴木美恵子 | 諏訪 斎  | 芹沢俊介  | 高木典雄  | 高木順夫  | 瀧崎吉雄  | 瀧崎吉伸  |
| 竹内早一  | 竹田弘光  | 竹原芳子  | 龍川良克  | 田坪明子  | 田中郁子  | 塚本威彦  |
| 辻 敬一  | 恒川敏雄  | 土場トシ子 | 鶴岡佐知子 | 鳥居喜一  | 鳥居ちゑ子 | 鳥居栄一  |
| 中井三従美 | 中島ひろみ | 中西普佐子 | 中根幸司  | 中村さとし | 中村裕治  | 永田晴美  |
| 永田芳男  | 名倉智道  | 夏目一平  | 西尾芳徳  | 西川勇夫  | 長谷川朋美 | 畑佐武司  |
| 花井隆晃  | 花岡 昭  | 浜島育子  | 浜島繁隆  | 林 彰一  | 原田 勉  | 半田多美子 |
| 日比野修  | 平嶋 敏  | 広部 栄  | 深見 弘  | 福岡義洋  | 堀田喜久  | 本多さおり |
| 松井紀枝  | 松田ちか子 | 水谷善彌  | 水野岸子  | 水野峰子  | 武藤靖子  | 村瀬正成  |
| 村瀬美智子 | 村松正雄  | 山内富士子 | 山崎玲子  | 山田茂貴  | 山田初代  | 山田 弘  |
| 山田果与乃 | 横井邦子  | 芳山朋子  | 渡辺麻子  | 渡辺幸子  |       |       |

(五十音順、敬称略)

このほか何人かの方は、点数は少なくとも重要な標本を提供してくださった。それぞれの種について協力いただいた方は、「県内の分布」の項に、標本採集者として示されている。

これらの方々の中で、特に多くの標本を集積してくださったのは小林元男氏である。小林氏は県内で最も植物が多い東三河地方を中心に各地を克明に歩かれ、愛知県における植物調査の中心となって、多数の愛知県新産種を含む重要資料を採集された。改めて数えてみると、このレッドデータブック作成に用いた資料の半分以上は氏の採集によるものである。現地の状況等も、執筆を担当し

た芹沢が 1995 年頃から各種会議や標本管理等のために思うように野外を歩けなくなってしまったこともあって、氏からの伝聞に大きく依存している。また、千葉県立中央博物館の天野誠氏は、本来なら愛知県や名古屋市が責任を持って処理すべき故井波一雄、稲垣貫一氏の標本を精力的に整理され、資料調査に際してもいろいろ御支援下さった。特に記して、深く感謝の意を表する次第である。

テツホシダ *Thelypteris interrupta* (Willd.) K.Iwats.

【評価理由】

暖地性の植物で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では 1 カ所だけに生育していたが、その場所では消失し、現存を確認できない。

【形態】

本来は常緑性だが、分布域の北限近くでは夏緑性になる多年生草本。根茎は長く横走し、ところどころから葉を出す。葉柄は長さ 30～60cm、葉身は広披針形、長さ 30～55cm、幅 15～30cm、先端は急に細まって小さな頂羽片状になり、下部の羽片もやや短くなる。羽片は線状披針形で鋭頭、基部は丸いくさび形、やわらかい革質で深緑色、羽状に浅～中裂する。裂片の最下の脈は、隣のものと結合する。胞子のう群は円形～長楕円形、裂片の辺縁近くにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部（堀田喜久 3515, 1994-9-25）。1 カ所に小群落があった。

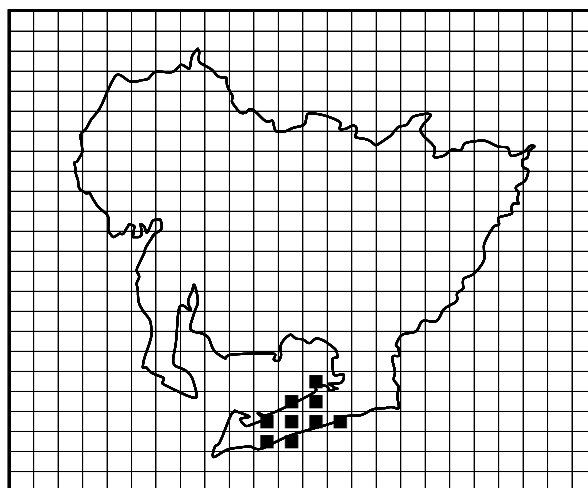
【国内の分布】

本州南部（静岡県以西）、四国（南東部）、九州、琉球。

【世界の分布】

世界の熱帯、亜熱帯に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの日当たりのよい湿地に群生することが多いが、愛知県の場合は海岸近くの山の、沢沿いの湿地に生育していた。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

葉柄の長さ 60cm、葉身の長さ 50cm、幅 30cm に達するよく生育した小群落があったが、遷移が進行して低木が繁茂し、2008 年秋の調査では生育を確認できなかった。他に自生地があるという話も聞いたが、教えていただいた場所では確認できなかった。

【保全上の留意点】

今となっては手遅れかもしれないが、生育地の低木を除去し、開けた環境を確保する必要がある。

【特記事項】

他のホシダ類に比べ葉が多少硬いので「テツホシダ」というが、鉄にたとえるほど硬いわけではない。

【関連文献】

保シダ p.115, 平シダ p.214, 学シダ I p.438, SOS 旧版 p.40.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 40-43. 東京大学出版会, 東京.

**ミヤマシダ** *Diplazium sibiricum* (Turcz. ex Kunze) Sa.Kurata var. *glabrum* (Tagawa) Sa.Kurata

【評価理由】

温帯性の植物で、過去に採集された標本はあるが、現存が確認できない。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は長くはう。葉柄は長さ 20～30cm、披針形～卵形で黒褐色の鱗片がやや密につく。葉身は広三角形、3回羽状深～全裂し、長さ 20～35cm、幅 25～40cm、草質、羽片は 6～7 対で、下部の羽片には長い柄がある。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、線形、長さ 1～3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:2 豊根(茶臼山, 芹沢 44532, 1986-8-30)に生育していた。

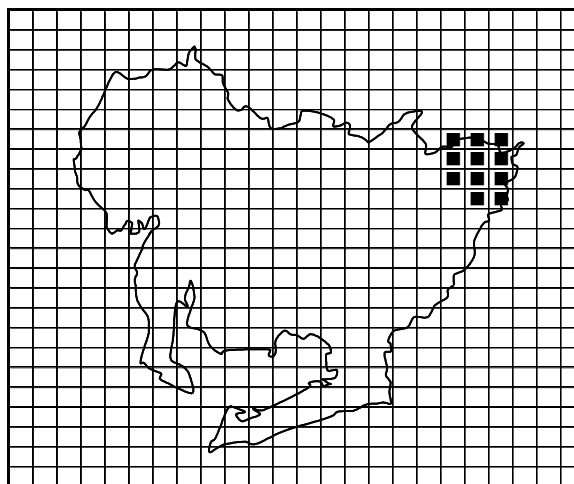
【国内の分布】

北海道、本州(近畿地方以北)、四国(徳島県)に分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。基準変種のキタノミヤマシダ var. *sibiricum* は葉の切れ込みがやや深く、羽軸や小羽軸の裏面に毛があり、包膜の辺縁が細裂するもので、ユーラシア大陸北部に広く分布しているが、日本では少ない。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯域の林床に生育する。愛知県の自生地は、池畔の平坦な林床であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1カ所に小群落があっただけで、もともと発育状態が悪く、胞子のう群もほとんどつけていなかった。スキー場造成に伴う開発によって生育地が破壊され、絶滅した。

【保全上の留意点】

本種とキョタキシダとの自然雑種であるミヤマキョタキシダは、まだ茶臼山に残存しているほか、津具にも生育している。

【特記事項】

ノコギリシダ属としては数少ない、温帯性の種である。矢作川対岸の岐阜県恵那市串原では標高 500m 程度の造林地内に生育しており、今後豊田市稲武地区などのその程度の標高の場所で発見される可能性も残されている。キタノミヤマシダとミヤマシダはおそらく種の階級で区別されるべきものと思われるが、十分な検討材料を得ることができない。

【関連文献】

保シダ p.128, 平シダ p.256, 学シダ p.325, SOS 旧版 p.41.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 168-172. 東京大学出版会, 東京.

オリヅルシダ *Polystichum lepidocaulon* (Hook.) J.Sm.

【評価理由】

日華区系の植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立し、葉を束生する。葉柄は長さ 15～35cm、やや密に圧着するような鱗片をつける。葉身は三角状広披針形～広披針形、単羽状複生、長さ 20～40cm、幅 7～15cm、羽片はほぼ全縁か鋸歯縁、基部は不相称で、前側は耳垂状になる。胞子のう群は羽片中肋の両側に 1～3 列につき、包膜は円形で小さく、早落性である。一部の胞子のう群をつけない葉では、中軸の先が長くのびて、先端に無性芽をつけ、栄養的に繁殖する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（音羽町）で記録されている（植之原 1988）が、ここでは絶滅したという。標本は豊橋市自然史博物館にあるはずで、写真は長谷川（2005）に掲載されているが、未整理らしく整理済標本の中には見あたらなかった。18 田原西部（渥美町）にあったという記録もある（植之原 1992）。尾：44b 南知多でも、故大原準之助氏が 1977 年に採集されているという（倉田・中池 1979）。しかし、このあたりと伝え聞いた場所では生育を確認できなかった。本人に直接教えてもらったわけではないので、場所違いの可能性は残されている。

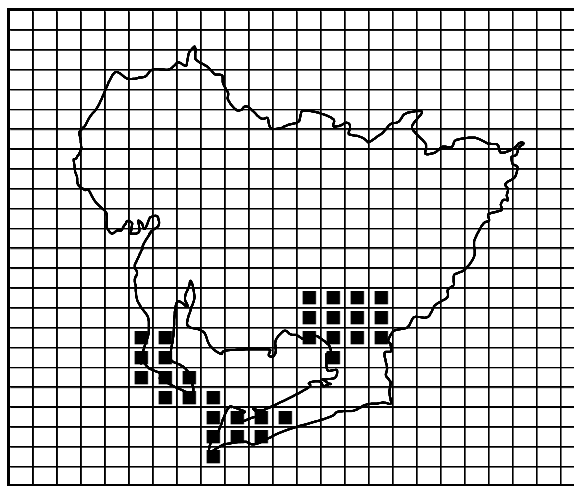
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西の主として太平洋側）、四国（太平洋側）、九州、琉球（沖永良部島）に分布するが、千葉県から静岡県までと九州以外では稀である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陆に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低地の林中や林縁の崖状地に多く、しばしば群落を作る。知多南部の場合、聞いた場所は常緑広葉樹の二次林で、林内に岩が点在していた。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  | ○  |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

音羽町のものは、偶産的に 1 株だけ生育していたらしいが、正確なことはよくわからない。南知多町については情報がない。

【保全上の留意点】

潜在的生育地である海岸近くの丘陵地の自然を、全体として保全することが重要である。

【特記事項】

南知多町には同じような環境の場所がたくさんあるので、更に探索する必要がある。和名は、中軸の先端についた無性芽を折鶴に見立てたものである。

【引用文献】

- 長谷川道明(編). 2005. よみがえれ! 愛知のいきものたち p.81. 豊橋市自然史博物館, 豊橋.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 571. 東京大学出版会, 東京.  
植之原耕治. 1988. 愛知県音羽町産植物目録予報 p.6. 私刊.  
植之原耕治. 1992. オリヅルシダの愛知県下 2,3 の新産地. レポート日本の植物 40:205.

【関連文献】

保シダ p.79, 平シダ p.167, 学シダ II p.413, SOS 旧版 p.40.

ウミヒルモ *Halophila ovalis* (R.Br.) Hook.f.

【評価理由】

水のきれいな内湾に生育する海産種子植物で、愛知県では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

【形態】

沈水性で多年生の海産種子植物。根茎は細く横にはい、節から根を出し、長さ3～8mmの透明な鱗片葉を2個ずつつける。鱗片葉の腋には短枝があり、葉を2枚ずつ出す。葉は有柄、葉身は卵形、長さ1～4cm、全縁で、質は薄い。雌雄異株で、2枚の葉の間に苞鞘がつき、苞鞘内にはふつつ1個の雄花または雌花ができる。雄花には花柄があり、花被片は3個で楕円形。雌花には花柄がなく、花柱は糸状で長さ約2.5cmになる。果実は卵形で、長さ約4mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部（伊川津，高木典雄 s.n., 1948-9-3）で採集された標本がある。

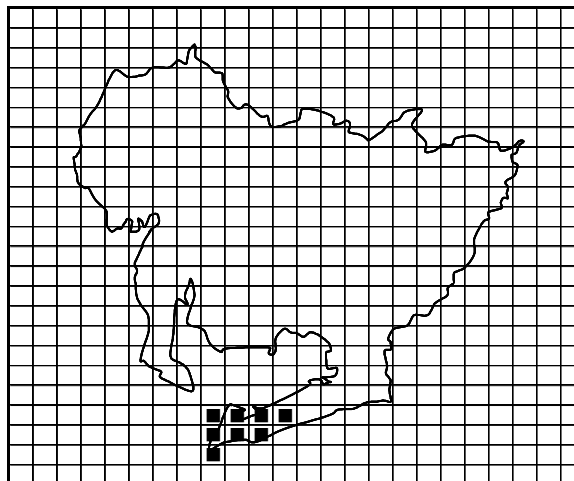
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

東南アジア、オーストラリアの沿岸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

砂泥質の海底に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    | ○  |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1948年当時もちらほらとあるという程度で、多いものではなかったという。三河湾の汚染により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

伊川津周辺の海の様子は、当時とはすっかり変わっている。再発見は困難と思われる。

【特記事項】

標本写真は、「植物からのSOS」（SOS旧版）に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.392, 平草本Ⅰp.7, 平新版Ⅰp.121, SOS旧版p.89.



センニンモ *Potamogeton maackianus* A.Benn.

【評価理由】

愛知県では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

【形態】

沈水性で常緑の多年生草本。地下茎は横にはい、節からよく分枝する水中茎を出す。葉は互生し、すべて沈水葉、無柄、葉身は線形、長さ 2～6cm、幅 1.5～4mm、先端は急に細まって凸端となり、辺縁には細かい鋸歯があり、葉脈は 3 本、基部は托葉と合着して長さ 2～6mm の葉鞘となる。花期は 6～8 月であるが、開花することは少ない。殖芽は形成しない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部(石巻小野田町牟呂用水、恒川敏雄 s.n., 1960-6-12, TMNH)と西：32a 刈谷(洲原池、浜島繁隆 s.n., 1978-8-19)で採集された標本がある。濃尾平野の県境岐阜県側には、現在も生育している場所がある。

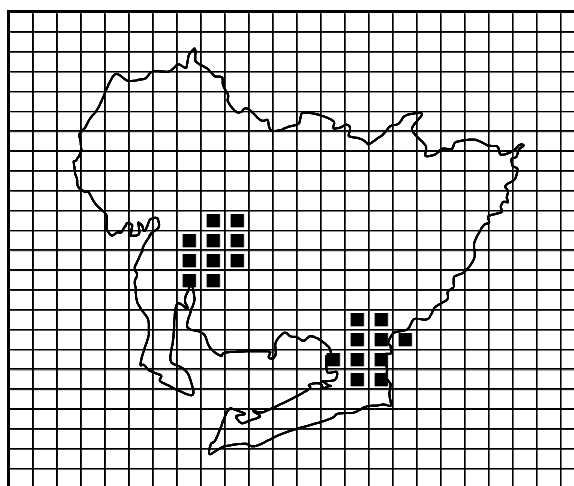
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

東アジアに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湖沼、ため池、河川、水路などに生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  | ○  |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

洲原池には多量に生育していたという。絶滅の経緯については、ミスミイの項(56 頁)を参照されたい。

【保全上の留意点】

ミスミイの項で述べたように、一つの開発事業は、玉突き的に他の環境破壊を引き起こすことがある。事業者の直接責任が及ばない間接的な環境影響についても、「未必の故意」が予測されるものについてはしっかりした評価が必要である。洲原池での存続は絶望的であるが、注意して探索すれば、新たな生育地が発見される可能性は残されている。

【特記事項】

リュウノヒゲモと共に、葉の基部が葉鞘になることが特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.417, 平草本Ⅰ p.12, 平新版Ⅰ p.133.  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.56. 文一総合出版, 東京.

ヒメユリ *Lilium concolor* Salisb. var. *partheneion* (Siebold et de Vries) Baker

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい草性植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。鱗茎は卵形で高さ 1.5～2cm、鱗片は白色で少数つく。茎は直立し、高さ 30～80cm になる。葉は多数が互生し、無柄、葉身は線形、長さ 5～10cm、幅 5～7mm、先端は鋭頭、葉縁に半円形の微少な突起があり、両面無毛である。花期は 6～7 月、茎の先端に 1～4 個の花を上向きにつける。花被片は 6 個、朱赤色で濃色の斑点があり、倒披針形、長さ 3～4cm、幅 1～1.5cm、雄ずいは 6 個で斜上し、花粉は赤色、花柱は子房より短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部（亀山，M.Shimizu s.n., 1960-6-10, TNS）で採集された標本がある。この標本の写真は長谷川（2005）に掲載されている。「日本の野生植物」I 32 図版には、渥美半島（正確な場所は不明）で 1974 年に撮影された写真が掲載されている。

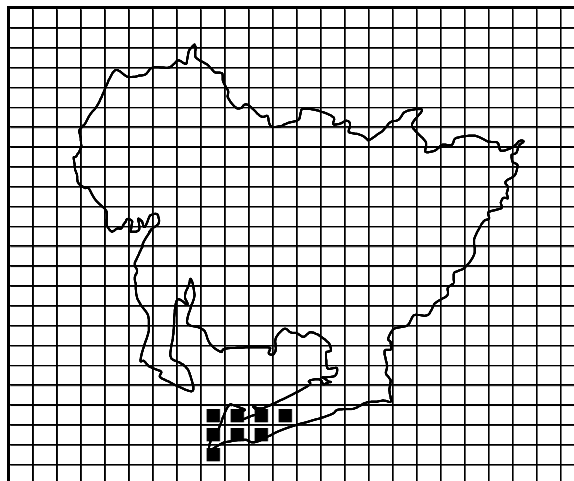
【国内の分布】

本州（東北地方南部以南）、四国、九州に生育するが、稀な植物である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムールに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

大陸系の草性植物で、山地の草原に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

個体数はもともと少なかったものと思われる。全国的には園芸目的の採取が深刻であるが、愛知県の場合は生育地の草地の森林化が進行し、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

渥美半島の蛇紋岩地は、多くの草性植物の生育地になっていたが、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。本種の場合はもはや手遅れで再発見は困難と思われるが、辛うじて残存している他種のためにも草刈りや火入れを行い、草地状態を回復させる必要がある。

【引用文献】

長谷川道明(編). 2005. よみがえれ！愛知のいきものたち p.81. 豊橋市自然史博物館，豊橋。

【関連文献】

保草本Ⅲp.127, 平草本 I p.40, 平新版 I p.172, 環境省 p.311, SOS 旧版 p.94.

## ヒナラン *Amitostigma gracile* (Blume) Schltr.

### 【評価理由】

全国的に減少傾向の著しいラン科植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

### 【形態】

多年生草本。紡錘状に肥厚した根がある。茎は斜上して上部は立ち、高さ 5~15cm になる。葉は茎の基部近くに 1 個つき、長楕円形~広披針形、長さ 3~8cm、幅 1~2cm、先端は鈍~鋭頭、辺縁は全縁、基部はやや茎を抱く。花期は 6~7 月、花は茎の上部に一方に偏って 10~15 個つき、短い柄があり、淡紫色、苞は卵形、長さ 3~5mm である。背がく片は楕円形、側がく片は斜卵形、側花弁は斜広卵形で、いずれも長さ 2.2~2.5mm、先端は鈍頭、唇弁はくさび形卵形、長さ 3.5mm、ほぼ中央で 3 裂し、中央裂片は幅約 1.2mm、先端は円頭、側裂片は長さ約 1mm、距は筒状で細く、長さ 1~1.5mm である。果実はさく果で楕円形、長さ 5~7mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城 (加藤等次 s.n., 1963-9-8)、西：19 旭 (大原準之助 s.n., 1966-6-5)、25 豊田北西部 (岡本英一 280, 1958-5-19) で採集された標本がある。

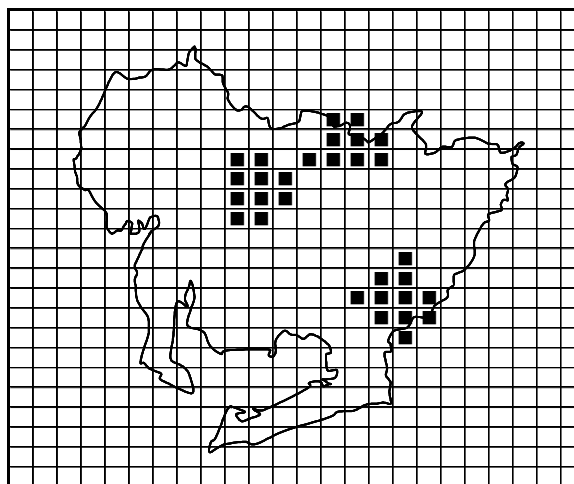
#### 【国内の分布】

本州 (茨城県北部および愛知県以西)、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内の岩上に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

情報が残されておらず、よくわからない。

### 【保全上の留意点】

再発見の可能性は皆無ではない。イワチドリやウチョウランに比べれば花の小さい植物であるが、それでも再発見された場合、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.12, 平草本 I p.201, 平新版 1 p.182, 環境省 p.341, SOS 旧版 p.109.

イワチドリ *Amitostigma keiskei* (Maxim. ex Franch. et Sav.) Schltr.

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しいラン科植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。紡錘状に肥厚した根がある。茎は斜上し、高さ 5~15cm になる。葉は茎の中部に 1 個つき、長楕円形、長さ 3~7cm、幅 6~15mm、先端は鋭頭、辺縁は全縁、基部は茎を抱く。花期は 4~6 月、花は茎の上部に一方に傾いて数個つき、淡紅紫色、苞は披針形、長さ 4~10mm である。背がく片は楕円形、長さ 3.5~4.5mm、側がく片は斜長楕円形でやや短く、側花弁は斜卵形、背がく片とほぼ同長、辺縁に紅紫色の斑点がある。唇弁は長さ 10~12mm、大きく開出し、3 深裂して中央裂片の先端はさらに 2 裂し、各裂片は幅約 2mm、基部に紅紫色の斑点がある。距は白色、長さ 1.5~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では西：23 藤岡（塚本威彦 149, 1992-6-14）と尾：45 犬山（平嶋 敏 452, 1989-5-9）で生育が確認されている。どちらの場所も最近の調査では現存を確認できないが、十分に探索したわけではないので残存の可能性は残されている。東：8 鳳来北東部（県民の森）には現存しているという報告がある（小林 2019）が、標本は未確認である。3 東栄（加藤等次 s.n., 1968-6-2）、12 新城（奥井道、鳥居喜一 6139, 1966-5-1, HNSM）、西：19 旭（大原準之助 s.n., 1965-7-20）、25 豊田北西部（岡本英一 281, 1958-5-19）で採集された標本もある。

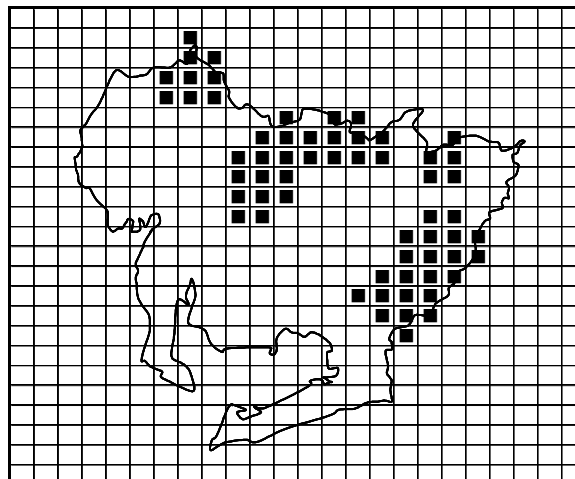
【国内の分布】

本州（中部地方、近畿地方）、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

川沿いなどの湿った岩場に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

藤岡と犬山は、生育地としてはやや条件の悪い場所に、当ても辛うじて残存しているという状況であった。本種の場合、全国的には山草業者による商業的採取が問題とされることが多い。しかし山草業者による採取は、個体数があるレベル以下にまで減少すれば、採算がとれないため停止される。愛知県の状況は、すでにそのレベルを割り込んでいる。ここまで減少させたという点で商業的採取の責任は大きい。現在僅かに残存している集団に対する最大の脅威は、むしろ好事家の手で絶滅するまでくり返される、非商業的採取である。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、再発見された場合でも分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【引用文献】

小林元男. 2019. 愛知県民の森の植物 p.28. 愛知公園協会県民の森, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.13, 平草本Ⅰp.200, 平新版Ⅰp.182, 環境省 p.341, SOS 旧版 p.109+図版 29, SOS 新版 p.43,45.

オオミズトンボ *Habenaria linearifolia* Maxim.

【評価理由】

温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。楕円形の球茎がある。茎は直立し、高さ 40～60cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて数個が互生し、葉身は線形、長さ 10～20cm、幅 3～6mm、先端は細く尖り、基部は茎を抱いて葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状となる。花期は 8 月、花は茎の上部に 5～7 個が総状につき、直径 1～1.5cm で白色、苞は鱗片葉に似て、長さ 1～1.5cm である。背がく片は卵形、長さ 6～7mm、側がく片は斜卵形花時に下に曲がり、側花弁は斜 3 角形、背がく片と並んで立つ。唇弁は 3 裂して十字状になり、側裂片は湾曲して下を向き、先端に小歯牙がある。距は下垂し、長さ 2.5～3cm、先端は次第に太くなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（内藤宇佐彦 659, 1976-8-27）で採集された標本がある。

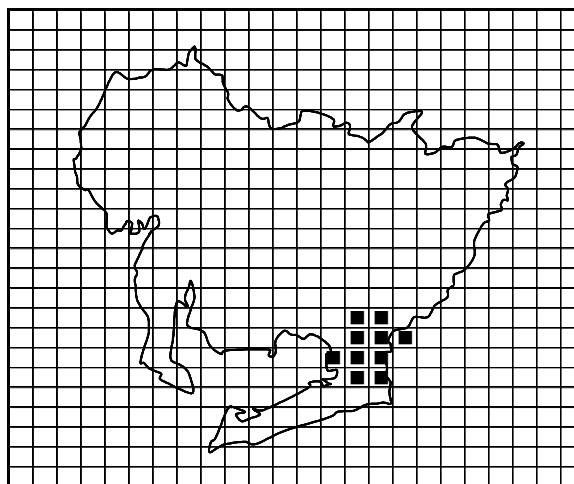
【国内の分布】

北海道、本州（中部地方以北）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

個体数はもともと少なかったらしい。生育していた湿地が消失して絶滅した。

【保全上の留意点】

既知の生育地での再発見はほとんど期待できないが、県内の他の場所で新たな生育地が発見される可能性はある。再発見された場合、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミズトンボ（416 頁）と比較して花は白色、唇弁の側裂片は下を向き、距が長い。愛知県産のものの写真は「自然からの SOS」（SOS 新版）に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲp.8, 平草本 I p.193, 平新版 1 p.206, 環境省 p.352, SOS 新版 p.162.

ムカゴソウ *Herminium lanceum* (Thunb. ex Sw.) J.Vuijk

【評価理由】

湿った草地に生育するラン科植物で、県内では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。楕円形の球茎がある。茎は直立し、高さ 20～45cm になる。葉は茎の下部につき、葉身は線形、長さ 8～20cm、幅 5～10mm、先端は尖り、基部は茎を抱いて葉鞘となる。花期は 7～8 月、花は茎の上部に多数穂状につき、淡緑色、苞は卵状三角形である。がく片は長楕円形、長さ 2～2.5mm、側花弁は線状披針形でがく片よりやや短い。唇弁は長さ 6～8mm、中部まで 3 裂し、側裂片は線形で長い、中裂片はごく短い。距はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：稲橋ヨリ田口ノ間（おそらく 6 設楽西部、伊藤篤太郎 s.n., 1891-10-23, TNS）、9 鳳来南部（黄柳野、井波一雄 s.n., 1943-9-26, CBM264614）、13 豊川（御津村、S.Murata 1953, 1928-7-6, TNS）、西：31 幸田（三ヶ根山、井波一雄 s.n., 1953-7-23, CBM70487）で採集された標本がある。大原（1971）は産地として 4 津具、14 蒲郡をあげている。

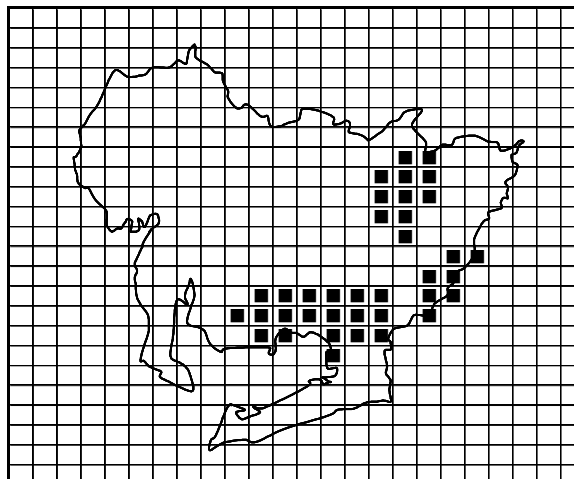
【国内の分布】

北海道（西南部）、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は湿った草地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知県での生育状況については情報が残されていない。草地の消失によって絶滅したと思われるが、詳細は不明である。

【保全上の留意点】

ていねいに探索すれば再発見の可能性は残されている。再発見された場合、生育地の個別的な保全が必要である。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.151. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp17, 平草本 I p.194, 平新版 1 p.208.

ツクシサカネラン *Neottia kiusiana* Hashim. et Hatus.

【評価理由】

極めて希少な腐生植物で、愛知県では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は縦に伸び、長さ1.5～2.5cm、多数の根を水平～やや上向きに出す。茎は1本が直立し、高さ6～10cm、4～5個の鱗片葉を互生する。鱗片葉は上のものほど大きく、上部1～2個は狭卵形、長さ1.8～2.5cm、幅約1cm、鈍頭である。花期は6月、花は茎の上半部に8～10個つき、最下の1～2個は大型の鱗片葉の葉腋につき、他は披針形で長さ5～7mmの苞がある。子房はやや卵形にふくらみ、茎とともにまばらに毛がある。がく片は狭卵形、長さ約3mm、唇弁は広卵形で長さ、幅とも約6mm、先端は2裂し、裂片は長さ、幅とも約2.5mm、円頭である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：19旭（高木典雄 s.n., 1966-6）で採集された標本がある。採集直後に撮影された写真が、大原（1971）に掲載されている。

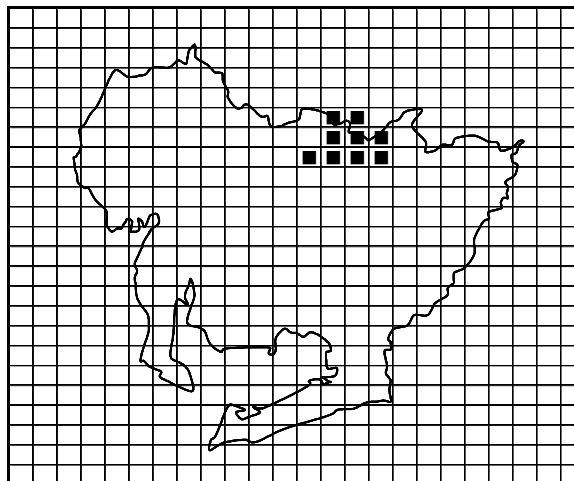
【国内の分布】

既知の産地は九州（鹿児島県北部）である。

【世界の分布】

日本固有種とされているが、朝鮮半島にも似たものがある。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

愛知県の生育地は、標高約550mの、モミ、カン類、シデ類に植栽のスギをまじえた自然度の高い混交林であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

林内に少数株が生育していたという。故高木典雄先生に正確な位置を伺って数回探索したが、現地の状況は特に変化していないにもかかわらず再発見できなかった。林床の全体的な乾燥化が絶滅の原因かもしれない。

【保全上の留意点】

自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存しているだけである。このような森林は、希少種のあるなしに関わらず注意して保全する必要がある。

【特記事項】

とにかく希少な植物で、十分な比較検討ができていないが、おそらくツクシサカネランで間違いないと思われる。大きな鱗片葉が特徴である。再発見された場合、マニアの採取やカメラマン、物見高い自称自然愛好家の踏み荒らしを避けるため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.178. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

平新版 1 p.215, 環境省 p.12, SOS 新版 p.162.

橋本 保・初島住彦. 1991. サカネラン属の新種. 筑波実験植物園研究報告 10: 41-44.

ムカゴトンボ *Peristylus flagellifer* (Makino) Ohwi ex K.Y.Lang

【評価理由】

湿った草地に生育するラン科植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。卵形～楕円形の球茎がある。茎は直立し、高さ 20～50cm になる。葉は茎の下部につき、鞘状のものを除いて 4～5 個が互生し、葉身は広披針形、長さ 4～10cm、幅 1～2.5cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細まって葉鞘となる。上部の葉は小さく、鱗片状になる。花期は 9～10 月、花は茎の上部にやや多数つき、長さ 10～25cm の穂状花序となり、直径 5～6mm で淡緑色、苞は広披針形、長さ 5～10mm である。背がく片は狭卵形、長さ約 3mm、側がく片はやや細く、花時に反り返り、側花弁は斜卵形、背がく片に接してかぶと状になる。唇弁は長さ約 4mm、基部の近くで 3 裂し、中裂片は舌状、側裂片は糸状で長さ 6～7mm、距は棍棒状で長さ 3～4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：25 豊田北西部（大平町，芹沢 63026, 1992-9-3）で採集したことがあるが、その後再確認できない。大原（1971）は産地として知多、岡崎をあげているが、裏付けとなる資料は残されていない。

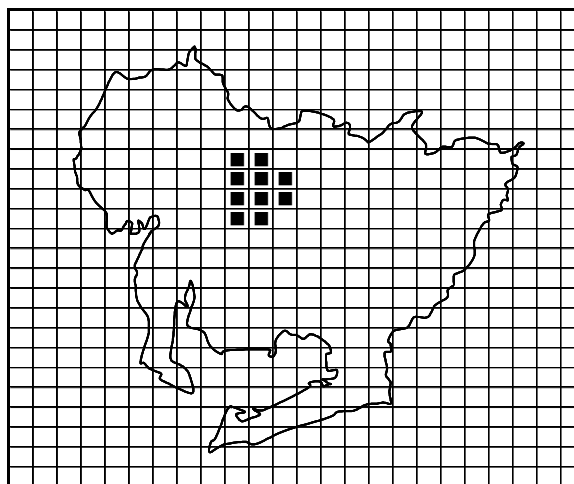
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球（奄美諸島）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の日当たりのよい湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

狭い範囲に、3 株ほど生育していた。絶滅の要因としては、草地の減少が考えられる。

【保全上の留意点】

全国的に希少な植物であり、生育地の個別的な保全が必要である。花が美しい種類ではないが、希少ということで好事家に採取されるおそれがあり、再発見された場合分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

茎や葉は、乾燥すると黒くなる。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.152. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.9, 平草本 I p.192, 平新版 1 p.219, 環境省 p.358, SOS 旧版 p.111.



ハマオモト *Crinum asiaticum* L. var. *japonicum* Baker

【評価理由】

過去の記録はあるが、真の自生と思われるものは現存を確認できない。逸出して野生状態になったものは点在するが、これらは評価の対象にならない。

【形態】

大型の多年生草本。鱗茎は円柱形で、偽茎状、長さ 30~50cm、直径 3~7cm になる。根出葉は帯状で、長さ 30~70cm、幅 4~10cm、辺縁は全縁、やや多肉で光沢がある。花期は 7~9 月、根出葉の間から高さ 50~80cm の太い花茎を出し、その先端に多数の花を散形につける。花序の基部には、2 個の長さ 6~10cm の総苞がある。花被は白色、下部は細い筒状で長さ 5~6cm、上部は 6 片に分かれ、広線形で長さ 7~8.5cm、開いて反り返る。果実は球形で長さ 2~2.5cm、数個の大型の種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:18 田原西部 (恋路が浜) にあったという。おそらく間違いはないと思われるが、確実な資料は残されていない。大原 (1971) は産地として幡豆 (絶滅)、渥美、赤羽根 (今回の区画では 36 西尾南部、18 田原西部、17 田原東部) をあげている。栽培品起源と推定される逸出個体は、16 豊橋南部、18 田原西部、43 常滑などで確認されている。

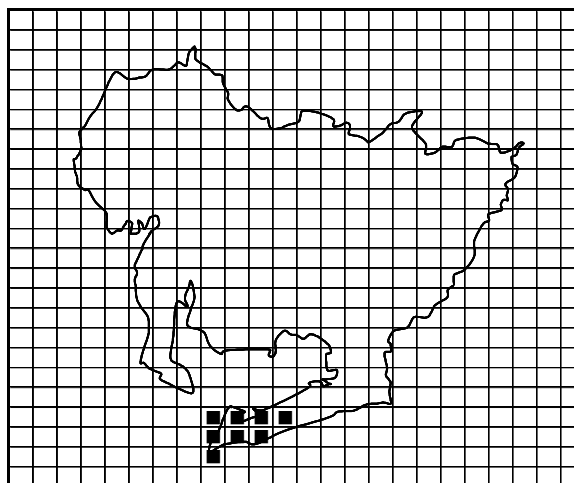
【国内の分布】

本州 (関東地方南部以南)、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、マレーシア、インドに分布する。

関連地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の海浜の砂地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    | ○  |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

どのくらいの個体数があったかは不明である。園芸目的で持ち去られ、絶滅したらしい。現在は植栽品や栽培品の逸出が多いため、仮に真の自生品が残存していたとしても、あるいは自然に分布を拡大してきたものがあったとしても、もはや識別は不可能である。

【保全上の留意点】

現在恋路が浜にあるものは観光目的の植栽品で、生物多様性という観点からは保全の対象とならず、むしろ除去が望ましい。他の場所に点在しているものも栽培品の逸出である可能性が高く、特に配慮する必要はない。自然環境下への植栽は、その場所にまだ残存している他の植物に悪影響を与えるだけでなく、将来の分布自然拡大による生物多様性増加の可能性も奪ってしまう。このような付け加えは、善意から出たものであっても、自然に対する大きな脅威となる行為であることを忘れてはならない。

【特記事項】

暖地の代表的な海浜植物で、ハマユウとも呼ばれる。ハマユウは浜木綿で、白色の鱗茎に基づくと言われている。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.148. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.89, 平草本Ⅰ p.53, 平新版Ⅰ p.243, SOS 旧版 p.96.

## キジカクシ *Asparagus schoberioides* Kunth

### 【評価理由】

温帯性の草地性植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

### 【形態】

多年生草本。地下に根茎がある。地上茎は高さ 50～100cm、上方でよく分枝する。葉は鱗片状に退化し、その腋から出る茎（葉状枝）が葉のように見える。葉状枝は葉腋に 3～7 個束生し、線形、長さ 10～20mm、扁平でゆるく湾曲する。花期は 5～6 月、花は葉腋に総状につき、雌雄異株、花被は 6 個、淡緑黄色、長さ 2～3mm、花柄は長さ 1～2mm で、頂端部に関節がある。果実は液果で、球形、直径 6～8mm、赤く熟す。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城（中宇利，小林 20926, 1979-6-17）、15 豊橋北部（石巻西川町，芹沢 68613, 1993-10-6）で採集された標本がある。

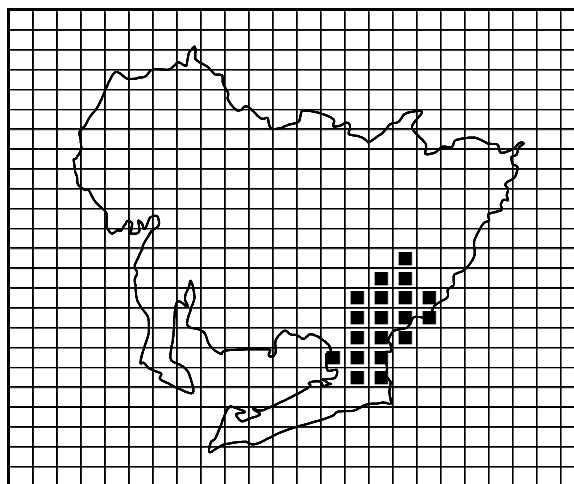
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー、シベリア東部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地や明るい林内に生育する。愛知県でも本来はそのような場所に生育していたと思われるが、1990 年代にはすでに造林地内などに細々と残存している状態であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

2 カ所で確認されていたが、豊橋北部でも当時すでに被陰により衰退していて、ほとんど開花しない状態であった。最近の状態は確認されていないが、すでに絶滅していると思われる。

### 【保全上の留意点】

もとはと言えば、やせ山を無理に造林地化したことが問題である。しかし当時は、「ブナ林撲滅」などという現在では考えられないようなスローガンが真面目に掲げられていた時代であり、どんな場所にもすべて植林という発想はやむを得なかった面もあると思われる。今となっては、間伐など、造林地の適切な手入れを継続することが必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.114, 平草本Ⅰp.42, 平新版Ⅰp.247, SOS 旧版 p.92.

トダスゲ *Carex aequialta* Kükenth.

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい低湿地性の植物で、愛知県では過去の記録はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、株をつくる。茎は高さ 40～80cm、3 稜があり、基部の葉鞘は暗褐色になる。葉は細い線形、幅 3～5mm である。果期は 5～6 月、小穂は 3～4 個、茎の上方に集まってつき、頂小穂は雄性、線形で次の側小穂より短く、側小穂は時に先端に少数の雄花をつけるほかは雌性、円柱形で長さ 3～5cm、ほぼ直立する。下方の雌性小穂には短い柄があり、そのため小穂の先端は皆ほぼ同じ高さになる。苞は葉状で、基部は鞘にならない。果胞は卵円形で著しくふくらみ、長さ約 3mm、嘴はごく短い。雌花の柱頭は 2 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：49d 清須（新川、井波一雄 50, 1930-5-5, CBM134221）で採集された標本がある。井波氏によれば場所は五条川で、エキサイゼリと共に生育していたそうである。

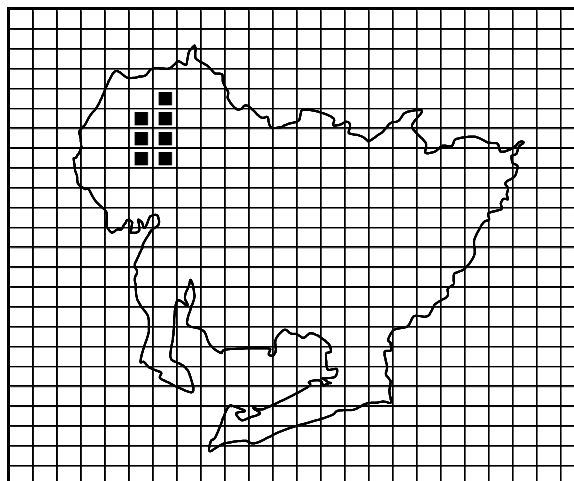
【国内の分布】

本州および九州に生育するが、極めて稀である。

【世界の分布】

日本および中国大陸中部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や池沼の周辺などの低湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

かつての生育状況、減少の要因とも、情報が残されていない。おそらくは低湿地の開発により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

注意して探索する必要があるが、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

和名は、発見地である埼玉県戸田に因むものである。このあたりは、都市化が進む前には多くの低湿地性植物が生育していた。

【関連文献】

保草本Ⅲp.303, 平草本Ⅰp.163, 平新版Ⅰp.312, 環境省 p.156, SOS 旧版 p.104.

ミスミイ *Eleocharis acutangula* (Roxb.) Schult.

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい暖地性の挺水植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

挺水性の多年生草本。長く横に伸びる地下茎がある。地上茎は節から束生し、直立して高さ 40～80cm、幅 3～4mm、鋭い 3 稜があり、中実で横膜はない。葉は茎の基部について葉鞘のみに退化し、長さ 5～8cm、褐色である。花期は 8～10 月、小穂は茎の先端に 1 個つき、円柱形、長さ 2～3cm、直径 3～4mm、先端は尖り、黄緑色である。鱗片は広卵形、長さ 4～5mm、先端は鈍頭である。果実は倒卵形、長さ 1.5～2mm、不明瞭な 3 稜があり、黄褐色に熟し、表面に格子状の紋がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：32a 刈谷（小堤西池、奥岡啓子 306, 1987-9-3; 牛池、加藤潤子 146, 1978-7-18) に生育していた。

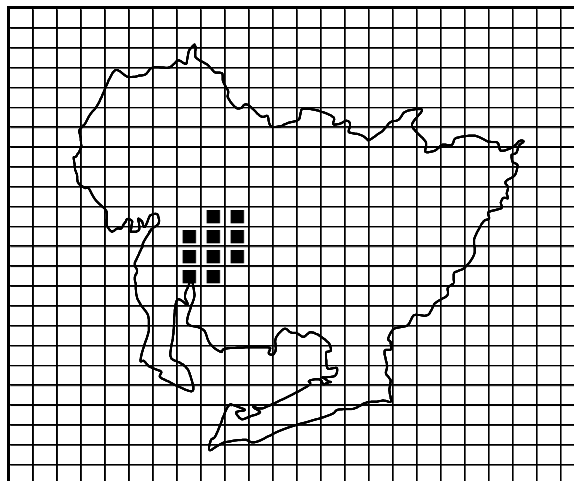
【国内の分布】

本州（千葉県、愛知県、紀伊半島）、四国、九州、琉球にまれに生育する。

【世界の分布】

アジア、オーストラリア、熱帯アメリカに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低地の池沼の、浅い水中に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

2 カ所とも小群落があった。牛池では、大学の統合移転のためにその場所にあった畜舎が移転し、その排水が洲原池に流入して過栄養化が進み、その水が下流の牛池にも流入して絶滅した。小堤西池では、直接的にはカキツバタ保護のため行われたスイレン駆除の巻き添えで絶滅した。

【保全上の留意点】

注意して探索しているが、現在のところ他の場所では発見できない。上の例でも明らかのように、開発行為や保護運動は、玉突き的に他の環境影響を引き起こすことがある。開発に際しては、事業者の直接責任が及ばない間接影響についても、十分な予測と評価が必要である。また保護活動を行う際には、それによって他に影響が出ないか、十分な検討が必要である。小堤西池の場合は、事前調査が行われたにもかかわらず過剰管理の方向に走ってしまったもので、花の美しい特定種だけに目を奪われてはいけないという好例である。この場合、直接的原因となったスイレン駆除は、もとはと言えばスイレンが投入されたことに問題があり、駆除したこと自体は誤りではない。付け加え行為が悪影響を引き起こす例としても、記憶されるべきである。

【特記事項】

標本写真は「自然からの SOS」(SOS 新版) に掲載されている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.231, 平草本 I p.171, SOS 旧版 p.106, 環境省 p.338, SOS 新版 p.162.

ツクシカンガレイ *Schoenoplectiella multiseta* (Hayas. et C.Sato) Hayas.

【評価理由】

湧水池などに生育する挺水植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

挺水性の多年生草本。地下茎は横にはい、直径約 5mm、1～2cm の間隔で地上茎を出す。地上茎は直立して高さ 40～90cm、鋭い 3 稜がある。葉は 2～3 個が茎の基部について、葉鞘のみに退化する。花期は 8 月、小穂は茎の先端に 1～7 個つき、長卵形、長さ 6～10mm、苞は短く、長さ 1～1.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：12 新城（千郷杉山，鳥居喜一 5857, 1957-8-11, HNSM）で採集された標本がある。

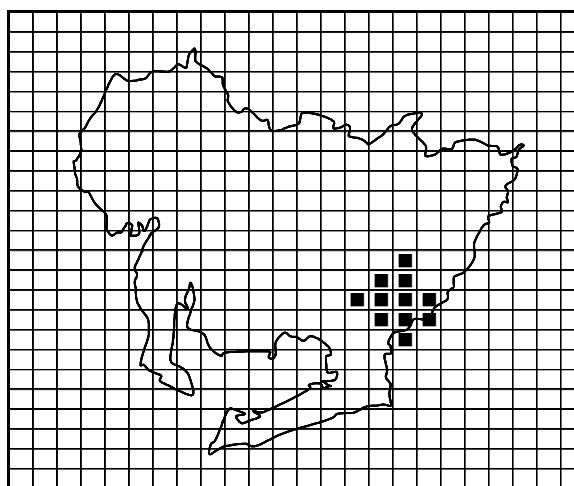
【国内の分布】

本州（愛知県以西）および九州。

【世界の分布】

日本固有種とされているが、東南アジアにも似たものがあるという（筒井, 1984）。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は湧水のある溜池などに生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

愛知県での生育状況については情報がない。「鳥居喜一氏のご教示では、自生地は宅地開発のために消滅している」と報告されている（筒井 1984）。

【保全上の留意点】

愛知県のどこかにまだ生育している可能性は残されている。注意して探索する必要がある。

【特記事項】

筒井（1984）により愛知県に産することが報告された種類で、カンガレイに似ているが、地下茎が横にはい、苞が短い。

【引用文献】

筒井貞雄. 1984. ツクシカンガレイの新産地. 福岡の植物 (10): 213-216.

ビロードキビ *Brachiaria villosa* (Lam.) A. Camus

【評価理由】

暖地性の植物で、愛知県は静岡県と共に分布域の北限にあたる。県内では過去に採集された標本があるが、現存は確認できない。

【形態】

1 年生草本。稈は基部で分枝し、高さ 15~20cm、全体に開出する軟毛がある。葉は互生し、葉身は長卵形~披針形、長さ 3~5cm、幅 5~8mm、先端は短くとがり、基部は円形、全面に長短の軟毛があり、葉鞘は節間より短い。花期は 8~10 月、花序は長さ 4~6cm、斜開する長さ 2~3cm の枝を 6~10 個つけ、その枝に小穂が 2 列に並ぶ。小穂は短い柄があり、長楕円形、長さ 2.5~2.7mm、熟して淡黄色、不稔の第一小花と結実する第 2 小花からなり、芒はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（長篠村引地、鳥居喜一 3735, 1955-10-23, HNSM）で採集された標本がある。

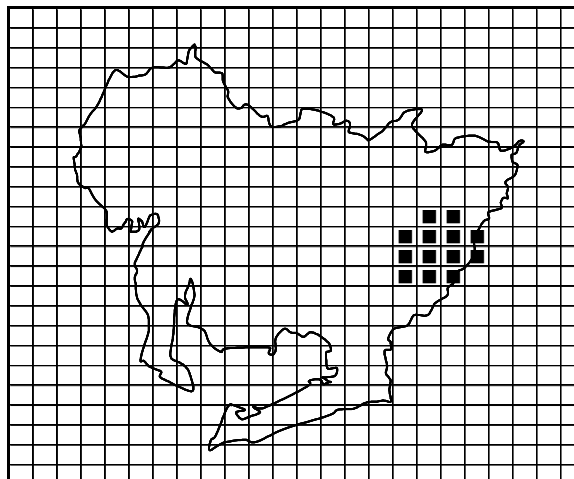
【国内の分布】

本州（静岡県~紀伊半島）、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸中南部、マレーシア、インドなどに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

熱帯域の雑草で、日本では暖地の海岸近くや川岸の砂地などに生育するが稀である。愛知県の生育地も、豊川の岸であったと思われる。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

情報がない。

【保全上の留意点】

更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

全体に毛が多く、葉縁に小刺針があることが特徴で、和名も毛が多いことによる。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.366, 平草本 I p.97, 平新版 2 p.99, 環境省 p.321.  
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.578-579. 平凡社, 東京.

# ベンケイソウ *Hylotelephium erythrostictum* (Miq.) H. Ohba

## 【評価理由】

草地性の多肉植物で、愛知県では1カ所に生育していたが、その場所で絶滅が確認された。

## 【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ30～100cm、葉とともに淡黄緑色で白色を帯び、しばしば赤紫色の斑点を密生する。葉は互生または対生し、上部の葉は無柄、下部のものは短い柄があり、葉身は楕円状卵形～楕円形、長さ6～10cm、幅2～4cm、先端は鈍頭、基部は鋭形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は9～10月、散房状花序を頂生し、紅色の花を半球形に密集してつける。花弁は5枚で楕円状披針形、長さ5～6mm、裂開直前の葯は濃赤紫色である。

## 【分布の概要】

### 【県内の分布】

東：4 津具 (井口, 小林 62426, 1997-9-24) に生育していた。

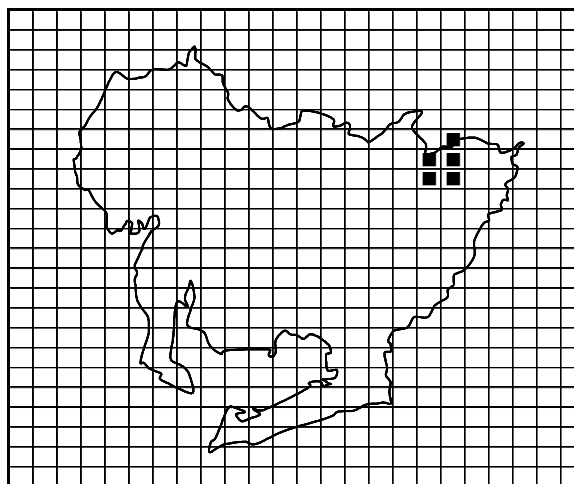
### 【国内の分布】

本州 (中北部)、九州に生育し、また各地で栽培される。

### 【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



## 【生育地の環境／生態的特性】

草地や明るい林内に生育する。愛知県の生育地は、林道近くの草地であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

## 【過去の生育状況／絶滅の要因】

1カ所に少数個体が生育していたが、生育していた草地が道路の拡幅工事で破壊され、絶滅した。

## 【保全上の留意点】

アセスメントの対象にならない小規模な工事でも、生物多様性の豊かな場所を改変する場合には事前調査を実施し、必要に応じて対策を講じるべきである。

## 【特記事項】

*Sedum* 属とされることも多い。和名は、多肉質でなかなか枯れないことを弁慶の強さに例えたと言われる。

## 【関連文献】

保草本Ⅱ p.163, 平草本Ⅱ p.151, 平新版2 p.217.

## ハマビシ *Tribulus terrestris* L.

### 【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい暖地性の海岸植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

### 【形態】

1年生または越年生草本。茎は分枝してはい、長さ1mに達する。若い枝には白色の毛がある。葉は2型性、大型の葉は長さ3~6cmで6~7対の小葉があり、小型の葉は長さ1~3cmで3~5対の小葉があり、基本的には大型の葉と小型の葉が対生するが、小型の葉が消失する場合もある。小葉は対生し、長楕円形、大きいものは長さ15mmくらいになり、先端は鈍頭またはやや鋭頭、基部は不等形である。花期は7~10月、花は黄色で、小型の葉の葉腋に、あるいは大型の葉と対生して1個ずつつき、花弁は5枚、長さ5mm程度である。果実は熟して5片にわかれ、直径約1cm、果皮は木質で表面に10本の太い刺と多数の刺状毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：18 田原西部（伊良湖岬、高木典雄 s.n., 1970-9-11）で採集された標本がある。

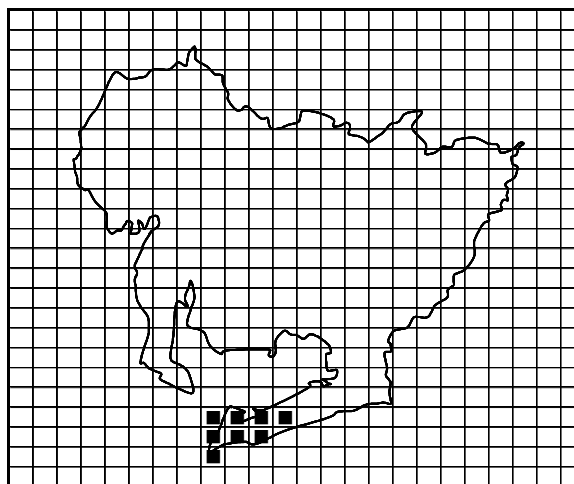
#### 【国内の分布】

本州（千葉県および福井県以西）、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

世界の熱帯~暖帯の海岸や内陸の乾燥地に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

日本では海岸の砂地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    | ○  |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

旧渥美町の三河湾側に生育していたが、火力発電所の建設や砂防工事の進展に伴う砂丘の消失によって絶滅したものと思われる。

### 【保全上の留意点】

砂丘ややせ山のような自然・半自然環境は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までのように消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。

### 【特記事項】

標本写真は、「植物からの SOS」（SOS 旧版）p.61 に掲載されている。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.84, 平草本Ⅱ p.222, 平新版Ⅱ p.239, 環境省 p.248, SOS 旧版 p.61.



## トサオトギリ *Hypericum tosaense* Makino

### 【評価理由】

過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。全国的にも極めて希少で、愛知県では分類学的な検討も十分にされないまま絶滅してしまった植物である。

### 【形態】

多年生草本。茎は2~3本叢生して直立し、高さ15~75cmになる。葉は対生し、長楕円形または長楕円状披針形、長さ1~2cm、幅6~15mm、全面に小点があり、縁は多少裏面に巻き黒点がある。花期は8~9月、少数の花からなる花序を茎の先端や上部の枝の先につける。花弁は5枚、ゆがんだ倒卵形で長さ約7~9mm、多数の脈があり、縁に波状歯がある。蒴果は丸みを帯びた円錐形で、長さ約7mmである。愛知県のものはアツミオトギリ *Hypericum momoseanum* Makino var. *atumense* Y. Kimura として区別されることもあるが、ここではトサオトギリと同種という見解に従う。アツミオトギリを独立分類群と見なすならば、アツミオトギリは絶滅変種になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 18 田原西部(福江, 山本四知夫 s.n., 1939-8-3, TI)で1回採集されただけである。この標本は、アツミオトギリの基準標本である。

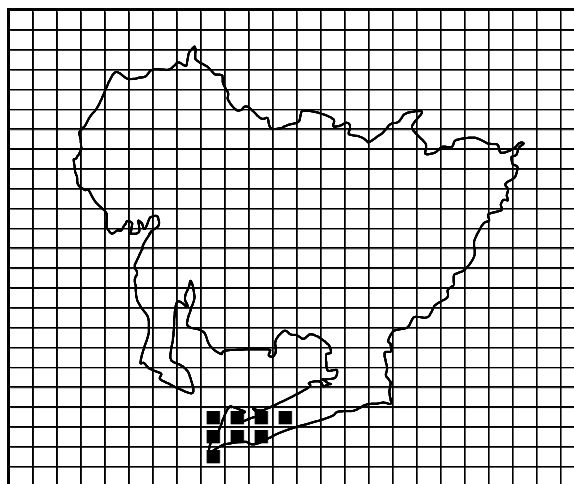
#### 【国内の分布】

本州(中部地方、中国地方)および四国にごく稀に生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。近縁種の *H. attenuatum* Choisy は、朝鮮半島、中国大陸北部、モンゴル、アムールに分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

蛇紋岩地のような、植生の発達が悪い場所に生育している。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

情報が無い。渥美半島の蛇紋岩地は植生遷移が進行しており、再発見できる可能性は極めて低い。

### 【保全上の留意点】

本種に関しては、それでも1点の標本が残されている。標本がなければ、あったという事実自体やがてはあいまいになってしまう。生物多様性を論じる上で、確実な標本資料の作成とその公共機関での保存は、是非とも必要なことである。また、愛知県の蛇紋岩地、はんれい岩地は、全体的に森林化が進行している。本種以外の草地性植物を救うためにも、草刈りや火入れを行い、草地状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

アツミオトギリを区別する場合、識別点としてはがく片が細く狭卵形~披針形であること、花がやや小さいことなどがあげられている。

### 【関連文献】

保草Ⅱp.66, 平草Ⅱp.118(アツミオトギリとして), SOS旧版p.53(アツミオトギリとして), 平新版3p.239(アツミオトギリとして), 環境省p.65.

## ミズスギナ *Rotala hippuris* Makino

### 【評価理由】

全国的に減少傾向が著しい低地性の水草で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

### 【形態】

挺水性の多年生草本。茎の基部ははい、上部は直立して円柱状、下部から枝を分け、高さ 3~10cm になる。葉は 5~12 個輪生し、沈水葉は糸状線形、先端は短く 2 裂し、長さ 2~3cm、水上葉は線形、先端は切形で、長さ 0.5~1cm、幅 0.6~1mm である。花期は 9~10 月、花は水面上に伸びた部分の葉腋につき、無柄、白色、がく筒は鐘形で長さ約 0.6mm である。蒴果は球形で直径 1.5mm、赤色をおびる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 18 田原西部 (江比間, 井波一雄 s.n., 1951-11-3, CBM157440)。尾: 41b 知多 (七曲り池, 相羽福松 866, 1980-9-23)、48 春日井 (神領町四ッ池, 飯尾俊介 25, 1964-9-29)、50 名古屋北部 (田代村猫ヶ洞, 森貞次郎 s.n., 1906-9-2, TI) で採集された標本がある。

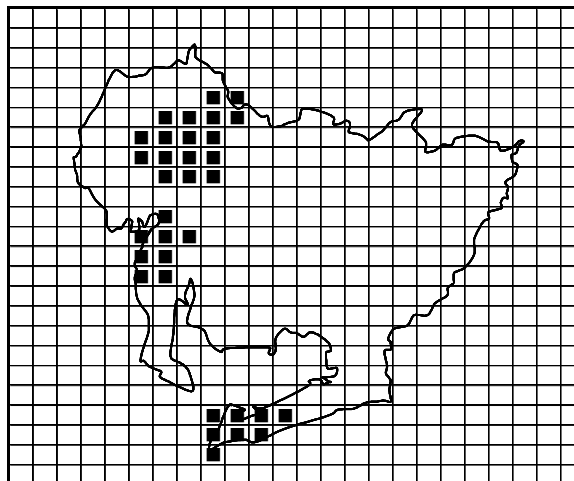
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方~近畿地方南部)、四国、九州に分布する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

水のきれいな浅いため池に生育する。水田に生育することもあるという。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

注意して探索している植物の一つであるが、現存を確認できない。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。知多のものは、研究者個人の手で栽培条件下で系統保存されているらしい。

### 【保全上の留意点】

丘陵地のため池に残存している可能性は皆無ではない。注意して更に探索する必要がある。系統保存されているものについては、一刻も早く公的な体制を整備し、将来にわたって保存できるようにすべきである。

### 【特記事項】

ウマノオともいう。シダ植物の中に同名のものがあるためグリーンデータブックにはこの名で掲載したが、やはりミズスギナの名を使う方がよさそうである。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.47, 平草本Ⅱ p.261, 平新版 3 p.259, 環境省 p.94, SOS 旧版 p.65.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.120. 文一総合出版, 東京.

## ヤナギラン *Chamerion angustifolium* (L.) Holub

### 【評価理由】

温帯性の植物で、分布域の南限にあたる。愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立し、分枝せず、高さ 1～1.5m になる。葉は多数互生し、無柄か短い柄があり、葉身は長披針形、長さ 5～20cm、幅 1～3cm、先端は鋭頭、辺縁はほぼ全縁、裏面は粉白色をおびる。花期は 6～8 月、茎の先端に長さ 10～45cm の総状花序をつくり、多数の花をつける。花は紅紫色、花弁は 4 枚で倒卵形、長さ 1.3～1.7cm、幅 6～8mm、小花柄は長さ 5～15mm である。果実は線形で、長さ 5～8cm、熟すと裂開し、種子は長さ約 1mm、長い白毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根（茶臼山，鳥居喜一 19020, 1952-9-20, HNSM）と 6 設楽西部（段嶺村段戸山，鳥居喜一 2054, 1952-8-2, HNSM）で採集された標本がある。現在も豊根（萩太郎山の野草園）で見られるが、これは人為的に播種されたものである。

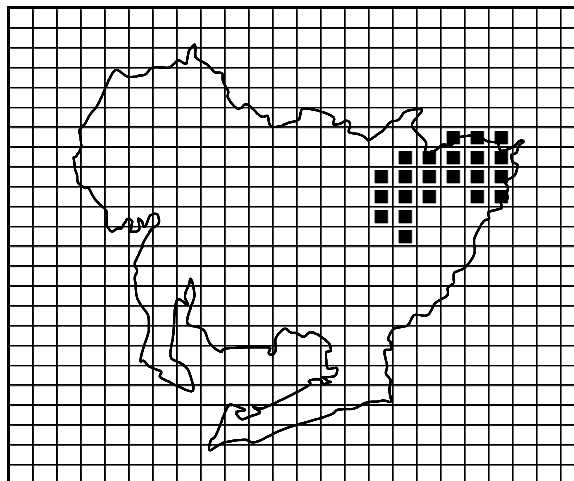
#### 【国内の分布】

北海道、本州（中部地方以北）に生育する。長野県まで行けば、普通に見られる植物である。

#### 【世界の分布】

ヨーロッパ、アジア、北アメリカに広く分布する。

関連地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や草地に生育する。しばしば伐採地などに大きな群落を作る。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

もともと攪乱地などに生育する植物であり、遷移の進行によって絶滅したのではないかと思われる。種子は風散布なのでそのうちに再度出現する可能性はあるが、多量に播種されてしまったので、自然に分布を拡大してきたものがあってももはや識別は不可能である。

### 【保全上の留意点】

現在萩太郎山にあるものは生物多様性という観点からは保全の対象とならず、むしろ除去が望ましい。自然環境下への播種・植栽は、その場所に生育している他の植物に悪影響を与えるだけでなく、将来の分布自然拡大による生物多様性増加の可能性も奪ってしまう。このような付け加えは、善意から出たものであっても、自然に対する大きな脅威となる行為であることを忘れてはならない。

### 【特記事項】

アカバナ属 *Epilobium* として扱われることも多い。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.38, 平草本Ⅱ p.266, 平新版 3 p.262, SOS 旧版 p.66.

タチスズシロソウ *Arabidopsis kamchatica* (DC.) K.Shimizu et Kudoh *subsp. kawasakiana*  
(Makino) K.Shimizu et Kudoh

【評価理由】

減少の著しい砂地性海浜植物で、分布域も狭く、愛知県はその東限にあたる。県内では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

冬型 1 年生草本。茎は直立し、少数の枝を分け、高さ 15~40cm になる。根出葉は倒披針形、先端ほど大きく羽状に浅裂し、鈍頭、長さ 1.5~4.5cm、両面に軟毛がある。茎葉はへら状線形、全縁で毛がない。茎と葉は全体に緑白色を帯びる。花期は 4~5 月、枝の先端に総状花序を伸ばし、白色の花をつける。花弁は 4 枚で倒卵形、長さ 4~8mm である。果実は線形で、長さ 2~4cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：18 田原西部 (小中山海岸, 恒川敏雄 s.n., 1946-5-20, TMNH) で採集された標本がある。

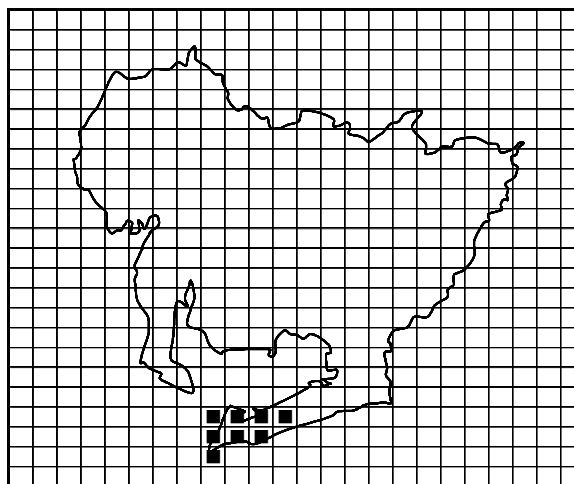
【国内の分布】

本州 (東海地方、近畿地方)、四国に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸や湖岸の砂地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    | ○  |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

生育状況に関しては情報がない。砂防工事の結果砂丘が消滅して、絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

砂丘ややせ山、湿田のような自然・半自然環境は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。

【特記事項】

基準亜種のミヤマハタザオ *subsp. kamtschatica* は、山地性の植物である。

【関連文献】

保草本 II p.181, 平草本 II p.135, 平新版 4 p.51, 環境省 p.229, SOS 旧版 p.54+図版 31 (写真は三重県産)。

ムラサキ *Lithospermum erythrorhizon* Sieb. et Zucc.

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県では 1990 年代まで稀に生育していたが、その後現存が確認できない。

【形態】

多年生草本。根は太く、乾くと濃紫色となる。茎は直立し、高さ 40～70cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は披針形～長楕円形、長さ 3～7cm、幅 7～20mm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁は全縁、質は厚く、粗い毛があり、数個のほぼ平行する側脈がある。花期は 6～7 月、花冠は白色、長さ 6mm 程度の花筒があり、先は 5 裂して平開し、直径約 4mm、喉部には黄色をおびた突起がある。果実は灰白色で光沢があり、平滑、長さ約 3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部(石巻萩平町, 小林 37219, 1992-5-17)にごく僅かに生育していたが、消失した。12 新城(大原, 井波一雄 s.n., 1964-6-6, CBM192774, 井波 1965 参照)で採集された標本もある。

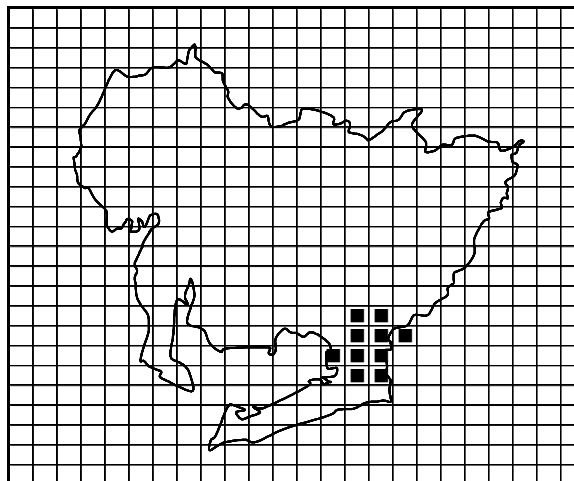
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。ススキなどが茂る場所には見られないが、草刈りが強度にくり返される場所にも見られない。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

近年生育が確認されたのは 1 カ所だけで、個体数も極めて少なかった。開発や遷移の進行によって草地が減少し、絶滅したと思われる。全国的には、根から紫色の染料をとる植物として有名なため、マニアの採取も無視できない。カメラマンや自称自然愛好家が押しかけて、生育地を攪乱することも懸念される。ただし本種の場合は、他にも何か減少の要因があるかもしれない。まだそれなりに草地が残っていた 30 年前でも、すでにほとんど幻の植物であった。

【保全上の留意点】

採草地として利用されてきた草地を、草刈りや火入れによってその状態のまま保全することが必要である。マニアの採取やカメラマンによる攪乱を防止するため、再発見された場合、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【引用文献】

井波一雄. 1965. ムラサキ愛知県下に見つかる. 植物採集ニュース(18): 31.

【関連文献】

保草本 I p.196, 平草本 III p.64, 平新版 5 p.55, 環境省 p.277, SOS 旧版 p.74, SOS 新版 p.59,61.

ハイルリソウ *Nihon proliferum* (Ohwi) A.Otero et al.

【評価理由】

愛知県の固有種とされている植物で、過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。根出葉は 4～5 個、倒披針形で長さ 12～25cm、幅 2.5～4cm、先は急に鋭くとがり、基部は次第に細くなり、全縁である。花茎は根出葉の間から 1～3 本出て、2～3 個の無柄の茎葉があり、花がすむと倒伏する。花は花茎の上部にまばらに 4～5 個総状につき、苞は 1～3 個、最下のは花後その腋に芽をつける。花冠は淡紅色で 5 裂し、直径約 1cm である。分果は平滑で直径約 2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：37a 瀬戸（定光寺山、井波一雄 s.n., 1956-5-13 および 1955-6-10～17, TNS）で採集された標本がある。前者が花期、後者が果期の標本で、後者が基準標本である。

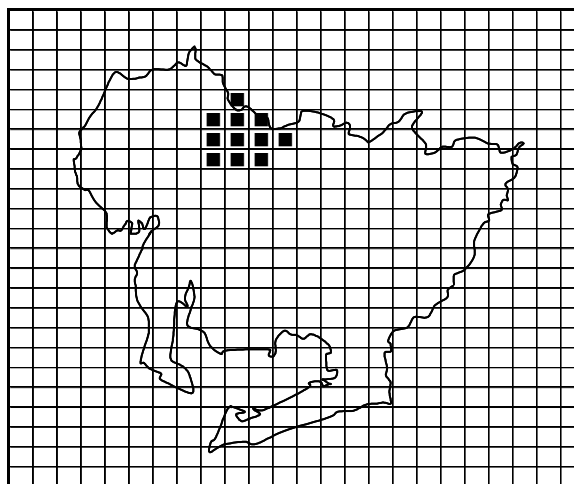
【国内の分布】

一般に愛知県固有種とされている。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

低山地の沢沿いの林内に生育していたらしいが、詳細は不明である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

豪雨によって生育地の沢が崩壊し絶滅したらしいが、はっきりしたことはよくわからない。

【保全上の留意点】

生育していた場所は特別な地形・地質の場所ではないらしいので、他の場所にもあってよいと思われる。更に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

井波一雄氏により愛知県瀬戸市の定光寺付近で発見された植物で、井波氏以外に自生地を見た人がおらず、標本も 2 点残されているだけで変異の幅がわからない。ヤマリソウ *O. japonica* (Thunb.) Maxim. と明確に区別できるかどうかも含めて、実体のはっきりしない植物である。2 点の標本の写真は、大井（1956）に掲載されている。

【引用文献】

大井次郎. 1956. 日本及びその附近の植物について. 国立科学博物館研究報告 3: 98-101.

【関連文献】

平草本Ⅲ p.67, 平新版 5 p.57, 環境省 p.114, SOS 旧版 p.75.

マメダオシ *Cuscuta australis* R.Br.

【評価理由】

減少傾向の著しい寄生植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

1 年生でつる性の寄生植物。茎は細く糸状で黄色を帯び、寄主にからみつく。茎上には薄膜質で卵形の鱗片葉がある。花期は 7～10 月、花は無柄で数個が束生し、花冠は長さ約 2mm で 5 裂し、裂片は円頭、筒部内側の鱗片は先端が 2 裂し、少数の突起がある。がくは低い三角形で薄膜質、長さは花冠の 1/2～1/3 である。果実は蒴果でほぼ球形、直径約 3mm、基部に花冠が残存する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（一宮村東上，鳥居喜一 20684，1945-9-16，HNSM）、18 田原西部（亀山村辺，牧野富太郎 s.n.，1893-10-17，MAK）、尾：50 名古屋北部（東山村覚王山，久米道民 s.n.，1910-7-23，TNS）で採集された標本がある。ただし MAK と TNS の標本は花冠内部を確認していない。MAK にはこのほかにラベルに「名古屋市千種区田代町」と書かれた標本があるが、この地名は標本送付者（岡田善敏氏）の住所と思われる。

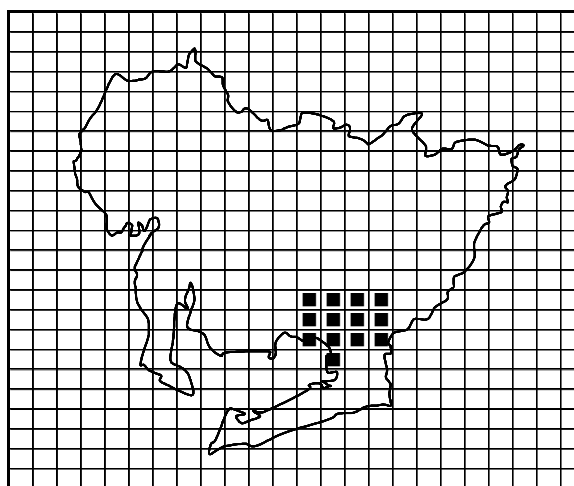
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、中国大陆、東南アジア、オーストラリア。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい野原などに生育すると言われる。愛知県での生育環境については情報が無い。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  | ○  |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

「豆倒し」という名から推定すれば、かつては作物の害草になるくらいあったのかもしれないが、残されている資料が少なく、過去の状況はよくわからない。近似種の帰化植物アメリカネナシカズラ *C. pentagona* Engelm. が急増した頃から見られなくなったが、もともと少なかったために紛れてしまったのか、競合により排除されたのかもはっきりしない。

【保全上の留意点】

注意して探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

アメリカネナシカズラは、花冠の裂片が鋭頭、筒部内側の鱗片は辺縁がふさ状に裂けるが 2 裂しない。

【関連文献】

保草本 I p.202, 平草本 III p.58, 平新版 5 p.26, 環境省 p.111.

## ヒシモドキ *Trapella sinensis* Oliver

### 【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存する確実な自生地がない。

### 【形態】

多年生の浮葉性水草。茎は水中を長く伸びる。葉は対生し、水中のものは細長く披針形、水上のものは長い柄があり、葉身は3角状円形～腎円形、長さ2～3.5cm、幅2.5～4cm、先端は円～鈍頭、基部は開いた浅心形、辺縁には鈍鋸歯がある。花期は7～9月、通常花と閉鎖花があり、閉鎖花は無柄、通常花は葉腋から2cmほどの花柄を伸ばし、水上に淡紅色の花をつける。花冠は筒状で長さ2～2.5cm、横向きに咲き、先は5裂し、裂片は円頭である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：31 幸田(坂崎, 壁谷祥和 37, 1993-9-18)に生育していた。東：15 豊橋北部(大池, 鳥居喜一 21607, 1942-8, HNSM)で採集された標本もある。大原(1971)によれば名古屋、西尾、岡崎などにもあったというが、確実な資料は残されていない。25 豊田北西部(吉鶴靖則 s.n., 2008-9-1)には生育しているが、栽培品が投入された可能性が高く、更に検討が必要である。

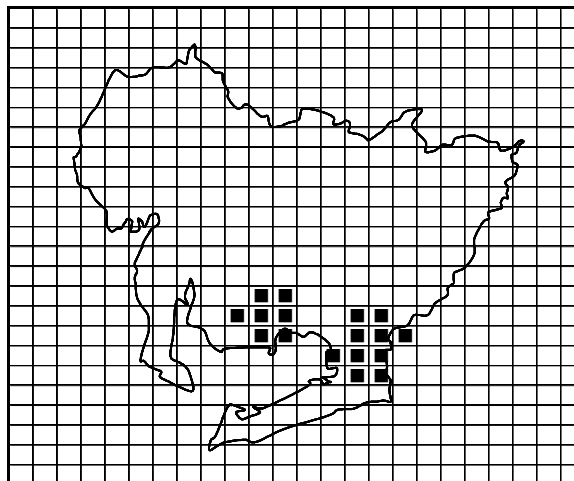
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州に生育するが、現存する自生地は全国でも僅かである。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

池沼や水路に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  | ○  |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

幸田では小水路に生育していたが、その水路が1994年に改修されて絶滅した。豊橋での状況は不明である。豊田北西部では、数m<sup>2</sup>の範囲に繁茂しており、果実も多数つけている。通常花は確認できていない。人工的に掘られた池で管理者は特に何もしていないらしいが、同所にサンショウモ、デンジソウ、ホテイアオイ等も生育しているため、何者かによって栽培品が投入された可能性が高い。しかし、周辺は水鳥が多い場所であり、自然分布の可能性も皆無ではない。地形的には池沼が成立し難い場所で、昔生育していたものが復活したとは考えにくい。

### 【保全上の留意点】

豊田北西部の生育地は管理者には意識されており、池自体は当面現状のまま維持されると思われる。しかしこの池にはホテイアオイやヒシも生育しており、それらが繁茂すれば消失する可能性がある。

### 【特記事項】

幸田で撮影された写真は、「植物からのSOS」(SOS旧版)に掲載されている。

### 【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.112. 名古屋営林局, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本 I p.127, 平草本 III p.129, 平新版 5 p.82, 環境省 p.286, SOS 旧版 p.81+図版 22.

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.148. 文一総合出版, 東京.



ゴマノハグサ *Scrophularia buergeriana* Miq.

【評価理由】

草地性の植物で、県内では1カ所に生育していたが、その場所で現存が確認できない。

【形態】

多年生草本。根は太く肥厚し、紡錘形になる。茎は方形で直立し、高さ90～150cmになる。葉は対生し、長さ1～2cmの柄があり、葉身は卵形、長さ6～8cm、幅3～4cm、質はやや厚く、辺縁に多数の鋸歯がある。花期は7～8月、茎の先端に長さ20～40cmの細長い総状花序をつくり、多数の花をつける。がくは5深裂し、裂片は3角状卵形で先はやや鈍頭になる。花冠はつぼ状で黄緑色、長さ6～7mmである。蒴果は卵形、長さ約5mmになる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（富士見岩、芹沢・芳山 169, 1984-7-27）に生育していた。

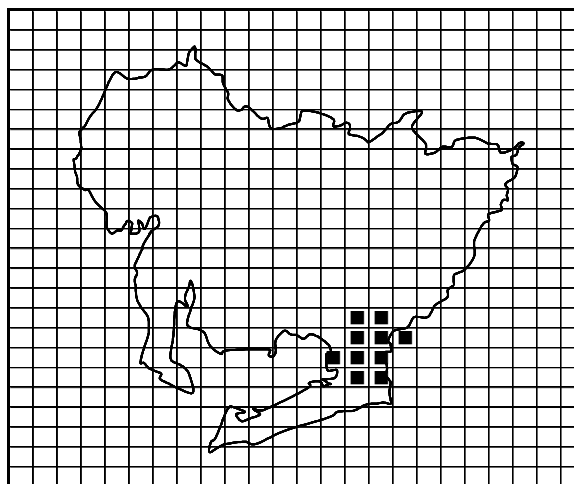
【国内の分布】

本州および九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸（北部、東北部）に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般に河川敷などの湿った草地に生育するが、愛知県の自生地は低山地の尾根の乾いた草地であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

個体数はもともと少なかった。草地としての利用が停止され、ネザサや低木が繁茂したことが絶滅の要因である。

【保全上の留意点】

現地での再発見は困難と思われる。

【特記事項】

全国的に見てもそれほど多くない植物である。標本写真は「自然からの SOS」（SOS 新版）に掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.153, 平草本Ⅲp.100, 平新版 5 p.94, 環境省 p.501, SOS 旧版 p.80, SOS 新版 p.162.

## ヒメハッカ *Mentha japonica* (Miq.) Makino

### 【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、愛知県でも過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

### 【形態】

多年生草本。細く長い地下茎がある。地上茎は直立して高さ 20～40cm、節に短い軟毛があるほかは無毛である。葉は対生し、柄はごく短いかまたはほとんどなく、葉身は卵状長楕円形、長さ 1～2cm、幅 3～8mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。花期は 8～10 月、花は枝先に集まってつき、がくは 5 浅裂し、長さ約 2.5mm、無毛で腺点がある。花冠は 4 裂し、淡紅紫色またはほとんど白色、長さ約 3.5mm である。茎が長く 1m 以上に伸び、しばしば倒伏するものをハイヒメハッカ form. *prostrata* Sugim. という。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

狭義のヒメハッカの型が東：15 豊橋北部（岩田町，鳥居喜一 21226, 1947-10-19, HNSM）と 18 田原西部（伊良湖，岡田善敏 s.n., 1948-10-22）、ハイヒメハッカの型が東：17 田原東部（赤羽根町高松北，小林 54059, 1994-9-24）、尾：42b 半田（半田池，井波一雄 s.n., 1954-9-4, CBM222693）で採集されているが、いずれも現存を確認できない。

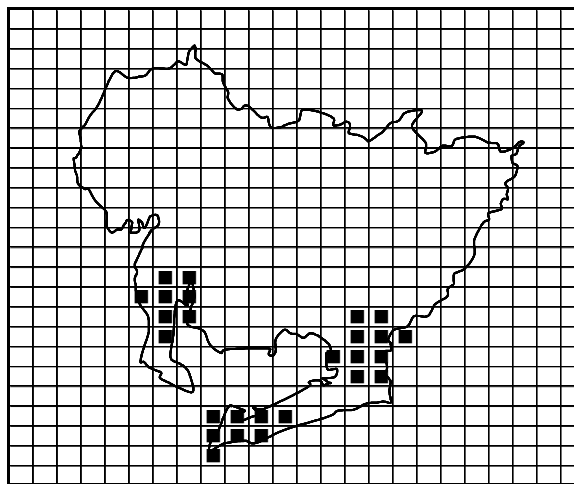
#### 【国内の分布】

北海道および本州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

ため池の岸などの湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

比較的近年まで現存が確認されていたのは 1 カ所だけであるが、この場所も周辺の樹木が生長し、本種が生育できそうな水辺の草地が消滅してしまった。

### 【保全上の留意点】

ため池周辺の森林を伐採し、水辺の草地を維持する必要がある。

### 【特記事項】

ハッカと同様の芳香がある。

### 【関連文献】

保草本 I p.175, 平草本Ⅲp.84, 平新版 5 p.136, SOS 旧版 p.77.

オオナンバンギセル *Aeginetia sinensis* G.Beck.

【評価理由】

草地性の植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

ナンバンギセル *A. indica* L. に似ているが全体にやや大きく、花冠は明るい紅紫色で長さ 3.5～4.5cm、裂片は開出し、直径 2～2.5cm になる。がくは横から見ると楕円形（ナンバンギセルでは通常卵形）で先端は鈍頭、花冠裂片の辺縁には細かい歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（茶臼山，山田英吉 426, 1956-8-15）と 3 東栄（振草村小林，鳥居喜一 21613, 1945-8-4, HNSM）で採集された標本がある。

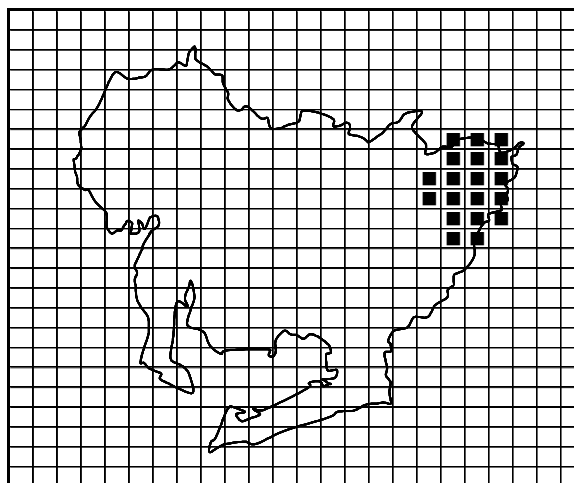
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地に生育し、スゲ類やノガリヤス類に寄生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

生育状況については情報がない。おそらくは草地の減少によって絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

ていねいに探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

花冠裂片が広く開出するのが特徴である。がくの先端が鈍頭であること、花冠裂片辺縁に小歯牙があることでナンバンギセルと異なるとされることが多いが、これらは必ずしも明確な区別点ではない。

【関連文献】

保草本 I p. 125, 平草本Ⅲp.134, 平新版 5 p.150.

## イズコゴメグサ

*Euphrasia insignis* Wettst. subsp. *iinumae* (Takeda) Yamazaki var. *idzuensis* (Takeda) Yamazaki

### 【評価理由】

地理的な分化が著しいコゴメグサ群の中の 1 型で、本州中部太平洋側に分布しており、愛知県は分布域の西限にあたる。ただし県内では、近年現存を確認できない。

### 【形態】

1 年生草本。茎は上部で分枝し、高さ 30～45cm になる。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は卵形～楕円形、長さ 5～10mm、幅 3～6mm、辺縁の鋸歯は 2～3 対で鋭頭である。花期は 9～10 月、花は上部の葉腋に 1 個ずつつき、花冠は唇形、上唇の先まで長さ 8～9mm、下唇は幅が広く、上唇のほぼ 2 倍の長さがあり、白色で紫色の条があり、内面に黄斑がある。蒴果は倒卵形で長さ約 5mm、中に 3～5 個の大型の種子がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (吉川峠, 小林 32313, 1987-9-26) に生育していた。

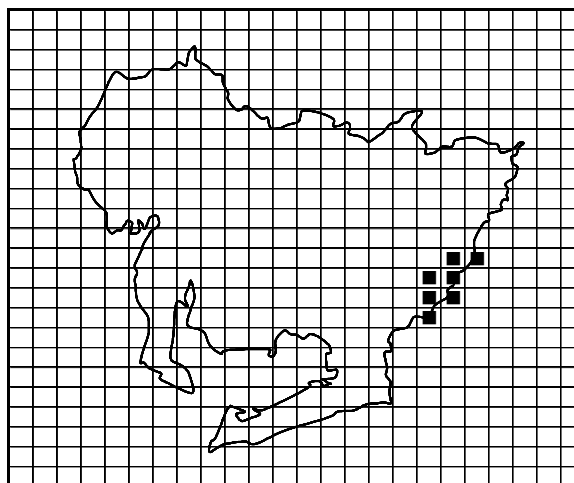
#### 【国内の分布】

本州 (伊豆半島～東海地方)。

#### 【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。伊豆半島では尾根に生育していることが多いが、愛知県の生育地は沢に近いやや湿った場所であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

2 カ所に生育していたが、どちらも個体数は極めて少なかった。遷移が進行して大形の草本が多くなり、絶滅した。

### 【保全上の留意点】

定期的に草刈りを行い、丈の低い草地状態を維持することが必要である。希少性につられてマニアが採取するのを防止するため、再発見された場合は、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

愛知県のコゴメグサ属植物としては、他にイナコゴメグサらしい写真が大原 (1981) に掲載されているが、裏付けとなる標本は残されていない。

### 【引用文献】

大原準之助. 1981. 津具村の植物 図版 14. 津具村教育委員会, 同村.

### 【関連文献】

保草本 I p.131, 平草本 III p.120, 平新版 5 p.152, 環境省 p.281. SOS 旧版 p.79+図版 11.

タチコゴメグサ *Euphrasia maximowiczii* Wettst.

【評価理由】

小型の草地性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なかった。過去に生育していた場所を探索したが、現存が確認できない。

【形態】

1年生草本。茎は少数の枝を出して直立し、高さ15～30cmになり、曲がった毛がある。葉は対生し、ほとんど無柄、葉身は卵円形で長さ6～10mm、幅4～8mm、基部は切形状の円形、両面とも無毛、辺縁には4～7対の鋭くとがった鋸歯がある。花期は8～9月、花は上部の葉腋に1個ずつつき、花冠は唇形、上唇の先まで長さ6～7mm、下唇は上唇とほぼ同長、白色で紫色の条がある。蒴果は長楕円形で長さ4～5mm、中に十数個の種子がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（基盤石山、小林 40483, 1986-8-9）に生育していた。

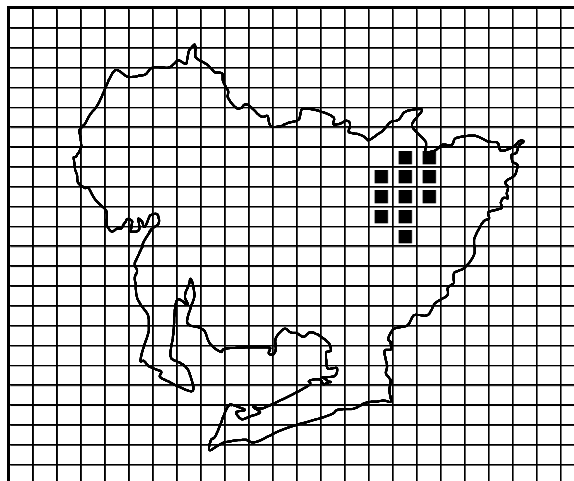
【国内の分布】

本州（東北地方南部～近畿地方、中国地方西部）、四国西部、九州中北部に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の日あたりのよい草地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1カ所にごく少数の株が生育していたという。このあたりという場所を何人かで探索してみたが、確認できなかった。遷移の進行により大型の草本が多くなり、絶滅したのではないと思われる。

【保全上の留意点】

地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地（カヤ場）は、利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。稜線の草地は、防火帯としても眺望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。

【特記事項】

本属の中では、分布域の広い種である。

【関連文献】

保草本 I p.130, 平草本 III p.121, 平新版 5 p.153.

フサタヌキモ *Utricularia dimorphantha* Makino

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生の水草。茎は長さ 50cm くらいになる。葉は互生し、長さ 3~6cm、毛状の裂片に立体的に分裂する。食虫植物であるが、捕虫囊はわずかにつくだけである。花期は 7~9 月、通常花と閉鎖花があり、閉鎖花は葉腋に単生して短い柄があり、通常花は水上に伸びた高さ 7~15cm の花茎の上部に、3~10 花がつく。花冠は黄色で直径約 1cm、がくは卵状楕円形で長さ約 2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：50 名古屋北部（名古屋城の堀，中井三従美 s.n., 1989-8-13）に生育していた。

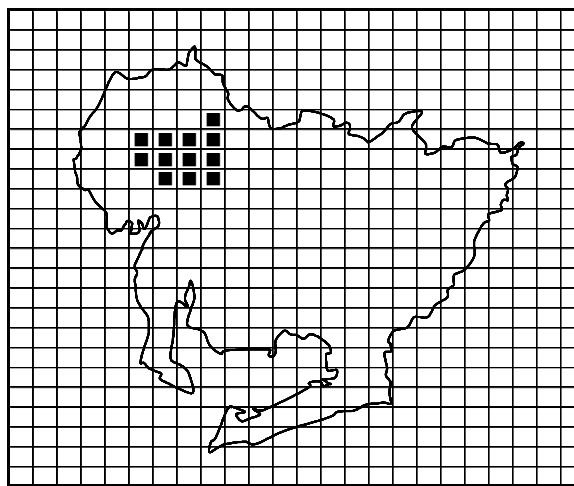
【国内の分布】

本州（東北地方～近畿地方）に分布する。近隣では岐阜県岐阜市金華山岩戸～ダチ目（井波一雄 s.n., 1963-9-15, CBM72562）、三重県木曽岬村（井波一雄 s.n., 1952-10-14, CBM157373）などで採集された標本がある。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の池沼の水中に浮遊する。現存する生育地は全国でも数カ所にすぎない。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    | ○  |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1989 年に採集された標本があるが、その後見られなくなった。水質の汚濁が絶滅の原因と思われる。全国的には、食虫植物マニアによる採取も深刻と言われている。

【保全上の留意点】

水質が改善されれば、再度出現する可能性もあると思われる。

【特記事項】

他の日本産のタヌキモ類と異なり、通常花のほか、閉鎖花をつける。学名もこの特徴に基づく。標本写真は、「植物からの SOS」（SOS 旧版）p.82 に掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.122, 平草本 III p.139, 平新版 5 p.166, 環境省 p.286, SOS 旧版 p.82.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.152. 文一総合出版, 東京.

## コタヌキモ *Utricularia intermedia* Heyne

### 【評価理由】

温帯性の水草で、愛知県では既知のすべての自生地で絶滅が確認された。「まだ残存している」という話も聞くが、確認できていない。

### 【形態】

多年生の食虫性水草。茎は泥上をはい、多数の捕虫囊をつけた地中葉で固着する。水中葉は互生して重なり合い、長さ1cm程度、二叉状に分岐して扇形となり、捕虫囊はなく、裂片は幅0.3~0.6mmで辺縁に鋸歯がある。花期は6~9月、高さ5~15cmの花茎を水上に伸ばし、1~5花をつける。花冠は黄色で直径12~15mm、距は前向きで下唇とほぼ同長、がくは長さ約3mmである。秋には茎の先端に直径3~8mmの球状~楕円状の殖芽を作り、越冬する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 13 豊川(一宮町大木, 芹沢 54046, 1989-10-29), 17 田原東部(田原町野田, 芹沢 53624, 1989-9-27)、西: 23 藤岡(深見, 芹沢 50082, 1988-10-7)に生育していた。16 豊橋南部(高師原清水池, 鳥居喜一 2054, 1952-8-2, HNSM)、50 名古屋北部(田代町竹下、井波一雄 s.n., 1937-8-18, CBM233671)、51 名古屋南東部(天白区八事、浜島繁隆 1078, 1968-8-25)で採集された標本もある。豊橋北部の葦毛湿原には現存するが、これは移入されて繁殖したものであり、保全の対象にならない。

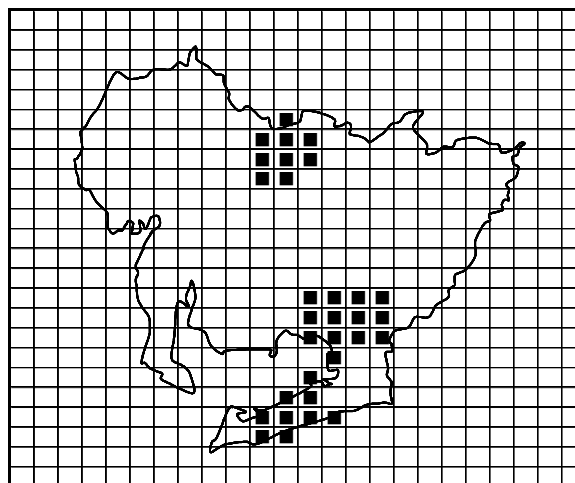
#### 【国内の分布】

北海道、本州(三重県以北)、九州(大分県)に生育する。

#### 【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する。愛知県の生育地は、いずれも湧水湿地中の浅い水たまりであった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

3カ所とも、個体数はごく少なかった。田原赤羽根では湿地の上に道路ができて水脈が切れ、藤岡では宅地造成により生育地が破壊されて、絶滅した。

### 【保全上の留意点】

葦毛湿原のものは、原産地も不明であり、除去が望ましい。新たな自生地が発見される可能性は皆無ではないが、葦毛湿原のような付け加え行為が行われると、発見された自生地が保全に値するかどうか、判断がつかなくなってしまう。湿地はどこも同じではない。ないものは「ない」のがその湿地の個性であり、その「ない」という状態を壊す移入は自然破壊行為である。また、愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、その中には絶滅危惧植物も多く、特に優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。また、水源部に森林が発達すると富栄養化が進むので、適宜伐採・搬出を行い、貧栄養状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

愛知県では、まだ開花は確認されていない。

### 【関連文献】

保草本 I p.122, 平草本 III p.139, 平新版 5 p.165, SOS 旧版 p.83.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.152. 文一総合出版, 東京.

ヤチシャジン *Adenophora palustris* Kom.

【評価理由】

大陸系の植物で、愛知県では 1 カ所に生育していたが、おそらくは園芸目的の採取により絶滅した。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 60~100cm、紫色をおび、無毛である。茎葉は互生し、無柄、葉身は楕円形~長楕円形で長さ 3~6cm、やや厚く、辺縁に鋸歯がある。花期は 8 月、茎の先端に数個の花を下向きにつける。花柄はごく短く、基部に卵形~広披針形の小苞がある。がく裂片は 5 個あり、卵形で長さ 3~4mm、全縁で開出しない。花冠は漏斗状鐘形で、淡紫色、長さ 1~1.5cm、先端は 5 裂し、花柱はやや突出する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 6 設楽西部(納庫, 小林 23099, 1981-8-16) で採集された標本がある。

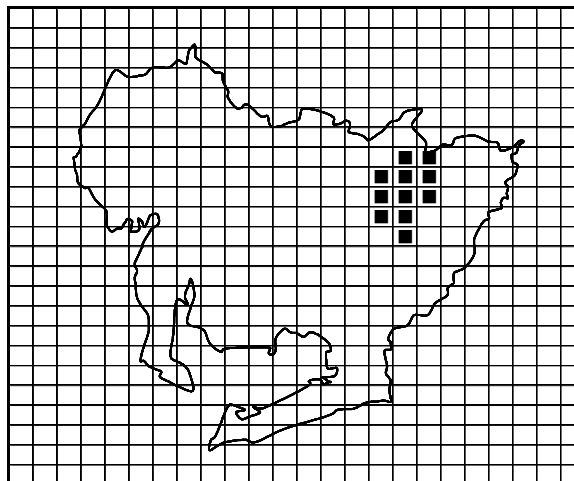
【国内の分布】

本州(愛知県および中国地方)に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の日当たりのよい湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

かつては、ある程度の個体数が見られたという。水田化によって生育地が狭められたことに加えて、植生遷移の進行と園芸目的の採取が、絶滅の原因と思われる。

【保全上の留意点】

注意して探索しているが、現地では僅かに残された湿地も埋め立てられてしまい、再発見は困難と思われる。再発見された場合、園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

「日本の野生植物」III 126 図版には、設楽町で 1976 年に撮影された写真が掲載されている。

【関連文献】

保草本 I p.95, 平草本III p.152, 平新版 5 p.188, 環境省 p.124, SOS 旧版 p.84.



バアソブ *Codonopsis ussuriensis* (Rupr. et Maxim.) Hemsl.

【評価理由】

草地性の植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生のつる性草本。根は球状の塊根になる。茎は細く、全体に白毛を散生し、切ると白い乳液が出る。葉は各側枝に3～4枚集まって互生し、短い柄があり、葉身は楕円形、長さ2～4cm、幅1～2cm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に白毛が密生する。花期は8月、花は側枝の先について下垂し、がく裂片は5個で披針形、長さ1～1.5cm、花冠は鐘形で長さ2～2.5cm、内面は濃紫色をおび、特に下半分には濃紫色の斑点がある。種子は濃褐色で光沢があり、翼がない。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：28 額田（細光，福岡義洋 1153，1990-8-21）で1回採集されただけである。

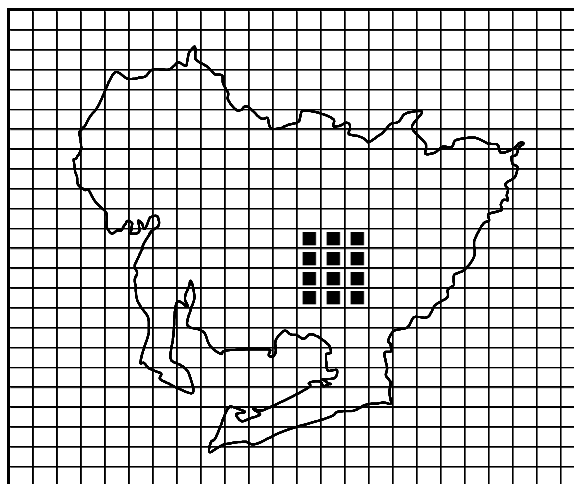
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の草地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

1回採集されたことがあるだけで、その後確認されていない。草地の減少によりすでに絶滅したと思われるが、他の場所で再発見される可能性もある。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地（いわゆるボタ）を中心に、更に探索する必要がある。里草地には本種以外にもさまざまな草地性植物が生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

大原（1971）は額田のほか岡崎、足助、旭を生育地としてあげているが、確実な資料は残されていない。以前はもう少しあちこちにあったのかもしれないが、愛知県の低山地にはツルニンジンの葉裏に毛がある型が広く分布しており、それを誤認した可能性もある。

【引用文献】

大原準之助 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.118. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅰ p.92, 平草本Ⅲ p.150, 平新版Ⅴ p.191, 環境省 p.515, SOS 旧版 p.84.

ミツガシワ *Menyanthes trifoliata* L.

【評価理由】

亜寒帯性の植物で、愛知県では寒冷期の遺存植物である。過去に生育していたらしいが、現存は確認できない。

【形態】

多年生草本。根茎は太くはう。葉は束生し、長い柄があり、その基部は鞘となる。葉身は3小葉からなり、小葉は卵状楕円形または菱状楕円形、長さ4~8cm、幅2~5cm、先端は鈍頭、辺縁は細鋸歯があるか、ほとんど全縁である。花期は4~8月、花茎は高さ20~40cmになり、先端に総状に近い細い円錐花序をつける。花は長さ5~15mmの柄があり、花冠は白色、直径10~15mm、5裂し、裂片は3角状卵形で内面に毛がある。蒴果は球形で、直径5~7mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：38a 長久手に生育していたという（井波 1978）。

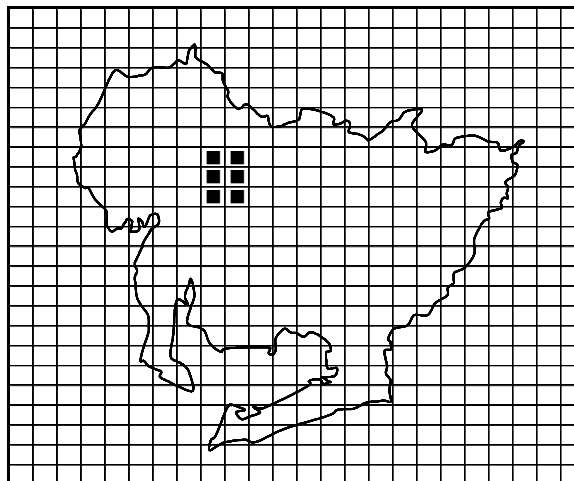
【国内の分布】

北海道、本州、九州に生育する。

【世界の分布】

ユーラシア、北アメリカ北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する挺水植物である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

本種が生育していたという場所は、開発によって完全に破壊されている。この場所のものという栽培品を見たことがあるので絶滅種としてリストに掲載したが、確実な標本資料は残されていない。

【保全上の留意点】

再発見できる可能性は、ほとんどないと思われる。春日井市の少年自然の家構内の池に半自生状に生育しているが、これは植栽されたものである。

【特記事項】

本来ならば、確実な標本資料の裏付けがない植物は愛知県産のリストから除外し、レッドデータブックにも掲載するべきでない。しかし、愛知県では公的な標本の保管体制が整備されていないという事情があるため、本種も絶滅種としておく。

【引用文献】

井波一雄. 1978. 愛知県の低地に生えるミツガシワ. 植物採集ニュース(100):48.

【関連文献】

保草本 I p.214, 平草本 III p.37, 平新版 5 p.195, SOS 旧版 p.71.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.140. 文一総合出版, 東京.

ヤマノコギリソウ *Achillea alpina* L. var. *discoidea* (Regel) Kitam.

【評価理由】

草地性の植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。横走する地下茎がある。地上茎は束生し、通常分枝せず、高さ 50～100cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は羽状に中～深裂し、長さ 6～10cm、幅 7～15mm、裂片には鋭い鋸歯があり、基部は茎を抱く。花期は 7～9 月、茎の先端に平らな散房花序をつくり、多数の頭花を密生する。頭花は直径 7～9mm、総苞は球鐘形で長さ幅ともに 5mm 内外、総苞片は 2 列に並び、舌状花は 5～7 個、白色で長さ 3.5～4.5mm である。そう果は扁平で長さ約 3mm、冠毛はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（段戸山裏谷，鳥居喜一 23225, 1948-9-4, HNSM）で採集された標本がある。

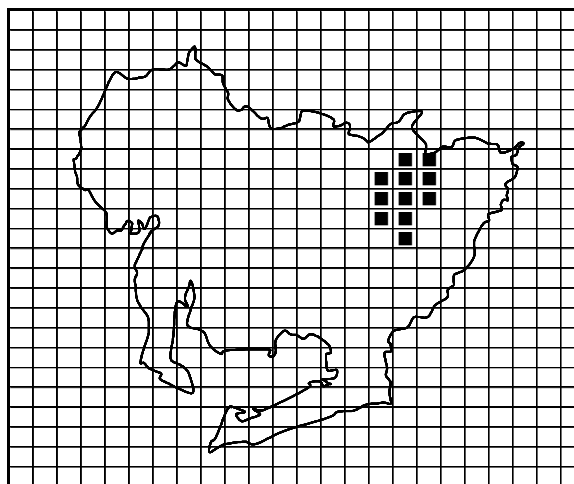
【国内の分布】

北海道および本州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸、ベトナム北部、ネパール、シベリア東部、カムチャッカ、アリューシャン、北アメリカに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地に生育する。愛知県での生育環境については情報が無いが、おそらくそのような場所であったと思われる。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

生育状況については情報が無い。おそらくは草地の減少によって絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

注意して探索しているが、再発見は困難と思われる。

【特記事項】

北日本に多い植物で、いくつかの亜種・変種に分けられているが、それらの関係については更に検討が必要である。2009 年版ではノコギリソウの名で掲載した。

【関連文献】

保草本 I p.63, 平草本Ⅲp.162, 平新版 5 p.327.

モリアザミ *Cirsium dipsacolepis* (Maxim.) Matsum.

【評価理由】

草地性の植物で、過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。根は太く垂直に伸び、直径 2cm に達する。茎は高さ 50～100cm になる。葉は互生し、下部のものは長柄があり、柄を含めて長さ 15～20cm、葉身は長楕円形または卵形、しばしば羽状に切れ込み、辺縁の鋸歯の先端は鋭い刺となる。花期は 9～10 月、頭花は枝の先端に直立して咲き、総苞は幅 3～4cm、総苞片は長くて開出し、幅 2～3mm である。小花はすべて筒状花、花冠は紅紫色、そう果には長い冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (大桑三国山, 鳥居喜一 1151, 1956-10-7, HNSM) で採集された標本がある。栽培起源の逸出品と思われるものは現在でも三河山間部の人里近くに稀に見られるが、これらは評価の対象外である。

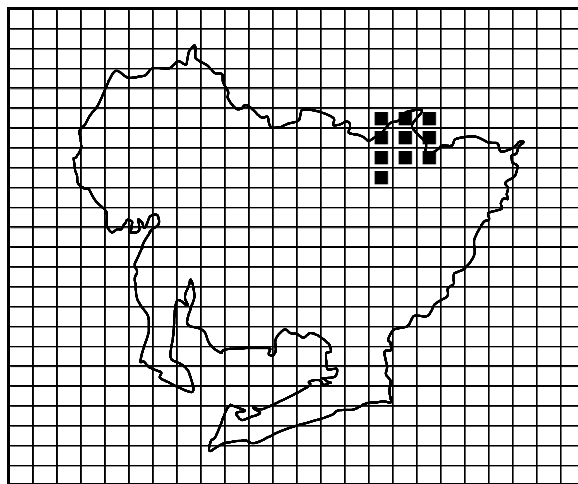
【国内の分布】

本州、四国、九州に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の日あたりのよい草地に生育する。愛知県の生育地については情報が無いが、尾根のカヤ場であったと思われる。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

草地の減少により絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

再発見の可能性はあるが、見つかったとしても栽培品が逸出しているため、真の自生かどうか判断が難しい。鳥居氏採集の標本についても、逸出である可能性は完全には否定できない。

【特記事項】

根をヤマゴボウと称し、食用にする。一時期は地域の特産品としてかなり栽培された。

【関連文献】

保草本 I p.37, 平草本III p.217, 平新版 5 p.223.

フジアザミ *Cirsium purpuratum* (Maxim.) Matsum.

【評価理由】

日本列島で多くの種に分化しているアザミ属の 1 種で、愛知県は分布の南西限である。県内では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

大型の多年生草本。根は太く、食用になる。葉は束生し、花時にも多くの根出葉があり、楕円形で羽状に中～深裂、長さ 50～70cm に達し、先端は鋭頭、基部は次第に細まって柄になり、白いくも毛がある。花期は 8～10 月、花茎は分枝して高さ 50～100cm になり、頭花は枝の先端について下を向いて開き、総苞は扁球形で直径 6.5～8.5cm、総苞片は幅 5～9mm で紫色、縁に小刺針があつて反曲する。小花はすべて筒状花、花冠は紅紫色、そう果には長い冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（大沼林道、井波一雄 s.n., 1964-9-27, TNS）で採集された標本がある（井波 1965 参照）。この標本の写真は長谷川（2005）に掲載されている。鳥居喜一氏によれば、佐久間ダムに水没する前の天竜川の礫の河原にも生育していたそうである。また大原（1984）は、「津具村天狗棚近くの道路脇に 1 株を発見した」と報告している。写真も掲載されており、その写真は確かにフジアザミである。

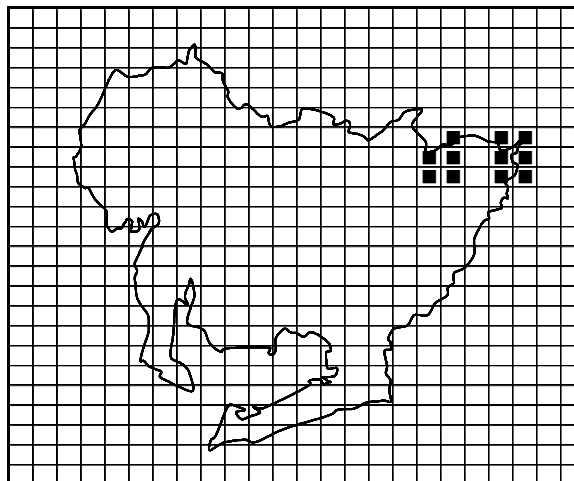
【国内の分布】

本州（関東地方、中部地方）に分布する。富士山の周辺に多い。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の崩壊地や河川敷などに生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

天竜川にどの程度の量があったかは、情報がなく、はっきりしない。佐久間ダムの建設により水没し、絶滅したらしい。

【保全上の留意点】

もともとあったという場所は失われているが、隣接する静岡県、長野県内では比較的多い植物なので、津具の記録のように林道の路傍などの攪乱地で再発見される可能性は残されている。

【特記事項】

他のアザミ類とはかなり異なる形態を持つ、特徴的な種である。

【引用文献】

長谷川道明(編). 2005. よみがえれ! 愛知のいきものたち p.81. 豊橋市自然史博物館, 豊橋.  
井波一雄. 1965. フジアザミ *Cirsium purpuratum* Matsum. 愛知県に算す. 植物採集ニュース(17):25.  
大原準之助. 1984. 植物新分布報告 第 13 報. 植物研究集録 21: 62-66.

【関連文献】

保草本 I p.32, 平草本III p.215, 平新版 5 p.224, SOS 旧版 p.85.

## ヒゴタイ *Echinops setifer* Iljin

### 【評価理由】

大陸系の植物で、日本では隔離的に分布しており、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

### 【形態】

1 回開花性の大型の草本。茎は直立し、多少分枝し、高さ 1m 内外で、密に白い毛がある。葉は互生し、長い柄があり、葉身は長楕円形で羽状深裂し、長さ 15～25cm、辺縁に短い刺針があり、裏面は綿毛におおわれて白色である。花期は 8～10 月、頭花はるり色で 1 個の筒状花からなり、集まって直径 5cm 内外の球状で固い花序を作る。各頭花は無柄で、基部に剛毛があり、総苞は長さ 14～21mm である。そう果は円柱形、冠毛は互いに合着して冠状となる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城（宇利峠，鳥居喜一 6967, 1970-8-2, HNSM）および 15 豊橋北部（石巻馬越初坂，鳥居喜一 23575, 1967-9-24, HNSM）で採集された標本がある。このほか 2 豊根、28 額田、37a 瀬戸などにあったという話も聞くが、資料は残されていない。

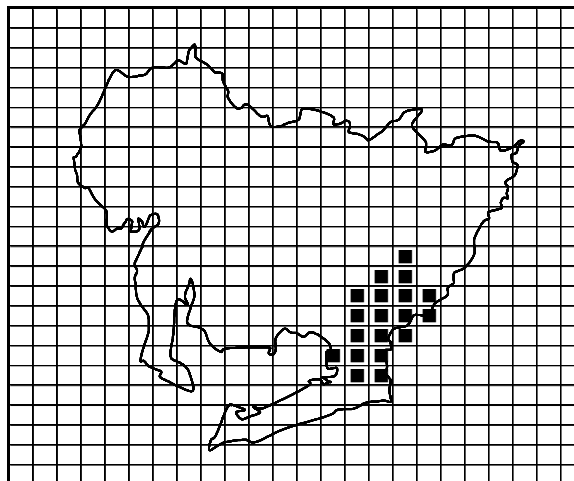
#### 【国内の分布】

本州（愛知県、岐阜県、広島県）および九州中部に隔離的に生育する。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

やや乾いた日あたりのよい草地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

故鳥居喜一氏によれば、新城市宇利峠では、採草地として使用されていた時代には盆花にするくらい多かったが、草地利用の停止により植生遷移が進行し、絶滅したという。

### 【保全上の留意点】

注意して探索しているが、草地の残存状況から判断して、再発見は困難と思われる。

### 【特記事項】

和名は、韓国名に由来すると言われる。九州では、観光目的のために本種の代用品として植栽されたルリタマアザミによる遺伝的汚染が懸念されている。

### 【関連文献】

保草本 I p.29, 平草本Ⅲp.225, 平新版 5 p.215, 環境省 p.528, SOS 旧版 p.86.

ヤマタバコ *Ligularia angusta* (Nakai) Kitam.

【評価理由】

全国的に見ても希少で、また減少傾向の著しい植物である。愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。茎は束生し、通常分枝せず、高さ1～1.3mになる。根出葉は直立し、長さ15～35cmの柄があり、葉身は卵状長楕円形、長さ17～30cm、幅13～19cm、先端は円頭、基部は切形で葉柄に流れ、両面緑白色、辺縁は波状で、微凸歯を散生する。茎葉はふつう3個、直立し、下部の葉は長楕円形で円頭、基部は茎を抱く。花期は5～6月、頭花は総状で長さ30cmほどの花序につき、花時横を向き、黄色、長さ5～10mmの柄があり、舌状花は3～4個である。総苞は緑白色で上部は黒色をおび、総苞片は合生して筒状になる。そう果は長さ4.5～6mm、冠毛は長さ葉2mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：45 犬山（八曾山，井波一雄 s.n., 1961-5-28, CBM70090）で採集された標本がある。図は井波（1971）に掲載されている。

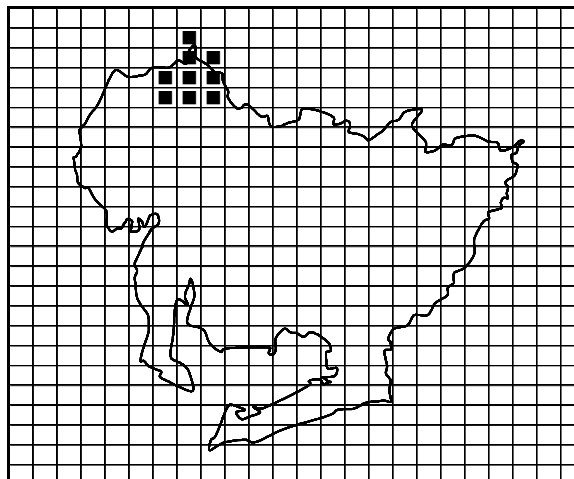
【国内の分布】

本州（関東地方、中部地方）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山間部の湿った草地に生育する。現存する生育地は全国でも数カ所にすぎない。愛知県での生育環境は不明である。

【過去の生育状況／絶滅の要因】

情報がなく、詳細は不明である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【保全上の留意点】

正確な生育地点は不明なので、あるいはまだ残存しているかもしれない。注意して探索する必要がある。

【特記事項】

どのような植物でも、少なくとも1点はできるだけ完全な標本を作成し、公共の標本室に保管しておくべきである。1株しかない場合どうするかは状況によるが、人間の探索能力には限界があるから本当に1株ということは稀だし、また本当に1株しかないならばそのうちに消滅する可能性が高いから、一般論としては確実な標本資料を残すことを優先する方がよい。もちろん稀少な植物を採集する場合は、それが情報を社会的に共有するための（つまり、自然を私物化しないための）手段であることを意識し、不必要な重複採集を避けると共にできるだけ良好な状態の標本を作成し、またその標本を私蔵せず、速やかに責任ある管理者がいる標本室に寄託すべきである。

【引用文献】

井波一雄. 1971. 尾張の植物—高等植物相. 愛知の植物 p.29-47. 愛知県高等学校生物教育研究会, 名古屋.

【関連文献】

保草本 I p.41, 平草本 III p.183, 平新版 5 p.298, 環境省 p.132, SOS 旧版 p.88.

カニコウモリ *Parasenecio adenostyloides* (Franch. et Sav. ex Maxim.) H.Koyama

【評価理由】

温帯性の植物で、愛知県では過去に採集された標本があるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。地下茎は短くはう。地上茎は直立し、通常分枝せず、高さ 60～90cm になるが愛知県のものは 40cm 程度である。葉は茎の中部に 3～4 個が互生し、翼のない長さ 7～15cm の柄があり、葉身は長さ 7～12cm、幅 10～20cm、先端は尾状鋭尖頭、基部は心形、辺縁に鋭い欠刻状の歯牙がある。花期は 8～9 月、茎の先端に細い円錐花序をつくり、多数の白色の頭花をつける。頭花の総苞は筒状で長さ 8～9mm、総苞片は 3 個、小花は 3～5 個である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（段嶺村段戸山，鳥居喜一 2058, 1952-8-2, HNSM）で採集された標本がある。

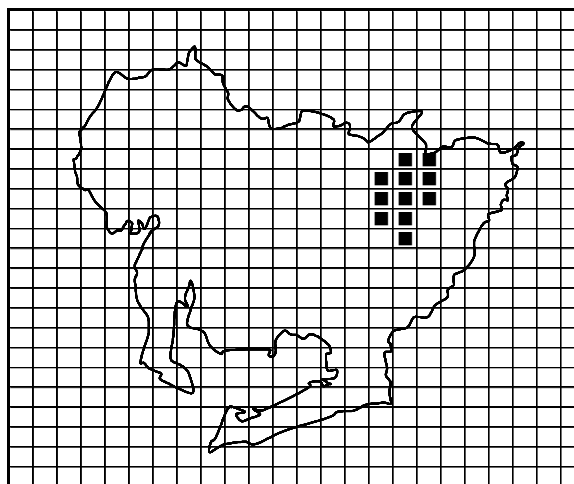
【国内の分布】

本州（近畿地方以北）、四国に分布する。長野県まで行けば、比較的多く見られる種類である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹や常緑針葉樹の林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

沢沿いの林内に生育していたと思われるが、詳細は不明である。自然林の伐採によって絶滅したと推定される。

【保全上の留意点】

段戸山国有林には多くの希少な植物が生育していたが、皆伐により壊滅的な打撃を受けた。今となっては取り返しがつかないことで、この経験を今後の保全施策に生かす必要がある。

【特記事項】

標本写真は小林（2006）に掲載されている。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.70. 愛知県林業試験推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.47, 平草本III p.178, 平新版 5 p.304.



ヒメヒゴタイ *Saussurea pulchella* (Fisch. ex Hornem.) Fisch.

【評価理由】

全国的に減少傾向が著しい草地性植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

越年生草本。茎は直立し、上部でよく分枝し、高さ 30~150cm になる。葉は互生し、長さ 12~18cm、葉身は切れ込まないことも羽状深裂することもあり、基部は次第に細まり、茎に沿下して翼となることもならないこともある。葉の裏面には腺点がある。花期は 8~10 月、頭花は茎の先端に多数つき、紅紫色、直径 12~16mm、総苞は幅 10mm 程度で、総苞片の先には膜質で淡紅色の付属物があり、つぼみの時も美しい。そう果は長さ 3.5~4.5mm で、長さ 7~8.5mm の冠毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では東: 18 田原西部(石神, 小林 49232, 1993-10-31)に僅かに残存していたが、この場所でも現存は確認できない。12 新城(宇利峠, 小林 21413, 1979-10-13)、15 豊橋北部(石巻萩平町, 小林 21449, 1979-10-27)などで採集された標本もある。ただし鳳来南部の県境静岡県側には、少なくとも最近まで、少数個体が生育していた。

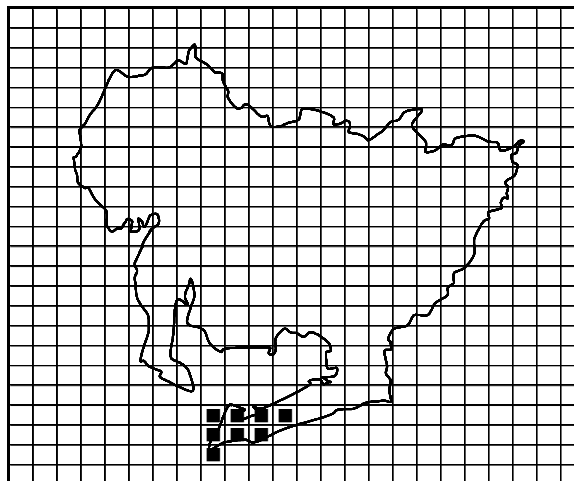
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい草地に生育する。愛知県の生育地は、超塩基性岩地であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

ごく少数の個体が生育しているだけあった。遷移の進行に伴い絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の蛇紋岩地、はんれい岩地は、本種を含めて多くの草地性植物の生育場所になっているが、採草地としての利用の停止に伴い、全体的に森林化が進行している。草刈りや火入れを行い、草地状態を維持する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.25, 平草本III p.221, 平新版 5 p.258, 環境省 p.537, SOS 旧版 p.88.

ホタルサイコ *Bupleurum longeradiatum* Turcz.

【評価理由】

草地や明るい疎林内に生育する植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。茎は直立して高さ 70～130cm になり、上部で枝を分ける。根出葉には長さ 7～12cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 8～12cm、幅 2～3cm、先端は鋭頭、基部は狭いくさび形、全縁、葉脈は平行状である。茎葉は互生し、下部のものは倒披針形、上部のものは楕円形、基部は広がって茎を抱く。花期は 7～8 月、花序は複散形で茎や枝の先端につき、花は黄色で小さい。果実は長楕円形で、長さ 3.5～4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡（西浦海岸、井波一雄 s.n., 1957-10-26, CBM 74626）。

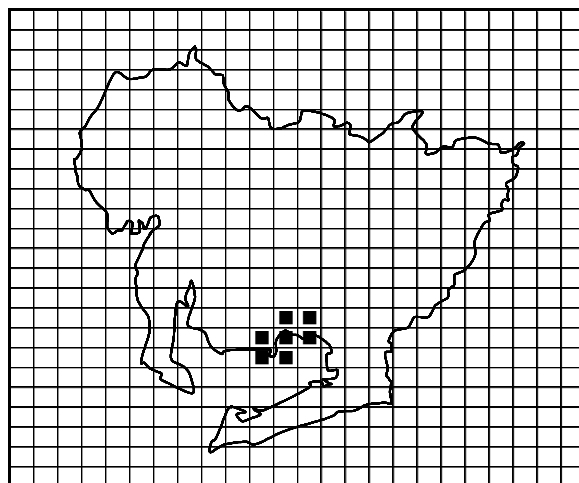
【国内の分布】

本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。エゾホタルサイコ var. *sachalinense* は小総苞片が大きく、サハリン、北海道、ウスリーに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の尾根の草地、谷戸田周辺の草地、明るい二次林内などに生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

標本は茎長 120cm に達するよく発育した個体である。生育状況に関しては情報が無いが、西浦海岸には他にも山地性の草地性植物が生育している／いたから、それと同じような林縁部に生育していて、森林化の進行によって絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

現地での再発見は困難と思われるが、本来は山地性の植物で長野県まで行けばそれほど少ない植物ではないから、三河山間部の草地には生育している可能性がある。今後特に注意して探索する必要がある。

【特記事項】

ミシマサイコ（366 頁）に比べ、大形で葉の幅が広い。

【関連文献】

保草Ⅱ p.9, 平草Ⅱ p.280, 平新版 5 p.392.

ヌマゼリ *Sium suave* Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara

【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい低湿地性植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

多年生草本。茎は中空でよく分枝し、高さ 60～100cm になる。葉は互生し、長い柄があり、単羽状複葉、小葉は 3～4 対で狭卵形～広披針形、長さ 3～10cm、幅 1～2cm、辺縁に鋸歯があり、無毛で無柄、上部のものは次第に小さく、しばしば 3 出葉になる。花期は 7～9 月、花序は複散形で枝の先端につき、花は白色で小さい三角形のがく歯片がある。果実は倒卵形で、長さ 3～3.5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（岩田町，恒川敏雄 1647，1951-9-23，TMNH；牛川町，恒川敏雄 3846，1953-8-23，TMNH）で採集された標本がある。

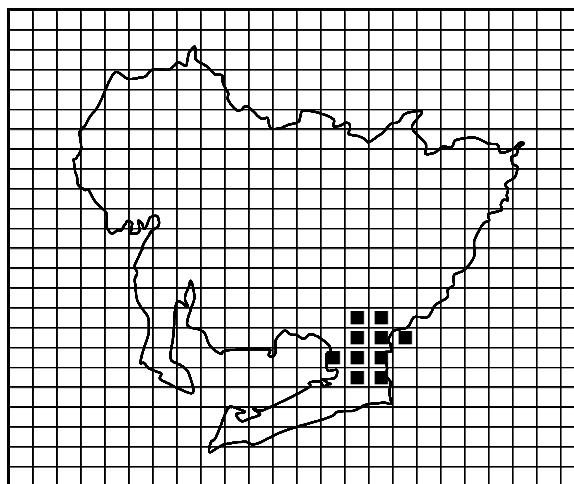
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池の周辺などの低湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

記録がなく、詳細は不明である。開発と水の汚れにより絶滅したものと思われる。岩田町の自生地は現在では公園として整備され、水の汚染も進んでおり、残存は全く期待できない。

【保全上の留意点】

渥美半島のため池の岸を更に探索する必要があるが、大型の植物だけに、再発見できる可能性は低い。

【特記事項】

サワゼリとも呼ばれる。基準亜種トウヌマゼリは小葉が多く 3～8 対あり、がく歯片が短く目立たないもので、東北日本のほか北半球に広く分布する。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.15, 平草本Ⅱ p.293, 平新版 5 p.399, 環境省 p.463.

## ヒモラン *Huperzia sieboldii* (Miq.) Holub

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。自然度の高い森林に依存する植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、人為的な採取圧も高い。

### 【形態】

常緑性の多年生シダ植物。茎は細く、ひも状、基部で繰り返し分岐するため枝が叢生しているように見え、長さ 20～50cm、緑色～黄緑色である。葉は鱗片状で小さく、茎に圧着してらせん状につき、三角状卵形～卵形、長さ 2mm 以下、内側に湾曲する。胞子のうは小枝先端部の葉腋につき、胞子のう穂ははっきりしないか、その部分がやや太くなる。胞子葉は栄養葉とほとんど同じか、わずかに幅広い。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：7 設楽東部（小林 83576, 2004-11-13, 2001 年版の鳳来北東部は誤り）。1 カ所に少数個体が生育しているという。

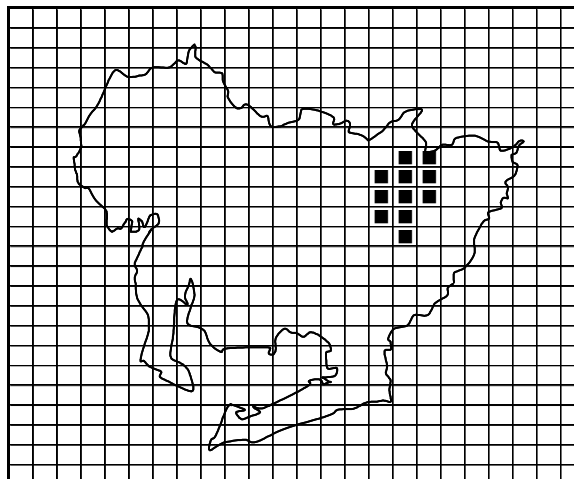
#### 【国内の分布】

本州南部（伊豆半島、東海道、紀伊半島）、隠岐島、四国、九州、琉球。屋久島には比較的多いが他では稀少で、また減少傾向が著しい。

#### 【世界の分布】

日本、済州島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

暖帯域の深山の沢沿いにある自然林の樹幹に着生することが多いが、林内の岩上に生育することもある。愛知県のものは岩上に生育しているという。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

自生地は接近しにくい場所であるため、現在のところは以前の状態が維持されているらしい。全国的には森林の伐採と園芸目的の採取が減少の主要因である。

### 【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。また、本種が生育できるような自然度の高い照葉樹林は、愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。

### 【特記事項】

九州南部と琉球列島には、茎の基部の葉が開出するリュウキュウヒモラン *var. christensenianum* (H.Christ et Herter) Nakaike が分布している。

### 【関連文献】

保シダ p.11, 平シダ p.44, 学シダ I p.270, 環境省 p.191, SOS 旧版 p.36.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 122-125. 東京大学出版会, 東京.

## デンジソウ *Marsilea quadrifolia* L.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 17。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

### 【形態】

夏緑性の水生シダ植物。根茎は細く、泥土上を長く横走して不規則に分岐する。葉柄は緑色で長さ 10～15cm、葉身は 4 つ葉のクローバーに似て直径 2.5～4cm、4 枚の小葉が「田」の字に並ぶ。小葉は倒三角形、上端はゆるやかな円形で両側面は直線に近く、基部は広くさび形となる。葉柄の基部より少し上から出る短い枝に、長さ 4～5mm で豆のような形をした 1～3 個の胞子のう果をつけ、その中に数個の胞子のう群をつける。胞子には、雌性の大胞子と雄性の小胞子がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

1985 年以降では、13 豊川（小林 80551, 2003-11-16）、15 豊橋北部（芹沢 78856, 2003-9-20）、16 豊橋南部（瀧崎吉伸 15173, 1994-8-20）、17 田原東部（永田芳男 s.n., 1999-10-9）、29 岡崎北部（安達史幸 s.n., 2008-7-5）、36 西尾南部（芹沢 54125, 1989-11-2）、46c 江南（福岡義洋 5375, 2001-9-9）、48 春日井（村松正雄 14521, 1993-10-16）で採集されている。ただしほとんどの場所で、すでに絶滅した可能性が高い。12 新城（八束穂、鳥居喜一 s.n., 1973-7-21）、18 田原西部（伊良湖岬、河合匡彦 s.n., 1955-7-12）、30 岡崎南部（明大寺町、神谷平 s.n., 1960-9-22）、50 名古屋北部（大形 昌 s.n., 1979-10-10）、56a あま（美和町丹波、沢井輝男 s.n., 1932-8-9）で採集された標本もある。25 豊田北西部（芹沢 83818, 2008-11-5）にもあるが、ここは移入の可能性が高い。明らかに移入されたものは、51 名古屋南東部（芹沢 88945, 2013-9-29）などにも生育している。

かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はあまり残されていない。

#### 【国内の分布】

北海道・本州・四国・九州と奄美大島に生育していたが、近年減少傾向が著しい。

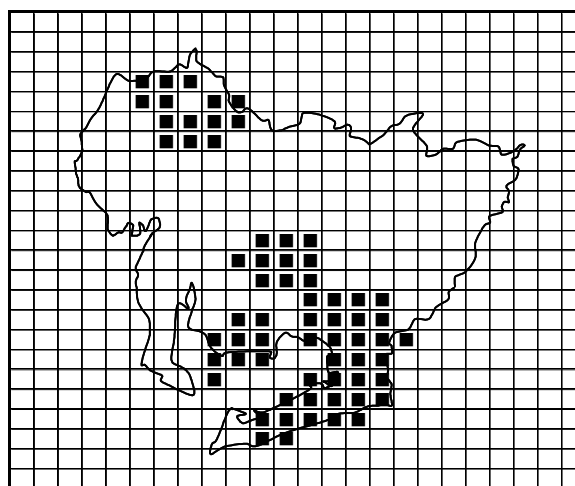
#### 【世界の分布】

ヨーロッパ、インド北部～東アジア。

### 【生育地の環境／生態的特性】

水田やその周辺の水路などに生育し、水が浅いところでは挺水植物、やや深いところでは浮葉植物になる。

要配慮地区図



|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  | ○  |    |
| 水域  |    | ○  | ○  |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

手作業の除草では容易に駆除できない植物であるが、乾田化の進行や除草剤の使用により激減した。どの場所も水田の転用や放棄によりすでに消滅している可能性が高い。上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。幡豆では谷戸田の耕作放棄による遷移の進行により絶滅した。

### 【保全上の留意点】

もともと水田雑草であるから、湿地状態を維持し、除草剤を使わない水田耕作を続ければ確実に保全できる。福井県敦賀市では、農家の人が、「ワシは長年こいつに苦労してきた。こんなものを保護するのか！」と目をむいたそうである。しかしながら、人間が本来の生育地を全て奪ってしまった平野部の植物を保全するためには、継続的な人為的管理が必要である。開発を阻止し、自然のままに放置すればこと足れりというわけにはいかない。

### 【特記事項】

カタバミモの名もある。

### 【関連文献】

保シダ p.170. 平シダ p.283. 学シダ I p.334. 環境省 p.370. SOS 旧版 p.42. SOS 新版 p.114,116.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 778-782. 東京大学出版会, 東京.

オオアカウキクサ *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

【形態】

小形の水生シダ植物。アカウキクサによく似るが、植物体がやや大きく、長さ 1.5～7cm。根には根毛がない。葉も大きく、長さ 2mm 前後になる。葉面の突起は不明瞭である。胞子のう群は夏に成熟する。秋に全体が紅色になるが、冬には先端部だけを残して枯れる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川（小林 77375, 2002-12-6）、14 蒲郡（鈴木美恵子 310, 1992-9-27）、15 豊橋北部（小林 65500, 1998-11-15）、16 豊橋南部（小林 70472, 2000-9-13）。西：36 西尾南部（芹沢 82700, 2007-10-13）。尾：37a 瀬戸（鈴木 淳 197, 1993-8-5）、44a 美浜（近藤洋一朗 6256, 1999-4-11）、44b 南知多（芹沢 41410, 1984-11-25）、57a 津島（芹沢 40905, 1984-10-7）、57b 愛西（芹沢 47846, 1987-11-16）。ただし、ほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、すでに絶滅した場所も多いと思われる。本種も、かつては普通の水田雑草で、更に多くの区画で生育していたものと思われるが、資料はほとんど残されていない。

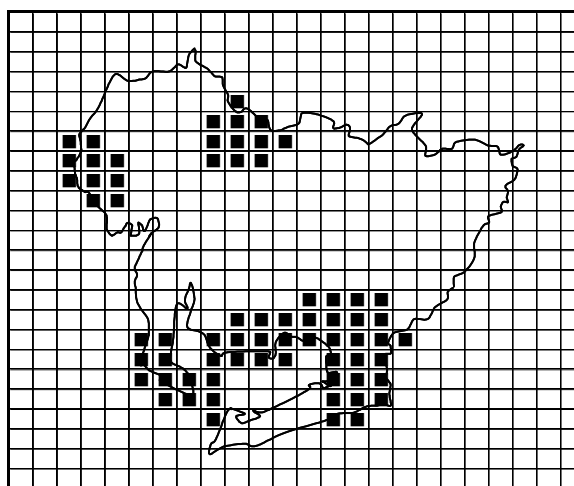
【国内の分布】

本州、四国（東部）、九州に生育し、分布域はアカウキクサより北に寄っている。

【世界の分布】

現在のところ日本固有種とされているが、海外の種類との詳細な比較が必要である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水田や池沼、水路などに生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面をおおう。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  | ○  |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

水田の雑草であったが、乾田化によって越冬する場所がなくなったことと、除草剤の使用、水の汚染などによって激減した。アカウキクサ（次頁）よりは多少状況がよいが、それでも残存している場所は僅かである。現在残存している場所は概してあまり農業生産に積極的でない場所で、そのような場所では今後農地の転用や耕作放棄により消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

アカウキクサと同様もともと水田雑草であるから、谷戸田のような汚水が流入しない生育地で除草剤を使わない水田耕作を続ければ、確実に保全できる。日本列島の平野部が水田化される前は、平野部の湧水池や網の目状の小河川に生育していたものと思われるが、現在ではそのような場所は全く残されていない。本来の生育場所が全て奪われている植物を将来とも存続させるためには、継続的な人為的管理が必要である。自然のままに任せるのが自然保護だという考え方は、このような場合通用しない。

【関連文献】

保シダ p.172, 平シダ p.285, 学シダ I p.336, 環境省 p.195, SOS 新版 p.143,145.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 790-794. 東京大学出版会, 東京.

**アカウキクサ** *Azolla pinnata* R.Br. subsp. *asaitica* R.M.K.Saunders et K.Fowler

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

【形態】

小形で常緑性の水生シダ植物。茎はやや密に分岐し、葉と少数の根を生じ、植物体の全形は三角形で、長さ 1~1.5cm になる。葉は互生して瓦のように密につき、鱗片状で三角状円形、無柄、上下に 2 裂し、辺縁は半透明の膜質で、表面に粒状の突起が密生する。根には長い根毛がある。胞子のう群は秋以降に成熟する。夏にはほとんど緑白色のこともあるが、冬には鮮やかな赤色になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

1985 年以降では、東：13 豊川（小林 62174, 1997-9-7）、16 豊橋南部（小林 68233, 1999-12-7）、西：24 豊田東部（芹沢 76633, 1999-11-10）、尾：42a 阿久比（中井三従美 33, 1990-8-7）で採集されている。しかし、どの場所もごく最近の状況が確認されておらず、おそらくはいずれもすでに絶滅したと思われる。18 田原西部（和地、浜島繁隆 1091, 1980-7-30）、25 豊田北西部（猿投山、岡本英一 84, 1958-10-19）、56a あま（美和町蜂須賀、沢井輝男 s.n., 1932-7-29）で採集された標本もある。かつては普通の水田雑草で、更に多くの区画で生育していたものと思われるが、資料はほとんど残されていない。

【国内の分布】

本州（東海地方以西の暖地）、四国、九州、琉球。

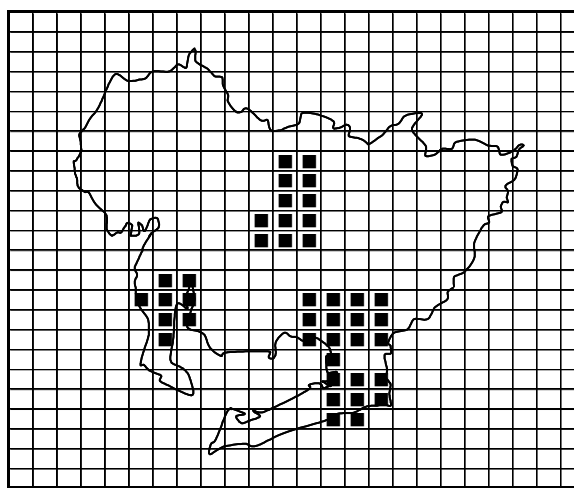
【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸、インドなど。

【生育地の環境／生態的特性】

水田やその周辺の水路に生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面をおおう。

要配慮地区図



|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  | ○  |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

水田の雑草であったが、乾田化によって越冬する場所がなくなったことと、除草剤の使用、水の汚染などによって激減した。現在では、湧水のある谷戸田などに僅かに残存している可能性があるだけである。しかし、このような場所では減反政策や営農者の高齢化による耕作放棄が進行しており、ヨシなどの大形草本におおわれて消滅した例もある。豊田東部の自生地は大雨で畔が崩れ、耕作放棄された。

【保全上の留意点】

もともと水田雑草であるから、谷戸田のような汚水が流入しない生育地で除草剤を使わない水田耕作を続ければ、確実に保全できる。日本列島の平野部が水田化される前は、平野部の湧水池や網の目状の小河川に生育していたものと思われるが、現在ではそのような場所は全く残されていない。本来の生育場所が全て奪われている植物を将来とも存続させるためには、継続的な人為的管理が必要である。自然のままに任せるのが自然保護だという考え方は、このような場合通用しない。

【特記事項】

近縁の外来種が全国的に増加しており、愛知県でも各地で確認されている。識別に注意が必要である。

【関連文献】

保シダ p.172, 平シダ p.285, 学シダ I p.336, 環境省 p.195, SOS 旧版 p.43.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 784-788. 東京大学出版会, 東京.

## サンショウモ *Salvinia natans* (L.) All.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水生植物である。

### 【形態】

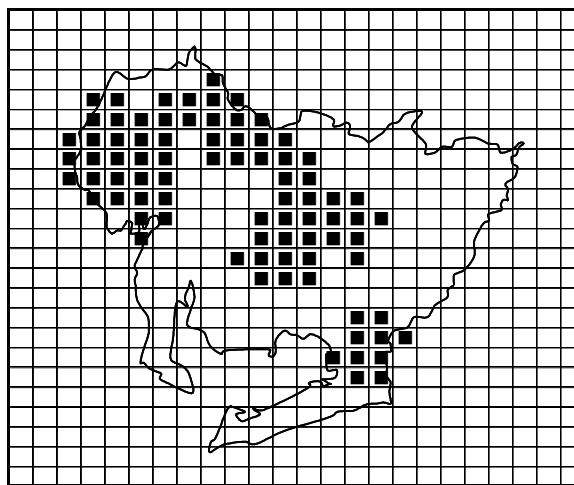
一年生の水生シダ植物。茎はところどころで分岐し、長さ 5～15cm になる。浮葉は単葉で楕円形～長楕円形、長さ 0.8～2cm、平坦または少し水中側へ曲がり、基部は円形で短い柄があり、2 枚が対生状につく。水中葉は細かく枝分かれし、根のような形態と機能をもつ。胞子のう群は秋に水中葉の基部に集まってつく。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

1985 年以降では、東：15 豊橋北部産植栽（村松正雄 90-363, 1990-9-20）、西：21 下山（芹沢 90855, 2015-10-20）、24 豊田東部（山崎玲子 686, 1994-9-28）、29 岡崎北部（千賀敏之 s.n., 2006-9-14）、37a 瀬戸（日比野修 568, 1992-7-28）、47 小牧（栗田郁男 3784, 1987-9-24）、49c 北名古屋（芹沢 41785, 1985-8-2）、52 名古屋南西部（高木順夫 558, 1992-9-23）、54 一宮西部（渡辺幸子 1771, 1994-8-30）、56a あま（芹沢 42276, 1985-10-10）、57a 津島（芹沢 44525, 1986-8-17）、57b 愛西（芹沢 47845, 1987-11-16）で採集されている。ただしほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、すでに絶滅した場所も多いと思われる。25 豊田北西部（猿投山、岡本英一 83, 1958-11-19, この区画には現在でも生育している場所があるが移入の可能性が高い）、50 名古屋北部（千種区東山、鈴木辰夫 s.n., 1947-8-4）で採集された標本もある。かつては普通の水田雑草だったと思われるが、資料はほとんど残されていない。

要配慮地区図



#### 【国内の分布】

本州、四国、九州の低地に生育するが、近年減少傾向が著しい。

#### 【世界の分布】

ヨーロッパ、アジア、アフリカに分布し、北アメリカからも記録されている。

### 【生育地の環境／生態的特性】

平野部の水田、ハス田やその周辺の水路に生育する浮遊植物で、しばしば栄養的に繁殖して水面をおおう。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    | ○  |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

水田の水面をおおう雑草であったが、除草剤の使用や生活排水の流入によって激減した。あま（旧甚目寺町）では一つの水路に毎年たくさん生育していたが、生活排水が流入するようになったとたん、完全に消滅してしまった。現在確実に生育が確認できるのは下山の水田跡だけであるが、ここでも近年遷移の進行に伴って急激に減少し、一部を近くの水田に移植保全しようという話が出ている。

### 【保全上の留意点】

もともと水田雑草であるから、湿地状態を維持し、除草剤を使わない水田耕作を続ければ保全できる。平野部の水路の水質保全も必要である。

### 【特記事項】

ナンゴクサンショウモ *S. cucullata* Roxb. ex Bory が逸出・野生化していることがある。

### 【関連文献】

保シダ p.171, 平シダ p.284, 学シダ I p.336, 環境省 p.370, SOS 旧版 p.43, SOS 新版 p.143,145.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 796-801. 東京大学出版会, 東京.



イワヤシダ *Diplaziosis cavaleriana* (Christ) C.Ch.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。西南日本から中国大陆にかけての暖帯に分布する日華区系の植物で、県内では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 であるが、危機的状況を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価する。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は直立または斜上し、葉を束生する。葉はやや 2 形になり、胞子のうをつける葉は葉柄が長く、直立し、つけない葉は葉柄が短く、葉身は開出または斜上してつく。葉柄は長さ 30~60cm、葉身は披針形~広披針形、頂羽片の明確な単羽状複葉、長さ 30~70cm、幅 15~30cm、草質、側羽片は 8~12 対、三角状狭披針形、基部はくさび形~切形で無柄、先端は次第に狭くなり鋭尖頭、葉脈は結合して網状となる。胞子のう群は中肋近くに並び、包膜は胞子のう群を包み込んでソーセージ状となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（小林 58791, 1995-11-18）、  
9 鳳来南部（堀田喜久 s.n., 1987-10-25）。

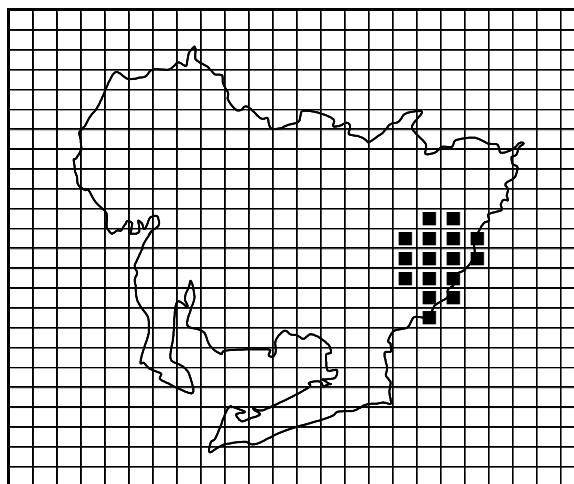
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陆。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの陰湿な林内。愛知県の自生地はいずれも造林地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

鳳来南部は小群落があったが、ごく最近の状況は確認されていない。鳳来北部では数十株が生育していたが、激減し、数株を残すだけになってしまったという。原因としては、夏の高温乾燥化傾向が考えられる。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、国内で最初に発見された愛媛県岩屋寺に因む。

【関連文献】

保シダ p.141, 平シダ p.258, 学シダ I p.421.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 68-72. 東京大学出版会, 東京.

ニッコウシダ *Thelypteris nipponica* (Franch. et Sav.) Ching

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。温帯性の植物で、分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 であるが、森林化の進行による湿地の消失とシカの食害が懸念されるため、絶滅危惧ⅠA類と評価する。なお、この評価は狭義のニッコウシダを対象としたものであり、メニッコウシダ（ケヒメシダ）*var. borealis* (H.Hara) H.Hara はリスト外である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎はやや短くは、先端に葉を叢生する。葉柄は長さ 15cm を超え、わら色でまばらに微毛があり、基部は暗褐色で鱗片がある。葉身は披針形～細い楕円形、2 回羽状深裂、長さ 50～70cm、幅 10～15cm、下部の羽片は次第に著しく短くなる。胞子のう群は裂片の辺縁と中肋の中間につき、包膜は円腎形で単細胞の尖った毛と腺毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 88755, 2013-9-7）。現在のところ 1 カ所で確認されているにすぎない。

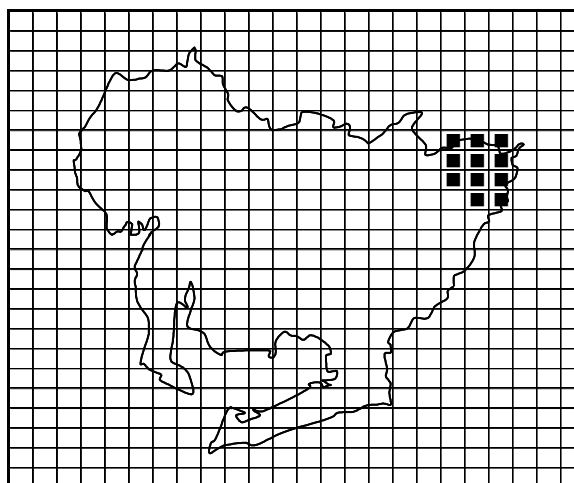
【国内の分布】

北海道および本州（中部地方以北）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい、あるいは半日陰の湿地に群生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

造林地内に残存した小湿地に、小群落があるだけである。周辺ではシカによる林床植物の食害が著しく、本種についても食害を受けるのは時間の問題と思われる。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採して光条件を確保すると共に、シカ防護柵の設置を検討するべきである。また、東三河のなだらかな山陵部に点在する小湿地は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われないままほとんど消滅している。現在残存している湿地は、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

メニッコウシダは下部羽片があまり短くならず、包膜にほとんど毛がないもので、三河山地に点在しており、猿投山の瀬戸市側にもある。

【関連文献】

保シダ p.110, 平シダ p.216, 学シダ I p.435.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 634-637. 東京大学出版会, 東京.

オオバシヨリマ *Thelypteris quelpaertensis* (H.Christ) Ching

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 15。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 だが、危機的状況を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価する。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立し、葉を束生する。葉柄は長さ 20～40cm、わら色で、黄褐色の膜質の鱗片が密につく。葉身は倒披針形、2 回羽状深～全裂、長さ 50～80cm、幅 12～25cm、下部の羽片は次第に著しく短くなり、最下部のものは耳状となる。胞子のう群は裂片の辺縁よりにつき、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（小林 82031, 2004-7-19）、2 豊根（村松 15640, 1994-7-31）、6 設楽西部（芹沢 83169, 2008-9-6）。各 1 カ所に、少数株が生育しているだけである。豊根は最近の状況が確認されておらず、集団数から除かれている。

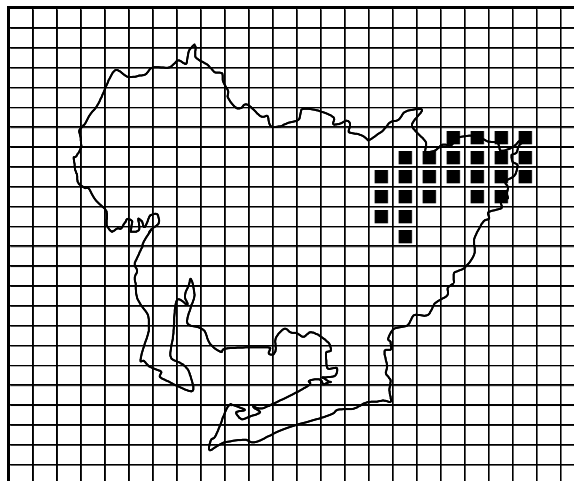
【国内の分布】

北海道、本州、四国の温帯域と屋久島の山地に生育している。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、千島列島、カムチャッカ、アリューシャン列島など。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯林の林床や林縁、湿地などに生育する。愛知県の生育地は、いずれも林内の小湿地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県のものは葉長 70cm 程度で、やや小型であるが胞子のう群はよくつけている。道路改修、牧場の拡張などにより湿地が破壊されれば、愛知県では容易に絶滅してしまう植物である。ニホンジカによる食害も懸念される。

【保全上の留意点】

東三河のなだらかな山陵部に点在する小湿地は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われないままほとんどが消滅している。現在残存している湿地は、特に注意して保全する必要がある。

【特記事項】

他の日本産ヒメシダ科植物からは、葉柄に鱗片が多いことで容易に区別できる。

【関連文献】

保シダ p.111, 平シダ p.215, 学シダ I p.436.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 666-672. 東京大学出版会, 東京.

ミヤマメシダ *Athyrium melanolepis* (Franch. et Sav.) H.Christ

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。温帯性の植物で、分布域の南限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 だが、危機的状況を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価する。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は斜上し、葉を束生する。葉柄は葉身の半分以下で、緑色のものと紅色を帯びるものがある。葉柄の下部には、光沢のある黒色～黒栗色の鱗片が密生する。葉身は長楕円状披針形、3 回羽状に切れ込み、長さ 50～70cm、幅 25～35cm、下部の羽片は次第に短くなる。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、包膜は鉤形のものがまじる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 67286, 1993-9-2）、2 豊根（村松 15774, 1994-8-23）。各 1 カ所に、1 株ずつ生育していた。

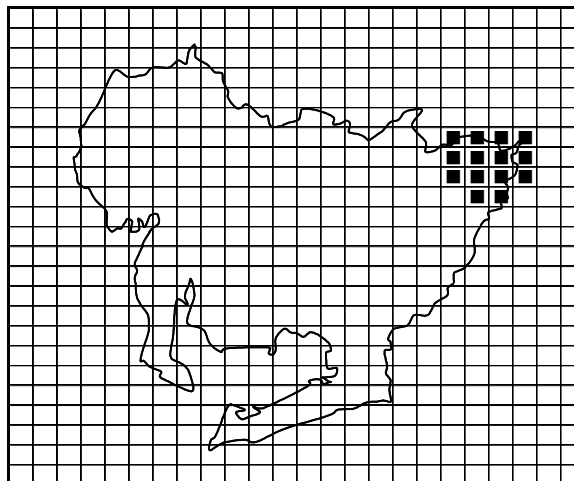
【国内の分布】

本州（東北～中部地方および鳥取県大山）に分布する。北海道からの報告もあるが、近縁のエゾメシダ *A. brevifrons* Nakai ex Kitagawa との区別が難しいこともあり、集団レベルでの解析が必要である。

【世界の分布】

近隣地域での分布も十分検討されていない。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

温帯の山地林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

富山では、尾根近くの平坦な造林地の林内に 1 株だけ生育していたもので、やや偶産的であり、すでに消滅しているかもしれない。シカによる食害も懸念される。豊根では他の場所にも生育していたが、砂防ダム工事により消滅した。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

【関連文献】

保シダ p.121, 平シダ p.235, 学シダⅡ p.298.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 502-508. 東京大学出版会, 東京.

ミドリワラビ *Deparia viridifrons* (Makino) M.Kato

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1（シカ食害）、総点 16。全国的に見てもそれほど多くない種類で、県内でも生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く横走し、葉を接近してつける。葉柄は長さ 40～60cm、葉身は三角状広卵形、長さ 30～70cm、幅 25～60cm、やや薄い草質で、3 回羽状に切れ込む。小羽片は広披針形から卵状披針形、羽状に深く切れ込み、中軸の翼がはっきりしている。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、長さ 1mm 以下である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（芹沢 72233, 1995-8-21）。西：19 旭（芹沢 93198, 2017-9-3）。各 1 カ所に小群落がある。

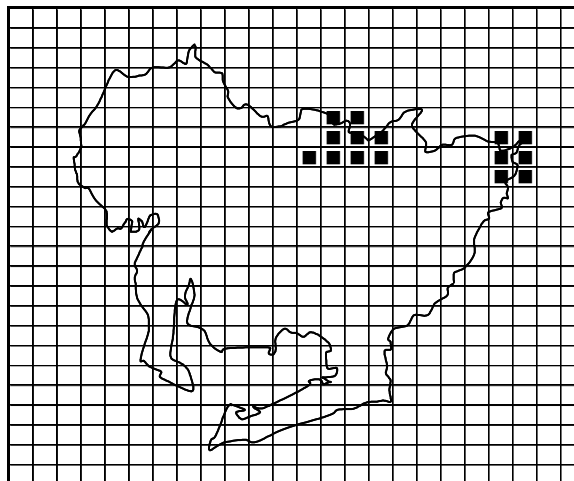
【国内の分布】

本州（日本海側を除く）、四国、九州に分布するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った林内。愛知県の自生地は、どちらも造林地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

富山の群落は近況を確認していないが、当時も林内の光条件が悪化し、衰退気味であった。この自生地周辺では、近年シカによる林床植物の食害が著しく、すでに絶滅した可能性が高い。旭も激減して、ごく僅かに残存しているにすぎない。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。個体数調整などの草食獣の増加への対策も、緊急を要する課題である。

【特記事項】

オオヒメワラビ *D. okuboana* (Makino) M.Kato に似るが、葉の切れ込みが深い。

【関連文献】

保シダ p.131, 平シダ p.244, 学シダⅡ p.342, SOS 旧版 p.40.  
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 852-855. 東京大学出版会, 東京.

## イヨクジャク *Diplazium okudairae* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。西南日本から中国大陆にかけての暖帯に分布する日華区系の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。総点は 15 だが、危機的状況を考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価する。

### 【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎はやや短くはい、先端に少数の葉をつける。葉柄は緑色で長さ 20～30cm、葉身は三角状披針形で単羽状に切れ込み、淡緑色～淡黄緑色、長さ 25～40cm、幅 13～22cm、最下部が最も幅が広く、先端は次第に狭くなって鋭尖頭となる。羽片は 8～10 対、鋭尖頭、基部は不相称で、前側は耳状になる。胞子のう群は羽片の中肋近くに 1 列にならび、長さ 1cm に達する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（芹沢 83844, 2008-11-6）に 1 カ所、小群落がある。豊根村佐久間湖岸にあったという話もあり、現地にも行ってみたが、確認できなかった。

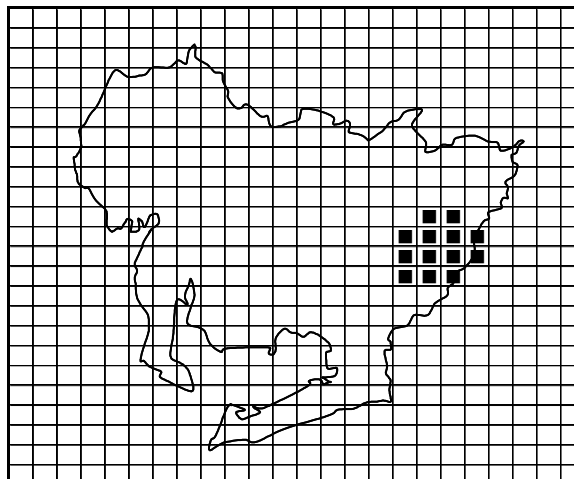
#### 【国内の分布】

本州（静岡県以西の太平洋側）、四国、九州の山地に生育している。

#### 【世界の分布】

日本、中国大陆。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

暖地の深山の、沢沿いの陰湿な林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

沢沿いの斜面にややまとまった群落がある。森林の伐採により消滅するおそれがある。

### 【保全上の留意点】

マニアに採取されるおそれがあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

周辺には、本種とノコギリシダとの自然雑種であるアカメクジャク *D. × okudairaeoides* Sa.Kurata（標本：芹沢 83843, 2008-11-6）も生育している。

### 【関連文献】

保シダ p.136, 平シダ p.252, 学シダⅡ p.325, SOS 旧版 p.41.

倉田 悟・中池敏之(編). 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 152-155. 東京大学出版会, 東京.

ナガサキシダ *Dryopteris sieboldii* (van Houtte ex Mett.) Kuntze

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 16。暖地性のシダ植物で、愛知県では生育地も極めて個体数も少ない。

【形態】

常緑性のシダ植物。根茎は短く、斜上し、少数の葉を束生する。葉柄は長さ 40cm に達し、基部に褐色で披針形～線形の鱗片を密生するが、上部では鱗片は小さく、まばらになる。葉身は広卵形、長さ、幅とも 45cm に達し、単羽状複生、3～4 対の側羽片とはっきりした頂羽片がある。羽片は幅 3～4cm、鋭尖頭、やや厚い革質で下部はほとんど全縁、上部は辺縁に低い鋸歯がある。胞子のう群は羽片裏面に散在し、直径 1.5～2mm、包膜は円腎形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：21 下山（芹沢 86599, 2010-11-4）。小林（2006）によれば設楽町（西部か東部かは不明）でも 1 株確認されているという。

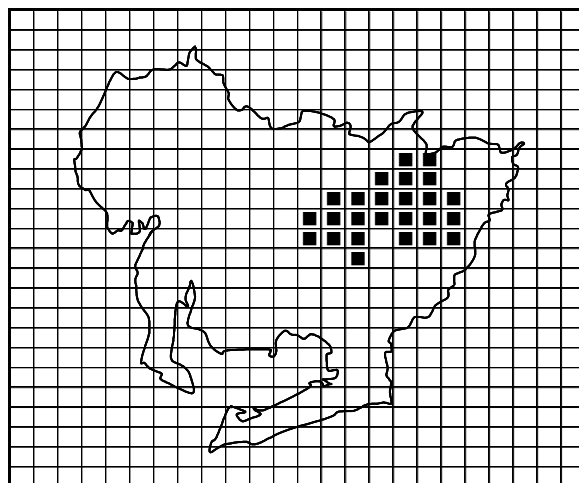
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州に分布する。九州では比較的多く見られる種類で、千葉県でも極めて少ないというほどではないが、それ以外では稀である。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

下山の生育地は標高約 500m のスギ造林地で、伏流状の流れがある源流部の沢すじに小群落がある。九州では造林地や人里周辺のやぶ状の場所などにも生育している。愛知県の場合、新葉は秋に展開し、胞子は晩秋に成熟する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

下山では、胞子のう群をつけた葉を持つ株が 3 株、幼株を含めると 12 株が生育している（個体数階級は、繁殖可能な個体だけを数えるので 4 になる）。設楽町では、「自生地は 30 年ほどのスギ造林地である。見つけた株はまだ胞子がついていないものの、充実した葉が 4 枚展開していた」と報告されている。

【保全上の留意点】

下山の自生地は開発のための環境影響評価調査で発見されたもので、開発予定地に隣接しており、直接の改変は回避されているが、今後の存続が懸念される。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物. 282 頁. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保シダ p.92, 平シダ p.185-186, 学シダ II p.361.

倉田悟・中池敏之(編). 1979. 日本のシダ植物図鑑 1:484-489. 東京大学出版会, 東京.

## オニバス *Euryale ferox* Salisb.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水生植物で、絶滅に瀕している水草の代表的な存在である。愛知県ではほぼ絶滅状態である。

### 【形態】

1 年生の水草。ときには 2m を超えるような大きな水上葉をつける。水上葉にはしわがあり、裏面は紫色で、葉脈が網目状に高く隆起し、両面の脈上に鋭い刺がある。葉身は円形で、葉柄は盾状につく。花期は 8~10 月、花は直径 4cm 位で、長い花茎に頂生し、昼に開き、夜に閉じる。がく片は 4 枚、外側は緑色で刺があり、内側は紫色、花弁は多数ついて紫色、がく片より小さい。果実は卵円形、直径 5cm くらいで、刺が多い。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：50 名古屋北部（名古屋城内堀，芹沢 89695, 2014-9-29）。名古屋城内堀では約 40 年ぶりに再出現した。ただし近くの名城公園で植栽されているのを見たという話があり、何者かが投入した可能性は否定しきれない。  
17 田原東部（芦ヶ池，恒川敏雄 649, 1949-10-2, TMNH）と 41b 東浦（飛山池，芹沢 70309, 1994-8-8）で採集された標本もあるが、現地では見られなくなった。海部西部（津島市）にあったという記録もある（大原，1975）が、確実な標本は残されていない。濃尾平野の岐阜県、三重県側には、まだ多少の自生地が残されている。

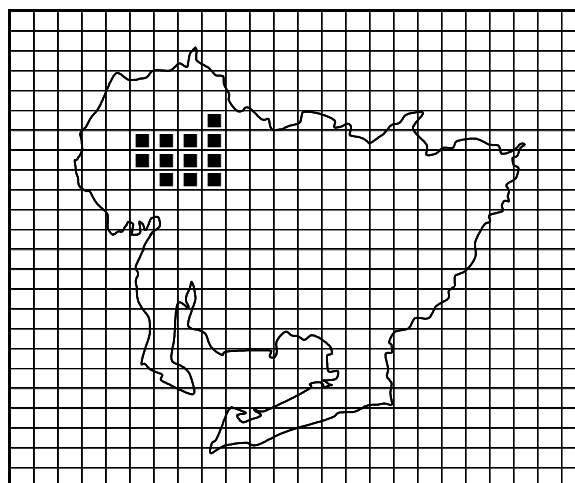
#### 【国内の分布】

本州（宮城県以南）、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部、インドなど。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

平野部の富栄養型の、しかし過栄養でない池沼に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  | ○  |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

飛山池では 2~3 年続けて出現したが、その後は見られなくなった。ただし、種子はおそらく池中に残存しているので、適切な攪乱があれば再度出現する可能性がある。芦ヶ池では池の改修により見られなくなった。ため池の改修や埋め立て、人為的汚染による水質の過栄養化が減少の要因である。

### 【保全上の留意点】

種子に休眠性があるため、思わぬ所に突然出現することがある。継続的な生育のためには、ため池の適切な管理が必要だと思われる。

### 【特記事項】

刺だらけで、かつては駆除に苦労した水草であつたらしい。

### 【引用文献】

大原準之助. 1975. 植物新分布報告 第 9 報. 植物研究集録 (16): 83-86.

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.253, 平草本Ⅱ p.95, 平新版 p.46, 環境省 p.413, SOS 旧版 p.51+図版 20.



## オグラコウホネ *Nuphar oguraense* Miki

### 【評価理由】

全国的に見ても希少な水草で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が極めて少なく、その場所でも現存が確認できないが、再出現の可能性もあり、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価する。

### 【形態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて細く、中実の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水面に浮かび、卵形、長さ 5~10cm、幅 4~6cm、やや薄く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛、裏面に毛がある。花期は 7~10 月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に 1 個の花をつける。花は黄色で直径 3~4cm、がく片は通常 5 枚である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城（芹沢 78173, 2002-10-2）。1 カ所に生育していた。

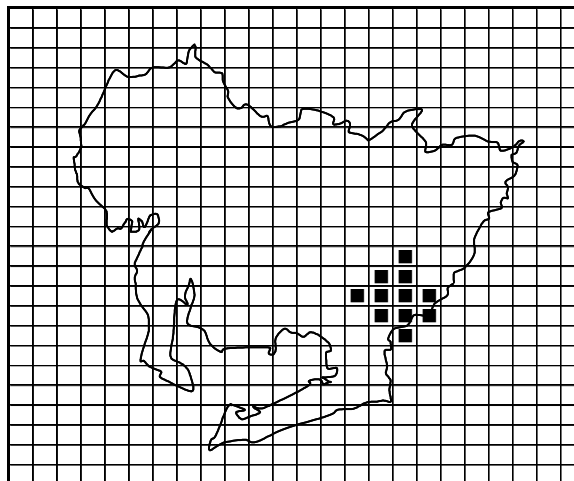
#### 【国内の分布】

本州（愛知県以西）および九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼や流れのゆるい水路に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

よく生育していたが、次第に減少し、消滅してしまった。ミシシippアカミミガメによる食害が原因と思われる。

### 【保全上の留意点】

手遅れかもしれないが、それでもアカミミガメの駆除が必要である。生育地の現状を変えず、水質を保全することも必要である。マニアに採取されるおそれもあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

和名は、最初の発見地である京都の巨椋池に因む。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.253, 平草本Ⅱ p.94, 平新版 p.47, 環境省 p.413, SOS 旧版 p.52+図版 20.

## ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrimum* (Casp.) Makino

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水生植物で、典型的なものは東海地方以外ではほとんど見られなくなっている。愛知県においても、減少傾向が著しい。

### 【形態】

多年生の水草。地下茎は太くて白く、水底の地中を横にはう。葉は束生し、長くて中空の葉柄があり、水中葉の葉身は薄く、辺縁は波状になる。水上葉は水面に浮かぶが水位が低下すると水上に出て、葉身は広卵形、長さ 6~10cm、幅 5~8cm、やや厚く、基部は矢じり形にへこみ、表面は無毛で光沢がある。花期は 6~9 月、花柄は長く伸び、水上に出て、先端に 1 個の花をつける。花は黄色で直径 3~4cm、がく片は通常 5 枚である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西: 27 みよし (芹沢 62234, 1992-7-26)、尾: 37b 尾張旭 (村松正雄 11515, 1992-8-9)、40b 東浦 (中井三従美 24, 1989-9-6)、41b 知多 (大西 博 1352, 1995-9-2)、43 常滑 (村松正雄 18595, 1999-7-30)、45 犬山 (芹沢 78118, 2002-9-15)、48 春日井 (山田果与乃 416, 1998-9-3)、50 名古屋北部 (村松正雄 18170, 1998-9-13)。15 豊橋北部、16 豊橋南部にもあるという (小林 2001)。ただしこのうちいくつかの区画では、すでに絶滅している可能性が高い。32a 刈谷 (小堤西池, 芹沢 41748, 1985-7-23 など)、51 名古屋南東部 (天白区八事裏山, 鳥居ちゆ子 646, 1994-6-18 など) にも生育していたが絶滅した。39b 豊明 (沓掛町, 浜島繁隆 1079, 1968-9-8) で採集された標本もある。また、豊橋北部では、本種とコウホネの雑種と思われる標本 (葦毛, 井波一雄 s.n., 1949-9-25, CBM145661) が採集されている。

#### 【国内の分布】

本州。

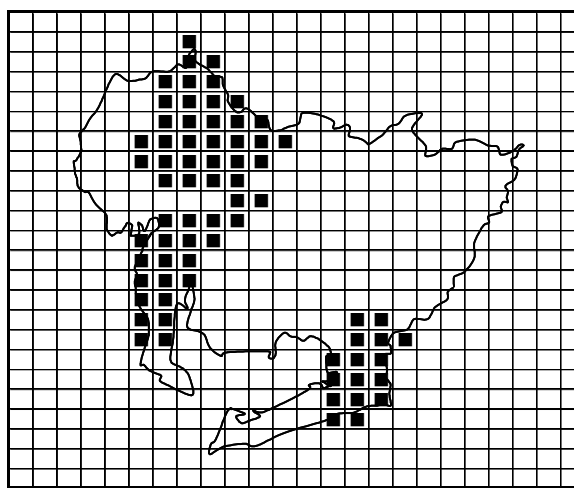
#### 【世界の分布】

日本固有種。

### 【生育地の環境／生態的特性】

浅い池沼に生育する。

要配慮地区図



|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

県西部の丘陵地に多かっただけに、ほとんどの自生地が開発が迫っていたり水質が悪化していたりして、存続が懸念される。栽培目的で盗掘されることも多い。刈谷市の小堤西池では、カキツバタ保護のため行われたスイレン駆除の巻き添えで見られなくなった。名古屋南東部では、池一面に生育していたが、近年急激に衰退して消滅した。

### 【保全上の留意点】

愛知県西部の丘陵地のため池では、一方で各種開発に伴う埋め立て、水の汚染、公園化・調整池化などの改修工事により、他方で利用停止に伴う管理放棄により、急速に生物多様性が失われている。現在良好な状態が保たれているため池は、文化遺産としての価値もあり、注意して保全する必要がある。マニアに採取されるおそれもあるので、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【引用文献】

小林元男. 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.24, 83. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.252, 平草本Ⅱ p.94, 平新版 p.47, 環境省 p.414, SOS 旧版 p.52+図版 21, SOS 新版 p.123,124.

## ヒトツバテンナンショウ *Arisaema monophyllum* Nakai

### 【評価理由】

温帯性の植物で、愛知県は分布域の南西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。最近確認されていないが、再出現の可能性もあり、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価する。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は扁球形、上部から多くの根を出す。葉身のある葉は 1 個、葉鞘は長さ 15～60cm、葉身は鳥足状に分かれ、小葉は 5～9、葉軸が発達するため互いに離れてつき、小葉は楕円形～長楕円形、先端は鋭尖頭、辺縁は全縁または歯牙状の細鋸歯がある。花期は 5 月、仏炎苞は葉と同時に開き、葉とほぼ同じ高さにつき、緑色、筒部は長さ 3～5cm、口辺は狭く開出し、舷部は長三角形、前屈してまっすぐ伸び、長さ 4～8cm である。花序は肉穂状、偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつけ、付属体は棒状、上部は前方に曲がり、先端はやや扁平で幅 1.5～3mm である。仏炎苞舷部の基部には通常への字形の黒斑がある（狭義のヒトツバテンナンショウ）が、時にないもの（アキタテンナンショウ）や、舷部内側全体が黒紫色のもの（クロハシテンナンショウ）もある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：4 津具（芹沢 75549, 1999-5-22-アキタテンナンショウ型）。西：5 稲武（芹沢 36608, 1983-5-1）で採集された標本もある。

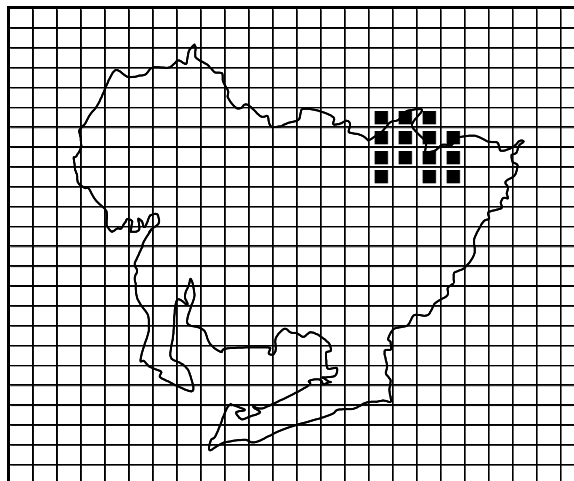
#### 【国内の分布】

本州中北部。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

既知の生育地は実質的に 1 カ所だけで、個体数も極めて少なかった。現地は当面開発等が想定される場所ではないが、個体数の確率的なゆらぎによってすでに絶滅しているかもしれない。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林の保全が必要である。園芸目的の採取もあり得るので、分布情報の公表に際しても慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

愛知県のテンナンショウ属の中では、個体数が最も少ない。愛知県では、狭義のヒトツバテンナンショウ型のものと、アキタテンナンショウ型のものが知られている。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.204, 平草本 I p.132, 平新版 p.103, SOS 旧版 p.102.

**ザゼンソウ** *Symplocarpus foetidus* Salisb. ex W.P.C.Barton var. *latissimus* H.Hara

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級性 2、総点 16。寒冷地の湿地に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。葉は束生して開出し、長さ 20～35cm の柄があり、葉身は円心形、長さ、幅とも 40cm に達し、先端は鋭頭、辺縁は全縁である。花期は 4 月、花序は葉の展開前に出て長さ 7～10cm の花茎の先につき、太い肉穂状で長さ 1.5～2cm、付属体はなく、果期には長さ 3～6cm になる。仏炎苞は卵円形でボート状、長さ 20cm、直径 15cm に達し、暗紫褐色で厚く、外側に隆起条があり、先端は前屈して鋭頭である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4 津具（芹沢 86691, 2011-4-10）。

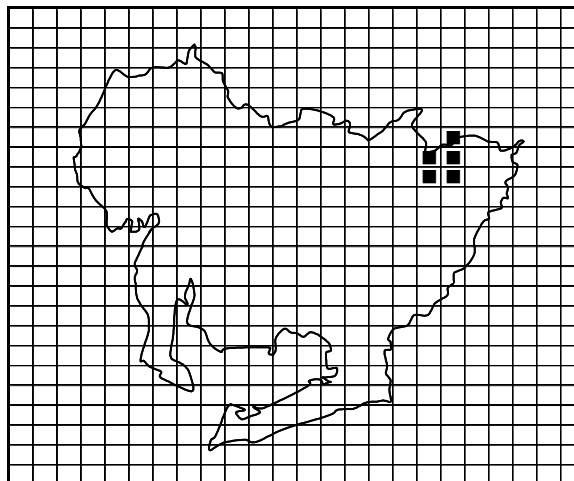
【国内の分布】

北海道、本州。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁や林内の湿地に生育する。愛知県の生育地は造林地中の小さな流れに沿った平坦地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

数株が小群落となって生育していたが、2019 年の調査では、現存を確認できなかった。自生状態だったが、道から近い場所なので、誰かが植え込んだ可能性は完全には否定できない。

【保全上の留意点】

個別的な保全が必要である。

【特記事項】

茶臼山の長野県側、県境から 200m ほどの場所には生育していて、愛知県でも以前から発見が期待されていた植物の一つである。花には悪臭がある。

【関連文献】

保草本Ⅲp.190, 平草本 I p.138, 平新版 p.110.

## ヒメザゼンソウ *Symplocarpus nipponicus* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。温帯性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。短い根茎がある。葉は早春に出て束生し、外部のものは膜質で葉身が退化し、内部のものは長さ 7~30cm の柄と葉身がある。葉身は長卵状心形または卵状長楕円形、長さ 10~20cm、幅 7~12cm、先端は鈍頭、基部は心形または切形、辺縁は全縁、両面無毛である。花期は 6 月、花序は肉穂状で短い柄があり、葉よりも後に出て地表近くにつき、広楕円形、長さ約 1cm、付属体はない。花は両性で、4 個の花被片、4 個の雄ずい、1 個の雌ずいがある。仏炎苞はボート状で質が厚く、長さ 3~5cm で、暗紫褐色をおびる。果実は夏冬を越して、翌春熟す。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 54674, 1990-4-29）。  
1 カ所の 2 地点に生育していた。

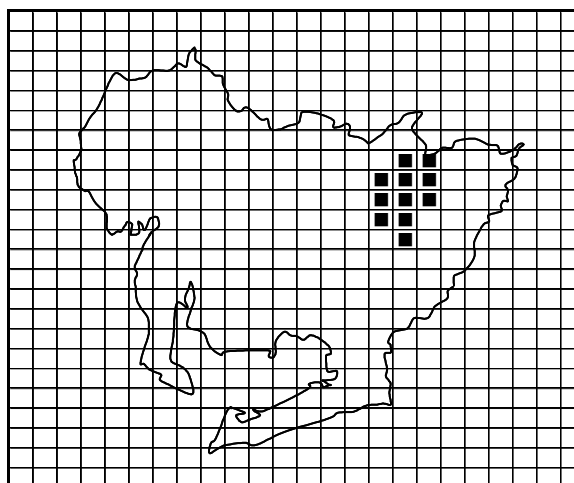
#### 【国内の分布】

北海道、本州。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の、湧水のある湿地の周辺部の、林縁や林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

辛うじて農地化を免れた山すその湿地に僅かに残存していたが、最近の状況は確認されていない。開発前には、あちこちに生育していたのではないと思われる。

### 【保全上の留意点】

生育地の地形を保全するとともに、周辺の林を皆伐しないことが必要である。

### 【特記事項】

葉は一見したところウバユリに似ているので、調査の際には注意を要する。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.191, 平草本 I p.138, 平新版 p.110, SOS 旧版 p.103.

セトヤナギスブタ *Blyxa alternifolia* (Miq.) Hartog

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 16。おそらく減少傾向の著しい水草で、愛知県は分布域の東限にあたる。

【形態】

沈水生の 1 年生草本。茎は長さ 2~5cm になり、多数の葉を密につける。葉は線形、長さ 6~10cm、幅 3~5mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 7~10 月、花は葉の間から出て、両性、円筒形で長さ 3~5cm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、狭線形、長さ約 13mm である。種子は紡錘形、長さ約 2mm、尾状突起はなく、表面に 2~10 個の低い隆起がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：19 旭 (小林 57997, 1995-9-15)。尾：37a 瀬戸 (芹沢 81107, 2006-10-7)、37b 尾張旭 (村松正雄 11839, 1992-9-1)、38a 長久手 (半田多美子 2649, 1998-8-10)、44b 南知多 (芹沢 64390, 1992-10-23)、50 名古屋北部 (村松 28417, 2015-10-5)。ただしこのうちかなりの場所では、現在は消滅している可能性が高い。また名古屋北部は同所にマルミスブタ、ヤナギスブタも生育していて、人為的移入の可能性は否定しきれない。42c 武豊 (東大高, 相羽福松 724, 1980-8-1) で採集された標本もある。

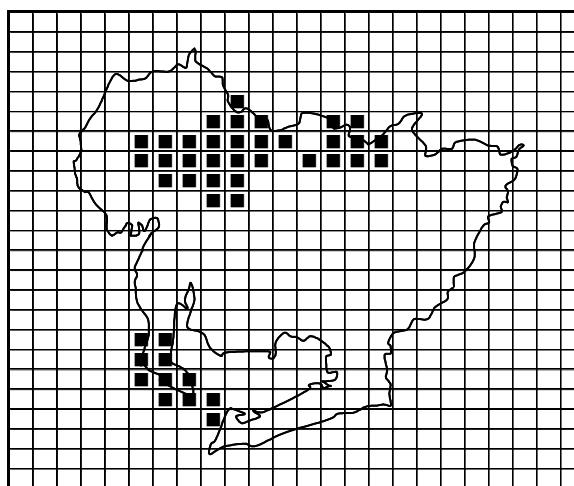
【国内の分布】

本州 (中部地方以西)。

【世界の分布】

東南アジアに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水田やその周辺の小水路に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所でも個体数は少ない。ほとんど谷戸田だけに生育しているため、耕作放棄により消滅する可能性が高い。瀬戸市山ノ田町では老夫婦の耕作する谷戸田に多数の個体が生育していたが、耕作が行われなくなった途端雑草が繁茂して消滅した。

【保全上の留意点】

丘陵地の谷戸田は、周辺の里草地や二次林と共に、多様な生物の生育場所となっている。文化遺産としても重要である。注意して地形を保全すると共に、土地所有者が耕作を継続できるよう、あるいはそれが不可能なら、代表的な場所だけでも市民参加等の方策を講じて耕作状態を維持する努力が必要である。

【特記事項】

日本では愛知県瀬戸市で初めて確認された植物である (浜島 1982)。スブタとヤナギスブタの中間のような形態をしており、ヤナギスブタからは茎が短く、葉が長いことで区別できる。「植物からの SOS」(SOS 旧版) に、両者が比較できる写真が掲載されている。小型の個体は茎がほとんど伸長せず、むしろスブタと紛らわしい。

【引用文献】

浜島繁隆. 1982. 日本新産セトヤナギスブタ(新称). 植物研究雑誌 57: 223-224.

【関連文献】

平新版 p.119, SOS 旧版 p.89+図版 24, SOS 新版 p.126,128.

角野康郎.1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

スブタ *Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook.f.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県においても同様の状況である。

【形態】

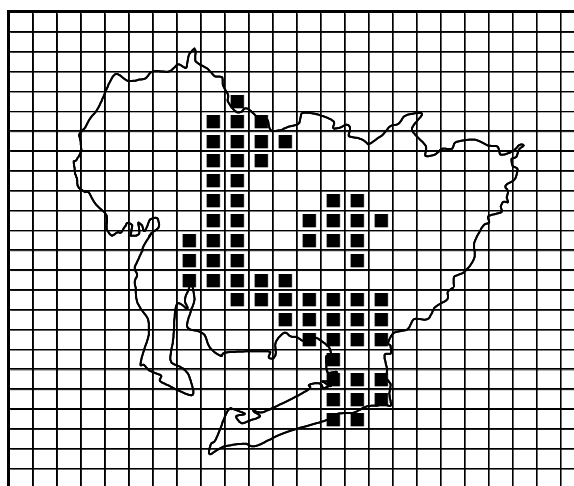
沈水性の 1 年生草本。茎は短く、多数の葉を束生する。葉は線形、長さ 10~30cm、幅 5~8mm、先はしだいに細くなり、辺縁に細かい鋸歯がある。花期は 7~10 月、花は葉の間に束生し、両性、円筒形で長さ 4~5cm の苞鞘があり、花弁は 3 個で白色、狭線形、長さ約 13mm である。種子は楕円形~紡錘形、長さ 1.5~2mm、両端に長いものでは 15mm に達する尾状突起があり、表面には細かい突起が散在する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：13 豊川 (芹沢 76242, 1999-8-20)。西：21 下山 (芹沢 83081, 2008-8-26)、30 岡崎南部 (小林 67232, 1999-9-26)。尾：37a 瀬戸 (鈴木淳 413, 1993-8-30)、38b 日進 (村瀬・半田 1297, 1991-9-11)。ただし、このうちかなりの場所で、すでに絶滅している可能性が高い。上述の個体数階級は見込み値である。16 豊橋南部にもあるという (小林, 2000)。32a 刈谷 (小堤西池、芹沢 42207, 1985-10-3) にもあったが絶滅した。12 新城 (千郷村野田, 鳥居喜一 9258, 1946-8-27, HNSM)、15 豊橋北部 (葦毛、鳥居喜一 9260, 1949-9-25, HNSM)、17 田原東部 (野田村, 鳥居喜一 9262, 1949-10-2, HNSM)、25 豊田北西部 (猿投石野, 井波一雄 s.n., 1958-9-17, CBM124095)、39a 東郷 (東郷村, 井波一雄 s.n., 1968-8-21, CBM200119)、50 名古屋北部 (守山町小幡, 井波一雄 s.n., 1932-10-1, CBM222823)、51 名古屋南東部 (緑区徳重, 浜島繁隆 s.n., 1968-8-30) で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

【生育地の環境／生態的特性】

水のきれいなため池、谷戸田、その周辺の水路などに生育する。

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、どの場所も個体数はそれほど多くなかった。刈谷 (小堤西池) では、カキツバタ保護の目的で行われたスイレン駆除のために水質が変化したらしく、ヒメコウホネやミスミイなどと共に絶滅した。

【保全上の留意点】

谷戸田についてはセトヤナギスブタの項 (106 頁)、ため池についてはマルミスブタの項 (402 頁) を参照されたい。また小堤西池での事例に関しては、ミスミイの項 (56 頁) を参照されたい。

【特記事項】

ミカワスブタ *B. leiosperma* Koidz. は、実体がよくわからない。スブタの一型とも、ヤナギスブタの貧弱なものとも言われている (角野 1994)。もしはっきりした種類であれば、絶滅種になる。

【引用文献】

角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.25. 文一総合出版, 東京.  
小林元男. 2000. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.40, 133. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅲ p.395, 平草本 I p.4, 平新版 p.119, 環境省 p.540, SOS 旧版 p.89, SOS 新版 p.126, 128.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.24. 文一総合出版, 東京.

## イバラモ *Najas marina* L.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。池沼に生育する水草で、愛知県では生育地が極めて少ない。

### 【形態】

沈水性の 1 年生草本。茎は硬く、水底をはって分枝し、長さ 30～60cm になり、まばらに刺がある。葉は対生し、葉身は線形、長さ 3～6cm、幅 2～3mm、質はやや硬く、辺縁に刺状の大きな鋸歯がある。葉の基部は葉鞘となり、葉鞘の先端は全縁である。花期は 7～9 月、雌雄異株で花は葉腋につき、雄花は長さ 3～4mm、膜質の花被の中に 1 個の雄ずいがあり、雌花は花被がなく、1 個の雌ずいがある。種子はゆがんだ楕円形、長さ 4～6mm、幅 2～3mm、表面の網目は明らかでない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城 (小林 62490, 1997-9-28)、15 豊橋北部 (小林 58429, 1995-10-13)、18 田原西部 (芹沢 78716, 2003-8-6)。3 区画の各 1 カ所で確認されている。

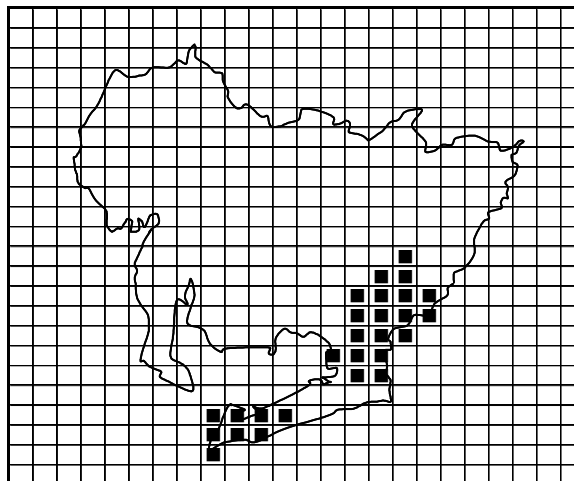
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

世界の温帯～熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

湖沼やため池に生育する。稀に河川や水路に生育することもある。愛知県の生育地は、新城と豊橋北部はため池、田原西部は養魚場跡地であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

新城と豊橋では水が濁っていて生育状態がよくわからないが、おそらくは危機的状況である。田原西部ではよく生育していたが、2008 年にはハスが植栽されており、ガマも侵入していて、本種は確認できなかった。ただし、くまなく探索したわけではないので、まだ多少は残存しているのではないと思われる。個体数階級、集団数階級は見込み値である。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地には多くの農業用ため池があり、水生生物の重要な生活場所になっている。しかし、幹線用水路の整備につれてため池に対する依存度が低下したため、埋め立てられたり、調整池として改修されたり、あるいは原形を保っていても生活排水が流入して汚染が進んだりしているものが多く、良好な状態を保っているため池はあまり残っていない。本種の場合も、生育地のため池を改修せずに保全すると共に、水質が現在以上に悪化しないよう、配慮が必要である。

### 【特記事項】

和名は、葉が硬く、葉縁の鋸歯が目立つからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.407, 平草本 I p.18, 平新版 p.122, SOS 旧版 p.91.  
角野康郎. 1994. .日本水草図鑑 p.52. .文一総合出版, 東京.



## イトクズモ *Zannichellia palustris* L.

### 【評価理由】

全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県では 1 カ所に少数個体が生育していたが、その場所は埋め立てられた。しかし、まだ近くに残存している場所があるというので、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価する。

### 【形態】

沈水性の多年生草本。地下茎は細く、底土中を横にはう。水中茎は高さ 20~40cm になる。葉は対生または 3~5 枚が輪生し、線形で長さ 3~6cm、全縁、先端は細く尖る。花期は夏、花は単性で 1 個の雌花と 1 個の雄花が葉腋にならんでつく。果実は長さ 2~3mm の柄があり、本体は三日月形、先端に柄とほぼ同長の残存花柱がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：36 西尾南部（一色町，芹沢 81118, 2006-10-8）。ただしこの標本を採集した場所は埋め立てられた。

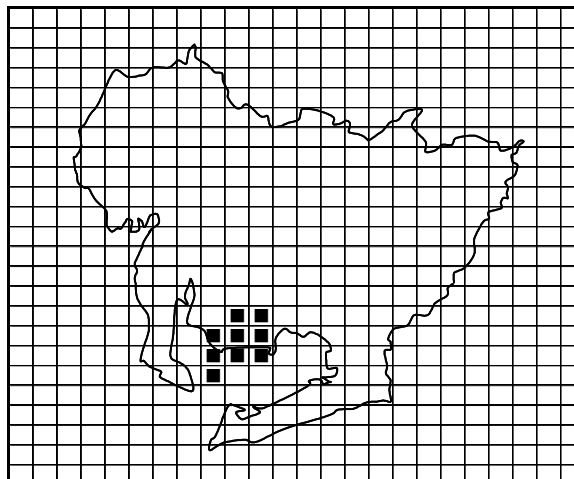
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球に生育する。

#### 【世界の分布】

全世界に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

汽水性の水草で、沿海地の水域に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    | ○  |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

養魚場跡地の雨水がたまってできた池に、少数個体が生育していた。しかし、その池が 2007 年春に埋め立てられたため、その場所での存続の可能性は失われた。残存しているという場所は詳細不明である。

### 【保全上の留意点】

注意して探索する必要がある。

### 【特記事項】

愛知県では、どこかにありそうだなと思いながらなかなか発見できなかった植物の一つである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.408, 平草本 I p.15, 平新版 p.134, 環境省 p.563.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.49. 文一総合出版, 東京.

サクライソウ *Petrosavia sakuraii* (Makino) J.J.Sm. ex Steenis

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 16。全国的に減少傾向の著しい希少な腐生植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。地下茎は短く、多数の根がある。地上茎は高さ 7~20cm、細くて硬く、淡黄色、下部に多数の鱗片葉が互生する。鱗片葉は広卵形、長さ 2~5mm、鈍頭で膜質である。花期は 7 月、茎の上部の総状花序に、10~15 個の直径 3.5~4mm の花を上向きにつけ、花被片は 6 個、卵状 3 角形、内片は長さ約 1.5mm、外片は内片の半長、下部が漏斗状に集まる。雄ずいは 6 個で、内花被片よりやや短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

西: 19 旭 (浜島繁隆 s.n., 2002-7-8, TNS)。

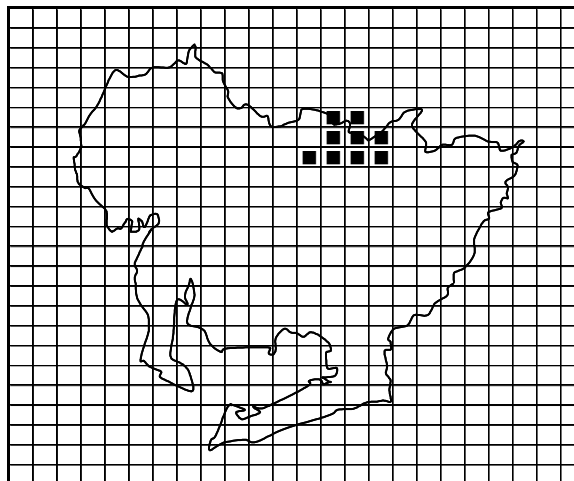
【国内の分布】

本州 (福井県、石川県、岐阜県、愛知県、京都府) に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。現在生育している場所は造林地内らしいが、それが本来の生育環境とは思えないので、生育環境の階級は 3 として評価を行う。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

旭 (八幡) に県の天然記念物に指定されている自生地があった。しかしここでは、何回か探索したが発見できず、絶滅したと判断される。原因としては林床の乾燥化が考えられるが、はっきりしない。最近再発見された場所では、自然林に隣接した造林地内にかなりの個体数が見られるという。

【保全上の留意点】

現地を確認していないので、よくわからない。

【特記事項】

1908 年に岐阜県恵那山麓で桜井半三郎氏によって発見された植物である。岐阜県可児市の自生地は国の天然記念物に指定されている。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.157, 平草本 I p.23, 平新版 p.140, 環境省 p.312, SOS 旧版 p.95.

## コシノコバイモ *Fritillaria koidzumiana* Ohwi

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。日本海側に分布の中心を持つ早春植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。鱗茎は球形で直径約 10mm、半球形の 2 個の鱗片からなる。茎は 1 本だけ出て高さ 10～20cm、無毛である。葉は 5 枚つき、下方で対生、上方で 3 輪生、無柄、葉身は披針形～広線形、長さ 4～8cm、先端は鈍頭である。花期は 4～5 月、花は茎の先端に 1 個つき、下向きに開き、鐘形、花被片は 6 個、長楕円形、長さ 15～20mm、淡黄色で暗紫色の網目模様があり、辺縁に歯牙状の突起がある。葯は白色、染色体は  $2n=24$  と報告されている。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：3 東栄 (鳥居栄一 s.n., 2000-4-9)。

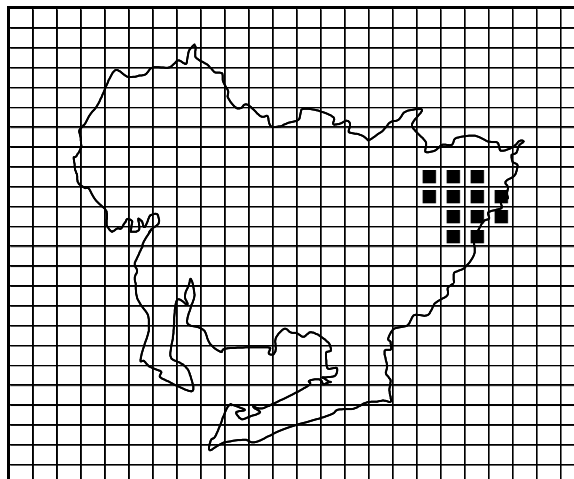
#### 【国内の分布】

本州中部 (北陸地方、愛知県、静岡県)。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

通常は山地の落葉広葉樹林内に生育する。春早く、上層の樹木や他の草本が葉を展開させる前に葉を伸ばして光合成を行い、初夏には地上部が枯れてしまう年生活環を持つため、常緑性の植物が茂ると生育できなくなる。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

3 カ所で確認されていたが、どの場所ももともと個体数が少なかった。愛知県の生育地はいずれもスギ・ヒノキの造林地で、被陰により衰退傾向が著しく、花をつける個体はほとんどなかった。現存が確認されているのは 1 カ所だけである。

### 【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。現存する自生地は近くで道路拡幅が計画されているので、その際の配慮も必要である。園芸目的の採取を防止することも重要で、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

ミノコバイモの変種 *F. japonica* Miq. var. *koidzumiana* (Ohwi) H.Hara et Kanai とされることもある。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.117, 平草本 I p.39, 平新版 p.170, SOS 旧版 p.93, SOS 新版 p.31,33.

## キンセイラン *Calanthe nipponica* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 4、固有性階級 3、総点 17。美しい花をつけるラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は高さ 25~35cm になり、基部はふくらんで球状の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に 3~5 個つき、線状楕円形~披針状楕円形、長さ 15~25cm、幅 1.5~2.8cm、先端は鋭頭、無毛、このほか茎上に 1 個の鱗片葉がつく。花期は 6~7 月、花は茎の上部にややまばらに 3~8 個つき、淡黄緑色、苞は披針形、長さ 1.2~2cm である。がく片は広披針形、長さ 1.5~2cm、幅 4~6mm、側花弁はがく片よりやや幅が狭い。唇弁は 3 裂し、側裂片は小さく、中裂片は卵形~四角状卵形、先端は尖り、辺縁は波状、中央にとさか状のひだがある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 7 設楽東部 (天野保幸 s.n., 2009-6-9)。

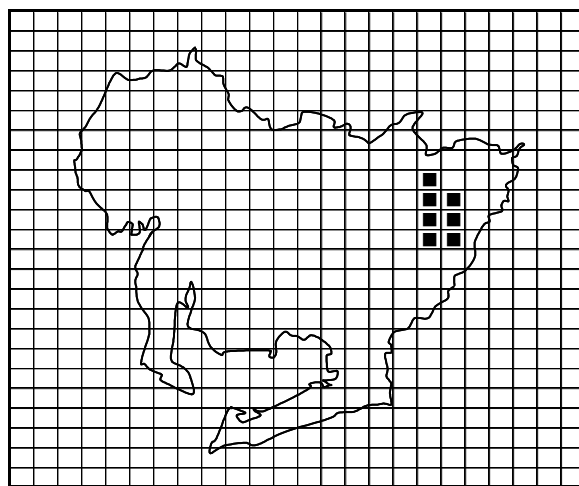
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。愛知県での生育地は、1 カ所はよく育ったスギ造林地、他の 1 カ所は二次林である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

やや離れた 2 カ所に、どちらもごく小数の株が生育している。

### 【保全上の留意点】

エビネ類の中ではやや小型で地味な種であるが、一方で希少種であり、園芸目的の採取で失われるリスクは大きい。直接採取されなくても、写真撮影に訪れる人が多くなれば、周辺部の踏み荒らしによる生育環境の劣化も懸念される。位置情報の公表については特に慎重な配慮が必要である。2 カ所のうち 1 カ所はインターネット上で詳細な位置が流されており、2012 年 9 月の調査では 1 株確認できただけであった。

### 【特記事項】

県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。愛知県のエビネ属としては、エビネ、ナツエビネおよび本種の他にサルメンエビネが豊根村や豊田市に生育していると言われている。今後とも一層の探索が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.54, 平草本 I p.22, 平新版 p.186.

## カンラン *Cymbidium kanran* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 3、総点 18。全国的に危篤状態のラン科植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

常緑性の多年生草本。葉は束生し、広線形で多少湾曲し、長さ 20~70cm、幅 6~17mm、先端は鋭尖頭、辺縁に微細な鋸歯があり、葉質は革質である。花期は 12~1 月、花茎は高さ 25~60cm で数個の鱗片葉があり、花はその上部にまばらに 5~12 個つき、紫色を帯びた緑色、苞は膜質で線形、長さ 8~30mm である。がく片は開出し、広線形、長さ 3~4cm、幅 3.5~4.5mm、先端は鋭尖頭、側花弁はがく片よりやや短く、線状披針形である。唇弁は舌状で肉質、側花弁より更に短く、やや 3 裂し、淡黄色で紫紅色の斑紋があり、中央に 2 本の隆起条がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：28 額田（本宮山）と 30 岡崎南部（保母町）にあったと報告されている（大原 1971, 1984）が、裏付けとなる標本は残されていない。しかし、県内に僅かに残存しているという連絡を受け、植物体の一部を標本（芹沢 87555, 2012-1-8）にした。更に 2017 年には、ニホンジカによる食害防止のため一時的に栽培したという株の花茎もいただいて標本（芹沢 93818, 2017-11-23）にした。区画および情報源は公表しない。

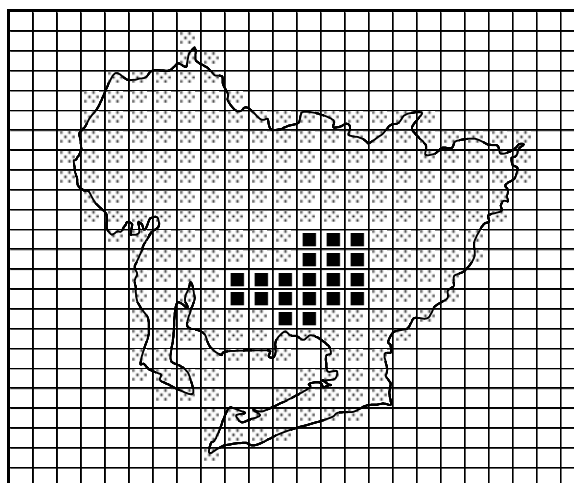
#### 【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州、琉球に生育する。

#### 【世界の分布】

日本および台湾に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

暖地の山林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  | ○  |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

岩の多い急傾斜地の沢から数 m 上に最大葉長 40cm ほどの株が 2 株生育していたが、周辺の植物がニホンジカに食害されており、その影響が懸念される。園芸目的の採取も危惧される。

### 【保全上の留意点】

何よりもまず、園芸目的の採取を防止する必要がある。

### 【特記事項】

昔から園芸の対象として珍重され、最も集中的に採取されてきたランである。どの場所も発見即絶滅に近く、標本資料は全国的にもほとんど残されていない。

### 【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.150. 名古屋営林局, 名古屋.  
大原準之助. 1984. 植物新分布報告(13). 植物研究集録 21: 62-66.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.65, 平草本 I p.229, 平新版 p.192, 環境省 p.346, SOS 旧版 p.109.

マヤラン *Cymbidium macrorhizon* Lindl.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。緑葉のない腐生植物で、全国的にも愛知県でも、生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

腐生の多年生草本。根茎は地中をはってまばらに分枝し、白色、三角状の鱗片をつけ、根はない。花期は 7～8 月、花茎は直立し、高さ 10～30cm、下部に基部が短い鞘となる膜質の鱗片葉をまばらに数個つける。花は茎の上部にまばらに 2～6 個つき、白色で紅紫色をおび、苞は膜質で広披針形、長さ 5～10mm である。がく片は倒披針形、長さ約 2cm、幅 3～4mm、先端は鋭頭、側花弁は長楕円形でがく片よりやや短い。唇弁はくさび状長楕円形、長さ約 15mm、3 裂するが側裂片は小さく、中裂片は先端が細波状となり、2 本の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（芹沢 68792, 1993-10-7）と西：24 豊田東部（山崎玲子 1704, 1998-8-25）で生育が確認されている。29 岡崎北部の記録もある（大原, 1975）が、裏付けとなる標本は残されていない。

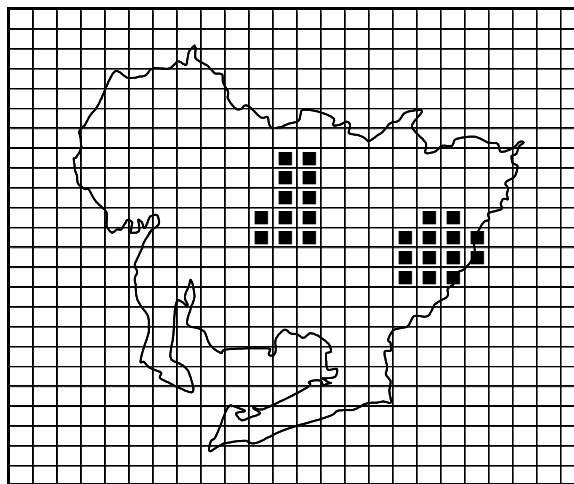
【国内の分布】

本州（関東地方南部以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の樹林下に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

2 カ所で確認されたが、どちらも偶然発見されたもので、現在のところ確実に観察できる場所は知られていない。鳳来北東部では生育地の森林が伐採されたため、その場所での再発見は困難と思われる。

【保全上の留意点】

あまりにも出現頻度の低い植物で、効果的な保全対策は立てにくいだが、過去に生育が確認された場所の森林を保全することが必要である。

【引用文献】

大原準之助. 1975. 植物新分布報告(9). 植物研究集録 16: 83-86+表紙写真.

【関連文献】

保草本Ⅲp.66, 平草本 I p.230, 平新版 p.193, 環境省 p.597, SOS 旧版 p.110+図版 3.

## ナギラン *Cymbidium nagifolium* Masam.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

### 【形態】

常緑性の多年生草本。茎の基部はややふくらみ、小型の偽球茎となる。葉は 1~3 個が束生し、披針形、長さ 20~30cm、幅 2~3cm、先端は鋭尖頭、基部は次第に細まって長い柄となり、先端部の辺縁には微少な鋸歯があり、葉質は革質である。花期は 6~7 月、花茎は高さ 10~15cm で少数の鱗片葉があり、花はその上部にまばらに 2~4 個つき、白色でわずかに淡紫色を帯び、苞は膜質で線状披針形、長さ 8~15mm である。がく片は線状披針形、長さ 2.2~2.5cm、幅 2.5~3mm、先端は鋭尖頭、側花弁は長楕円形で、がく片よりやや短い。唇弁は倒卵状楕円形、長さ約 8mm、浅く 3 裂し、中裂片の先は 3 角形に細くなり鈍頭、肉質、内面は白色で数個の大型の紫褐色の斑点がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：17 田原東部 (小林 50187, 1994-3-27)。  
18 田原西部にもあるという (小林 2002)。

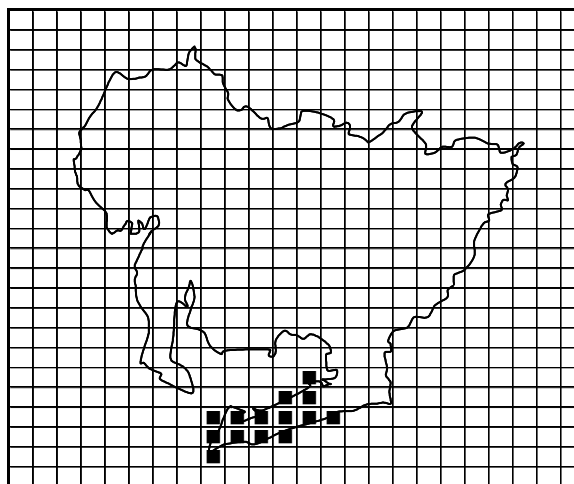
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方南部以西)、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、東南アジア、マレーシア、ヒマラヤ。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

暖地の常緑広葉樹林下に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  | ○  |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

2 カ所で確認されているが、どちらも個体数は僅かだそうである。採取目的の山草愛好家に発見されれば、絶滅は必至である。よく茂った常緑広葉樹林内に生育する植物なので、伐採により失われるおそれもある。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【引用文献】

小林元男. 2002. 渥美半島の植物 p.71, 174. 東三林業振興会, 豊橋.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.64, 平草本 I p.229, 平新版 p.193, 環境省 p.598, SOS 旧版 p.110, SOS 新版 p.35,37.

サワラン *Eleorchis japonica* (A.Gray) F.Maek.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 17。貧栄養の湿地に生育する植物で、園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。卵状の偽球茎がある。茎は細く、直立して高さ 15～30cm、基部近くに 2 個の鞘状葉がある。葉は 1 個つき、広線形でほぼ直立し、長さ 6～15cm、幅 4～8mm、縦の脈が目立ち、先端は鋭頭、基部は鞘となって茎を包む。花期は 7 月、花は茎の先端に通常 1 個つき、紅紫色で横向きに半開し、苞は三角形、長さ 2～3mm である。がく片と側花弁は倒披針形で、長さ 2～2.5cm、先端は鈍～鋭頭、唇弁は倒卵状楕円形、他の花被片とほぼ同長、先端で浅く 3 裂し、中裂片には縦の隆起条がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部（芹沢 59095, 1991-6-29）、11 作手（芹沢 55483, 1990-6-14）、西：19 旭（芹沢 55895, 1990-7-8）。このほか 15 豊橋北部（葦毛湿原）でも生育を確認しているが、標本は採取していない。尾：50 名古屋北部（東山，井波一雄 s.n., 1958-6-13, CBM195368）で採集された標本もある。

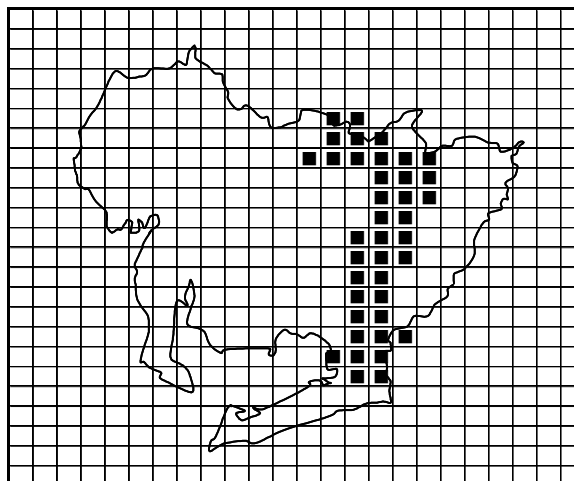
【国内の分布】

北海道、本州中部以北。

【世界の分布】

南千島および日本。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい貧栄養の湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所も、個体数は極めて少ない。かつてはトキソウとともに（ただしトキソウよりは少なかったらしい）あちこちの湿地で見られたようで、大原（1971）は愛知県での産地として、名古屋、西尾、吉良、渥美のような丘陵地もあげている。しかし、園芸の対象として乱獲されたために、現在では全県的にほぼ絶滅状態である。本種の場合、サギソウやトキソウのような効果的な栄養繁殖の手段を持たないため、一度減少すると、なかなか再増加できないようである。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

アサヒランとも呼ばれる。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.151. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.47, 平草本 I p.220, 平新版 p.197, SOS 旧版 p.110+図版 19.



カシノキラン *Gastrochilus japonicus* (Makino) Schltr.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。自然度の高い森林に依存する着生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は短く、先端は斜上し、長さ 1~4cm になる。葉は 5~15 個が互生して 2 列に並び、倒披針形、長さ 3~6cm、幅 6~15mm、わずかに湾曲し、革質、先端は鈍~やや鋭頭、基部は短い鞘となって茎をおおう。花期は 7~8 月、下部の葉腋から花茎を出し、その上部に淡黄色の花を 4~10 個密につける。苞は 3 角形、長さ 1~2mm である。がく片と側花弁はほぼ同形、長楕円形、長さ約 4mm、先端は鈍頭、唇弁は基部が大きくふくらみ、舷部は扇状、大きな黄斑があり、辺縁に不規則な凹凸がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:8 鳳来北東部 (加藤等次 s.n., 1992-1-13, HNSM) で採集された標本がある。

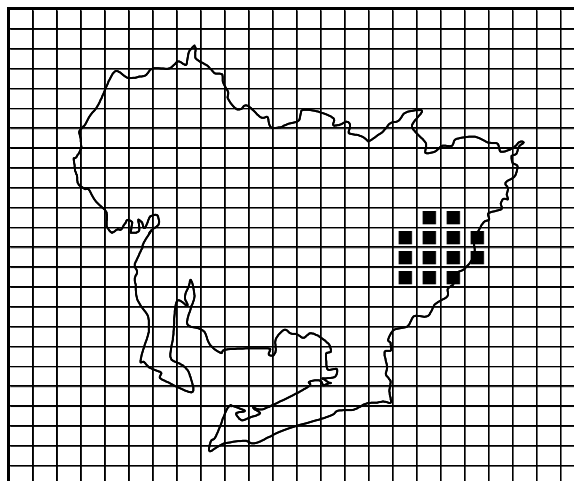
【国内の分布】

本州 (千葉県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の常緑広葉樹林の樹上に着生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

木から落ちたものが、偶然採集されただけである。同じ林内の他の木にも着生している可能性が高いが、現存は確認できない。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

ラン科植物の調査は、愛知県では全般的に不十分である。本種に関しても、更に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.66, 平草本 I p.234, 平新版 p.201, 環境省 p.600.

## ナヨテンマ *Gastrodia gracilis* Blume

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 17。全国的に希少な腐生植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

腐生の多年生草本。根茎はやや太く肥厚する。茎は直立し、高さ 10~60cm、黄褐色をおび、鞘状で長さ 3~4mm の鱗片葉を 4~5 個まばらにつける。花期は 6~7 月、茎の先端部に黄褐色の花を 5~15 個、密な総状花序につける。苞は卵形、長さ 2.5~3mm である。花は 3 がく片が合着して長さ 6~7mm のつぼ状になり、基部の下側はややふくらみ、口部は斜めになって 3 裂し、裂片の内側に小さい 2 個の側花弁がある。唇弁は 3 角形である。花柄は花時には長さ 4~7mm であるが、花後伸長して 5cm に達する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

13 豊川(瀧崎吉伸 33910, 2018-6-17)。1992 年に 1 回採集されて以来確認できなかったが、2018 年に再発見された。

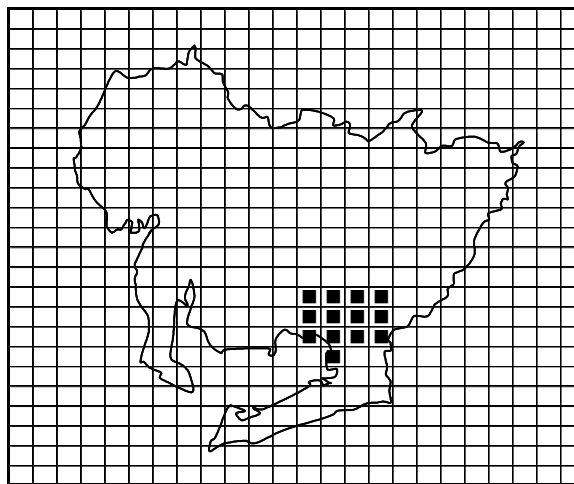
#### 【国内の分布】

本州 (千葉県、静岡県、愛知県、広島県)、四国、九州に稀に生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

2018 年は 12 個体が確認されたが、2019 年は 8 個体であった。毎年地上部が出るとは限らない植物なので、出現個体数は変動が激しいと思われる。

### 【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。

### 【特記事項】

全国的にも生育地が少なく、新種として記載された後長い間再確認されなかった植物である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.27, 平草本 I p.204, 平新版 p.202, 環境省 p.350, SOS 旧版 p.111.

フガクスズムシソウ *Liparis fujisanensis* F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。自然度の高い森林に依存する着生植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 4~10cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は卵形、長さ 1.5~5cm、幅 1~3cm、先端は鋭頭、基部はくさび形で、やや鞘状に茎を抱く。花期は 5~6 月、花は茎の上部に少数つき、紅紫色を帯びた緑色、苞は長三角形で長さ 1~2mm である。背がく片は倒披針形、長さ 7~10mm、側がく片はやや幅が広く、側方に開出し、側花弁は糸状で下に垂れる。唇弁は倒長卵形で強く曲がり、長さ 7~11mm、幅 6~10mm、先はほとんど切形で凸端、辺縁に細歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武で採集されたことがある (標本：同産植栽、本多澄夫 s.n., 1994-6-6)。

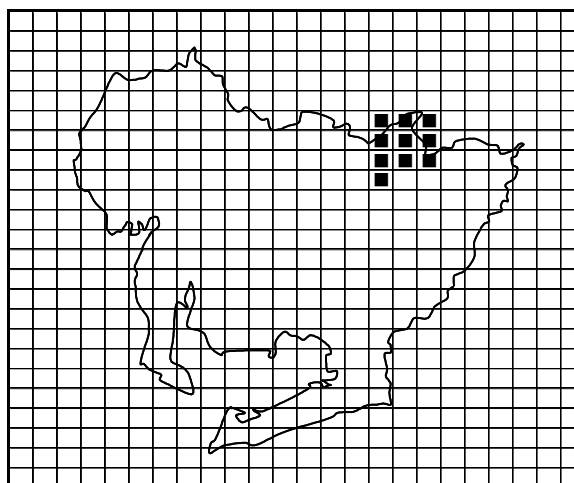
【国内の分布】

本州 (中部地方、近畿地方)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地のブナ林の樹上に着生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

倒木に着生していたという。同じ林内の他の木にも着生している可能性が高いが、現存は確認できない。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は厳重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

側がく片が側方に開出すること、唇弁が強く反卷することなどの点でクモキリソウに似ているところがあり、クモキリソウとスズムシソウの自然雑種という説もあるが、おそらくそのようなものではない。

【関連文献】

平草本 I p.219, 平新版 p.212, 環境省 p.604, SOS 旧版 p.112.

スズムシソウ *Liparis makinoana* Schltr.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 17。山地性のラン科植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 10~20cm、基部はふくらんで偽球茎となり、1~2 年残存して横に並ぶ。葉は茎の基部につき、鞘状のものを除き 2 個、葉身は楕円形~長楕円形、長さ 4~12cm、幅 2.5~7cm、先端は鈍頭~やや鋭頭、基部はくさび形で、やや鞘状に茎を抱く。花期は 5~7 月、花は花茎の上部に 10 個内外つき、淡暗紫色で直径約 3cm、苞は卵状 3 角形で開出し、長さ 1~2mm である。がく片は広線形、長さ 10~15mm、先端は鋭頭、側花弁は糸状である。唇弁は倒卵形、長さ 10~15mm、幅 8~12mm、先は円頭で凸端、辺縁には細歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：19 旭 (小林 37322, 1992-5-24)。

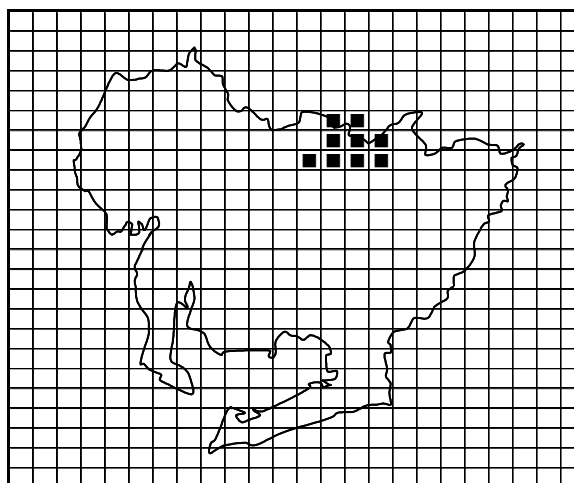
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。

|     | 山 地 | 丘 陵 | 平 野 | 海 浜 |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 森 林 | ○   |     |     |     |
| 草・岩 |     |     |     |     |
| 湿 地 |     |     |     |     |
| 水 域 |     |     |     |     |

【現在の生育状況／減少の要因】

小群落があったというが、最近の状況は確認されていない。採取目的の山草愛好家に発見されれば絶滅は必至である。すでに絶滅しているかもしれない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取や物見高い自称自然愛好家による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅲp.52, 平草本 I p.219, 平新版 p.212, SOS 旧版 p.112.

# ツレサギソウ *Platanthera japonica* (Thunb.) Lindl.

## 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。愛知県では生育地、個体数ともに極めて少なく、また園芸目的の採取圧も高い。

## 【形態】

多年生草本。根は太いひも状で水平に伸びる。茎は直立し、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、下方の 3～5 枚は大型、葉身は長楕円形で長さ 10～20cm、幅 4～7cm、先端は鋭頭、基部は葉鞘となる。上部の葉は小さくなる。花期は 5～6 月、花は茎の上部の長さ 10～20cm の花序に密につき、白色、苞は線状披針形で花より長い。背がく片は楕円形、長さ 7～8mm、側がく片は斜卵形、側花弁は斜 3 角形で、背がく片に接してかぶと状となる。唇弁は長楕円形で長さ 13～15mm、先端は鈍頭、基部の両側に突起があり、距は長さ 3～4cm で下垂する。

## 【分布の概要】

### 【県内の分布】

東：1 富山 (小林 51245, 1994-5-7)。6・7 設楽と 5 稲武 (絶滅) にもあるという (小林 2006)。2 豊根 (坂宇場, 加藤等次 s.n., 1968-6-23) で採集された標本もある。

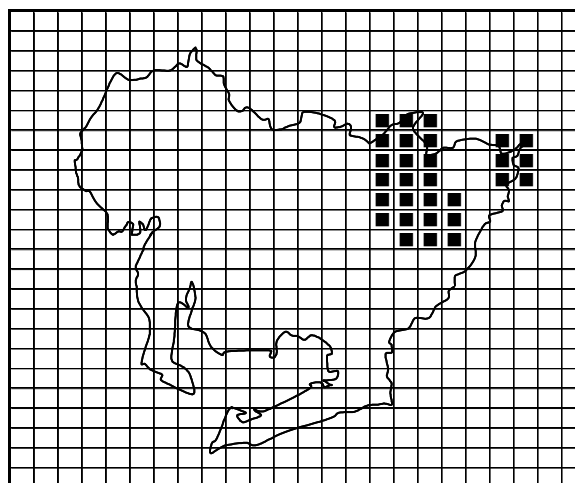
### 【国内の分布】

北海道南部、本州、四国、九州、琉球。

### 【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



## 【生育地の環境／生態的特性】

山地の草原や林縁に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

## 【現在の生育状況／減少の要因】

少数個体があるだけで、花をつける個体は更に僅かである。生育地は人目につきにくい場所であるが、採取目的の山草愛好家に発見されれば即絶滅の可能性が高い。森林の手入れ不足による消滅も懸念される。

## 【保全上の留意点】

造林地については、間伐など適切な手入れが必要である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

## 【特記事項】

和名は、サギソウに似た白花が連れ立って咲くからである。

## 【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.85, 243. 愛知県林業試験推進協議会, 新城.

## 【関連文献】

保草本Ⅲp.23, 平草本 I p.196, 平新版 p.221, SOS 旧版 p.114.

ウラジロギボウシ *Hosta hypoleuca* Murata (表紙写真)

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 16。愛知県東三河地方の固有種で、園芸目的の採取のために減少している。

【形態】

多年生草本。茎は短い。葉は大きいものが 1~2 枚束生し、長さ 15~35cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 20~35cm、幅 13~25cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、質は厚く、表面は浅緑色、裏面は著しく粉白となる。側脈は片側に 10~13 あるが、脈はあまり隆起しない。花期は 7~8 月、花茎は分枝せず、長さ 30~40cm、基部で少し曲がり、葉より高くなり、先端部の短い総状花序に多数の花をつける。苞は開花時に開出せず、しおれない。花冠は長さ 3.5~4.5cm、狭筒部と広筒部は同長、先端は 6 裂し、白色であるが、内側の中央部は紫色をおびる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：3 東栄 (小林 38786, 1992-8-12)、8 鳳来北東部 (加藤等次 1687, 1992-8-15)。

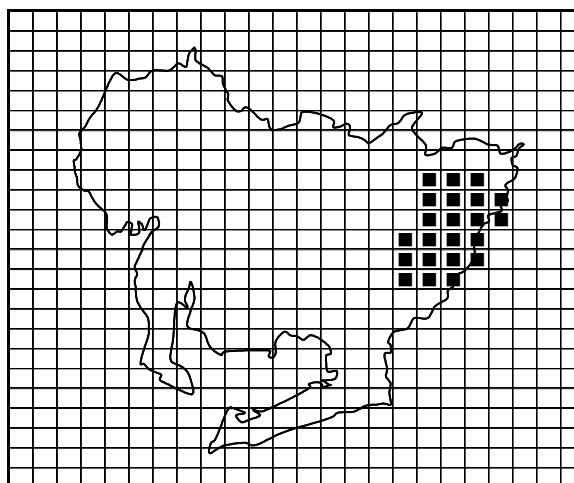
【国内の分布】

本州 (愛知県) だけに分布している。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

岩壁の湿った部分に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、実際にある場所も限られている。園芸目的の採取のため、手の届く範囲はほとんどなくなっている。地形が急峻なので全滅するおそれは少ないが、そのうちに事実上観察できない植物になってしまう可能性は高い。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

村田 (1962) によって記載された植物である。基準標本は同氏が旧三輪村で 1953 年 9 月に採集されたもので、京都大学総合博物館 (KYO) に保管されている。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

【引用文献】

村田 源. 1962. 植物分類雑記 7, (25)ウラジロギボウシ. 植物分類地理 19: 67-68.

【関連文献】

保草本Ⅲp.137, 平草本 I p.3, 平新版 p.251, 環境省 p.310, SOS 旧版 p.94+図版 6, SOS 新版 p.47,49.

## ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい湿地性～水生植物で、愛知県でも減少傾向が著しく、安定した自生地はすでになくなっている。

### 【形態】

1 年生草本。茎は多孔質でやわらかく、高さ 20～40cm になる。葉は根生または茎上に互生し、根出葉の柄は長く 10～30cm、茎葉の柄は短く 5～10cm、葉身は心形、長さ 5～10cm、幅 4～8.5cm、先端は鋭尖頭、基部は心形、辺縁は全縁、質は厚く、表面は深緑色で光沢がある。花期は 9～10 月、茎の先に総状花序を作り、花は直径 1.5～3cm、花被片は 6 個で青紫色、基部まで離生し、楕円形、長さ 15mm 程度である。果実は蒴果で卵状長楕円形、長さ約 10mm、先端につの状の花柱が残り、熟すと下向きになる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

比較的最近では、尾：57b 愛西（旧八開村 給父，山田茂貴 1158, 1996-9-23；旧立田村 富安，山田茂貴 890, 1993-11-7）、58b 弥富（鯛浦，高木順夫 1502, 1991-10-6）の 2 区画で確認されている。50 名古屋北部（北区楠町，井波一雄 s.n., 1967-10-15, CBM165374）で採集された標本もある。西：30 岡崎南部（上地町，芹沢 87338, 2011-9-11）でも見ているが、これは移入の可能性が高い。

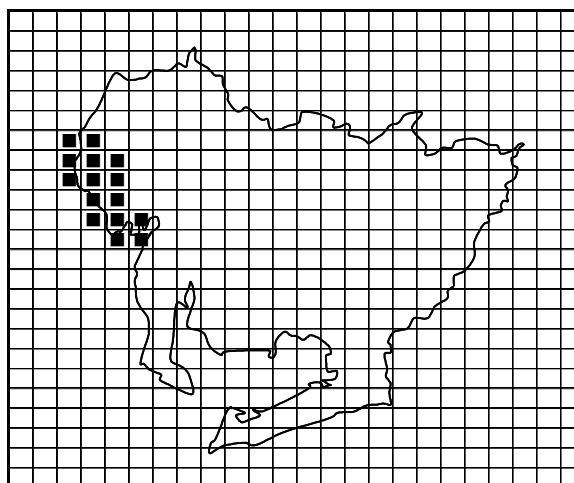
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆、ウスリー。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

平野部の水田や、低湿地のやや攪乱された場所などに生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

かつては湿地の雑草であったらしいが、乾田化により急激に減少したと言われる。最近では河川敷の攪乱地で 3 回と休耕田で 1 回、一時的に生育したものが確認されているにすぎない。弥富では高さ 2m に達する個体が群生していたが、翌年には全く見られなかったそうである。埋土種子集団を作る植物なのでそのうちにどこかでまた出現する可能性はあるが、現在のところ県内で確実に自生集団を観察できる場所はない。

### 【保全上の留意点】

本種のような不安定な立地に生育する植物は、保全対策が極めて立てにくい。はっきり認識できないうちに絶滅という事態は、十分に考えられる。保険的措置として、人為的な系統保存を考慮する必要がある。

### 【特記事項】

和名は、水湿地に生育し、葉がフタバアオイに似ているからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.171, 平草本 I p.59, 平新版 p.270, SOS 旧版 p.96.

## ヒメミクリ *Sparganium subglobosum* Morong

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

挺水性の多年生草本。地中を横にはう根茎がある。地上茎は立ち、高さ 30~60cm になる。葉は 2 列に互生し、線形、下部のものは茎より長く、幅 2~5mm、先端は鈍頭、辺縁は全縁、裏面に稜があり、下部は葉鞘となる。花期は 6~8 月、雌雄同株、茎の上部に雄性の頭状花序を 5~11 個つけ、その下に雌性の頭状花序を 2~4 個つけ、更に 1~2 本の枝を出す場合もある。雌性花序は無柄、球形、果期に直径 1~1.3cm になり、果実は倒卵形、長さ 4~5mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

典型的なものは、西：24 豊田東部（村松正雄 25323, 2010-8-29）の 1 カ所で確認されているだけである。東：11 作手（鴨ヶ谷、小林 19122, 1978-6-25）、12 新城（千郷村杉山、鳥居喜一 9163, 1943-9-14, HNSM）、西：30 岡崎南部（戸崎町、大原準之助 s.n., 1951-10-4）、32a 刈谷（牛池、加藤潤子 116, 1978-6-26）で採集された標本もある。

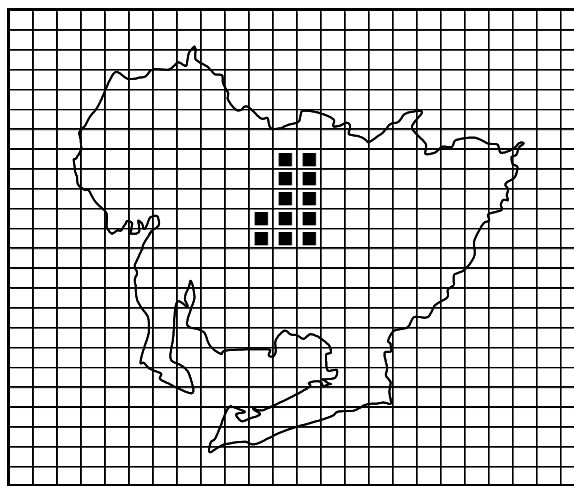
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド、東南アジア、オーストラリア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

池沼、湿原などの浅い水中に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  | ○  | ○  |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊田東部では、以前小群落があった位置ではおそらく遷移の進行により消失し、やや離れたところに数株が残存しているという。土地の管理者には意識されている。作手は湿地の開発、刈谷は水の汚れにより絶滅した。

### 【保全上の留意点】

ヨシなどの大形草本をある程度除去する必要があるが、その一方で過剰管理により自生状態が失われないよう、注意も必要である。

### 【特記事項】

ヒメミクリに似ているが全体にやや大型でナガエミクリやヤマトミクリとの中間程度、雌性花序に短い柄が出ることもあり（その場合、腋性のこともやや腋上性のこともある）、果実が紡錘形のものが、2 豊根（芹沢 44562、絶滅）、4 津具（小林 39054）、11 作手（小林 53017）、19 旭（日比野修 3818）、30 岡崎南部（芹沢 77963）、37a 瀬戸（日比野修 2605）などに生育している。この型の植物については、今後更に分類学的な扱いを検討する必要がある。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.421, 平草本 I p.143, 平新版 p.278, 環境省 p.570, SOS 旧版 p.103.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.81. 文一総合出版, 東京.



## オオホシクサ *Eriocaulon buergerianum* Koernicke

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 16。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

1 年生草本。茎はごく短い。葉は束生して斜上し、披針状線形、長さ 8~20cm、基部で幅 5~8mm、全縁、先端は次第に細くなり、やや鈍端となる。花期は 8~10 月、花茎は多数つき、高さ 15~30cm、5~6 本の肋があって少しねじれ、先端に半球形の頭花をつける。頭花は直径約 6mm、多数の花からなり、総苞片は頭花より短く、広倒卵形、鈍頭、小花にははじめ白色の短毛があるが、後に少なくなる。子房と蒴果は 3 室である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：48 春日井（芹沢 73395, 1996-10-8）。井波（1988）によれば 50 名古屋北部（千種区池下）にもあったというが、標本は未確認である。

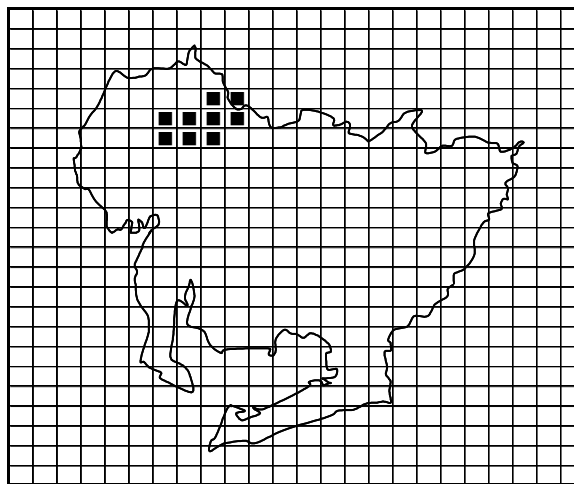
#### 【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陆。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸などの湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県内ではただ 1 カ所、春日井市の築水池に生育している。ただし 2012 年には、改修のため水が完全に落とされたが、出現しなかった。その後の状況は確認されていない。名古屋北部では、開発により絶滅したという。

### 【保全上の留意点】

上流に人家等のないため池であるため、当面は現状のまま生育できると思われる。ただし、公園化によって訪れる人が増加しているため、何らかの状況の変化が起きる可能性もあり、継続的な注意が必要である。釣り人が現在以上に増加すれば、踏み荒らしによる影響も懸念される。

### 【特記事項】

シラタマホシクサに比べ、丈が低く、葉が幅広く、頭花は白色の短毛が少なく、淡黄褐色に見える。

### 【引用文献】

井波一雄. 1988. 三河や知多（ともに愛知県）にはヌマカゼクサは生育分布しない. 植物研究集録 (24): 7-13.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.183, 平草本 I p.81, 平新版 p.283, SOS 旧版 p.98, SOS 新版 p.119,121.

イヌイ *Juncus fauriei* H.Lev. et Vaniot

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。北日本の海岸部に多い植物で、愛知県は分布域の南限と思われる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は太く直径 3～4mm、地中を横にはう。地上茎はところどころから接近して出て、高さ 30～50cm、扁平で数回ねじれ、下部に鱗片状の葉をつける。茎の基部の葉は赤褐色～黄褐色になる。花期は 5～6 月、花序は茎の先端につき、1～2 回散形状にわかれて長さ 2～4cm になり、10～20 個の花をつける。苞は長さ 5～18cm、茎状で、そのため花序は茎の上部に側生するように見える。花被片は 6 個、披針形で長さ 4～5mm、先端は鋭く尖り、中央部は緑褐色、辺縁部は黒褐色、内花被片ではその外側が白色半透明になり、雄ずいは 6 個、花被片のほぼ半分の長さである。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：41b 知多 (芹沢 77374, 2001-5-25)、42a 阿久比 (芹沢 77373, 2001-5-25)。2 区画から記録されているが、産地は実質的に 1 か所である。

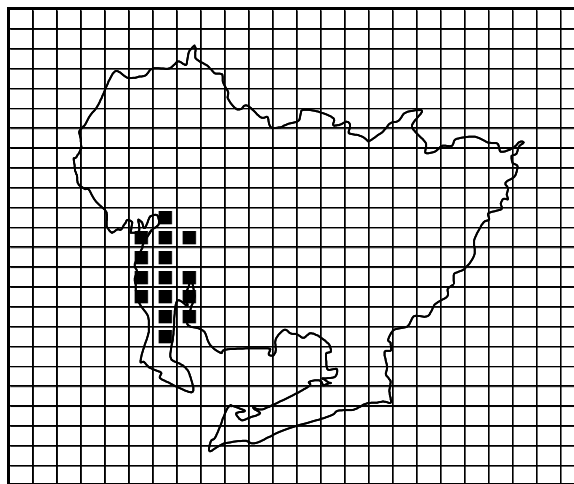
【国内の分布】

北海道、本州 (北部)。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの砂地などに生育することが多い。愛知県の生育地は、愛知用水わきの草地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭いが、個体数は比較的多かった。最近の状況は確認されていないが、この場所まで改修の手が及んでいればすでに絶滅した可能性が高い。

【保全上の留意点】

現地は漏水等の心配がない場所であり、生育地を現状のまま保全することが必要である。

【特記事項】

茎が扁平なのでヒライ、ねじれるのでネジイとも呼ばれる。これらの特徴で、同属の他種から容易に区別できる。

【関連文献】

保草本Ⅲp.161, 平草本 I p.68, 平新版 p.289, SOS 新版 p.199,206.

## アワボスゲ *Carex brownii* Tuck.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。稀少なスゲ類の 1 種で、愛知県では生育地、個体数共に極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、小さい株をつくる。茎は高さ 30～80cm、3 稜があり、基部の葉鞘は暗紫褐色になる。葉は細い線形、幅 3～5mm である。果期は 4～6 月、小穂は 3～4 個、頂小穂は雄性で線形、長さ 1.5～3cm、側小穂は雌性で円柱形、長さ 1.5～3cm、直径約 5mm、ほぼ直立、最下のはしばしばやや離れてつき、長い柄がある。苞は葉状で、最下のものの基部は長い鞘となる。果胞は卵形で開出し、長さ約 3mm、短い嘴がある。雌花の柱頭は 3 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：9 鳳来南部（芹沢 54989, 1990-5-22）、  
15 豊橋北部（畑佐武司 8260, 2012-5-14）。

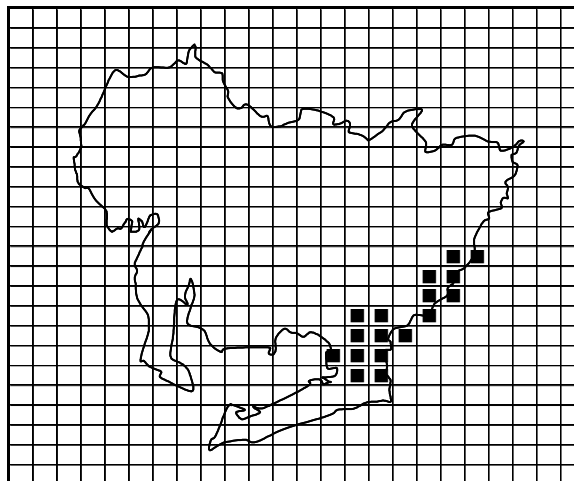
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

平地～低山地の湿った草地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部では以前は数株生育していたようだが、確認できたのは 1 株のみであった。鳳来南部は最近の状況を確認していない。

### 【保全上の留意点】

個別的な保全が必要である。目立たない植物なので、新たな自生地が発見される可能性は残されている。

### 【特記事項】

ヤワラスゲに似るが、果胞の嘴が短い。和名は、果胞が粟粒に似ているからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.289, 平草本 I p.151, 平新版 1 p.332, SOS 旧版 p.104.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.330. 文一総合出版, 東京.

## スナジスゲ *Carex glabrescens* (Kuk.) Ohwi

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。長い匍匐枝を出し、株を作る。茎は高さ 30～50cm、3稜があり、基部の葉鞘は赤褐色を帯び、糸網がある。葉は細い線形、幅 3～4mm である。果期は 4 月下旬～5 月上旬、小穂は茎の上部に数個つき、先端の 2～3 個はやや接近して雄性、線形で長さ 1.5～3.5cm、鱗片は淡褐色で周辺部が赤褐色を帯び、下方の 2～3 個は互いにやや離れて雌性、広線形で長さ 2～4cm である。苞は長い葉身があり、鞘は短い。果胞は長さ約 5mm、表面にはややまばらに毛があり、先端は次第に細くなって嘴状になり、鋭い 2 歯がある。雌花の柱頭は 3 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：33 安城 (堀田喜久 16413, 2009-4-26)。  
25 豊田北西部 (畑佐武司 1619, 2001-4-21)  
もスナジスゲの可能性があるが、花期の標本なのでよくわからない。

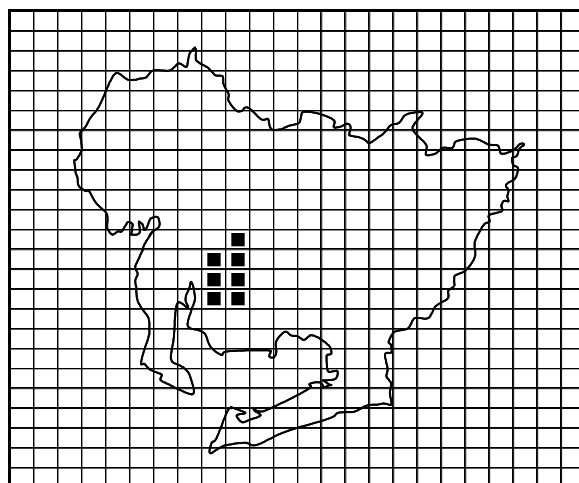
#### 【国内の分布】

本州 (岩手県～愛知県)。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

矢作川に近い神社の境内に、小群落があったという。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

詳細は不明である。2013 年 5 月に現地に行ってみたが、確認できなかった。

### 【保全上の留意点】

現地の状況を見ていないので、よくわからない。

### 【特記事項】

ビロードスゲ *C. miyabei* Franch. に似ているが、果胞は毛が少なく、先端が急に細くならない。ビロードスゲは、愛知県では 2 豊根 (小林 37459)、3 東栄 (小林 37744)、4 津具 (小林 37816)、6 設楽西部 (芹沢 82872)、5 稲武 (村松正雄 26882)、19 旭 (小林 43127)、20 足助 (芹沢 95119)、21 下山 (芹沢 61364)、24 豊田東部 (山崎玲子 1431)、32a 刈谷 (中村裕治 326)、46a 扶桑 (芹沢 65797)、50 名古屋北部 (村松 16128)、54 一宮西部 (芹沢 74534) などに生育しており、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 194) で採集された標本もある。

### 【関連文献】

平新版 1 p.336.  
勝山輝男. 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.351. 文一総合出版, 東京.

## ヌマクロボスゲ *Carex meyeriana* Kunth

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。寒冷地の湿原に生育する植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。匍匐枝はなく、大きな株を作る。茎は高さ 30～50cm、3 稜があり、基部の葉鞘は栗褐色で硬く、糸網状の繊維に分解する。葉は細い線形、白緑色、幅 1～1.5mm である。果期は 5～7 月、小穂は 2～3 個、頂小穂は雄性、線形で長さ 2～3cm、側小穂は雌性で卵形～楕円形、長さ 0.5～1cm、直径約 5mm、無柄で斜めに立つ。苞は刺状で小さく、鞘はない。果胞は楕円形、長さ 3～3.5mm、密に細突起があって光沢がなく、嘴はごく短い。雌花の柱頭は 3 個である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：11 作手 (芹沢 81541, 2007-6-16)。

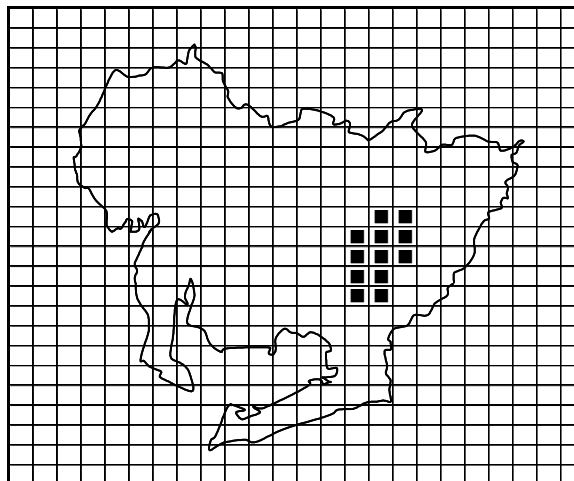
#### 【国内の分布】

本州中北部、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の湿原に生育する。泥炭湿地で、いわゆる谷地坊主を作ることがある。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

湿原内に数株が生育している。現地では水の汚れのためか一時消失状態になっていたが、その後再確認された。

### 【保全上の留意点】

現状を維持すれば、とりあえずはそのまま存続すると思われる。新城市作手地区には多数の湿地があったが、その多くは開拓等によって埋め立てられ、良好な自然状態のまま残存しているものは僅かである。現在残存している湿地は大小を問わず注意して保全する必要がある。

### 【特記事項】

シラカワスゲとも呼ばれる。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.283, 平草本 I p.156, 平新版 1 p.329, SOS 旧版 p.105.  
勝山輝男, 2005. ネイチャーガイド 日本のスゲ p.137. 文一総合出版, 東京.

# ホザキマスクサ *Carex planata* Franch. et Sav. var. *angustalata* Akiyama

## 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 17。低湿地性の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

## 【形態】

タカネマスクサ var. *planata* (265 頁) に似ているが、河川敷などの低湿地に生育し、小穂は茎に 8~12 個つき、下部のものは楕円形で長さ 6~8mm、2~3cm 間隔でつくが、上部のものは次第に小さく、また接してつくようになる。頂小穂は雌雄性だが、時にほとんど雄性になる。

## 【分布の概要】

### 【県内の分布】

尾：57b 愛西 (芹沢 74595, 1998-5-22)。

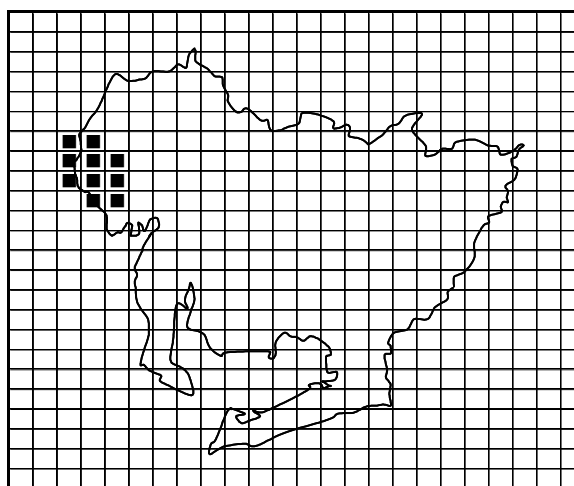
### 【国内の分布】

西日本に点在する。

### 【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



## 【生育地の環境／生態的特性】

河川敷のヤナギ林の林内や林縁に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

## 【現在の生育状況／減少の要因】

長良川左岸の 1 カ所に少数個体が生育しているだけである。木曽三川の岐阜県側にはやや大きな群落がある。

## 【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林の保全が必要である。また、河口部の自然の中では潮の干満に伴う水位の変動が大きな要素になっており、長良川の場合、河口堰の完成によってこの条件が失われたことが、ホザキマスクサを含む低湿地性植物の今後の存続に対する大きな懸念材料になっている。河口部の自然環境保全を検討するときには、周期的な水位変動の確保を忘れてはならない。

## 【関連文献】

平新版 1 p.305, SOS 新版 p. 130,132 (タカネマスクサとして)。  
秋山茂雄. 1955. 極東亜産スゲ属植物 Pl.36 Fig.2. 北海道大学, 札幌。

## ヒメアオガヤツリ *Cyperus pygmaeus* Rottb.

### 【評価理由】

低湿地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少ない。現存は確認できないが、残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A類と評価した。

### 【形態】

1年生草本。茎は束生し、高さ3～5cm、基部は赤紫色を帯びる。葉は茎の下部につき、線形、幅1mm程度である。花期は9～10月、花序は茎の先端につき、頭状で球形～広卵形、長さ、幅共に7～10mm、苞は数個あって葉状、長さ3～6cmである。小穂は淡緑色、披針形～広披針形、長さ3～5mm、やや扁平で、鱗片は2列につく。果実は長楕円形、縁は鋭形であるが翼はない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：50名古屋北部(芹沢 78213, 2002-10-4)。

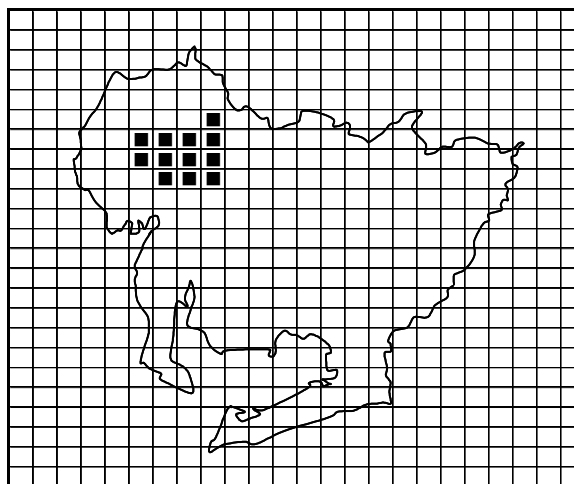
#### 【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本からインド、オーストラリアにかけて分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

干上がったため池の岸に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

2002年は干上がった底土上に散在していた。その後の状況は確認されていない。生育地は緑地公園内のため池で、池自体は現在も残されているが、周辺の森林が生長し、本種の生育には適さない状況になっている。

### 【保全上の留意点】

森林の伐採が必要だが、現実問題としては難しい。

### 【特記事項】

シロガヤツリ *C. pacificus* (Ohwi) Ohwi に似るが、小穂の鱗片は基部まで2列につく。

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.245, 平草本Ⅰp.184, 平新版Ⅰp.340.

## カガシラ *Diplacrum caricinum* R.Br.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい小型の湿地性植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

小型の 1 年生草本。根は赤褐色となる。茎は単生または基部でまばらに分枝し、高さ 5~20cm になる。葉は 5~10 個が互生し、狭披針形、長さ 1~4cm、幅 1.3~4mm、先端は鋭頭、葉鞘は短く、長さ 2~8mm である。花期は 7~10 月、花序は最下 2~3 個を除く葉の葉腋につき、小型で頭状、長さ、幅とも 2~5mm、密に小穂をつける。小穂は長さ 1.2~2mm、淡緑色、小花は単性で、花被片はない。果実は球形で直径約 0.8mm、2 個の小さい 3 角状卵形の鱗片に包まれ、熟すと鱗片とともに脱落する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城 (小林 60156, 1996-9-21)。西：24 豊田東部 (村松正雄 25301, 2010-8-19)。16 豊橋南部 (細谷町, 芹沢 56673, 1990-8-28) にもあったが絶滅した。13 豊川 (旧一宮村足山田, 鳥居喜一 10759, 1947-10-12, HNSM)、15 豊橋北部 (岩田町葦毛, 鳥居喜一 8940, 1952-10-5, HNSM)、23 藤岡 (井波一雄 s.n., 1959-9-13, CBM75885)、37a 瀬戸 (曾野~余床, 井波一雄 s.n., 1955-10-15, CBM157413)、50 名古屋北部 (守山区上志段味, 高木順夫 s.n., 1981-10-3) で採集された標本もある。

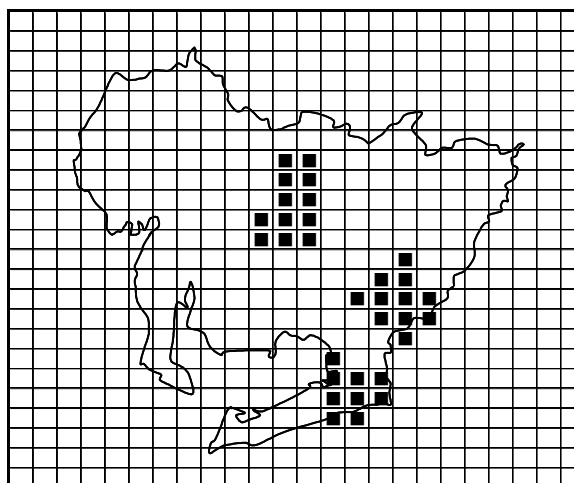
#### 【国内の分布】

本州 (千葉県以西)、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア、インド、オーストラリア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湿地の、半裸地状の場所に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

2 カ所で確認されているが、新城の方はごく最近の状況が不明である。豊橋南部では、湿地の富栄養化により大形の草本が繁茂し、被陰されて絶滅した。

### 【保全上の留意点】

湧水湿地を、水源部の地形を含めて保全することが必要である。また、一般的には湿地周辺の森林化の進行が富栄養化の原因になっていると思われるので、周辺の樹木を伐採して持ち出し、やせ山状態を維持することも必要である。

### 【特記事項】

小型で目立たない植物なので、調査の際には注意が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.254, 平草本 I p.168, 平新版 I p.342, 環境省 p.584, SOS 旧版 p.108.



**サギスゲ** *Eriophorum gracile* K.Koch subsp. *coreanum* (Palla) Hulten

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。寒冷地の湿原に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、開発行為の影響で危機的な状況である。

【形態】

多年生草本。長くはう地下茎がある。地上茎は株をつくらず、高さ 20～50cm、鈍い 3 稜がある。葉は茎の基部につき、葉身は針状、通常茎より短く、基部は鞘となる。花期は 6～8 月、小穂は茎の先端に 3～6 個つき、ほとんど無柄のものから長さ 3cm 程度の柄があるものまであり、花時には長楕円形、長さ 5～10mm、鱗片は長楕円形で鈍頭、淡灰黒色である。果実は倒披針状楕円形、長さ 3～3.5mm、花被片は多数あり、果時には白色の綿毛状となって長さ 2cm ほどに伸び、そのため小穂は倒卵形の白いかたまりになる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：11 作手 (芹沢 79694, 2005-5-15)。

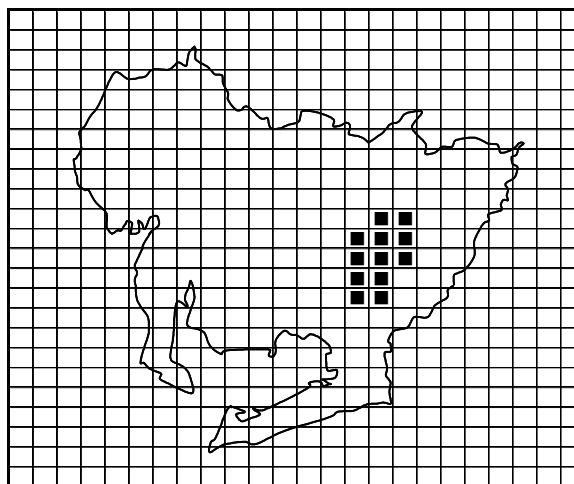
【国内の分布】

北海道および本州 (近畿地方以北)。

【世界の分布】

北半球の北部に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の湿原に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

旧作手村の中でも 1 カ所に生育しているだけで、個体数もそれほど多いものではない。道路建設により湿地の相当部分が埋め立てられ大きな影響を受けたが、その後は小康状態のまま存続している。

【保全上の留意点】

旧作手村には多数の湿地があったが、その多くは開拓等により埋め立てられ、良好な自然状態のまま残存しているものは僅かである。本種の生育地もその僅かな場所の一つであり、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、綿毛状の花被片を白鷺に例えたものである。

【関連文献】

保草本Ⅲ p.223, 平草本 I p.176, 平新版 1 p.346, SOS 旧版 p.106, SOS 新版 p.62,64.

## イッスンテンツキ *Fimbristylis kadzusana* Ohwi

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 18。千葉県の一部と本地域に固有の希少種で、県内でも生育地は極めて少なく、また減少傾向も著しい。

### 【形態】

1 年生草本。茎は束生し、高さ 10～25cm になる。葉は叢生し、線形、長さ 3～8cm、幅約 1mm、葉鞘は無毛である。花期は 9～10 月、小穂は茎の先端に 1～6 個つき、ほとんど無柄のものから長さ 5cm 程度の柄があるものまであり、長楕円形、長さ 5～12mm、褐色で光沢がなく、鱗片は長楕円形、やや太い緑色の中肋が短く突出する。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ約 1mm、熟して黒褐色となる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：12 新城（芹沢 78862, 2003-9-20）。16 豊橋南部（野依町, 芹沢 57490, 1990-10-9）にもあったが、この場所では絶滅した。

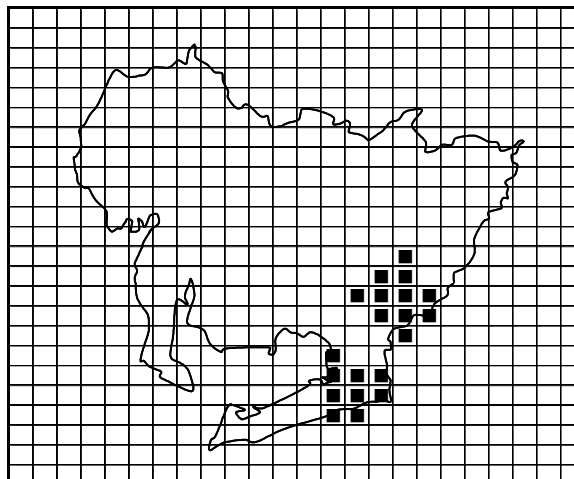
#### 【国内の分布】

本州（千葉県、静岡県西部、愛知県東部）に稀に生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の半裸地状の場所に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

新城には小群落があったが、遷移の進行により裸地状の場所が消失することが懸念される。2018 年に現地に行ったときには見当たらなかったが、まだ残存しているらしい。豊橋南部では湿地が乾燥化して草本や陽性低木が繁茂し、絶滅した。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、本種以外にもこの地域を特徴づける植物が集中して生育している。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。

### 【特記事項】

小型の植物なので 1 寸テンツキと命名されているが、よく育ったものは高さ 25cm（約 8 寸）くらいになる。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.232, 平草本 I p.174, 平新版 1 p.348, 環境省 p.165, SOS 旧版 p.107, SOS 新版 p.110,112.

## ナガボテンツキ *Fimbristylis longispica* Steud.

### 【評価理由】

低湿地性の植物で、愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。現存は確認できないが、隣接地に生育しているので、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価する。

### 【形態】

多年生草本。茎は少数が束生して直立し、やや硬く、高さ 50～80cm になる。葉は叢生し、線形、幅 2～4mm、葉鞘は無毛である。花期は 8～10 月、花序は一部複散形状、枝は長いもので 10 cm に達し、苞は葉状で長いものは 25cm に達する。小穂は細長い楕円形～披針形、長さ 7～15mm、直径 2.5～3mm、黄褐色～淡褐色で、濃い栗褐色の部分はほとんどない。果実は広倒卵形でレンズ状、長さ約 1mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：58b 弥富 (芹沢 49718, 1988-8-19)。

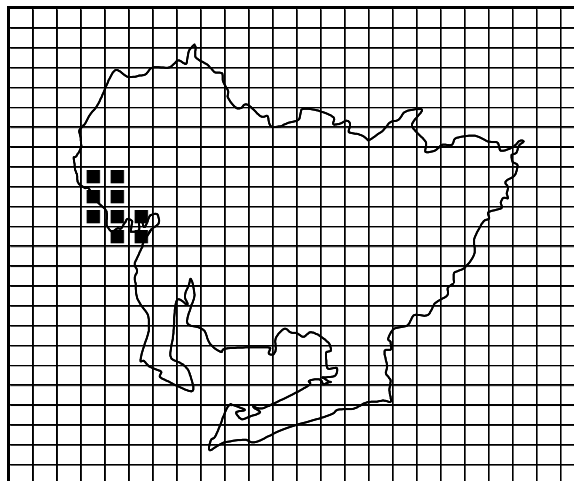
#### 【国内の分布】

本州 (伊豆諸島および中部地方以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸、マリアナ諸島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

海岸近くの低湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    | ○  |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

木曾川河口部の 1 カ所に少数個体が生育していた。隣接する三重県側にはややまとまった群落があり、その端が辛うじて愛知県内に達しているという状況であったが、河川敷の開発のため生育していたヨシ群落が消失し、現在は生育が確認できない。厳密には絶滅であるが、そのうちに分布を拡大してくる可能性はある。

### 【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。とりわけ本種が生育するような河口部では、護岸や埋め立てが進み、自然状態が残されている場所は僅かである。現在ヨシ群落が残されている場所は、帯状の狭い場所でも、注意して保全する必要がある。

### 【関連文献】

保草本Ⅲ p.234, 平草本 I p.175, 平新版 1 p.349, SOS 旧版 p.107.

## ミクリガヤ *Rhynchospora malasica* C.B.Clarke

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 17。全国的に減少傾向の著しい湿地性植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。地下茎は長くはう。茎は通常単生して直立し、高さ 40~100cm、中部に多数の葉をつけ、花序のつかない茎もやや伸長する。葉は互生し、幅広い線形、幅 5~10mm、先は長くとがり、下部は長い鞘となる。花期は 6~7 月、頭状花序は球状で直径 1.5cm、無柄、茎の上部に 2~5 個がやや離れてつく。小穂は披針形、長さ 6~7mm、黄褐色である。果実は長さ約 2mm、刺針状花被片は 6 個で、長さは果実本体の 2 倍程度である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：15 豊橋北部（永田芳男 s.n., 2001-9-17）。尾：50 名古屋北部（田代、井波一雄 s.n., 1934-10-14, CBM72362）で採集された標本もある。

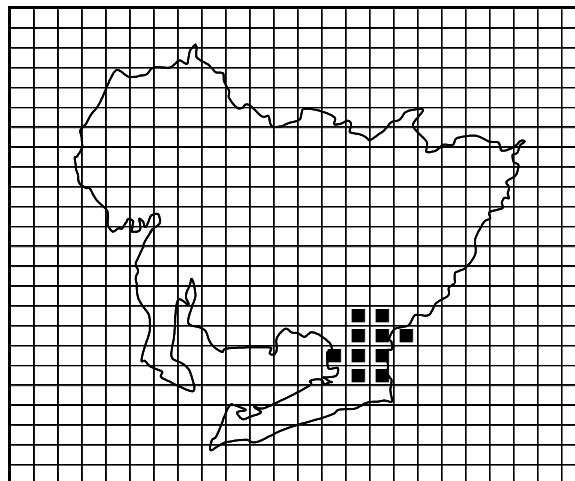
#### 【国内の分布】

本州（東海地方以西）、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、マレーシア。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地の湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部（葦毛湿原）では、20 年ほど前には 2m<sup>2</sup>ほどのまとまった小群落があったが、イヌツゲやコシダが侵入して圧迫された。現在では僅かに残存しているだけと思われる。

### 【保全上の留意点】

イヌツゲなどの侵入は湿地の乾燥化に伴う遷移であり、本質的には水源部の森林を伐採してやせ山状態を回復し、水収支の回復を図る必要がある。ただし、本種に関しては、県内では他に自生地がないため、対症療法的にイヌツゲなどを除去し、個別的な保全を図るべきである。試しに一部のイヌツゲを除去したところ、個体数はやや増加したという。

### 【特記事項】

「日本の野生植物」I 152 図版には、葦毛湿原で 1972 年に撮影された写真が掲載されている。

### 【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.141. 名古屋営林局, 名古屋.

### 【関連文献】

保草本Ⅲp.252, 平草本 I p.170, 平新版 1 p.353, 環境省 p.339, SOS 旧版 p.107, SOS 新版 p.107,109.

# ハタベカンガレイ *Schoenoplectiella gemmifera* (C.Sato, T.Maeda et Uchino) Hayas.

## 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。2004 年に新種として記載されたカンガレイ類の 1 種で、栃木県から九州中部まで分布しているが稀である。愛知県では生育地が極めて少ない。一時底土がさらわれて消失状態になったが、その後復活した。

## 【形態】

多年生草本。カンガレイに似ているが、通常流水中に生じ、常緑性で、茎の先端からしばしば無性芽を生じ、その無性芽と茎の基部に葉身のある葉を生じ、雌ずいの柱頭の多くが 2 本であることで異なる。苞は短く、通常斜めに伸びる。ただし、愛知県のものは、緩やかな流水中に生育しているが、形態は線形葉も無性芽もつけていない止水型である。柱頭の多くが 2 本であるという特性は流水型と変わらない。

## 【分布の概要】

### 【県内の分布】

東：11 作手 (小菅崇之 s.n., 2010-9-25)。

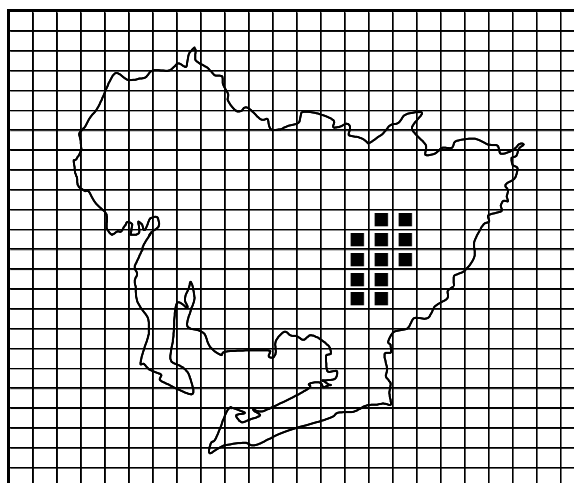
### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



## 【生育地の環境／生態的特性】

通常は他のカンガレイ類と異なり流水中に生じ、線形葉と無性芽をつける。愛知県の自生地は、谷戸田最上流部の小水路である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  | ○  |    |    |    |

## 【現在の生育状況／減少の要因】

20m ほどの範囲に数十株程度の個体が生育していた。水路の整備により底土をさらわれて一時消滅したが、その後復活した。

## 【保全上の留意点】

自生地の谷戸田と水路を保全することが必要である。

## 【関連文献】

環境省 p.588.

Maeda, T., C.Sato and A.Uchino. 2004. Variation of *Schoenoplectus gemmifer* in morphological comparison with *S. mucronatus* and *S. triangularis*. J.Jpn. Bot. 79:29-42.

Sato, C., T.Maeda and A.Uchino. 2004. A new species of *Schoenoplectus* sect. Actaeogeton (Cyperaceae). J. Jpn. Bot. 79:23-28.

ミズタカモジ *Elymus humidus* (Ohwi et Sakam.) A.Lowe

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水田雑草で、愛知県でも生育地が少ない。

【形態】

多年生草本。稈は束生し、高さ 40～70cm になるが、のちに倒れ、各節から新苗が出て、翌年の株となる。葉は互生し、葉身は線形、長さ 7～15cm、幅 3～7mm、葉鞘の外側は無毛、葉舌は長さ 0.7mm 程度である。花期は 5 月、花序は穂状で直立し、長さ 10～20cm、小穂は無柄、中軸に圧着し、長さ 17～22mm、はじめ淡緑色でのちに紫褐色を帯び、小花は数個で、護穎は長さ 9～12mm、無毛、先端に長さ 2～3cm の芒があり、内穎は護穎と同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：49a 岩倉 (山崎玲子 1401, 1996-5-14)、49d 清須 (芹沢 77360, 2001-5-21)、54 一宮西部 (渡辺幸子 4231, 2000-5-16)、55 稲沢 (水野峰子 291, 1994-5-8)。4 カ所で採集されているが、いずれもごく最近の状況は確認されていない。上記の個体数・集団数階級は見込み値である。

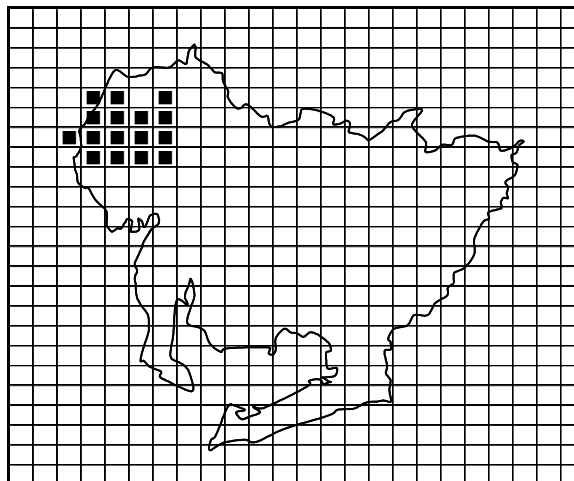
【国内の分布】

本州および九州に生育する。

【世界の分布】

日本および中国大陆に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

平野部の、耕起前の水田や休耕地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

一宮西部 (旧尾西市) には比較的多く生育していた。他の 3 カ所は小群落であった。過去からの増減は情報が少なくよくわからないが、おそらくは農地改良によって湿地が減少すると共に、田植え機の普及によって水田の耕起時期が早くなり本種の開花・結実期と重なるようになったため、急激に減少したのではないと思われる。平野部に生育するため開発の影響も大きく、水田の宅地化によりすでに絶滅した場所もあると思われる。

【保全上の留意点】

現実に生産活動が行われている場所に生育しているだけに、保全はなかなか困難である。現在生育している場所でも、いつまで現状のままの水田耕作が続くかわからない。市街地化の進行に伴う農地の減少や水の汚染、帰化植物の増加による圧迫など、懸念材料も多い。保険的措置として、公的機関の手による人為的な系統保存も考慮する必要がある。

【特記事項】

直立する太い花序が特徴である。

【関連文献】

平草本 I p.117, 平新版 2 p.51, 環境省 p.563, SOS 旧版 p.98+図版 25.  
長田武正. 1989. 日本イネ科植物図譜 p.426-427. 平凡社, 東京.

エンコウソウ *Caltha palustris* L. var. *enkoso* H.Hara

【評価理由】

水湿地に生育する植物で、愛知県では生育地が少ない上に、園芸目的の採取により減少している。現存は確認できないが、まだ残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A類と評価した。

【形態】

水中や湿地に生える多年生草本。根出葉は長い柄があり、葉身は円心形～腎円形、長さ幅ともに 5～10cm、基部は深くへこみ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花茎は直立し、高さ 20～50cm、上部に少数の茎葉をつける。花期は 5～6 月、花は茎の先端に数個つき、がく片は黄色、5～7 枚、楕円形、長さ 15mm 程度である。花後、花茎が倒れるように曲がって地につき、節から発根し、冬になって花茎が枯れると独立した植物になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武（小林 41835, 1993-4-25）、20 足助（山崎玲子 2153, 2000-5-8）に生育していたが、どちらの場所も現存を確認できない。また稲武は、植栽起源だったかもしれない。24 豊田東部（山崎玲子 2964, 2004-5-18）などで採集された標本もあるが、これらは移入起源と思われる。

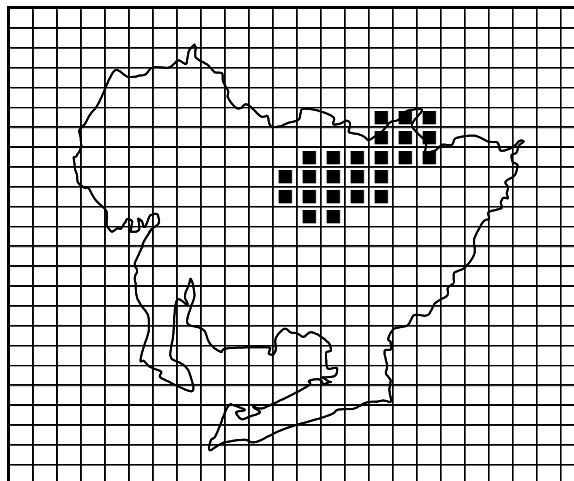
【国内の分布】

北海道、本州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本。種としては北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

水温の低い、清冽な小水路、池沼の中やその周辺に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  | ○  |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

どちらの群落でも園芸目的の採取・持ち出しが行われていて、これが減少の主要因であったと思われる。豊田市東部のものはおそらく移入で、本来の自生ではない。このような移入は自然環境情報の混乱を招くおそれがあり、一般的に言えば望ましいことではない。もともとその場所にはないものは、「ない」のが自然の姿であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

日本産リュウキンカ類の分類については、今後詳細な検討が必要である。和名は、長く伸びた花茎が手長猿の手のようなことからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.216, 平草Ⅱp.58, 平新版 2 p.140.

コバノリュウキンカ *Caltha palustris* L. var. *pygmaea* Makino

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 17。温帯域の水辺に生育する植物で、愛知県では生育地が極めて少ない上に、園芸目的の採取とシカ被害により激減している。

【形態】

水中や湿地に生える多年生草本。根出葉は心円形～腎円形、長さ幅ともに 3cm 程度、基部は深くへこみ、辺縁には低い鈍鋸歯がある。花茎は直立し、高さ 15cm 程度、上部に少数の茎葉をつける。花期は 5～7 月、がく片は黄色で通常 5 枚である。花茎が倒れて発根し、栄養的に繁殖することはない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 88439, 2013-6-4)。1 カ所に小群落がある。

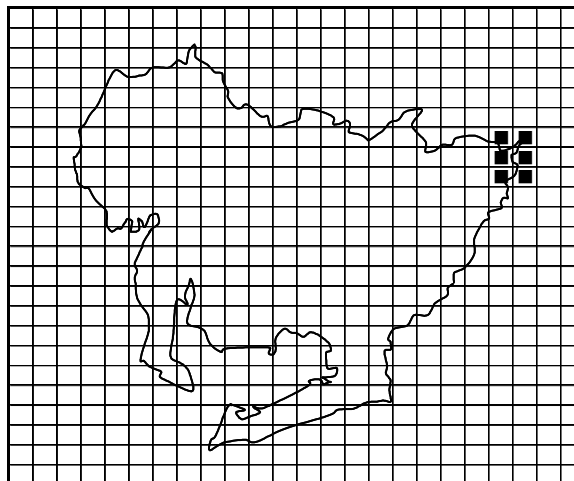
【国内の分布】

本州および九州に分布するリュウキンカの特に茎葉が小さい一型であるが、正確な分布域ははっきりしない。

【世界の分布】

リュウキンカは、日本および朝鮮半島に分布する。種としては北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

浅い水中に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  | ○  |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数ももともと多くない。園芸目的の採取により激減しているだけでなく、ニホンジカによる食害が著しい。小林 (2006) は「食害は認められず」と記述しているが、2008 年と 2013 年に調査したときには被害甚大で、完全な状態の株はほとんど見られなくなっていた。

【保全上の留意点】

シカの食害を防止するため、緊急に保護柵を設置するべきである。その一方でこれ以上の採取やカメラマン、自称自然愛好家による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

典型的なリュウキンカは、愛知県では知られていない。日本産リュウキンカ類の分類については、今後詳細な検討が必要である。彩色画は、2009 年版図版 2 に掲載されている。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.43. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

平草 II p.58, 平新版 2 p.140, SOS 旧版 p.49, SOS 新版 p.67,69.



オキナグサ *Pulsatilla cernua* (Thunb.) Bercht. et C.Presl

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 15。総点は 15 であるが、危機的状況を考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価する。大陸系の草地性植物で、全国的にも愛知県でも、園芸目的の採取により著しく減少している。

【形態】

多年生草本。根は太く、地中深く伸びる。根出葉は束生し、長い葉柄があり、葉身は 2 回羽状複葉、小葉は深裂し、さらに欠刻がある。茎ははじめ高さ 10cm 程度であるが、花後伸長して 30~40cm になり、茎葉は 3 枚が輪生し、無柄、基部は多少合着し、葉身は線状の裂片に分裂する。根出葉や花茎には長い白毛がある。花期は 4~5 月、花は茎の先端に 1 個つき、鐘形で下向きに開く。がく片は 6 枚で長楕円形、外面は白毛で覆われ、内面は暗赤紫色。花柱は花後伸長して、果時には長さ 3~4cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東三河の 2 区画、西三河の 1 区画、尾張の 1 区画に、それぞれごく少数の株が生育しているだけで、しかもいずれもごく最近の状況は確認されていない。かつては県中部の丘陵地、低山地に点在していたらしく、東: 1 富山(大谷, 鳥居喜一 14389, 1943-7-18, HNSM)、12 新城(宇利峠, 恒川敏雄 51, 1957-5-5, TMNH)、15 豊橋北部(石巻萩平, 恒川敏雄 s.n., 採集日不明, TMNH)、西: 20 足助(阿摺, 井波一雄 s.n., 1955-4-10, CBM75421)、22 小原(北永太郎, 井波一雄 s.n., 1933-4-29, CBM222638)、23 藤岡(井波一雄 s.n., 1955-4-10, CBM75394)、尾: 50 名古屋北部(志段味村竜泉寺, 井波一雄 s.n., 1933-4-29, CBM222638)などで採集された標本があり、大原(1971)は豊田、蒲郡等も産地としてあげている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

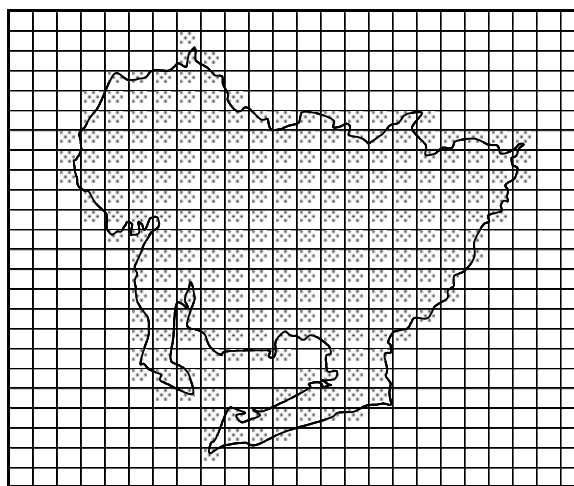
【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆。

【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。

要配慮地区図



|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

園芸目的で集中的に採取されたために激減し、現在は目につきにくい所にごくわずかに残存しているだけである。副次的な要因としては、里草地の減少もあげられる。全国的にもほぼ同ような状況で、九州中部以外では容易に見ることができなくなっている。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

オキナグサの名は、果時の白い残存花柱が老人の白髪のようなからである。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.62. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草Ⅱp.229, 平草Ⅱp.70, 平新版Ⅱp.154, 環境省 p.408, SOS 旧版 p.50+図版 13.

## タマカラムツ *Thalictrum watanabei* Yatabe

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 17。地理的な分化が著しいミヤマカラムツ群の 1 種で、全国的に見ても希少であり、また愛知県は分布域の東限に近い。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。高さ 20～30cm になる。根はところどころ球状または紡錘状に肥大する。根出葉は 1 個で、花期にも残り、2～3 回 3 出複葉、小葉は薄く、長さ 1～2cm、基部は切形～円形、裏面は灰白色である。茎葉は 2～3 個つき、根出葉に比べて小さい。花期は 6～8 月、花は散房状の花序につき、白色または淡紫色をおびる。がく片は 4～5 個、倒卵形で長さ 2.5mm、花期には脱落する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：7 設楽東部（芹沢 61444, 1992-5-17）。  
1 カ所に、ごく少数の個体が生育していた。

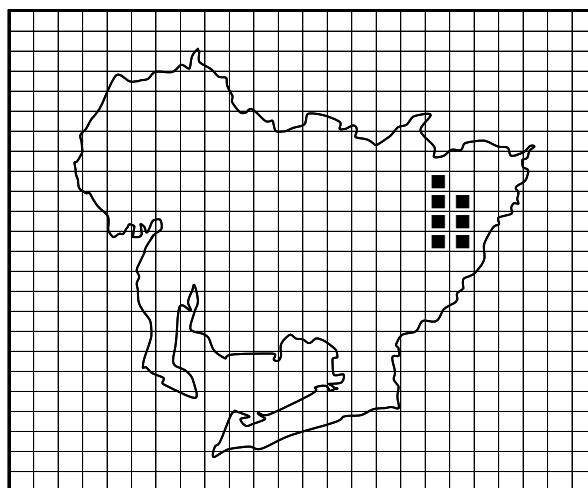
#### 【国内の分布】

本州（東海地方、近畿地方）、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩上に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

ごく狭い範囲に数株が細々と生育していたが、ごく最近の状況は確認されていない。当面開発が想定される場所ではないが、山草愛好家に見つかれば絶滅は必至である。

### 【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

根にふくらみがあるためタマカラムツと名付けられたが、あまりよい名とは思えない。

### 【関連文献】

保草Ⅱ p.239, 平草Ⅱ p.83, 平新版 2 p.164, 環境省 p.412, SOS 旧版 p.51+図版 2.

## オグラノフサモ *Myriophyllum oguraense* Miki

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が少ない。

### 【形態】

多年生でほぼ沈水性の水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ 1m くらいになる。水中葉は通常 4 枚が輪生し、長さ 2~5cm、幅 1~3.5cm、羽状に全裂し、裂片は糸状である。花期は 5~7 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は白くて小さく、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。花序の葉はやや小さく、淡緑白色である。殖芽は細長い棒状、長さ 2.5~8cm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西：31 幸田 (小林 62818, 1997-11-1)。48 春日井 (芹沢 78430, 2002-11-26)、49d 清須 (芹沢 81098, 2006-9-29)、50 名古屋北部 (植松正和 s.n., 2001-12-12)、52 名古屋南部 (芹沢 85342, 2009-11-1)、54 一宮西部 (芹沢 74404, 1999-10-27)、56a あま (芹沢 82640, 2000-10-11) などにも似たものがあるが、これらは殖芽がやや太くて短く、フサモとの雑種と思われる。

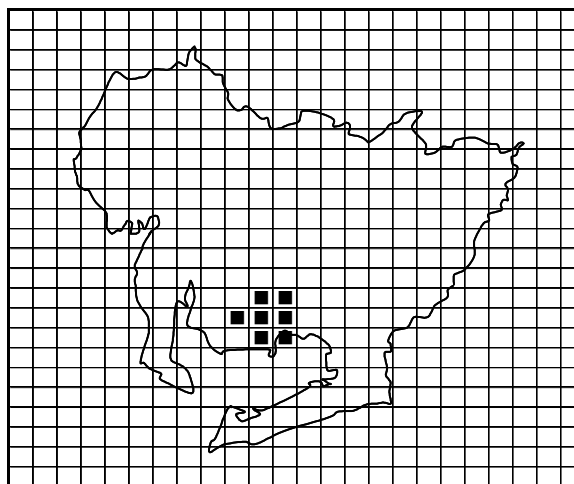
#### 【国内の分布】

本州 (茨城県、新潟県以西)、四国、九州に分布する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や平野部の池沼、水路に生育する。やや富栄養の、しかし人為的に汚染されていない水域に生育する植物である。愛知県の生育地はため池である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    | ○  | ○  |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

詳しい生育状況は不明である。すでに絶滅している可能性もある。

### 【保全上の留意点】

ため池の水質の維持が必要である。

### 【特記事項】

フサモ *M. verticillatum* L. に似ているが、花序の葉が緑白色であること、殖芽が長く手ざわりが硬いことなどで区別できる。フサモも過去の文献では散見されるが、愛知県産の確実な資料は確認できない。和名は、最初の発見地である京都の巨椋池に因む。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.36, 平草本Ⅱ p.271, 平新版 2 p.232、環境省 p.458, SOS 新版 p.127,129.  
角野康郎. 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京.

シバハギ *Desmodium heterocarpon* (L.) DC.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。暖地性の草地性植物で、愛知県では個体数が少なく、生育できる場所も急激に減少している。

【形態】

草本状の落葉性半低木。茎は根元でよく分枝し、地面をはい、先端は斜上し、長さ 1m に達する。葉は互生し、3 出葉、頂小葉は側小葉よりやや大きく、倒卵形～楕円形、円頭またはやや凹頭、長さ 1.5～4cm、幅 1～2cm である。花期は 8～10 月、枝の先端や葉腋に長さ 5～10cm の総状花序をつけ、花は紅紫色、長さ 4～5mm である。果実は 5～8 小節果からなり、扁平な広線形で長さ 1.5～2cm、あまり曲がらず、小節果は長さ、幅とも 3mm 程度、若時は幅広く接着するが熟すとばらばらになり、全面にかぎ毛があり、動物に付着する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 10 鳳来北西部 (小林 53893, 1994-9-17)、12 新城 (小林 39504, 1992-9-19)、13 豊川 (小林 39206, 1992-9-11)、18 田原西部 (小林 73643, 2001-7-21)。西: 28 額田 (千賀敏之 s.n., 2010-8-12)、29 岡崎北部 (芹沢 68057, 1993-9-25)、31 幸田 (壁谷祥和 165, 1993-9-12)。ただしほとんどの場所でごく最近の状況が確認されておらず、既に絶滅している場合も多いと思われ、上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。14 蒲郡 (三ヶ根山, 加藤等次 s.n., 1956-9-23) で採集された標本もある。

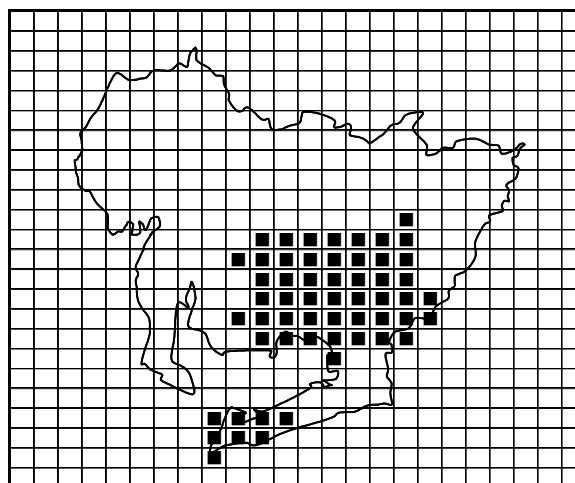
【国内の分布】

本州 (静岡県以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾、中国大陸、フィリピン、インドシナ、インド、ヒマラヤ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。紀伊半島南部まで行けば路傍などの攪乱地にも見られるが、愛知県の生育地はいずれもやや安定した里草地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

他の多くの小形草地性植物と同様、採草場が利用されなくなるにつれ繁茂した大形の草本に被陰されることが多く、急激に衰退している。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地 (いわゆるボタ) は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

クサハギとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.101, 平草本Ⅱ p.203, 平新版 2 p.265, SOS 旧版 p.59.

## ヒロハノカワラサイコ *Potentilla nipponica* Th.Wolf

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 18。減少傾向の著しい草地性の植物で、愛知県は分布のほぼ南限にあたる。

### 【形態】

多年生草本。茎は 2～5 本が束生して斜上し、白毛があり、長さ 20～35cm になる。葉は互生し、奇数羽状複葉、小葉は 7～13 個で楕円形、長さ 1～2.5cm、羽状に中裂し、裂片は鋭～鈍頭、裏面は綿毛があって白色になる。小葉の間に小さい葉片がつくこともある。花期は 5～7 月、茎の先に分岐した花序をつけ、直径 15～18mm の黄色の花を咲かせる。がく片は 5 枚で狭卵形、長さ約 5mm、副がく片も 5 枚でやや小さく、背面に白い綿毛が多い。花弁は 5 枚で広倒卵形、先端はへこむ。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：43 常滑 (芹沢 77370, 2001-5-25)。1 カ所にごく少数の個体が生育していたが、ごく最近の状況は確認されていない。16 豊橋南部 (大崎, 川敏雄 s.n., 1950-6-17, HNSM) で採集された標本もある。

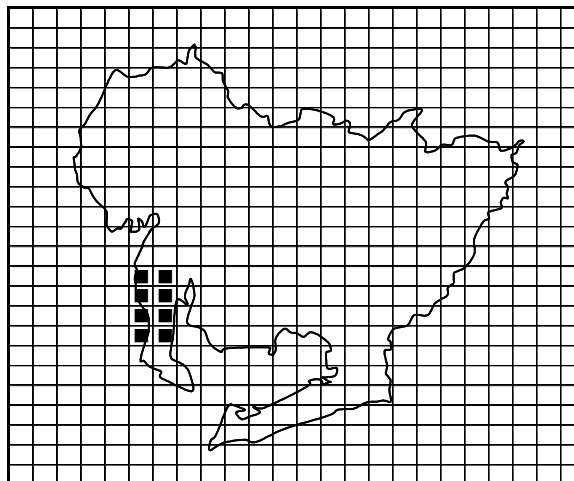
#### 【国内の分布】

北海道および本州 (中部地方以北) に分布する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい草地や砂礫地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

愛知用水に沿った草地に、僅かに生育していた。用水の改修によりすでに絶滅した可能性もある。

### 【保全上の留意点】

草地の保全が必要である。特に愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事に際しては、これらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

### 【特記事項】

カワラサイコと異なり、通常河川敷には見られない。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.134, 平草本Ⅱ p.180, 平新版 3 p.36, 環境省 p.437, SOS 旧版 p.58, SOS 新版 p.87,89.

マメナシ *Pyrus calleryana* Decne.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。著しい隔離分布種で、日本では本地域だけに生育する。分布の中心が名古屋市内やその近郊の丘陵地で開発圧力が極めて強いいため、総点は 15 であるが絶滅危惧 I A 類と評価する。

【形態】

落葉性の小高木。よく分枝し、高さ 8~10m になる。樹皮は灰紫黒色で、縦に割れ目が入る。葉は長枝に互生するか短枝にほとんど束生し、広卵形、卵形または卵状長楕円形、先端は鋭頭~尖鋭頭、基部はふつう円形、長さ 4~9cm、幅 3~6cm、辺縁に細かい鈍鋸歯があり、はじめ白色の軟毛があるが、後に無毛となる。花期は 4 月、花は白色で直径約 2.5cm、花弁は 5 枚、花柱は 2~3 個である。果実はほぼ球形、直径約 1cm、黄褐色で円形の小さい皮目が多数ある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾: 37a 瀬戸(日比野修 5492, 2003-4-16)、37b 尾張旭(村松正雄 27898, 2014-9-22)、38b 日進(半田多美子 2534, 1998-4-12)、41b 知多(芹沢 74321, 1997-9-30)、45 犬山(芹沢 69242, 1994-5-17)、47 小牧(日比野修 5092, 2000-4-16)、48 春日井(山田果与乃 664, 2001-4-8)、50 名古屋北部(芹沢 92723, 2017-7-29)、51 名古屋南東部(花岡 昭 126, 1993-9-19)。現存個体数の相当部分は、名古屋市内にある。西尾市からの報告もある(大原 1971)が、標本等は未確認である。

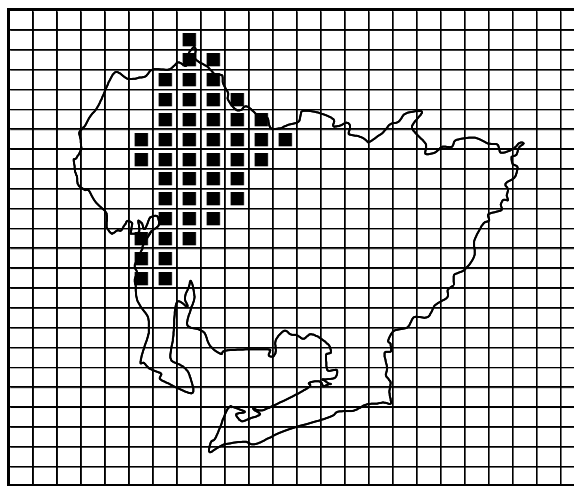
【国内の分布】

本州(愛知県、三重県)に分布する。長野県からの報告は誤りである(池谷 2003)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島中部、中国大陸中南部、ベトナム北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

ため池周辺などの湧水のある場所に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

最近でもいくつかの自生地は、宅地造成等により失われている。とげの多い木であるため、邪魔者扱いで伐採されることもある。名古屋南東部では、以前は多かったが、現在はわずかに残るのみである。その一方で、最大の自生地であった守山区の蛭池では、公園化により自然環境が破壊され、現存する個体は保護されても、繁殖できる状況は失われている。

【保全上の留意点】

本種は、愛知県を特徴づける植物の中でも特に危機的な種の一つで、体系的な保護対策が必要である。

【特記事項】

小牧市大草の自生地は県の天然記念物に指定されている。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 2 及びレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 1 に掲載されている。本種とナシの雑種であるアイナシは、37b 尾張旭(村松正雄 27835, 2014-9-12)、47 小牧(日比野修 4705, 1999-4-10)、50 名古屋北部(村松正雄 24875, 2009-8-30)などに稀に生育している。

【引用文献】

大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.71. 名古屋営林局, 名古屋.  
池谷祐幸. 2003. マメナシは長野県には分布しない. 植物研究雑誌 78: 177-178.

【関連文献】

保木本 II p.46, 平木本 I p.227, 平新版 3 p.81, 環境省 p.240, SOS 旧版 p.58+図版 15, SOS 新版 p.102,104.

## イワシモツケ *Spiraea nipponica* Maxim.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。愛知県の代表的な石灰岩地性植物。県内の生育地は 1 カ所だけで、個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 1~2m になる。葉は多型で、狭長楕円形、倒卵形、倒卵円形、広楕円形、楕円形などのものがあり、先端は円頭または鈍頭、長さ 1~4.5cm、辺縁は全縁または先端部に 2~3 個の鈍鋸歯があり、裏面は粉白色または淡色である。花期は 5~6 月、今年枝の先端の散房~複散房花序に、10~20 個の白色の花をつける。花は直径 6~7mm、花弁は 5 枚である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 15 豊橋北部 (石巻山, 芹沢 51921, 1989-6-17)。ごく狭い範囲に小群落がある。

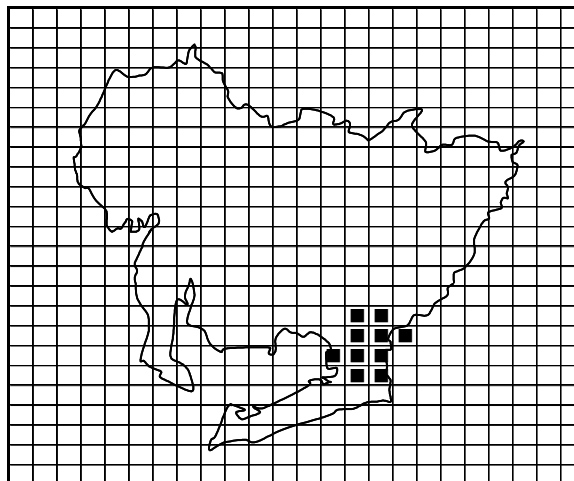
#### 【国内の分布】

本州 (近畿地方以東) の山地の岩場に生育する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩上に生育する。しばしば石灰岩地や蛇紋岩地に見られ、愛知県の生育地も石灰岩地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

自生地は国指定天然記念物として保護されているが、近年の夏の高温乾燥により衰弱傾向が著しい。また、現地は訪れる人が多く、道近くのものはいくつか折られている。岩登りなどの際に折られることもある。生育範囲が狭く個体数も少ないので、注意が必要である。

### 【保全上の留意点】

遊歩道整備等の際には、特に注意が必要である。ロッククライミング等の岩場利用に際しても十分な配慮が必要である。

### 【特記事項】

西日本では、トサシモツケ var. *tosaensis* (Yatabe) Makino、キイシモツケ var. *ogawae* (Nakai) Yamanaka などの固有変種が知られている。

### 【関連文献】

保木本Ⅱ p.93, 平木本Ⅰ p.184, 平新版 3 p.86, SOS 旧版 p.59+図版 8, SOS 新版 p.50,52.

ミヤコミズ *Pilea kiotensis* Ohwi

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 16。やや稀少な西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多汁質の 1 年生草本。茎の下部は地上をはって枝を分けるとともに不定根を出し、上部は斜上または直立して高さ 20~30cm になる。葉は対生し、長さ 6cm に達する柄があり、葉身は卵形、長さ 4~9cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形で左右非対称、片側は外に凸、片側は内に凸の曲線となり、辺縁には 4~8 個の大きな鋸歯がある。花期は 9~10 月、集散花序は葉腋から出て、茎の先端部につくものは雄花が多く、直径 8~15mm、下のものほど長い柄があつて全体として茎頂に集まり、それより下の葉腋につくものは雌花が多く、柄は短い。花序の柄は片側に毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾:50 名古屋北部(鳥居ちゑ子 2198, 2002-9-21)。1 カ所に小群落がある。2017 年の調査でも現存を確認した。

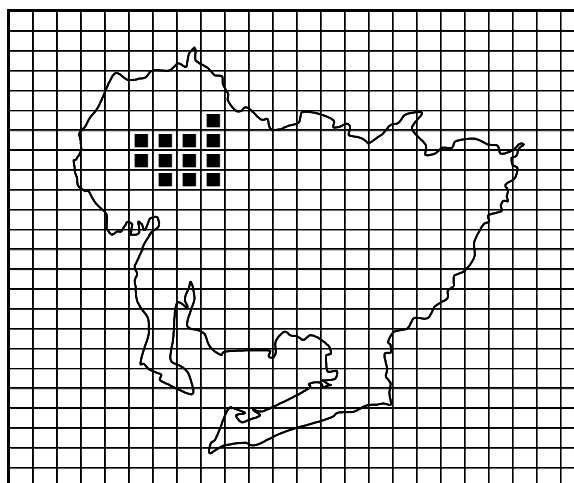
【国内の分布】

本州西部、九州北部。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの湿った林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    | ○  |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

小川の岸に小群落がある。現地は名古屋市内では奇跡的に開発を免れた、やや深山的な感じのする場所である。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すること、川の水質を維持することが必要である。目立たない植物なので園芸目的の採取は考えにくい、希少ということで多くの人に知られるようになれば、観察者や写真撮影者の踏み荒らしも懸念される。

【特記事項】

彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 2 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅱp.334, 平草Ⅱp.5, 平新版 2 p.350.



ヤチヤナギ *Myrica gale* L. var. *tomentosa* C.DC.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 18。愛知県の湧水湿地を特徴づける寒冷地系植物の中でも最も顕著なもので、著しく隔離的に分布する。県内では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

落葉性の低木。高さ 30~80cm になる。枝は黒褐色で、若枝には白色の軟毛がやや密に生える。葉はほとんど無柄、葉身は倒披針形~倒卵状長楕円形、長さ 2~5cm、幅 0.8~2cm、先端は円頭、基部はくさび形、先端部に少数の鋸歯があるほかは全縁、両面に軟毛があり、淡黄色の油点が散在する。雌雄異株で、花期は 3 月下旬~5 月、雄花序は長さ 7~10mm、雌花序は長さ 5~8mm となるが、愛知県では雄株しか知られていない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 17 田原東部(芹沢 51274, 1989-4-27)。1 カ所に小群落がある。13 豊川(一宮町大木, 芹沢 51220, 1989-4-22)と 16 豊橋南部(広見付近, 恒川敏雄 s.n., 1947-9-24, TMNH)にも生育していたが、前者は周囲の樹木の生長によって被陰され、後者は開発により生育していた湿地が破壊されて絶滅した。名古屋北部(東山動植物園の近く)にも自生状に生育している場所があったが、これは移植されたものである。尾瀬でさえ隔離分布となる本種が温暖な東海地方の低地に生育しているのは、極めて注目すべきことである。

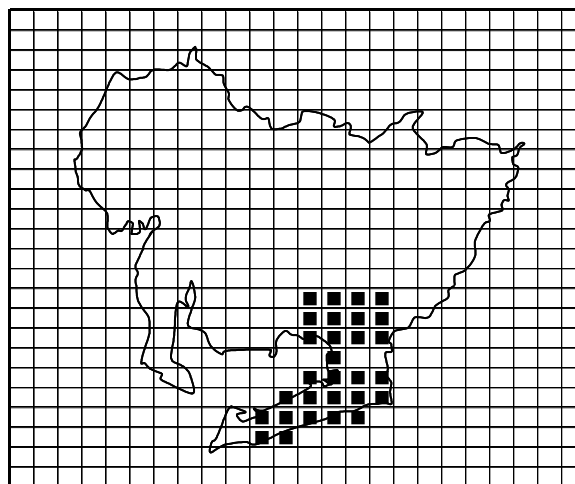
【国内の分布】

北海道、本州(東北地方北部、尾瀬、愛知県、三重県)。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島北部、シベリア東部。種としては北半球の寒冷地に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

泥炭湿地の、多少陸化が進んだ部分に生育する。ただし、愛知県と三重県の自生地は、湧水湿地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

田原(黒河湿地)では激減して数株しか残存していないが、現在は小康状態を保っている。湿地自体は県指定の天然記念物として保護されているが、富栄養化が進んでおり、将来の存続が懸念される。

【保全上の留意点】

黒河湿地は水源のはっきりしない湿地で、水質の維持が難しい。少なくとも上流側での負荷行為は回避する必要がある。

【特記事項】

本種は北海道の湿地では普通に見られるため、国レベルのレッドリストではリスト外になってしまう。愛知県および三重県の本種は、地方版レッドデータブックの必要性を示す典型的な事例として、しばしば取り上げられている。東京大学総合研究博物館(TI)には牧野富太郎氏が三河高師村で 1894 年 10 月 29 日に採集した標本が保管されており、「原頭湿漣ノ地ニ自生ス」と付記されている。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.350, 平木本Ⅰ p.27, 平新版Ⅱ p.100, SOS 旧版 p.44+図版 17, SOS 新版 p.98,100.

## ヒロハツリバナ *Euonymus macropterus* Rupr.

### 【評価理由】

温帯性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なかった。過去に生育していた場所を探索したが、確認できない。しかしまだ残存しているという情報があるので、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価する。

### 【形態】

落葉性の小高木。高さ4～6mになり、若枝は緑色でやや太い。葉は対生し、短い柄があり、葉身は倒卵形～倒卵状楕円形、長さ3～12cm、幅1.5～7cm、先端は急鋭尖頭、基部は円形～くさび形、両面とも無毛、辺縁には細鋸歯がある。花期は6～7月、花序は枝の下方の葉腋から生じて下垂し、長さ3～10cm、集散状に分枝して3～20花をつける。花は淡緑色で直径約6mm、花弁は4枚である。果実は4翼が横に著しく張り出し、翼を含めて幅2～2.5cm、高さ約1cm、種子は赤褐色または黄赤色の仮種皮に包まれる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2豊根(茶臼山、小林 36826, 1992-4-29)。最近の探索では確認できなかったが、まだ僅かに残存しているらしい。

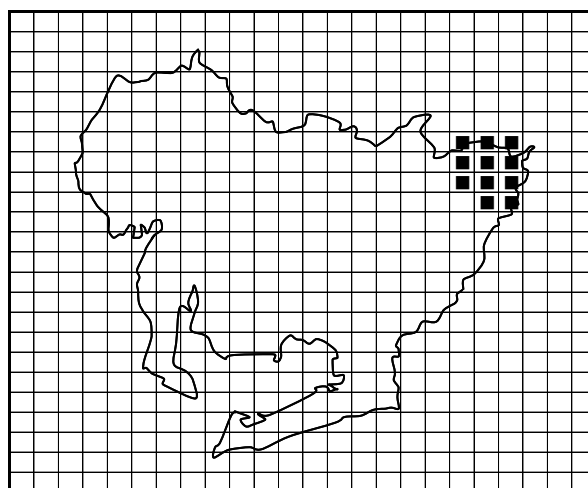
#### 【国内の分布】

北海道、本州(東北～中部地方、近畿地方南部、鳥取県東部)、四国に生育する。長野県まで行けば普通に見られる樹木である。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの落葉広葉樹林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

落葉広葉樹林内にごく少数の個体が生育していたという。

### 【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県内では温帯性の植物が集中して生育している場所であり、保全上の重要性も高い。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

### 【関連文献】

保木本Ⅰp.267, 保木本Ⅱp.38, 平新版Ⅲp.135.

## ハギクソウ *Euphorbia octoradiata* H.Lev. et Vaniot

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 17。全国的にも、また愛知県でも分布域の限られた希少な植物で、愛知県は国内で本種が確実に観察できる唯一の場所と思われる。

### 【形態】

多年生草本。茎は少数が叢生し、直立して時に分枝し、高さ 35～45cm になる。葉は多数密に互生し、倒披針形～狭いへら形、長さ 4～7cm、幅 5mm 前後、辺縁は全縁である。茎の先端には 5 枚の葉が輪生し、葉腋から散形枝を出し、各枝に杯状花序を頂生して、分枝を繰り返す。花期は 4～5 月、杯状花序の腺体は半月形、苞葉は黄色で菱状卵形～腎形である。果実の表面にはこぶ状の小突起が密生する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東:18 田原西部(芹沢 87588, 2012-5-14)。限られた範囲に生育しているだけである。13 豊川 (御津, 井波和大 s.n., 1935-5-11, TNS) で採集された標本もある。

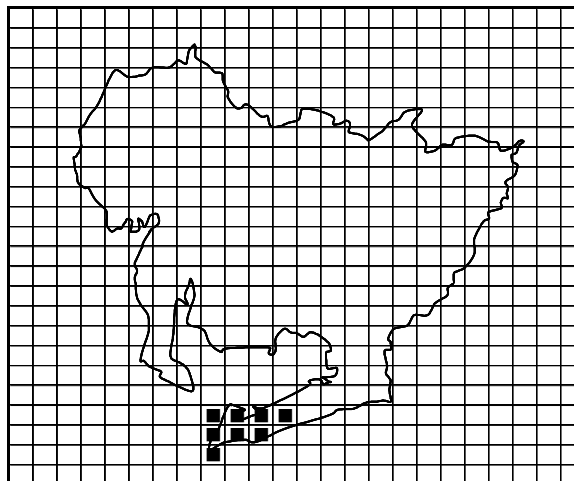
#### 【国内の分布】

本州 (東海地方) および九州の海岸部に生育するが、九州での最近の状況ははっきりしない。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

海岸の砂地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    | ○  |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

観光開発や砂防工事、道路建設等による生育地の直接的な破壊、あるいは砂防のため造林されたクロマツの生長に伴う砂丘の消失によって、本種が生育できる環境は極めて少なくなっている。比較的近年でも、防波ブロックを製造するため、不用意に自生地を破壊した例があった。西ノ浜では、風力発電所建設とそれに関連する工事によって生育地が破壊された。現在残された生育地は、特に注意深く保全していく必要がある。

### 【保全上の留意点】

土木工事等に際しては、特に注意を要する植物である。また、砂丘ややせ山のような自然・半自然環境は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。その一方で、園芸目的で採取されるおそれもあるため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

和名は、花後茎の先端に葉が密につき、キクの花に似た状態になるからである。彩色画は、2009 年版図版 1 に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.79, 平草本Ⅱ p.227, 平新版 3 p.156, 環境省 p.81, SOS 旧版 p.62+図版 30, SOS 新版 p.151,152.

キスミレ *Viola orientalis* (Maxim.) W.Becker

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。減少傾向が著しい大陸系の草地性植物で、愛知県は静岡県高草山に次ぐ分布の東限である。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 10~15cm になる。葉は根生するか茎の上部に接近して互生し、根生葉には長い柄があり、茎葉は柄が短く、葉身は心形、長さ 2.5~4cm、幅 1~3cm、先は短く鋭尖頭、辺縁には波状の鋸歯があり、表面には通常細毛がある。花期は 4~5 月、花柄は茎上の葉の葉腋から出て長さ 2~4cm、花は黄色、花弁は 5 枚で長さ 12~15mm、側弁に毛があり、唇弁と側弁の外側に褐色条がある。距は極めて短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 15 豊橋北部(芹沢 60960, 1992-4-9)。  
11 作手(高里城山, 鳥居喜一 4482, 1957-6-30, HNSM)と 14 蒲郡(御堂山, 井波一雄 s.n., 1963-4, CBM 72359)で採集された標本もある。36 西尾南部(幡豆洲崎山)にあったという報告もある(牧・岡田 1976)が、現地では確認できず、確実な資料も残されていない。

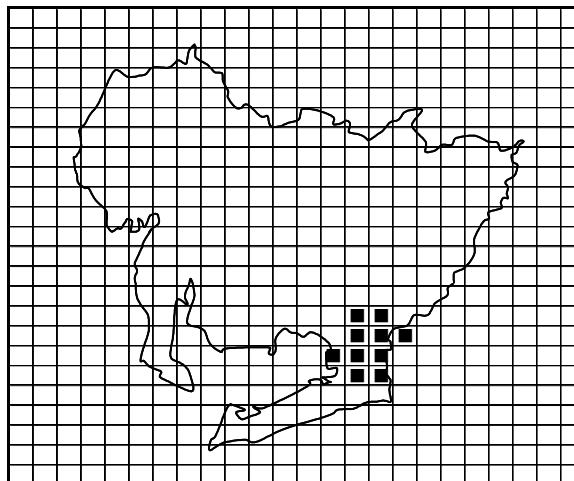
【国内の分布】

本州(東海地方以西)、四国、九州中北部に点在する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸(山東半島・東北部)、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山野の日当たりのよい草地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋の自生地では、かつては山が黄色になるくらいあったと言うが、最近は個体数も少なく、低木やササ類に覆われて絶滅寸前であった。刈り取りを行った結果ある程度回復したが、このようにすると今度は花が目立ち、園芸目的で採取される心配がある。

【保全上の留意点】

草地環境の維持が必要であるが、それと園芸目的の採取の防止はなかなか両立しない。よく知られている場所ではあるが、それでもこれ以上の採取とカメラマンや観察者の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際して慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

黄花のスミレとしては、暖帯域に生育する唯一の種である。

【引用文献】

牧 正吾・岡田 速. 1976. 幡豆町の自然 地質・植物編, 幡豆町. 47pp.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.53, 平草本Ⅱ p.252, 平新版 3 p.213, SOS 旧版 p.65+図版 12, SOS 新版 p.58,60.

シロスミレ *Viola patrinii* DC.

【評価理由】

大陸系の植物で、ホソバシロスミレ var. *angustifolia* Regel を区別すれば愛知県は分布域の南限になる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。現存は確認できないが、設楽町に残存している可能性があるため、定性的に絶滅危惧 I A類と評価する。

【形態】

多年生草本。地上茎はなく、葉は少数が束生してほぼ直立し、葉柄は葉身より長く、上部に狭い翼がある。葉身は三角状披針形～長楕円状披針形、長さ2.5～7cm、先端は鈍頭、基部は切形、辺縁には低い鋸歯がある。花期は4～6月、花柄は高さ7～15cmで、先端に1個の白色の花をつけ、花弁は5枚、長さ10～13mm、側弁には毛があり、唇弁には紫条がある。距は短く、長さ3～4mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：4津具(鈴木 学 1186, 1983-5-27)。この場所ではその後もしばらく生育していたが、最近では確認できない。設楽(区画不明)からも記録されている(小林 2006)。

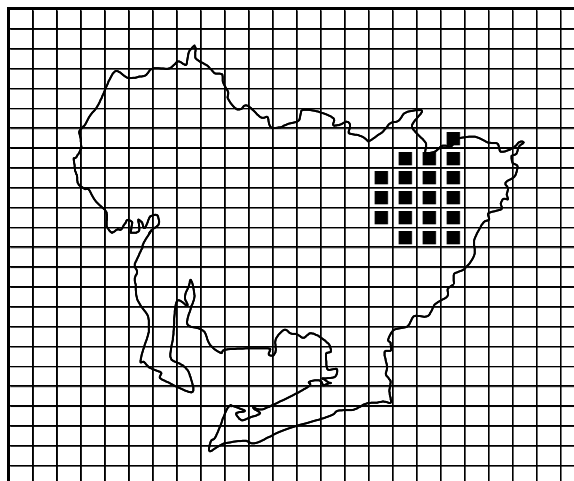
【国内の分布】

北海道および本州(中部地方以北)。本州(近畿地方以西)、四国、九州のものは、ホソバシロスミレとして区別されることが多い。

【世界の分布】

千島列島南部、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の日当たりのよい草地に生育する。愛知県の自生地は、明るい落葉広葉樹林内である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

津具では1カ所に小群落があった。設楽では草地状の尾根筋に約20株の群落があったという。

【保全上の留意点】

低木を刈り取り、自生地の光条件を維持する必要がある。

【特記事項】

県内の過去の文献では、しばしばアリアケスミレが本種として報告されているので、注意を要する。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.60, 171. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.58, 平草本Ⅱ p.245, 平新報 3 p.216, SOS 旧版 p.65.

マツバニンジン *Linum stelleroides* Planch.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1 年生草本。茎は直立し、上部で分枝し、高さ 40~60cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は狭長楕円形、長さ 1~3cm、幅 2~4mm、先端はとがり、基部はしだいに細まり、無毛で 3 脈がある。花期は 8~9 月、茎や枝の先端の集散花序に、直径約 1cm の淡紫色の花をつける。花弁は 5 枚、広倒卵形、長さ 5~6mm、果実は球形で直径 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東:12 新城(芹沢 87901, 2012-9-21)、15 豊橋北部(芹沢 64166, 1992-10-7)。各 1 カ所自生地があるが、個体数は少ない。9 鳳来南部(黄柳野, 鳥居喜一 3603, 1970-9-6, HNSM) で採集された標本もある。

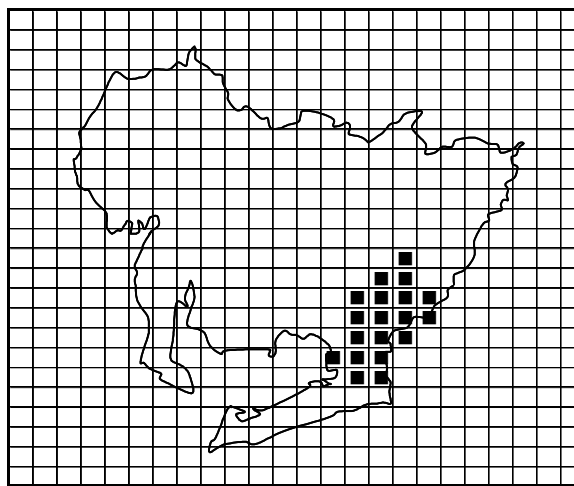
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア東部など。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の日当たりのよい草地に生育する。愛知県での自生地は超塩基性岩地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少なく、年による消長もある。自生地は草刈りがされなくなって徐々に森林化が進行しており、将来は楽観できない。

【保全上の留意点】

地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地(カヤ場)は、利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。愛知県の場合、超塩基性岩地は比較的状况がよいが、それでも徐々に森林化が進行している。稜線の草地は、防火帯としても眺望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.84, 平草本Ⅱ p.223, 平新版 3 p.228, 環境省 p.80, SOS 旧版 p.62+図版 13.

## ゲンナイフウロ *Geranium onoei* Franch. et Sav.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 17。分布域の南限になる植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。低標高地に生育する温帯性植物としても注目すべきものである。

### 【形態】

多年生草本。茎は高さ 40~60cm になり、葉と共に毛が多い。根出葉は長い柄があり、茎葉は 3~4 個、葉柄は上のものほど短くなる。葉身は幅 6~12cm、掌状に 5~7 深裂、各裂片は更に切れ込む。花期は通常 6~8 月だが愛知県のものは 5 月中旬から咲き、茎頂に集散状につき、紅紫色で直径 2.5~3cm、花弁は 5 枚で、長い花柱がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東： 3 東栄 (小林 51666, 1994-5-28)。

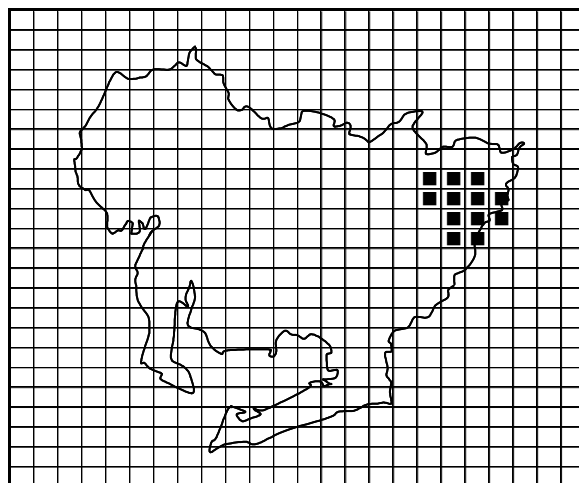
#### 【国内の分布】

北海道、本州 (伊吹山以北)。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

通常は開けた草地に生育するが、愛知県の生育地は道沿いの風穴入口である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【過去の生育状況／絶滅の要因】

数株生育していたという。ただし最近の調査では、季節が遅かったためかもしれないが、確認できなかった。

### 【保全上の留意点】

東栄町に点在する風穴は、分布上注目すべき温帯性植物が多く生育している。注意して保全する必要がある。

### 【特記事項】

「本来の自生に疑問は残る」 (小林 2006) と書かれているので今まで評価を避けてきたが、現地はそれなりに自然度の高い場所なので、リストに加えることにした。あるいはすでに絶滅 (EX) と評価するのが適切かもしれない。

### 【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 P.57. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.89, 平草本Ⅱ p.220, 平新版 3 p.250.

## ハナノキ *Acer pycnanthum* K.Koch

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 16。本地域を代表する湧水湿地性の固有種で、鑑賞価値も高い。県内では生育地も個体数も少なく、まとまった集団は 1 か所だけである。

### 【形態】

落葉性の高木。高さ 30m、直径 1.5m に達する。葉は対生し、長さ 3~8cm の柄がある。葉身は広卵形、老木の葉は切れ込まないが若木の葉は 3 裂し、長さ 4~8cm、幅 3~10cm、先端は鋭尖頭、基部は浅心形から広くさび形、掌状の 3 脈があり、辺縁には重鋸歯があり、裏面は粉白色をおびる。花期は 4 月、花序は束状で若枝の葉腋につき、雌雄異株、花は葉が展開する前に咲き、一つの花序に 3~6 個つき、暗紅色である。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ約 2.5cm、翼は直角ないし鋭角に開き、柄は長さ 6~7cm に伸びる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 2 豊根(芹沢 86694, 2011-4-10)、11 作手(芹沢 48476, 1988-5-13)。西: 21 下山(小林 57163, 1995-5-11)、22 小原(日比野 2632, 1994-9-19)。尾 37a 瀬戸(写真は「植物からの SOS」=SOS 旧版 図版 17)にもあるが、枝が高く良好な標本を採取できない。愛知県の木に指定されているが、県内では自生のは少ない。分布の中心は岐阜県東濃地方である。二次的に逸出したと思われる個体は、50 名古屋北部(村松正雄 29218, 2017-11-1)などにも生育している。

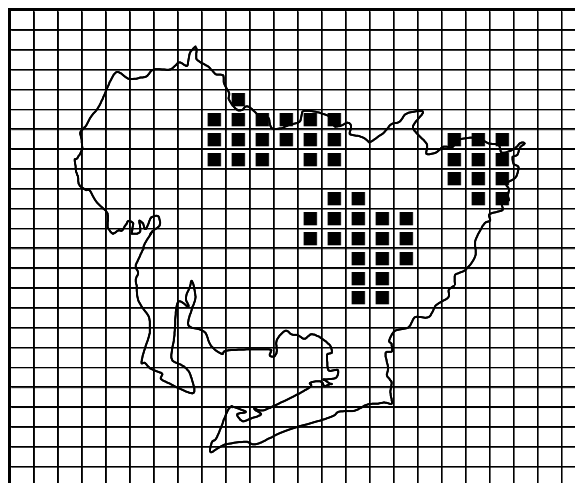
#### 【国内の分布】

本州中部。長野・岐阜・愛知三県の県境付近に自生し、長野県大町市に隔離分布している。

#### 【世界の分布】

日本固有種。近縁種が北アメリカ東部にあ

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

沢の源頭部などの湧水がある場所に生育する。点在することが多いが、小群落を作ることもある。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊根の自生地は十数個体の成木がまとまって生育しており、国の天然記念物に指定されているが、観光開発により林床が攪乱され、本来の自然の状態が失われて、次世代の若木は育たない状況になっている。その一方で周辺に由来のはっきりしない若木が多数植栽されているので、現在ある成木が枯死すれば、自然集団としては絶滅の運命にある。瀬戸は 3 個体、作手、下山、小原はそれぞれ伐採後に萌芽した 1 個体があるだけである。

### 【保全上の留意点】

本種は県の木としてあちこちに植栽されており、そのため分布情報の混乱が懸念される。自然環境下に植栽することは、原則として避けるべきである。どうしても植栽する必要がある場合は、どの自生地から採取した種子を、どこでどのように発芽させたものであるか明確にし、できれば遺伝的な調査も行い、記録を将来も散失しないような方法でしっかり残すべきである。

### 【特記事項】

本種は長命な樹木なので、10 年後に絶滅する可能性はない。しかし、IUCN 基準に示された 3 世代という期間で見れば、絶滅危惧 I A 類という評価は妥当であろう。豊根村のハナノキには「ふれるとたたりがある」という忌避伝承があり(伊藤 2008)、それが自生地の保全に役立っていたらしい。同地は「川宇連ハナノキ自生地」として国の天然記念物に指定されている。

### 【引用文献】

伊藤正英. 2008. ハナノキのフォークロア. 伊那民俗 (72): 2-4.

### 【関連文献】

保木本 I p.288, 保木本 II p.8, 平新版 3 p.287, 環境省 p.446, SOS 旧版 p.63+図版 17, SOS 新版 p.66,68.



ミヤマツチトリモチ *Balanophora nipponica* Makino

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。自然度の高い森林に依存する植物で、全国的に希少であり、県内でも生育地、個体数共に極めて少ない。総点は 15 であるが、毎年確認できる植物でないことを考慮し、絶滅危惧ⅠA類と評価する。

【形態】

主にカエデ属に寄生する多年生草本。雌雄異株と思われるが、雄株は発見されていない。根茎は多数の大小不同の小さな根茎枝に分かれ、年数が経つにつれて肥大して球形になり、直径 5~9cm になる。花期は 7 月下旬~8 月、花茎は 1 個の根茎に 3~4 個生じ、高さ 8~14cm、長さ 0.5~2cm の鱗片葉が互生する。花穂は花茎の先端に 1 個つき、長楕円形、長さ 3~6cm、直径 1.2~1.8cm、橙赤色~橙黄色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 74883, 1998-8-23)。1 か所で確認されている。6 設楽西部 (段戸山, 高木典雄 s.n., 1951-9) で採集された標本もあるが、そこでは最近では確認されていない。茶臼山の長野県側で採集されたこともある。

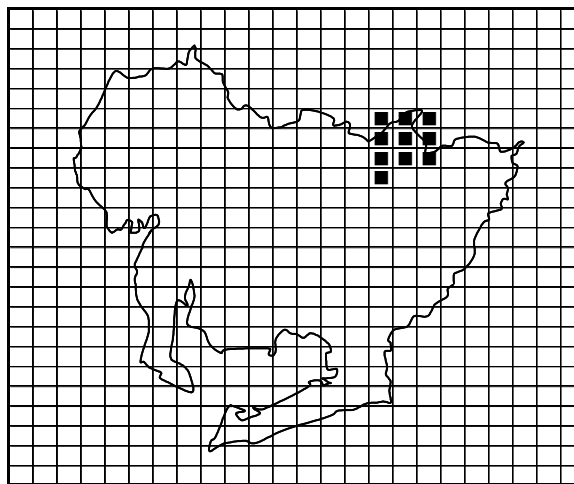
【国内の分布】

本州 (秋田県・岩手県以南)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹の林内に生育し、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、イヌシデなどの根に寄生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は極めて少ない。生育状況には年変動があり、2007 年、2018 年には確認できなかった。寄生植物で栽培はできないが、変わった形態の植物なのでマニアに採取されるおそれがある。将来的には自然とのふれあいの需要が増加するにつれ、遊歩道の設置なども危惧される。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存しているだけなので、厳重に保全し、ふれあい活動の場としての利用も制限する必要がある。遊歩道などの設置も、極力避けるべきである。マニアの採取やカメラマン、自称自然愛好家などの踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

傘が開く前のキノコのような形をしている。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.317, 平草本Ⅱ p.13, 平新版 4 p.73, 環境省 p.391, SOS 旧版 p.46.

オオツルイタドリ *Fallopia dentatoalata* (Fr.Schm.) Holub

【評価理由】

攪乱地に生じ、しかもあまり多くない大陸系の植物で、愛知県でも生育地、個体数共に極めて少ない。現存は確認できないが再出現の可能性があるので、定性的に絶滅危惧 I A類と評価する。

【形態】

つる性の1年生草本。茎は分枝して長く伸び、長さ1m以上になる。葉は心形、長さ3~6cm、幅2.5~4cm、先端は鋭尖頭、基部は浅~深心形、辺縁と葉脈上に乳頭状突起がある。花期は8~10月、総状花序を頂生あるいは腋生し、まばらに花をつける。花被は紅色を帯びた緑色、長さ2mm程度であるが花後大きくなり、倒卵形、長さ8~9mm、幅5~6mmになる。そう果は3稜形、黒色で長さ4~5mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：19旭(芹沢 64307, 1992-10-19)。小群落があったが、その後確認されていない。

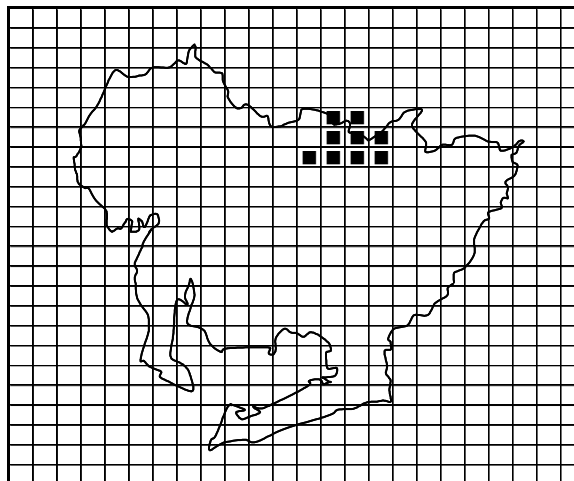
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸(北部・東北部)、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

川岸や荒地などに生育する。愛知県の生育地も、山地の林道わきであった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

林道わきに、少数個体が生育していた。不安定な立地なのでここではすでに消滅した可能性が高いが、その一方で、新たに別の場所に出現する可能性もある。

【保全上の留意点】

本種のような偶発的に生育する植物は、具体的な保全策が立てにくい。愛知県においても、種子等が保存できる施設を整備し、このような植物については保険的措置として、人為的な系統保存を行う必要がある。

【特記事項】

帰化植物のツルタデ *F. dumetora* (L.) Holub に似ているが、花後の花被が大きい。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.315, 平草本Ⅱ p.26, 平新版 4 p.88.

## ヒメタデ *Persicaria erectominor* (Makino) Nakai

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。総点は 15 であるが、もともと偶発的に出現するだけの植物であることを考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価する。

### 【形態】

1 年生草本。茎の下部は地をはって節から根を出し、上部は直立して少数の枝を分け、高さ 20～45cm になる。葉には短い柄があり、葉身は広線形～狭披針形、長さ 3～8cm、先端は鋭頭か鋭尖頭、基部はくさび形か円形、葉質はやや薄く、乾いても緑色である。托葉鞘は筒状、短い縁毛がある。花期は 5～10 月、総状花序は円柱形で直立し、長さ 1.2～2cm、密に花をつける。がくは 5 深裂し、淡紅色または白色で長さ約 2mm、そう果は 3 稜形、黒色で光沢があり、長さ 1.5～2mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾: 38a 長久手 (長湫, 半田多美子 2360, 1997-6-10)、56b 大治 (芹沢 96481, 2018-10-3)。愛知県では長久手で 1 回採集されただけの植物であったが、最近大治に出現した。大治のものは白花である。

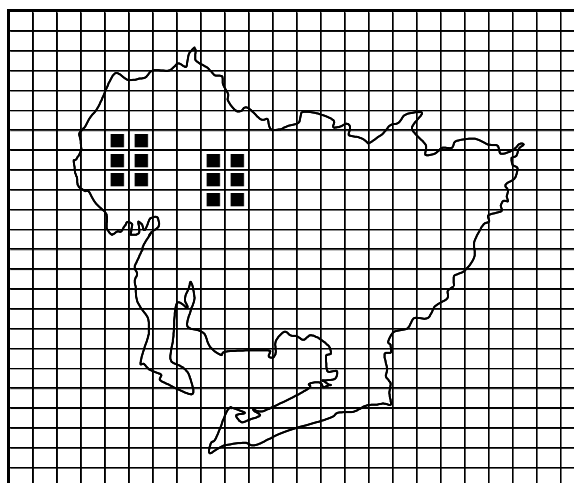
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に分布すると言われている。

#### 【世界の分布】

日本固有種とされている。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

一般に水湿地に生育するとされているが、実際には攪乱地に生ずる。水湿地型 (アオヒメタデ) は明らかに別の型である。長久手の生育地はやや乾いた空き地であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    | ○  |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

長久手では現地を何回か探索したが、再確認できなかった。ところが 2018 年になって、大治町の芹沢の家の庭に、突然 2 株出現した。芹沢は攪乱地型の狭義ヒメタデを採集したことがないので、意図的に持ち込んだものでないことは確かだが、由来は全く不明である。同じような環境の場所はどこにでもあるので、今後も注意して探索する必要がある。

### 【保全上の留意点】

本種のような攪乱地に生じ、しかも希少な植物は、具体的な保全対策が立てにくい。種子等が保存できる施設を整備し、このような植物については保険的措置として、人為的な系統保存を行う必要がある。

### 【特記事項】

生育状況は偶産のだが、もともとそのような植物なので評価の対象に含めた。分類学的に十分検討されていない種類で、今後詳細な研究が必要である。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.312, 平草本Ⅱ p.23, 平新版 4 p.98, 環境省 p.392.

ノダイオウ *Rumex longifolius* DC.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。本州中部では減少傾向の著しい低湿地性植物で、愛知県は分布域の南限に近く、県内では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

大形の多年生草本。高さ 1m 以上になる。茎の基部の葉は大きく、長い柄があり、葉身は長卵状楕円形、長さ 20～35cm、先端は円頭または鈍頭、基部はふつう円形、波状縁で両面無毛、上部の葉は互生し、次第に小さく細く、披針形～長楕円形となる。花期は 6～8 月、果実をかこむ花被片は広倒心形、長さ 5～6mm、幅 5～6.5mm、全縁で、中肋にこぶはない。果柄には節がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武（芹沢 80611, 2006-7-15）。尾：57b 愛西（芹沢 58683, 1991-5-31）。各 1 カ所に少数株が点在していたが、稲武では同所に多量に生育しているエゾノギシギシとの雑種（トガマダイオウ）に圧迫されたためか、最近は見られなくなってしまった。木曽三川の岐阜県側にはかなり生育している。

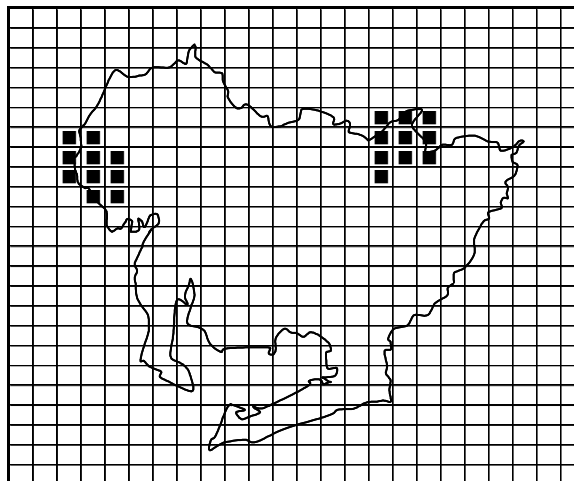
【国内の分布】

北海道、本州（近畿地方以北）。

【世界の分布】

北半球に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷、池沼の周辺などの低湿地に生育する。よくヤナギ林の林縁などに見られる。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

愛西では、長良川河川敷に開花株が多かったが、河口堰が建設されて水位の変動がなくなり、水没したり過湿状態になったりして、激減した。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。ただし、河川敷の植物は、もともと洪水などの攪乱に耐えてきたものであり、本種の場合も個体群の存続には軽度の攪乱が必要と思われる。また、河口部では潮の干満に伴う水位の変動が環境の重要な要素になっており、保全を考える際にはこの点に関する配慮が必要である。

【特記事項】

北日本の低湿地には比較的多かったが、どこでもエゾノギシギシとの雑種に圧迫されて減少している。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.298, 平草本Ⅱ p.15, 平新版 4 p.103, SOS 旧版 p.47, 環境省 p.394.

## シロバナナガバノイシモチソウ *Drosera makinoi* Masam.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 16。減少傾向の著しい食虫植物。本地域を特徴づける湧水湿地性植物の一つであるが、減少傾向が著しい。

### 【形態】

食虫性の 1 年生草本。ナガバノイシモチソウに比べやや草丈が高く、花はやや小さくて白色である。単なる白花品種 form. *albiflora* Makino と思われていたが、近年の研究で、遺伝的にかなり分化していることが判明した。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾: 42c 武豊(芹沢 80852, 2006-8-29)。16 豊橋南部(芹沢 56671, 1990-8-28)と 17 田原東部(芹沢 53620, 1989-9-27)にも生育していたが、これらは人為的に播種されたものである可能性が高く、また田原東部では現在は消滅している。18 田原西部(伊良湖岬, 恒川敏雄 s.n., 1957-8-20, TMNH)、33 安城(榎前町, 岡田善敏 s.n., 1924-8-21)、40a 大府(井波一雄 s.n., 1951-9-23, TNS) で採集された標本もある。

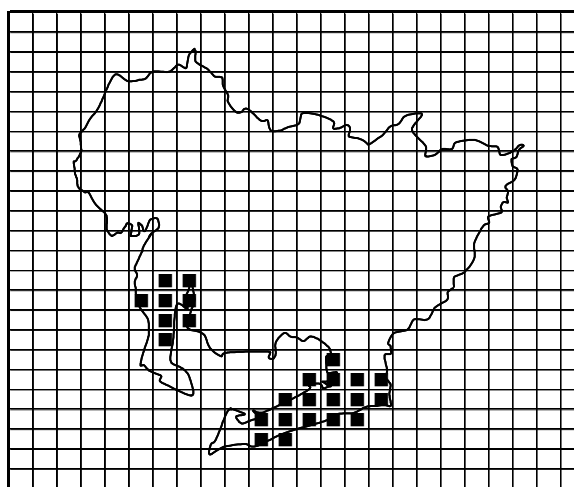
#### 【国内の分布】

本州(関東地方、東海地方)、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。「ため池の岸にある」という話を聞いたこともあるが、教えてもらった場所では確認できなかった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

渥美半島の自生地はいずれも危機的な状態である。生育している湿地の破壊(直接的な破壊だけでなく、水源部の破壊を含む)と遷移の進行が、減少・絶滅の主要因である。武豊の自生地(壺町田湿地)は県の天然記念物／自然環境保全地域として保全が図られているが、水源となる台地が宅地化されたため湧水が枯渇し、給水が必要な状態に追い込まれている。

### 【保全上の留意点】

埋土種子集団を作る植物なので、表土を攪乱すれば埋土種子が発芽し、遺伝的に多様な集団が復元されると思われる。しかし壺町田湿地の場合は、そのような行為は一方で同所に生育する他の植物(ヒメミミカキグサなど)に深刻な影響を与える可能性があり、慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.167, 平草本Ⅱ p.121, 平新版 4 p.107, SOS 新版 p.106,108 (ナガバノイシモチソウとして)。

ナガバノイシモチソウ *Drosera toyookensis* M.Watanabe et Seriz.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 17。本地域に固有の食虫植物。湧水湿地に生育するが、減少傾向が著しい。

【形態】

食虫性の1年生草本。高さ7~20cmになる。葉は互生し、狭線形、長さ4~7cm、幅1~2.5mm、先は細く糸状になり、表面に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。若葉はぜんまい状に巻く。花期は7~8月、葉に対生して長さ5~10cmの総状花序を出し、3~10個の淡紅色の花をつける。花弁は5枚、長楕円形で長さ6~8mmである。花の白いものは、シロバナナガバノイシモチソウとして区別し、前頁で記述した。シロバナナガバノイシモチソウを区別した場合、狭義のナガバノイシモチソウは国レベルでも絶滅危惧ⅠA類になるはずである。

【分布の概要】

【県内の分布】

比較的最近では、東：15 豊橋北部(芹沢 53543, 1989-9-25)、16 豊橋南部(芹沢 53558, 1989-9-25)、尾：39b 豊明(渡邊幹男 2014-11, 2014-7-17)の3区画で確認されている。ただし、豊橋南部は、かつて自生していたことは確実であるが、最近確認されたものは播種起源の可能性が高い。豊明については、現在の生育状況の項を参照されたい。50名古屋北部(田代村, 牧野富太郎 s.n., 採集日不明, TI)で採集された標本もある。

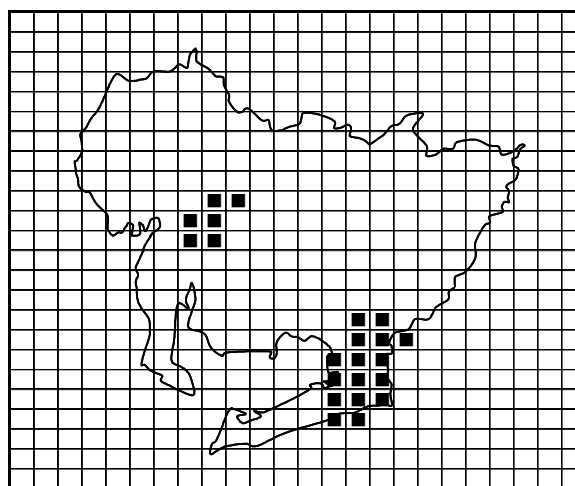
【国内の分布】

本州中部(愛知県、三重県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の、半裸地状の場所に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

本種の場合、以前は開発により次々と生育地が失われた。例えば名古屋市の滝ノ水湿地は宅地造成で破壊され、豊明市にあった大規模な生育地は養豚場ができて消滅した。しかし現在では、本種の重要性はそれなりに認識されており、むしろ過剰保護が懸念される状態になっている。豊明市に残存する自生地は県の天然記念物に指定されているが、水脈が切れて給水が必要なだけでなく、組織培養個体の植栽など極度の人為的管理のため本来の自然状態が失われるに至った。現在では遺伝子レベルでの分析に基づいて植込由来個体が除去され、その一方で埋土種子集団からの個体群復元も行われて、自然状態の回復が図られている。また、本種については一部の人による自然湿地への播種があちこちで行われており、どこまでが真の自然分布かもよくわからなくなっている。このような付け加えは、その場所の本来の自然に悪影響を与え、自然環境情報に混乱をもたらすだけでなく、残存する個体群がある場合は遺伝的攪乱や病虫害をまねき、「最後のとどめ」になってしまうこともある。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

前項参照。どうしても野外で播種による系統保存を行う必要がある場合には、公的機関の手で、十分な事前調査と管理のもとに行うべきである。

【特記事項】

彩色画は、2009年版図版3に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動植物種、また「豊明市のナガバノイシモチソウ」として県の天然記念物に指定されている。

【関連文献】

保草本Ⅱp.167, 平草本Ⅱp.12, 平新版4p.107, 環境省p.424, SOS旧版p.53+図版19.

ツカモトハコベ *Stellaria hibinoi* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、補正+1 (シカ食害)、総点 16。2015 年に新種として記載した植物で、全国的に生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本で、地下茎は長く地中をはい、白色で直径約 1mm、各節から細い匍匐枝を出す。地上茎は高さ 6~20cm、ほぼ直立し、下部はまばらに、上部は接近して数対の葉をつける。葉は長さ 0.7~3cm の柄があり、葉身は三角状卵形、先端は鋭頭で微凸端、最大のものは長さ 2.5~5cm、幅 1.5~4cm、基部はほぼ切形で葉柄上部に流れて翼をつくる。花期は 6~7 月、花は長さ 1.5~3.5cm の細い柄の先に 1 個ずつつき、がく片は 5 枚、披針形で長さ 4.5~6mm、花弁はない。花柄は花後下向きに垂れ、やや伸長して楕円形の蒴果をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (小林 64305, 1998-6-15)。  
西：5 稲武 (芹沢 84394, 2009-7-4, 正基準標本)、19 旭 (塚本威彦 657, 1993-7-16)。

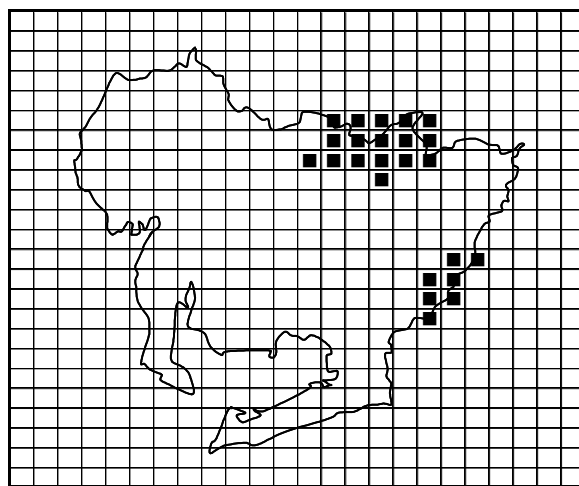
【国内の分布】

本州 (長野県南部~大阪府)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

沢沿いの林縁や林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

稲武では 3 カ所に生育しており、うち 1 カ所では個体数が比較的多かったが、同所に生育する他の植物と共に、ニホンジカに食害されて激減した。別の 1 カ所は小群落である。他の 1 カ所は近況未確認である。

【保全上の留意点】

現在確実に生育が確認されているのは、稲武の 2 カ所と旭の 1 カ所である。シカ食害防止のための施策が必要であるが、小型の植物なので、遷移の進行を抑えることも必要である。

【特記事項】

サワハコベからは、地上茎が直立してほとんど分枝せず、葉が大きく (日本海側のオオサワハコベ form. *robusta* Mizus. も葉が大きい、それより更に大きい)、花期が遅く、花弁がない (ただしサワハコベも、稀に花弁がないことがある) ことで区別できる。

【関連文献】

芹沢俊介. 2015. 本州中部産ハコベ属の 1 新種ツカモトハコベ. シデコブシ 3:1-4.

イワアカザ *Chenopodium gracillispicum* H.W.Kung

【評価理由】

不安定な、しかしそれなりに自然度の高い立地に生育し、確実に観察することが困難な植物である。愛知県においても生育地、個体数ともに極めて少ない。現時点では観察できないが、再出現の可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧 I A 類と評価する。

【形態】

1 年生草本。茎は細く、直立して分枝し、高さ 60cm 内外になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は 3 角状卵形、ひし状卵形または卵状楕円形、長さ 3~5cm、幅 2.5~4.5cm、先端は鋭頭、基部は広いくさび形~切形、質は薄く、辺縁に歯牙がある。花期は 8~9 月、花は円錐花序にまばらにつく。胞果は扁球形で表面に乳頭状の突起毛があり、種子は黒色で光沢がなく、直径 1~1.2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 15 豊橋北部(芹沢 83355, 2008-9-20)。  
1 富山(小林 53106, 1994-8-7)でも採集されたことがある。

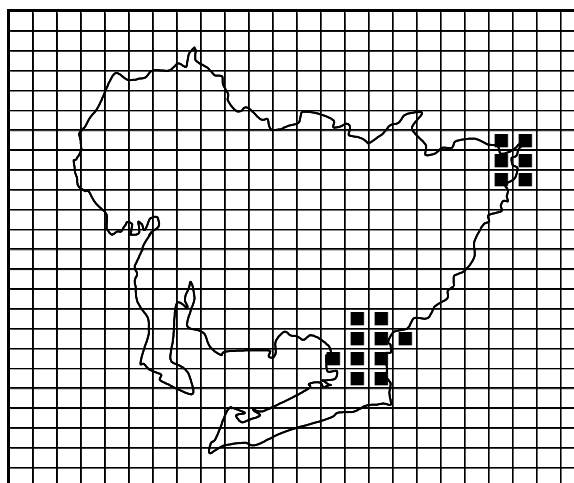
【国内の分布】

本州、四国の山地に稀に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の礫の多い沢、崩壊地、林道わきなどに出現するが、たいていの場合散発的である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋は長い間現状不明であったが、2000 年になって火事跡地に突然かなりの個体数が出現した。2008 年には貧弱な個体が少数生育していたが、現在では確認できない。富山では、たまたま 1 株に行き当たっただけという。

【保全上の留意点】

本種のような不安定な立地に生じ、しかも希少な植物は、具体的な保全対策が立てにくい。崩壊地も自然要素の一つであり、ある程度は保全すべき場所であることを認識する必要がある。またこのような植物については、保険的措置として、人為的な系統保存を検討してもよい。

【特記事項】

2009 年版およびグリーンデータブックではイワアカザとミドリアカザを区別せずにミドリアカザの名を用いたが、両者を区別すれば愛知県のものはイワアカザに当たる。

【関連文献】

保草Ⅱ p.292, 平草Ⅱ p.47, 平新版 4 p.138, 環境省 p.53, SOS 旧版 p.48.



## ヒロハマツナ *Suaeda malacosperma* H.Hara

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 3、総点 17。全国的に見ても希少な塩湿地性植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では、生育地も個体数も極めて少ない。

### 【形態】

1年生草本。茎は基部が直立し、多くの枝を分け、高さ 10～30cm になる。葉はやや密に互生し、葉身は長楕円形～広線形、扁平で長さ約 3.5cm、幅 2.5～4mm、辺縁は全縁である。花期は 10～11 月、花は葉腋に 1～5 個かたまつてつく。胞果は扁球形、直径 2～2.5mm、種子は白色で、光沢がなく、直径約 1.5mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：18 田原西部 (芹沢 88013, 2012-10-6)。  
1 カ所に小群落がある。

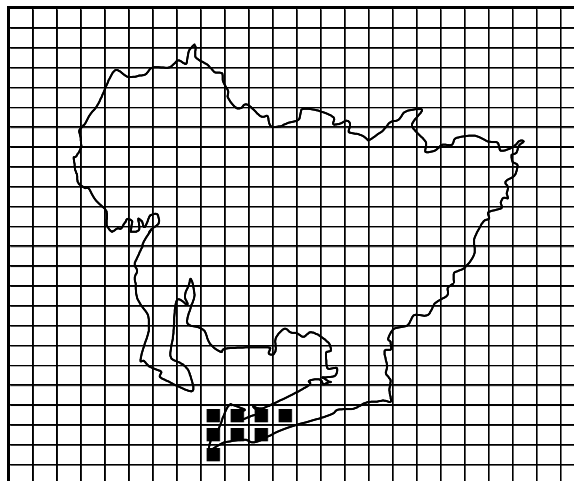
#### 【国内の分布】

本州西部、九州。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

海浜の塩湿地の、満潮時には水没するような場所に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    | ○  |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。開発や水の汚れがあれば容易に消滅する。

### 【保全上の留意点】

見栄えのしない植物であるため採取されるおそれはないが、粗略に扱われる可能性が高く、特に注意が必要である。また、本種が生育するような内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、護岸工事等の影響を受ける可能性があり、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

### 【特記事項】

ハママツナ *S. maritima* (L.) Dumort. に比べ植物体の丈が低く、葉が扁平で幅広い。ハママツナは今回の評価ではリスト外になったが、この種も愛知県ではそれほど多いものではない。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.289, 平草本Ⅱ p.49, 平新版 4 p.142, 環境省 p.401, SOS 旧版 p.48+図版 32, SOS 新版 p.155,157.

## エンシュウツリフネ

*Impatiens hypophylla* Makino var. *microhypophylla* (Nakai) H.Hara

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 4、補正+1(シカ食害)、総点 16。分布域の狭い固有変種。静岡県ではほぼ絶滅状態らしく、岐阜県も1カ所に小集団があるのみで、ある程度の量が確認できたのは愛知県だけであったが、ニホンジカによる食害で激減した。現在は保護柵の中で辛うじて残存しているだけである。

### 【形態】

1年生草本。茎は多汁質で分枝し、高さ30～80cmになる。葉は互生し、短い柄があり、葉身はひし状楕円形、長さ4～13cm、幅2～5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形～浅い心形、辺縁には鋸歯がある。花期は7～10月、花序は葉腋から出て、すぐ下に曲がり、葉の裏にかくれるように下垂する。花は小型で長さ15～20mm、淡紅紫色である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2豊根(芹沢 91500, 2016-9-11)。西：5稲武(芹沢 74868, 1998-8-23)にもあったが、最近は全く見かけない。4津具にもあったという(小林 2006)。

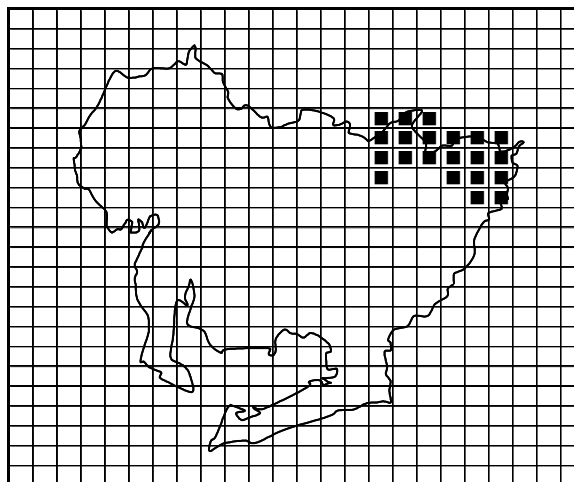
#### 【国内の分布】

本州(長野県南部、静岡県西部、愛知県東北部、岐阜県西部)に分布する。九州北部にも似たものがある。基準変種のハガクレツリフネ var. *hypophylla* は、本州(紀伊半島)、四国、九州に分布している。

#### 【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの林内の、多少開けた場所に生育している。自然度が高い地域の、しかも多少攪乱された場所に限って見られる植物である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は少ないが、そこにはかなりの個体数があった。しかし近年、ニホンジカによる食害で激減し、保護柵の外ではほぼ絶滅状態になってしまった。保護柵の中では食害は免れるが、他の草も食害を受けないので、それらに圧迫されて衰退することが懸念される。

### 【保全上の留意点】

何が分布を限定しているのかよくわからず、その意味で特に気をつかわなければならない植物である。

### 【特記事項】

ハガクレツリフネからは、花が小さく、花卉に濃色の斑点が少ない点で区別される。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 4に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

### 【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p. 59, 165. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.73, 平草本Ⅱ p.236, 平新版 4 p.174, 環境省 p.252, SOS 旧版 p.63, SOS 新版 p.23,25.

## ノジトラノオ *Lysimachia barystachys* Bunge

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に希少な植物で、本州中部と九州に隔離的に分布しており、愛知県は本州の中では分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も極めて少なく、しかも人為的影響を受けやすい場所に生育している。

### 【形態】

多年生草本。横にはう地下茎がある。地上茎は高さ 70~100cm、ふつう分枝せず、短い毛がやや密に生える。葉は互生し、葉身は倒披針形~線状楕円形、長さ 6~10cm、幅 8~15mm、先端は鈍頭~鋭頭、基部は狭まってほとんど無柄、辺縁は全縁である。花期は 6~7 月、茎の先端に上部が傾いた総状花序を伸ばし、上側に多数の花をつける。花は長さ 4~7mm の柄があり、花冠は白色で 5 裂し、直径 8~10mm、裂片は狭楕円形である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 15 豊橋北部 (芹沢 81661, 2007-6-30)。  
尾: 37b 尾張旭 (芹沢 87651, 2012-6-22)。2 区画の各 1 カ所に生育している。西: 33 安城 (東端町, 芹沢 76843, 2000-7-3) にも生育していたが、ヌマトラノオとの雑種に圧迫されたらしく、2007 年には現存が確認できなかった。ヌマトラノオとの雑種と思われるものは、33 安城 (芹沢 81739, 2007-7-11) のほか対岸の 34b 碧南 (芹沢 81736, 2007-7-11) にも生育しており、51 名古屋南東部 (岡本沙也香 321B, 2001-6-8)、56a あま (芹沢 94222, 2018-6-17) でも採集されたことがある。

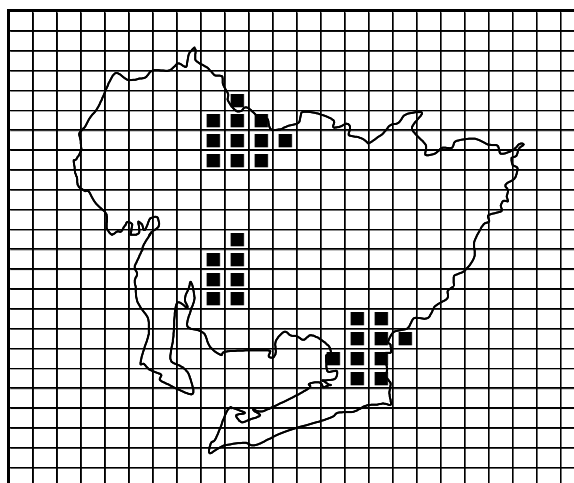
#### 【国内の分布】

本州 (東北地方南部から中部地方まで)、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよいやや湿った草地に生育する。愛知県の生育地は、いずれも河川や水路のわきの土手である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  | ○  |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部は小群落が 3 つ、瀬戸尾張旭はやや大きい群落が 1 つあるだけで、土手の改修があれば容易に消滅する。また、瀬戸尾張旭は隣接して駐車場があり、その拡張や除草剤の散布によって失われる可能性がある。

### 【保全上の留意点】

現在はどの生育地も、河川や水路の管理上の必要から定期的に草刈りが行われているが、これがなくなればススキなどの大型草本に覆われて消滅する可能性が高い。生育地の地形を現状のまま保全すると共に、草刈りを続け、草地状態を維持する必要がある。

### 【特記事項】

オカトラノオ *L. clethroides* Duby に似ているが、葉が細い。関東地方のものと愛知県のものは苞葉の長さや茎の毛の量などが異なっており、詳細な検討が必要である。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 6 に掲載されている。

### 【関連文献】

平草本Ⅲp.19, 平新版 4 p.195, 環境省 p.471, SOS 新版 p.198,206.

イワナシ *Epigaea asiatica* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 15。日本海系の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、しかも人為的影響を受けやすい場所に生育している。総点は 15 であるが、減少傾向が特に著しいことを考慮し、絶滅危惧 I A類と評価する。

【形態】

常緑性の小低木。茎は地上をはって広がり、長さ 10～25cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は卵形、長さ 4～10cm、幅 2～4cm、先端は鋭頭、やや革質で、辺縁にあら毛が生える。花期は一般的には 5～6 月であるが愛知県では 3 月下旬、枝先に総状花序をつくり、3～8 個の花をつける。花は淡紅色、花冠は筒状で長さ約 1cm、先端は 5 裂して広がる。果実は直径約 1cm、緑色または赤褐色を帯びた薄い果皮に包まれて、白色の水気の多い果肉がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：47 小牧(塚本威彦 2592, 1997-10-25)、48 春日井(秋山葉子 54, 1993-4-6)。45 犬山(秋山葉子 116, 1994-3-21)にもあったが、現地では最近確認できないという。

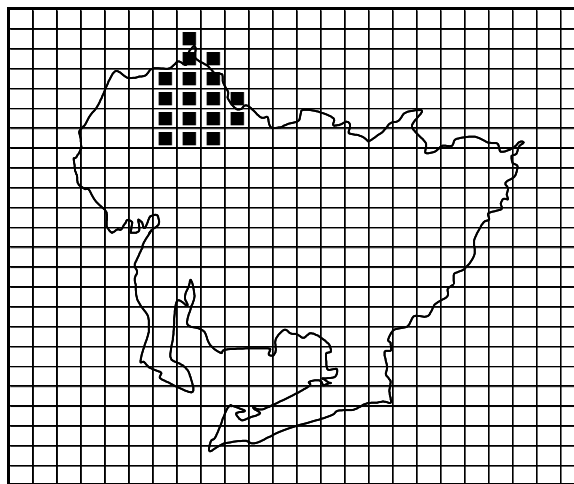
【国内の分布】

北海道西南部と本州の、主として日本海側に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

一般に山地の林縁の斜面などに生育するが、愛知県の生育地はやせた丘陵地である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地は限られており、個体数も極めて少ない。遷移の進行や開発、園芸目的の採取などにより、著しく減少している。

【保全上の留意点】

やせ山状態を維持することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、保護されている場所以外では分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の味がナシに似ているからである。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 5 に掲載されている。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

【関連文献】

保木本 I p.140, 平草本 III p.11, 平新版 4 p.231, SOS 旧版 p.68, SOS 新版 p.87,89.

ベニバナイチヤクソウ *Pyrola asarifolia* Michx. subsp. *incarinata* (DC.) A.E.Murray

【評価理由】

温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が極めて少なく、しかも「最近見られなくなった」と報告されているが、残存している可能性を考慮し、定性的に絶滅危惧ⅠA類と評価する。

【形態】

多年生草本。長い地下茎がある。葉は3～5個束生し、3～5cmの柄があり、葉身は円形または広楕円形、長さ3～4.5cm、幅2～3.5cm、先端は円～鈍頭、辺縁には目立たない細かな鋸歯があり、表面に光沢がある。花期は6～8月、高さ15～25cmの花茎を伸ばし、その上部に8～15個の花を総状につける。花茎は帯紅色で、1～3枚の鱗片葉がある。花は肉紅色で直径12～15mm、がく片は広披針形または狭卵形で長さ2～3mmである。花柱は湾曲する。果実は蒴果で、直径約7mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山（小林 45279, 1993-7-11）、2 豊根（小林 37465, 1992-5-31）。愛知県では東北端に僅かに見られるだけであった。

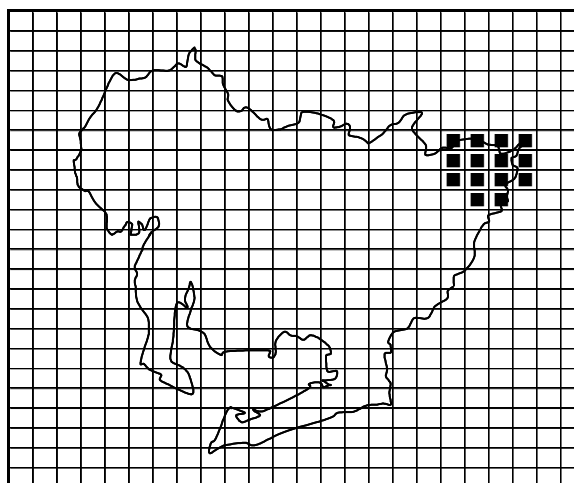
【国内の分布】

北海道および本州（中部地方以北）に生育する。長野県まで行けば普通に見られる植物である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア、カムチャッカ、アラスカ。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生じ、通常群生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

2区画の各1カ所に小群落があるだけで、生育状態ももともとあまりよくなかった。小林（2006）は「……最近見られなくなってしまった。おそらくニホンジカの食害によるものと思われる」と述べている。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.61. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅰ p.237, 平草本Ⅲ p.5, 平新版4 p.229.

## ナガボナツハゼ *Vaccinium sieboldii* Miq.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 19。湖西丘陵南部から渥美半島にかけての狭い範囲だけに分布する固有種で、本地域の固有種の中では最も危機的な状況にあり、しかも危機的な状況にあることが十分認識されていない種である。

### 【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 30~150cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形で、長さ 3~7cm、幅 2~4cm、先端は鋭頭、辺縁は全縁で鋸歯はなく、表面の主脈上に毛が散生するほかは無毛である。花期は 5 月、若枝の先に長さ 5~10cm の総状花序を伸ばし、多数の下向きの花をつける。花冠は鐘形で先は浅く 5 裂し、長さ約 5mm、白色で 5 本の赤色の縦条がある。果実は球形で黒熟し、直径 5~6mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 15 豊橋北部(芹沢 86999, 2011-5-21)。  
12 新城(富岡, 加藤等次 s.n., 1963-9-18)、  
17 田原東部(赤羽根町高松北(小林 45102, 1993-7-10)、18 田原西部(江比間, 芹沢 73548, 1997-5-18)で採集された標本もあるが、2011 年の調査ではこれらの区画ではナツハゼとの雑種と思われるものしか確認できなかった。ナツハゼとの雑種と思われるものは、東: 12 新城(芹沢 86936, 2011-5-21)、15 豊橋北部(芹沢 87000, 2011-5-21)、17 田原東部(芹沢 83006, 2011-5-21)、18 田原西部(芹沢 87100, 2011-6-15)にあり、16 豊橋南部(大清水町, 小林 16494, 1977-5-7)で採集された標本もある。

#### 【国内の分布】

本州中部地方南部(静岡県西部、愛知県東部)。

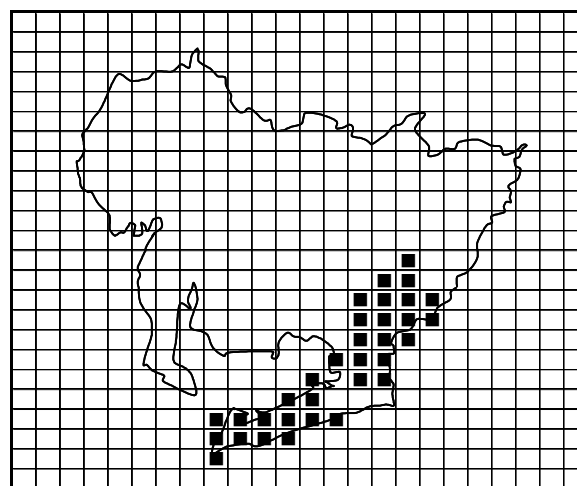
#### 【世界の分布】

日本固有種。

### 【生育地の環境／生態的特性】

やせた低山地の疎林の林縁などに生育している。「湿地に生える」と記述されている文献も少なくないが、湿地性の植物ではない。

要配慮地区図



|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

かつてはいくらでもあった植物らしいが、2011 年の調査では、雑種性でないと判断されたのは 1 地点の 3 個体のみであった。よほど被陰に弱い植物らしく、かなりの疎林であっても林内にはほとんど見られない。森林化の進行に伴う光条件の悪化が、衰退の主要因と思われる。

### 【保全上の留意点】

近縁種との交雑は、一般的には種を絶滅に追い込む一つの要因と考えられている。種の保全のためには、通常は純粋と思われる集団を見つけ、それを維持・増殖させることが求められる。しかし、本種ほど危機的な種の場合は、雑種性のものであっても本種の遺伝子を含んでいるという点で重要であり、保全の対象とする必要がある。そのようなわけで本種については、雑種性らしいものしか確認できなかった場所を含めて、樹木を伐採して疎林・半裸地状態を維持することが急務である。生育地のほとんどがチャートの岩山か超塩基性岩地なので、一度伐採すれば、効果はある程度持続するものと思われる。

### 【特記事項】

西日本の日本海側に分布するアラゲナツハゼ *V. ciliatum* Thunb. に近縁である。県条例に基づく指定希少野生動植物種になっている。

### 【関連文献】

保木本 I p.120, 平木本 II p.152, 平新版 4 p.259, 環境省 p.101, SOS 旧版 p.69+図版 11, SOS 新版 p.59,61.

ミヤマキヌタソウ *Galium nakaii* Kudo ex H.Hara

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 16。本来は亜高山性の植物で、本地域に著しい隔離分布をする。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。横走る地下茎があり、根は橙色を帯びる。茎は少数が束生し、高さ 12~20cm、平滑である。葉は 4 枚輪生し、短い柄があり、葉身は卵形~楕円形、長さ 12~18mm、幅 7~10mm、6~15mm、幅 3~8mm、先は鋭頭または鈍頭で微凸端、基部はやや急に細まってから狭いくさび形になり、辺縁と脈上には上向きの剛毛がある。花期は 4 月下旬~5 月、茎の先端や上部の葉腋に小さい花序を出し、2~5 個の花をつける。苞は卵形~広披針形、長さ 1.5~2mm である。花冠は淡黄緑色で 4 裂し、直径 2.5~3mm である。果実には上向きに曲がった毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 15 豊橋北部(小林 42656, 1993-5-12)。

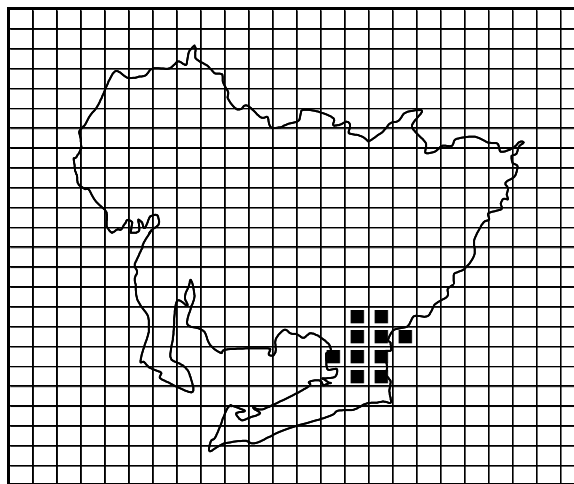
【国内の分布】

北海道および本州(東北地方)に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常は亜高山の岩地などに生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

塩基性岩地の湿った二次林内の 2 地点に、小群落があったというが、最近の状況は確認できていない。伐採などにより全滅するおそれがあり、また人里近くの低山なので、開発の可能性も高い。

【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

【特記事項】

しばらく種名がわからず、ホノクニキヌタソウ(「穂の国」は東三河地方の古名)と仮称していた植物であるが、初島住彦氏の示唆により再検討したところ、全体にかなり貧弱であるが、それ以外の点ではミヤマキヌタソウと明確な差がないことが判明した(小林 2001)。詳細な点は更に検討する必要があるが、ここではミヤマキヌタソウとして評価・掲載する。上述の形態はミヤマキヌタソウ一般ではなく、愛知県産の植物に関するものである。

【引用文献】

小林元男. 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.35+図版 2. 愛知県植物誌調査会, 刈谷.

【関連文献】

平草本Ⅲp.55, 平新版 4 p.276, SOS 新版 p.199,206.

## ヒメナエ *Mitrasacme indica* Wight

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい小型の湿地性植物で、愛知県では1カ所で少数個体が確認されているだけである。

### 【形態】

小型の1年生草本。茎は軟弱で無毛、高さ5~10cmになる。葉は茎全体にまばらにつき、対生で無柄、葉身は披針形~線形、長さ3~8mm、幅1~2mm、先端はとがり、全縁で1脈がある。花期は8~9月、花は茎の上部の葉腋に1個ずつつき、長さ1cm程度の柄があり、がくは鐘形で4裂、花冠も鐘形で白色、4裂し、直径約2.5mmである。蒴果は球形で直径2.5mm程度、先端に花柱が残る。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：15 豊橋北部 (芹沢 78850, 2003-9-20)。  
13 豊川 (一宮村足山田、鳥居喜一 s.n., 1947-10-12, HNSM)、18 田原西部 (伊良湖、岡田善敏 s.n., 1948-10-22)、25 豊田北西部 (猿投山、岡本英一 684, 1958-8-18) で採集された標本もある。

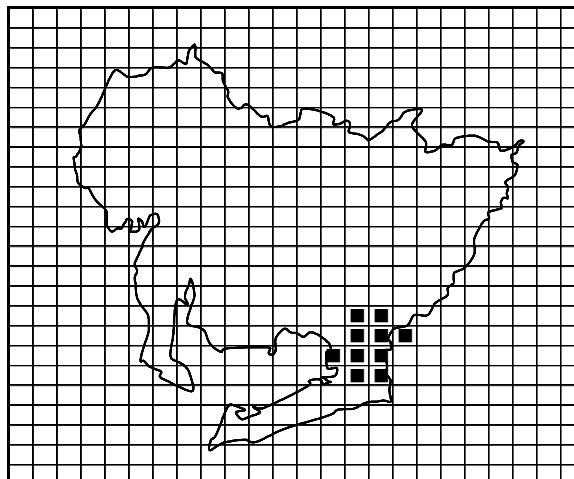
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島からインド、マレーシア、オーストラリアにかけて広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の中のやや裸地状の場所に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

極めて狭い範囲に、少数個体が生育していたが、最近の状況は確認されていない。過去の自生地では、開発や遷移の進行により絶滅したものと思われる。

### 【保全上の留意点】

遷移の進行による湿地の消失が最も懸念される。豊橋の自生地でも、すでに消滅しているかもしれない。しかしその一方で、目立たない植物なので他に自生地が残存している可能性もあり、更に探索する必要がある。

### 【関連文献】

保草本Ⅰ p.223, 平草本Ⅲ p.27, 平新版4 p.307, 環境省 p.477.



クサタチバナ *Vincetoxicum acuminatum* Decne.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、緑色で分枝せず、高さ 30～60cm になる。葉は対生し、長さ 5～16mm の柄があり、葉身は卵形～長楕円形、長さ 5～13cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形～浅い心形、両面脈上に微毛がある。花期は 6～7 月、花は長い総花柄があつて茎の上部に集まり、小花柄は長さ 1～3cm、花冠は白色、直径約 2cm、5 裂し、裂片は長楕円形で先端は円頭である。袋果は広披針形で長さ 4～6cm、無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：14 蒲郡(鈴木恵美子 457, 1993-5-22)、18 田原西部(小林 51570, 1994-5-21)。15 豊橋北部(多米, 恒川敏雄 2491, 1951-7-19, TMNH)で採集された標本もある。湖西丘陵の静岡県側(湖西市, 内藤宇佐彦 6095, 2015-4-29)には現存している。豊橋側にもまだあるという話を聞くが、はっきりしない。

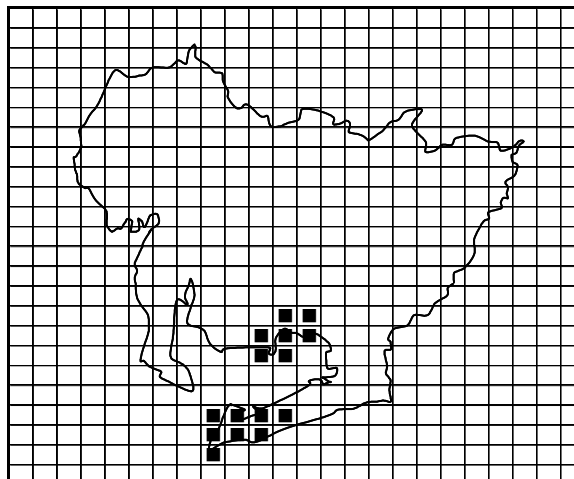
【国内の分布】

本州(関東地方以西)および四国。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地に生育することが多いが、愛知県では丘陵地の林縁に生育している。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    | ○  |    |    |
| 草・岩 |    | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

2カ所のうち1カ所は小集団であったが、他の1カ所は個体数が極めて少なかった。しかも、どちらの場所でも周辺の樹木の生長によって被陰され、当時でも衰退傾向にあった。最近の状態は確認されていないが、1カ所は観光地の近くであり、1カ所は隣接地が採石場になっていて、生育地自体が破壊される恐れもある。

【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すると共に、周辺の樹木を伐採し、光条件を回復させる必要がある。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

この類としては、花の大きい植物である。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.207, 平草本Ⅲ p.41, 平新版Ⅳ p.317, SOS 旧版 p.72+図版 10.

# タチガシワ *Vincetoxicum magnificum* (Nakai) Kitag.

## 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

## 【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 30～60cm になる。葉は対生し、茎の上部に集まって数対つき、長さ 2～4cm の柄があり、葉身は広卵形～ややひし状の広楕円形、長さ 10～17cm、幅 7～13cm、先端は急にとがり、基部は円形～やや広くさび形、辺縁は全縁である。花期は 5 月、花は葉が十分展開する前に開花し、茎の先端部にやや密に集まってつき、小花柄は長さ 1～2cm、花冠は緑褐色で直径約 7mm、5 裂し、裂片は先が鈍円頭である。袋果は披針形、長さ 7～15cm である。

## 【分布の概要】

### 【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 82846, 2008-5-3)。1 カ所に生育しているだけである。22 小原 (井波一雄 s.n., 1959-4, CBM72659) で採集された標本もある。

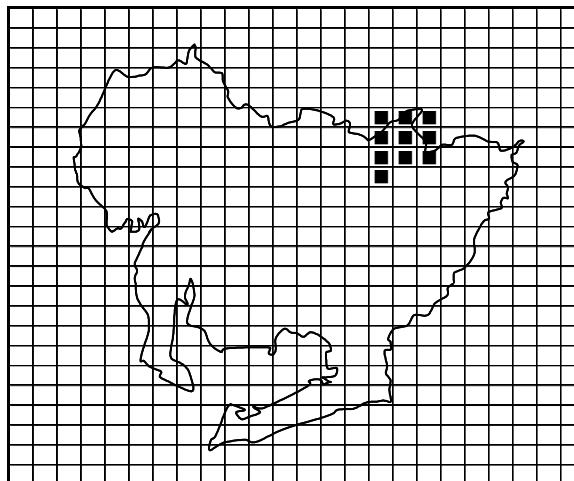
### 【国内の分布】

本州、四国。

### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



## 【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いの落葉広葉樹林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

## 【現在の生育状況／減少の要因】

1 つの沢に沿って、数株が生育している。森林の伐採や鉄砲水によって失われる可能性がある。

## 【保全上の留意点】

生育地の林を保全することが必要である。

## 【特記事項】

他に自生地がないか、更に注意して探索する必要がある。

## 【関連文献】

保草本 I p.207, 平草本Ⅲp.41, 平新版 4 p.317, SOS 旧版 p.73.

## キセワタ *Leonurus macranthus* Maxim.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。全国的に減少傾向の著しい草地性の植物で、愛知県でも生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立し、断面は四角形で、高さ 60～100cm になる。葉は対生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身は卵形または狭卵形、長さ 5～9cm、幅 3～7cm、先端は鋭頭または鋭尖頭、基部は広くさび形またはやや切形、辺縁には欠刻状のあらい鋸歯がある。花期は 8～9 月、花は上部の葉腋に数個ずつつき、紅紫色、花冠は唇形で長さ 25～30mm、下唇の中央裂片は下に曲がり、外面は密に白毛がある。分果は長さ約 2.5mm、黒色である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：15 豊橋北部（星野清治 1, 1996-9-11）。  
西：5 稲武（大野瀬，鳥居喜一 1472, 1977-8-11, HNSM）で採集された標本もある。

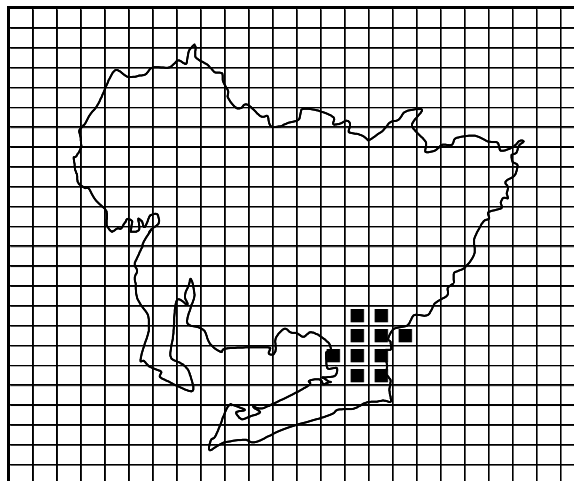
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地や丘陵地の草地に生育する。ただし、愛知県での生育地は林縁である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

確認できたのは 1 株だけで、しかも周辺の樹木の生長によって被陰されていた。最近の状況は確認できていないが、すでに絶滅した可能性もある。

### 【保全上の留意点】

個別的な保全が必要であるが、一方で持ち去られるおそれもあり、対応が難しい。一般的には、地域共同の採草地として利用されてきた山地の草地（カヤ場）は利用の停止によって森林化が進み、全国的にも愛知県でもほとんど壊滅状態である。稜線の草地は、防火帯としても展望を楽しむという点でも重要であり、草刈りや火入れによって維持していく必要がある。

### 【特記事項】

和名は「着せ綿」で、花冠上唇の外側に白毛があるからだと言われる。

### 【関連文献】

保草本 I p.179, 平草本 III p.90, 平新版 5 p.125, 環境省 p.492, SOS 旧版 p.76.

## ハマクサギ *Premna microphylla* Turcz.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 15。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。総点は 15 であるが、実際にはすでに絶滅している可能性が高いことを考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価する。

### 【形態】

落葉性の小高木。枝は灰褐色で細く、葉の落ちた跡が肥厚する。葉は対生し、長さ 0.5~1.5cm の柄があり、葉身は広卵形~卵状楕円形、長さ 4~12cm、幅 2.5~7cm、質は薄く、両面とも無毛で脈上にだけ毛があり、成木では全縁になるが若木の葉には数個の粗い鈍鋸歯がでる。花期は 5~6 月、枝の先端に長さ 6~10cm の円錐花序をつくり、淡黄色の小さな花をつける。花冠は筒状、長さ 8~10mm、やや唇形、外面に粒状の腺がある。果実は倒卵状球形で基部にがくが宿存し、熟すと紫黒色になる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：13 豊川（小林 59652, 1996-6-15）。18 田原西部（泉福寺, 小林 16714, 1977-6-5）にも 1 株生育していたが、絶滅した。

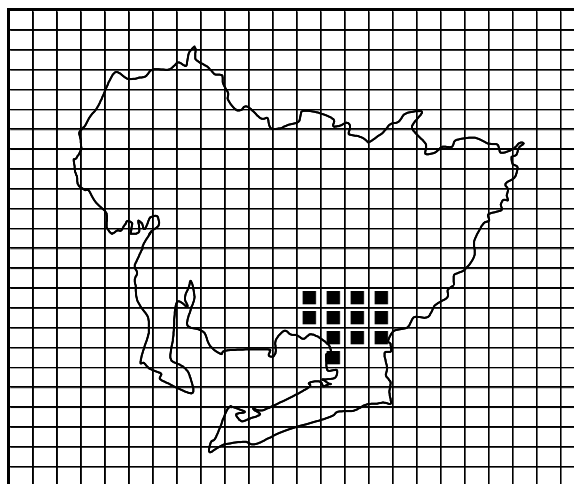
#### 【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本および台湾。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

陽性の樹木で、海岸近くの二次林の林縁などに生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    | ○  |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

豊川では少数の幼株が明るい林内に生育していたというが、すでに絶滅している可能性が高い。田原西部での絶滅も、遷移の進行が原因ではないかと思われる。その一方で、新たな生育地が発見される可能性もある。

### 【保全上の留意点】

本種に関しては、生育地の上層木を適宜伐採して林内の光条件を維持するなど、個体レベルでの個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

「臭木」の名のとおり、葉をもむと臭気がある。

### 【関連文献】

保木本 I p.49, 平木本 II p.214, 平新版 5 p.107, SOS 旧版 p.75.

## イブキジャコウソウ *Thymus quinquecostatus* Celak.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。愛知県では生育地が少なく、また減少傾向も著しい。

### 【形態】

小低木。茎は細く、地表をはって分枝し、枝は立ち上がって高さ 3~15cm になり、短毛がある。葉は対生し、卵形~菱状卵形、長さ 5~10mm、幅 3~6mm、先端は鈍頭、両面に腺点がある。花期は 6~7 月、枝先に短い穂状の花序をつける。がくは唇形で長さ 4~5mm、花冠は紅紫色で 2 唇形、長さ 7~8mm の株と 5~6mm の株とがある。雄ずいは 4 本で、花外に突き出る。海浜に生育するものは、ハマジャコウソウと呼ばれることがある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：13 豊川 (小林 51934, 1994-6-5)、16 豊橋南部 (小林 70758, 2000-10-21)、18 田原西部 (芹沢 74037, 1997-7-22)。西：28 額田 (原田 勉 571, 1996-9-8)、36 西尾南部 (壁谷重美子 813, 1994-8-5)。17 田原東部 (田原町浦, 芹沢 53021, 1989-9-1) にもあったが絶滅した。15 豊橋北部 (牛川, 及部金一 s.n., 1932-8-8) で採集された標本もある。

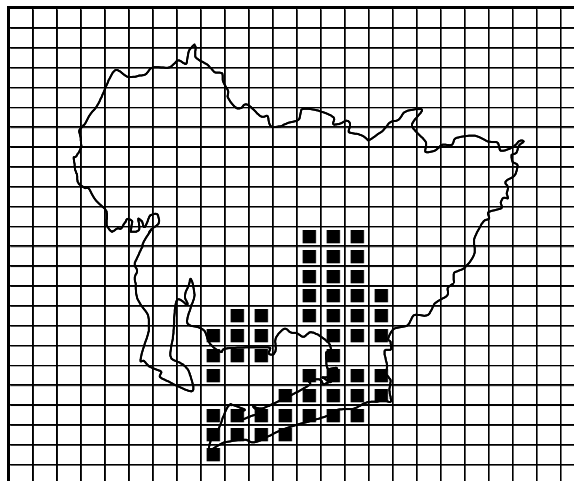
#### 【国内の分布】

北海道、本州、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ヒマラヤ。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

日当たりのよい岩地や砂地に生育し、海浜から高山帯まで、広い範囲に見られる。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    | ○  |    | ○  |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

最近の状況は十分確認できていないが、小型の植物であるため、半裸地状の場所以外では存続できない。海浜の砂地のものは砂丘の安定化による生育可能地の縮小、内陸の草地や岩地のものは大型の草本の繁茂による被陰で、いずれも絶滅に近い状態と思われる。上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。田原西部では、以前は比較的多かったが、最近ほとんど見られない。田原東部では、園芸目的の採取により消滅したものと思われる。豊田東部では以前は点在していたというが、河川改修や除草剤の使用によって見られなくなったようで、現在のところ確実な資料を得ることができない。

### 【保全上の留意点】

砂地に生育するものについては、植栽されたクロマツや侵入してきた樹木を除去し、砂丘状態を維持することが必要である。観光客誘致のために作られた花壇によってつぶされた群落もある。内陸部のものは、草刈りや火入れにより、やせ山状態を維持することが必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

### 【特記事項】

「ジャコウソウ」の名のとおり、全草に芳香がある。

### 【関連文献】

保草本 I p.161, 平草本 III p.85, 平新版 5 p.140, SOS 旧版 p.78+図版 31.

## ハマウツボ *Orobanche coerulescens* Steph. ex Willd.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 16。海浜性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向も著しい。

### 【形態】

海浜性の 1 年生草本。地上茎は塊状に肥大した根茎から直立し、黄褐色で太く、高さ 10~25cm、白色の軟毛がある。葉は鱗片状で、互生する。花期は 5~7 月、茎の先端に穂状の花序をつくり、淡紫色の花を密につける。がくは長さ約 1cm、膜質で左右 2 片に深裂し、各片の先は 2 裂し、先がとがる。花冠は長さ約 2cm、太い筒部のある唇形で、毛が多く、上唇は幅広く凹頭、下唇は 3 裂する。果実は蒴果で狭楕円形、長さ約 1cm である。内陸部に生育し、全体に毛が少ないものをオカウツボ form. *nipponica* (Makino) Kitam. と言う。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 18 田原西部 (永田芳男 s.n., 2003-5-10)。限られた範囲に残存しているだけである。オカウツボは、西: 33 安城 (矢作川堤防、稲垣英夫 s.n., 1967-6-6) で採集された標本があるだけで現存は確認できず、狭義のハマウツボから区別すれば県内で絶滅と判断される。

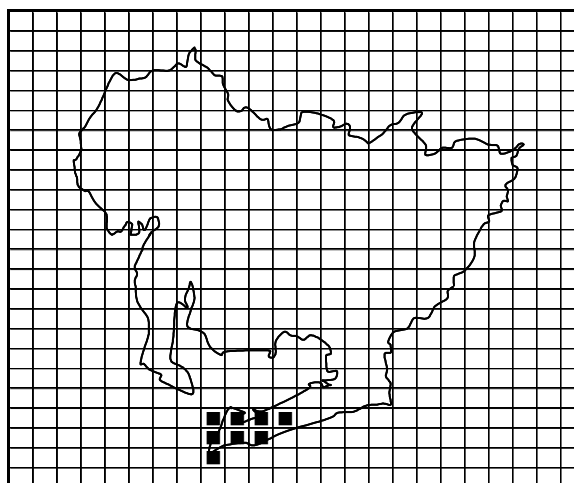
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、シベリア、ヨーロッパ東部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

狭義のハマウツボは海岸の草地に生育し、カラヨモギなどに寄生する。オカウツボは丘陵地の日当たりのよい草地に生育し、オトコヨモギなどに寄生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    | ○  |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

田原西部では、以前は時折見かけたが、現在ではほとんど見られなくなってしまった。観光開発による生育地の砂浜の改変が、減少の主要因である。

### 【保全上の留意点】

砂浜や砂丘を、本来の自然状態のまま保全することが必要である。生育地周辺は観光地であり、今後も各種開発が想定される。しかし長い目で見れば、人工物のない自然状態の砂浜こそ最大の観光資源である。

### 【関連文献】

保草本 I p.126, 平草本 III p.135, 平新版 5 p.156, 環境省 p.507, SOS 旧版 p.82.

## ヒメヨモギ *Artemisia lancea* Vaniot

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。海浜性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、減少傾向も著しい。

### 【形態】

多年生草本。横走る長い地下茎がある。茎は高さ 1~1.2m、よく分枝し、しばしば紫色をおびる。根出葉は花時に枯れ、茎の中部の葉は互生し、ほとんど無柄、葉身は羽状に深裂し、長さ 3~7cm、幅 3~6.5cm、裂片は下面に白綿毛があり、幅は 3mm 以下である。茎の上部の葉は、通常単葉となる。花期は 8~10 月、茎の先端につく大きな円錐花序に、小さい頭花を多数つける。総苞は筒状鐘形で長さ 2mm、幅 1mm 程度、総苞片は 4 列に並ぶ。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 16 豊橋南部 (芹沢 76528, 1999-10-2)、  
17 田原東部 (小林 75657, 2002-9-4)。このほか砂防用の種子に混じって移入されたものがあるところどころの路傍などに生育しているが、これらは評価の対象外で、むしろ除去が望ましい。

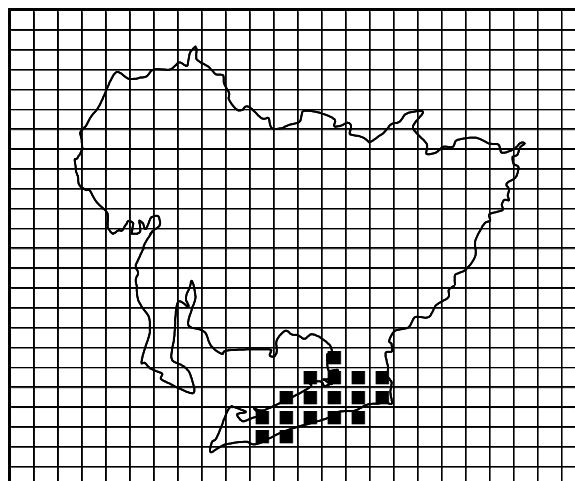
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地や河川敷の原野、または海浜のやや塩湿地状の場所に生育する。愛知県の自生地は後者である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    | ○  |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

2 区画とも各 1 カ所、ごく狭い範囲に生育しているだけである。開発等があれば、容易に絶滅すると思われる。以前は、三河湾最奥部に点在していたのではないと思われる。

### 【保全上の留意点】

内湾の塩湿地は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。本種の場合はハマツナやフクドが生育するいかにも塩湿地という場所ではなく、どちらかと言えば単なる荒れ地にしか見えないような場所に生育しているので、とりわけ注意が必要である。

### 【特記事項】

海浜性のものと草地性のものとの関係については、更に検討が必要である。

### 【関連文献】

保草本 I p.56, 平草本III p.172, 平新版 5 p.332, SOS 新版 p.158,160.

## ヤマジノギク *Aster hispidus* Thunb.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。草地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、また減少傾向が著しい。

### 【形態】

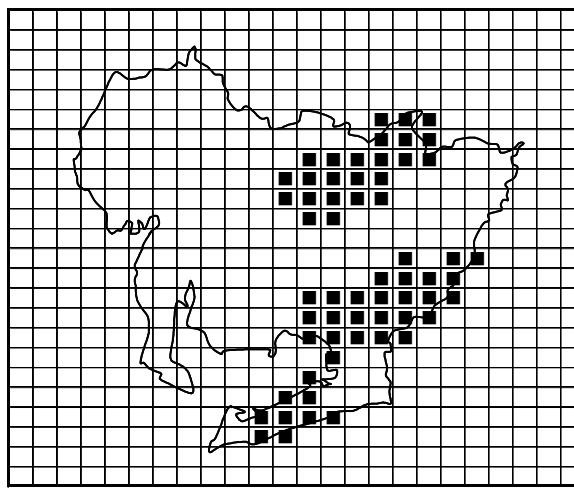
越年生草本。茎はよく分枝し、高さ 30~100cm になる。根出葉は倒披針形で長さ 7~13cm、幅 10~15mm、開花時には枯れる。茎葉は互生し、倒披針形から線形、長さ 5~7cm、幅 4~20mm、基部はしだいに細くなる。上部の葉は小さく、線形になる。花期は 9~11 月、頭花は枝の先に散房状に集まってつき、直径 3.5cm 程度、総苞は長さ 7~8mm で、総苞片は 2 列にならぶ。舌状花は淡青紫色でごく短い白色の冠毛があり、筒状花は長さ 3.5~4mm の帯赤褐色の冠毛がある。そう果は扁平で、長さ 7~8mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

比較的最近では、東: 9 鳳来南部 (芹沢 83489, 2008-10-4)、12 新城 (芹沢 54951, 1990-5-22)、13 豊川 (小林 40093, 1992-10-22)、17 田原東部 (芹沢 54077, 1989-10-22)、西: 5 稲武 (小林 48239, 1993-10-2)、20 足助 (芹沢 76626, 1999-10-26) の 6 区画で生育が確認されている。ただし、これらのうちかなりの場所では、すでに絶滅している可能性が高い。上記の集団数階級は見込み値である。1960 年代までは比較的あちこちで見られたようで、8 鳳来北東部 (榎原, 小林 19600, 1978-10-28)、14 蒲郡 (三河大島, 大原準之助 s.n., 1964-10-20)、19 旭 (東加塩, 大原準之助 s.n., 1964-10-18)、22 小原 (李, 井波 一雄 s.n., 1958-10-30, CBM206437)、28 額田 (杣坂峠, 井波 一雄 s.n., 1958-11-2, CBM71553)、37a 瀬戸 (猿投山, 井波 一雄 s.n., 1955-10-27, CBM195122)、44b 南知多 (内海, 相羽福松 415, 1979-12-1)、45 犬山 (楽田村, 井波 一雄 s.n., 1957-10-7, CBM251134)、51 名古屋南東部 (瑞穂区玉水町, 稲垣貫一 s.n., 1947-10-20, CBM101395) などで採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】 本州 (伊豆半島以西)、四国、九州。

【世界の分布】 日本、朝鮮半島、中国大陆。

### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の日あたりのよい草地に生育する。足助の生育地は林道のわきであった。鳳来南部、新城、豊川宝飯、田原赤羽根、渥美の生育地は超塩基性岩地で、これらの場所のものは、ヤマジノギクほどではないが、葉がやや細い傾向がある。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  | ○  |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

どうということのない場所に生育しているが、それでいてなかなか見ることができなくなってしまった植物である。林道わきなどに生育しているものは、道路の改修や拡幅により失われるおそれがある。足助でも 2007 年には消失していた。残されている標本から判断すれば、草地が広く存在していた時代には、あちこちに生育していたものと思われる。東三河南部の超塩基性岩地には 1990 年代の初めまで点々と残存していたが、それらの場所でも遷移の進行により草地が激減し、現在ではほとんど見られなくなった。

### 【保全上の留意点】

生育地の地形を保全すると共に、草刈り等によって草地状態を維持することが必要である。道路の拡幅の際にも、注意が必要である。

### 【特記事項】

アレノギクとも呼ばれるが、攪乱地であってもそれなりに自然度の高い場所に生育していることが多いから、和名としては「ヤマジノギク」の方が適切である。新城や豊橋北部の超塩基性岩地に生育する葉も枝も著しく細いものはヤマジノギクとして区別し、544 頁に示す。

### 【関連文献】

保草本 I p.84, 平草本 III p.199, 平新版 5 p.314, SOS 新版 p.54,56.



## コバナガンクビソウ *Carpesium taberi* C.Winkl.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、補正+1 (シカ食害)、総点 17。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともにもとと少なかった。近年はニホンジカによる食害で、極めて危機的な状況に追い込まれている。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立し、上部でよく分枝し、高さ 50～70cm、しばしば紫褐色をおびる。葉は互生し、下部の葉は長い柄があり、柄を含めて長さ 10～14cm、幅 2.5～4.5cm、葉身は卵状長楕円形、先端は鋭尖頭、基部はくさび形になる。花期は 8～10 月、頭花は枝の先端について點頭し、基部に頭花より長い苞葉がある。総苞は鐘球形、長さ 4mm、直径 4～5mm、総苞片は 4 列で、外片は短い。小花はすべて筒状花で、花冠は汚れた黄色である。そう果は長さ 2.5mm、冠毛はない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 77977, 2002-8-24）、3 東栄（芹沢 89014, 2013-10-9）。

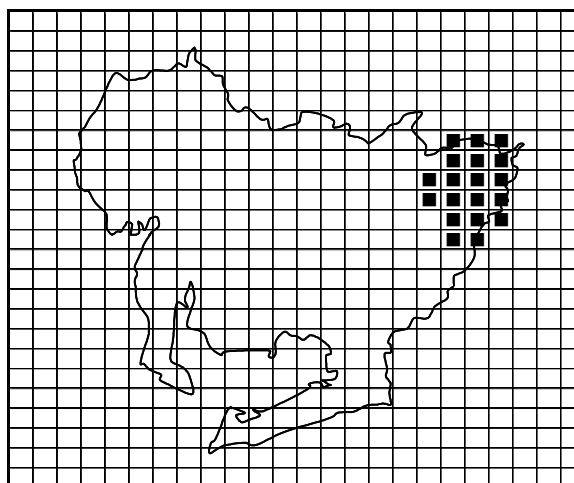
#### 【国内の分布】

本州（愛知県以西）、九州。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸（湖北省、四川省、貴州省）。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

山地の林縁に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

道路沿いの明るい林縁に、少数株が生育していたが、現地はシカの食害が著しく、2013 年の調査では貧弱な 1 株とそれらしいロゼットが数株見られただけであった。周辺にはキク科植物はほとんど残存していなかった。

### 【保全上の留意点】

防護柵の設置を検討する必要があるが、すでに手遅れかもしれない。

### 【特記事項】

バンジンガンクビソウとも呼ばれる。

### 【関連文献】

保草本Ⅰ p.72, 平草本Ⅲ p.203, 平新版Ⅴ p.353, 環境省 p.522.

## イソギク *Chrysanthemum pacificum* Nakai

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 16。本州中部の太平洋岸に分布する植物で、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は叢生し、通常高さ 30~50cm だが愛知県のものは 90~120cm、先端部に密に葉をつける。葉は楕円形~倒卵形、長さ 3~12mm の柄があり、葉身は長さ 3.5~5cm、幅 2~2.5cm、基部はくさび形、上部は浅く羽裂し、先端は鈍頭、質は厚く、表面は深緑色、裏面は密毛があつて銀白色となる。花期は 11 月、頭花は茎の先端に多数集まってつき、黄色で直径 5~6mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 18 田原西部 (芹沢 81164, 2006-11-25)。1 カ所に小群落がある。

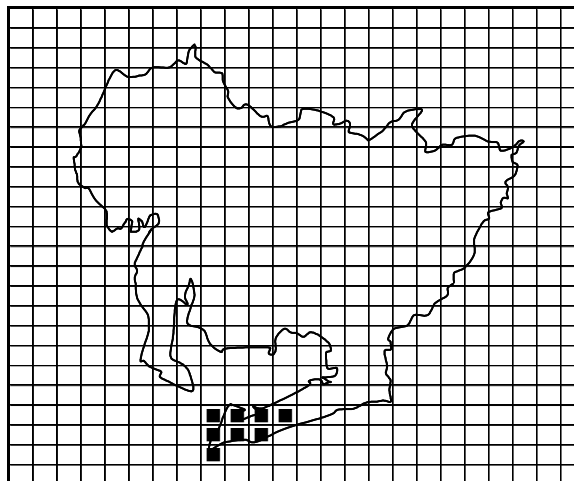
#### 【国内の分布】

本州中部 (千葉県~愛知県)。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

海岸の崖地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    | ○  |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

太平洋に面した泥質の崖地に少数個体が生育している。崖地の崩落によって失われる可能性がある。

### 【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。表浜海岸は浸食防止や観光開発のためにさまざまな工事が行われているので、その際にも特に注意が必要である。

### 【特記事項】

現地では隣接して、栽培ギクとの雑種と推定される植物も生育している (標本: 芹沢 81165)。紀伊半島には近縁のキノクニシオギク *C. shiwogiku* Kitam. var. *kinokuniense* Shimotomai et Kitam. が生育している。

### 【関連文献】

保草本 I p.72, 平草本III p.203, 平新版 5 p.336.

シノジマアザミ *Cirsium tashiroi* Kitam. subsp. *hidaense* (Kitam.) var.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 16。篠島の海岸林内に固有の未記載の植物で、個体数が極めて少なく、正式に記載すれば乱獲される可能性が高い。

【形態】

多年生草本。茎は根茎の先端から 1 本、時に 2 本出て、高さ 35～50cm、よく分枝する。根出葉は花時まで残存し、長楕円形～倒長卵形、長さ 20～40cm、幅 5～11cm、辺縁は鋸歯縁のことが多いが時に羽状浅裂、先端は鋭頭、下部は次第に狭くなるが最基部まで翼があり、葉質は厚く、表面は深緑色で光沢がある。花期は 10 月中旬～11 月中旬、頭花は紅紫色で枝の先端に 1 個ずつつき、総苞は鐘形、長さ 1.5～2cm、総苞片は線形で外側のものほど短くなり、上部は細く長く伸びて著しく反曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

西:44b 南知多(芹沢 90849, 2015-10-24)。

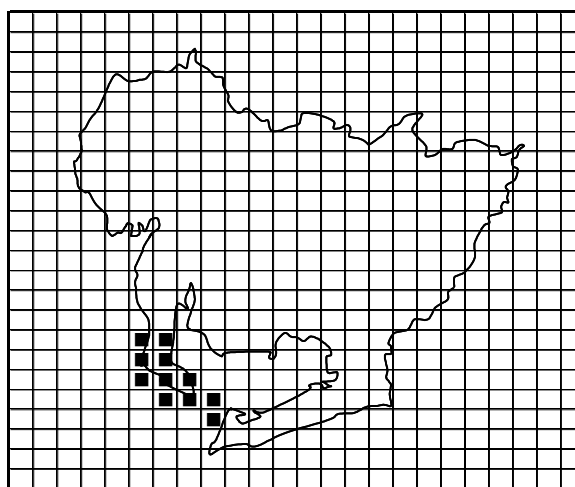
【国内の分布】

愛知県固有。基準変種のヒダアザミは愛知県（三河山地）のほか静岡県西部、岐阜県中南部に分布する。また基準亜種のワタムキアザミは、三重県北部～滋賀県南東部に分布する。

【世界の分布】

日本固有変種。種としても日本固有である。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海岸に近い常緑樹林の林縁に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    | ○  |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

2015 年の調査では 2 カ所に小群落があるだけで、開花個体数は合わせて 15 株程度であった。現在のところ特に減少しているわけではないが、生育地が路傍であるため、道路の拡幅や遊歩道の改修により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

道路の改修や整備に際しては、特に注意が必要である。また、園芸目的の採取などがあれば瞬時に絶滅してしまうと思われるため、採取規制などの対策を講じておく必要がある。

【特記事項】

2009 年版レッドデータブック 641 頁のワタムキアザミの項で、「知多南部のものについては今後更に検討を要するが、保全上の重要性は極めて高い」と述べた植物である。その後再検討した結果、愛知県、静岡県、岐阜県の「ワタムキアザミ」はヒダアザミ subsp. *hidaense* として狭義ワタムキアザミから区別すべきものであること、篠島の植物はその新変種として記載すべきものであることが判明した。三河山地のヒダアザミからは、葉が厚く表面は深緑色で光沢があること、葉は通常鋸歯縁で切れ込まないが、下部は次第に狭くなり、葉柄状の部分がほとんどないこと（ヒダアザミの基準標本はこのような葉を持つが、実際にはヒダアザミの葉は鋸歯縁なら長柄があり、無柄なら羽状全裂のことが多く、基準標本のようなものはほとんどない）、頭花がやや大きいことで区別できる。

【関連文献】

現在のところ公表されている一般的な文献はない。

サワアザミ *Cirsium yezoense* (Maxim.) Makino

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (シカ食害)、総点 15。日本海系の植物で、愛知県は分布域の太平洋側の限界にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、しかもニホンジカによる食害で、極めて危機的な状況に追い込まれている。生育地が林道脇で生育環境階級と人為圧階級が低く、そのため総点は補正項を加えても 15 にしかならないが、まさに消滅寸前であることを考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価する。

【形態】

大型の多年生草本。茎は高さ 1~2m、時には 3m に達する。根出葉は花時にも残存する。葉は楕円形、羽状に中~深裂し、長さ 50~60cm、幅 30cm に達するが、質はやわらかく、刺針はごく小さい。花期は 9~10 月、頭花は枝の先端に 1 個ずつついて點頭し、基部に頭花と同長またはそれより長い 4~6 枚の苞葉がある。総苞は直径 2~3.5cm、総苞片は披針形で開出する。小花はすべて筒状花、花冠は紅紫色で長さ約 20mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

西：5 稲武 (芹沢 85175, 2009-10-10)。1カ所に小群落がある。

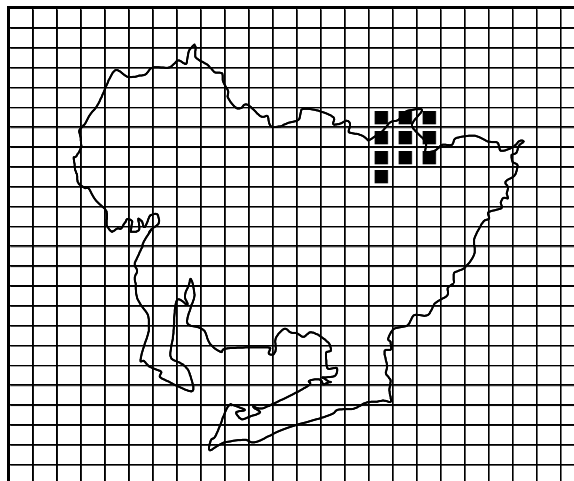
【国内の分布】

北海道南部、本州 (滋賀県北部以東の主として日本海側)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の沢沿いに生育する。愛知県の生育地は林道に沿った小さな沢の、やや攪乱された場所である。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

ニホンジカによる食害が著しく、開花する株はほとんどなくなっている。林道の拡幅や改修により失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

林道の拡幅の際には、特に注意が必要である。

【特記事項】

キセルアザミ *C. sieboldii* Miq. も「サワアザミ」と呼ばれることがあるので、注意が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.37, 平草本Ⅲp.215, 平新版 5 p.234, SOS 旧版 p.86.

イトニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev var. *linearifolium* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 16。現在のところ愛知県の 1 地点でしか確認されていない植物で、そこでも個体数は少ない。ニガナ類の分化のもとになる 2 倍体植物という点でも注目すべきものである。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 30~45cm になる。根出葉は長さ 2~8cm の柄があり、葉身は多くは羽状に深裂、側裂片は通常線形で 2~3 対、頂裂片は長さ 3~10cm、幅 3~6mm である。茎葉は通常線形で、側裂片を出さない。花期は 6 月中旬から 7 月中旬、他のニガナ類よりかなり遅く、頭花は茎の先端部にまばらにつき、総苞は長さ 6~7mm、小花は通常 5 個、花弁は黄色で、長さ 6~7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 8 鳳来北東部 (芹沢 90299, 2015-7-4)。

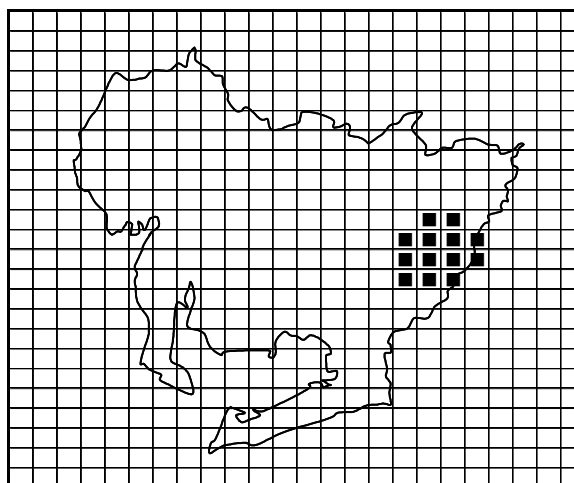
【国内の分布】

愛知県固有。

【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

川岸の湿った岩上に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、個体数も少ない。現在のところは特に減少しているわけではなさそうだが、遊歩道の改修などにより失われるおそれがある。ニガナ類としてはかなり変わった形態をしており、稀少でもあるので、園芸目的で採取される可能性もある。

【保全上の留意点】

まだ記載されていない植物であるが、記載と同時に県の希少野生動植物種に指定するなど、早急に保護する必要がある。

【特記事項】

三河山地には、葉がやや細く、花期もやや遅い 3 倍体ニガナ類 (ニセイイトニガナと仮称) が多く生育している。どこかに極になる 2 倍体植物があるはずだと思って探していたら、出てきたのがこの植物であった。

【関連文献】

このレッドデータブックで初めて公表する植物で、現在のところ他に文献はない。

コニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev var. *minus* Seriz.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 17。現在のところ愛知県の 1 地点でしか確認されていない植物で、そこでも個体数は少ない。ニガナ類の分化のもとになる 2 倍体植物という点でも注目すべきものである。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20～30cm になり、基部から匍匐茎を出す。匍匐茎は花時に長さ 1～5cm、花後に伸びて長さ 10cm 以上になるが、先端がそのまま直立茎となることはない。根出葉は長さ 3～6cm の柄があり、葉身は楕円形～長楕円形、長さ 1.5～4cm、幅 8～15mm、辺縁には 1～数個の小突起があることが多い。花期は 5 月、頭花は茎の先端部にまばらにつき、総苞は長さ 6～7mm、小花は通常 5 個、花弁は黄色で、長さ 5～6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾：42c 武豊（芹沢 89214, 2014-5-16）。

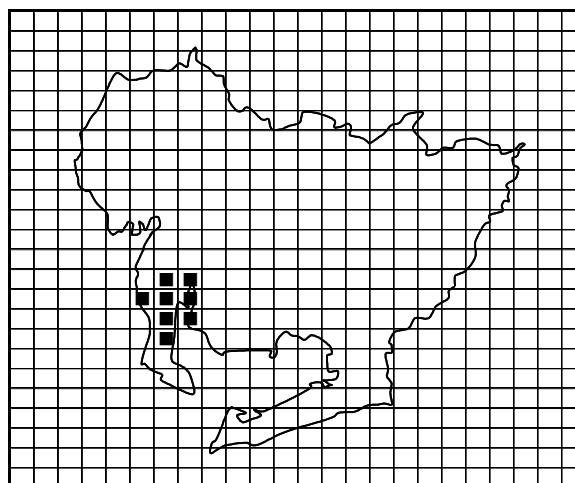
【国内の分布】

愛知県固有。九州（宮崎県）にも似た形態をしたものがあるが、3 倍体であった。

【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

湧水湿地の裸地状の部分に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

確認できた自生地は 1 か所だけで、個体数も少ない。過去に採集された標本を見ると周辺の他の湿地にもあったようだが、現存は確認できていない。周辺にあったとすれば、遷移の進行に伴う湿地の消失が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

自生地は県の天然記念物／自然環境保全地域として保全されており、現在の管理を継続すれば、少なくとも当面は存続すると思われる。

【特記事項】

本州から九州の丘陵地などに多い 3 倍体植物のハイニガナ var. *stoloniferum* (Kitam.) は、形態的にはニガナ 2 倍体と本植物の中間型である。ただしハイニガナは匍匐茎と直立茎の分化がコニガナほど著しくないで、特に春先には、コニガナよりも匍匐茎が目立つ。北海道と本州北部に分布するオゼニガナ subsp. *ozense* (Sugim.) Yonek. との比較も必要だが、まだ生材料が入手できていない。

【関連文献】

このレッドデータブックで初めて公表する植物で、現在のところ他に文献はない。

ミコシギク *Leucanthemella linearis* (Matsum.) Tzvelev

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 17。国内では遺存的に分布する大陸系の植物で、愛知県においてもわずかに残存しているだけである。

【形態】

多年生草本。長い地下茎がある。茎は直立し、上部で多少枝を分け、高さ 30~100cm になる。葉は互生し、無柄、葉身は通常羽状に深裂し、裂片は 1~2 対で幅 2~3mm、辺縁は裏面に曲がる。花期は 9~11 月、頭花は枝の先端に 1 個ずつつき、直径 3~6cm、周辺部に 1 列の白色の舌状花があり、総苞は長さ約 5~6mm で、総苞片は 3 列に並び、ほぼ同長である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：15 豊橋北部（芹沢 57907, 1990-10-23）。西：24 豊田東部（芹沢 53789, 1989-10-7）。このほか 6 設楽西部（東納庫，鳥居喜一 25881, 1974-9-25, HNSM）と 11 作手にも自生地があったが、開発により絶滅した。作手のものは村内の人工湿地に移植されて存続していた（標本：芹沢 57430）が、ごく最近の状況はよくわからない。

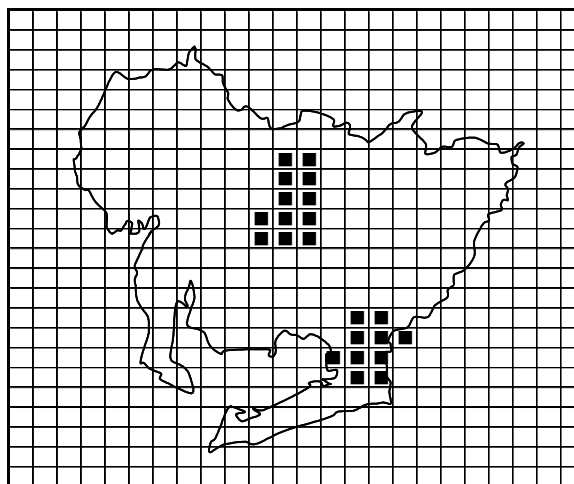
【国内の分布】

本州および九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陆に隔離的に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

日あたりのよい湿地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  | ○  | ○  |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

豊橋北部（葦毛湿原）は本種の自生地として昔から有名であり、かつては相当の株数があったが、現在は数株が残存しているにすぎない。周囲の樹木の生長により被陰されているため、このままでは将来の存続は困難である。豊田東部の自生地も個体数が少なかったが、フェンスで囲われ保護されているため、最近の状況は確認できていない。

【保全上の留意点】

周辺の樹木を伐採し、生育地の光条件を改善することが必要である。なお、作手での移植は新しく人工湿地を作って行われたため、ミズギクの項（662 頁）で述べたような問題は生じていない。

【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅲ132 図版には、葦毛湿原で 1974 年に撮影された写真が掲載されている。「植物からの SOS」（SOS 旧版）19 図版の写真は 1990 年撮影である。

【関連文献】

保草本Ⅰ p.58, 平草本Ⅲ p.164, 平新版Ⅴ p.340, 環境省 p.533, SOS 旧版 p.87+図版 19, SOS 新版 p.102,104.

ミカワトウヒレン *Saussurea nipponica* Miq. var.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 17。おそらく本地域に固有の、オオダイトウヒレン群の一型である。個体数が少なく、しかも被陰や食害により衰退している。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 35~110cm、翼はない。根出葉は通常花時に枯れずに残り、長さ 8~17cm の柄があり、葉身は卵形、長さ 9~15cm、幅 7.5~11cm、先端は短く鋭尖頭、基部は心形、辺縁には粗い鋸歯があり、中央部は通常大きく湾入するが、時にほとんど湾入しないこともある。花期は 9~10 月、頭花は 2~10 個が茎の先端に散房状につき、紅紫色、総苞は長さ 12~15mm、総苞片は 5~6 列に並び、先端は細く尖って開出または反曲する。

【分布の概要】

【県内の分布】

東: 2 豊根 (小林 39926, 1992-10-10)、3 東栄 (小林 39924, 1992-10-10)、7 設楽東部 (小林 53406, 1994-8-27)。西: 5 稲武 (芹沢 83533, 2008-10-11)、19 旭 (小林 48288, 1993-10-2)。

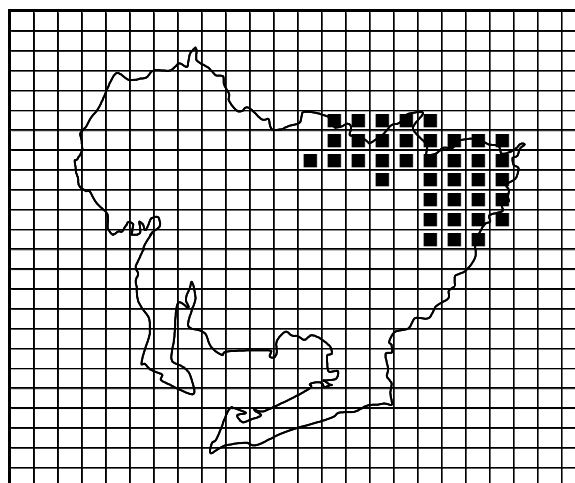
【国内の分布】

おそらく本地域に固有である。

【世界の分布】

日本固有変種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。小林 (2006) は「尾根筋などやや乾燥した林内」と述べているが、確認できた 4 カ所はいずれも沢沿いのやや湿潤な場所であった。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

どの場所でも上層木に被陰されて衰退しているだけでなく、シカによる食害が著しく、2010 年頃には完全な状態の株はほとんど見られなくなっていた。現在ではほとんどの場所で、すでに絶滅していると思われる。個体数と集団数は推定値だが、これでもまだ過大評価かもしれない。

【保全上の留意点】

個体数調整など草食獣の増加への対策が必要である。防護策の設置も検討されるべきである。

【特記事項】

従来オオダイトウヒレン (大原 1971) とされたり、タカオヒゴタイ (小林 2006) とされたりしてきた植物である。形態的には両者の中間型で、葉にバイオリン状の湾入がある点はタカオヒゴタイに合致し、花序群の形態は散房状でオオダイトウヒレンに似る。詳細な検討が必要だが、現状では良好な資料を採取することもできない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.73, 210. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.  
大原準之助. 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.125. 名古屋営林局, 名古屋.



## オナモミ *Xanthium strumarium* L.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、補正+1 (帰化競合)、総点 15。愛知県では極めて希少で、全国的にも減少傾向の著しい人里植物。総点は補正項を加えても 15 にしかならないが、極めて危機的な状況であることを考慮し、絶滅危惧 I A 類と評価する。

### 【形態】

大型の 1 年生草本。茎は高さ 1m 以上になるが、愛知県に現存するものは 30cm 程度である。葉は互生し、長さ 4~10cm の柄があり、葉身は卵状三角形~卵状五角形、長さ 6~15cm、浅く 3~5 裂し、基部は心形、辺縁には不揃いな欠刻状の鋸歯がある。花期は 8~9 月、頭花は単性で、雄頭花は葉腋から出る短い円錐花序につき、雌頭花はその基部につく。果期の雌頭花は楕円形のいが状になり、先端に 2 個の嘴があり、嘴を含めて長さ 10~15mm、表面は毛が多く光沢がない。いがの周囲の刺はオオオナモミに比べてまばらで短く、長さ 1.5~2mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾: 44b 南知多(芹沢 90846, 2015-10-24)。  
1 カ所に小群落がある。東: 12 新城(新城町, 鳥居喜一 22629, 1940-8-11, HNSM)、16 豊橋南部(福岡, 鳥居喜一 22631, 1942-9-6, HNSM)、18 田原西部(泉福寺~石神, 井波一雄 s.n., 1963-10-31, CBM71366)、尾: 51 名古屋南東部(南区富部, 井波一雄 s.n., 1979-11, CBM204341) で採集された標本もある。これらのうち新城の標本等はいがが大きく、オオオナモミとの雑種の可能性がある。

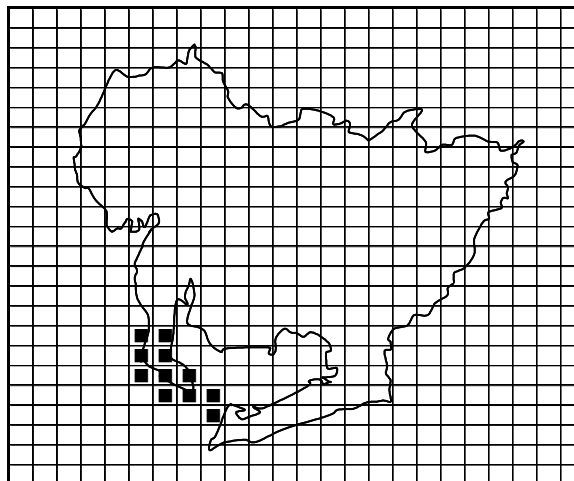
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、琉球。かつては全国各地の路傍等に普通に見られたというが、現在では容易に見ることができない植物である。古い時代にアジア大陸から帰化したものという説もある。

#### 【世界の分布】

ユーラシア大陸に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

路傍、空き地などの攪乱地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    | ○  |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

2015 年に確認できた範囲では、小公園状の空き地の半日陰の場所に、高さ 30cm 程度の小型の個体が数株生育していただけである。隣接した日当たりのよい場所にはオオオナモミの 100 株を超す群落があり、それとの競合によっていつ消滅してもおかしくない状況である。オオオナモミとの雑種と推定される個体もあり、遺伝的汚染も懸念される。

### 【保全上の留意点】

競合種であるオオオナモミの除去が望ましいが、現実問題としては難しい。本種のような植物については、人為的な系統保存を考慮する必要がある。

### 【特記事項】

愛知県では、小林元男氏によって 2006 年に生育が再確認された植物である(小林・深谷 2008)。「海岸沿いの道端で十数株が群生し、隣接してオオオナモミも数株見られた」と記述されており、少なくとも 50cm 以上はありそうな個体の写真が掲載されているが、別の群落なのか、その後状況が変化したのかははっきりしない。彩色画は、2009 年版図版 4 に掲載されている。

### 【引用文献】

小林元男・深谷昭登司. 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.209, 266. 佐久島会, 刈谷.

### 【関連文献】

保草本 I p.89, 平草本 III p.160, 平新版 5 p.362, 環境省 p.539.  
長田武正, 1976. 原色日本帰化植物図鑑 p.84, 85. 保育社, 大阪.

## キソガワシシウド *Angelica* sp.

### 【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有性階級 4、総点 16。おそらく本地域に固有の、未記載の植物である。愛知県では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

多年生草本。茎は直立して高さ 2～3m になり、上部で枝を分ける。葉は互生し、下部の葉には長い柄があり、葉身は 3～4 回羽状複葉、小葉は卵形～楕円形、大きいものは長さ 25cm くらいになり、先端は鋭尖頭、先端部の小葉の基部は葉軸に流れ、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面はやや淡色、無毛またはわずかに毛がある。茎の上部につく葉の葉柄は著しく袋状にふくらむ。花期は 5～6 月、花序は大形の複散形で枝の先端につき、花序の枝は 40～60 本、長さ 5～15cm、花は小さく、白色である。果実は楕円形で、広い翼がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：54 一宮西部(渡辺幸子 2665, 1996-6-9)、57b 愛西(芹沢 74607, 1998-5-25)。木曽川と長良川の河川敷に生育する。

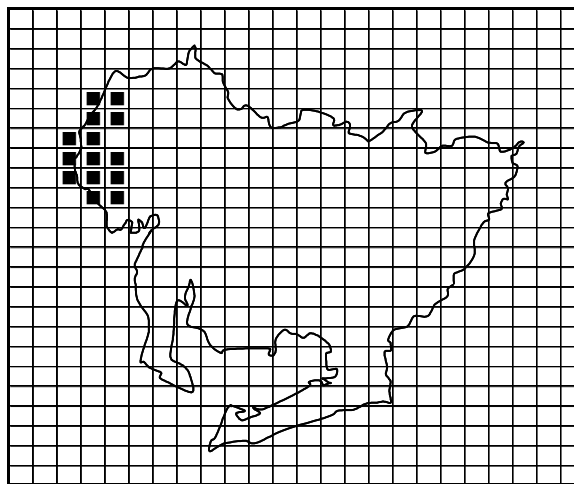
#### 【国内の分布】

本州中部(木曽三川下流部および三重県員弁川)。

#### 【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

河川敷のヤナギ林の林縁に生育する。林内や堤防の草地にもみられる。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、個体数は多くない。本来はもっと多かったと思われるが、低水護岸の建設や河川敷の開発によって減少し、現在に至っているのであろう。旧立田村福原の長良川河川敷には比較的多かったが、河口堰運用に伴う水位の上昇でかなり減少した。

### 【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林の保全が必要である。また、河口部の自然の中では潮の干満に伴う水位の変動が大きな要素になっており、保全策を検討する際にはこの点の検討を欠いてはならない。

### 【特記事項】

和名は、レッドデータブックあいち 2001 植物編で新称されたものである。シシウドに似ているが、初夏に咲き、葉裏はほとんど無毛である。写真は「自然からの SOS」(SOS 新版)に掲載されている。最近長野県の藤田昇氏と共に検討したところでは、狭義シシウドと本州中部日本海側の一部に生育するユキグニシシウド(仮称)の中間型であるミヤマシシウドの一型で、おそらく上流部から流されてきて定着したものであり、変種の階級で区別するのがよさそうである。

### 【関連文献】

SOS 新版 p.203,205.

## エキサイゼリ *Apodicarpum ikenoi* Makino

### 【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 17。関東地方と愛知県の固有種で、減少傾向の著しい低湿地性植物でもある。県内では生育地が極めて少なく、開発圧力も高い。

### 【形態】

小形の多年生草本。根は数個が肥厚する。茎は下部から枝を分け、高さ 30cm 内外になる。葉は互生し、長さ 4~10cm の柄があり、葉身は単羽状複葉、小葉は 2~4 対で長卵形~卵形、長さ 1~3cm、幅 0.5~1.5cm、先端は鋭頭~鈍頭、無柄で辺縁には欠刻状の鋸歯がある。花期は 5 月、花序は複散形で枝の先端につき、花序の枝は 4~8 本、花時には長さ 1cm 以下であるが果時には 1~3cm にのび、花は小さく、白色である。果実は楕円形で長さ 2~3mm、分果は無柄である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

尾：49d 清須（芹沢 77359, 2001-5-21）、56a あま（芹沢 82886, 2008-5-30）。五条川下流部だけに知られており、区画としては 2 区画だが、実質的には 1 カ所である。橋本（2019）によれば春日井市で採集された標本もあるというが、生育地が本種の一般的な自生地環境とはかなり違うようで、確認が必要である。

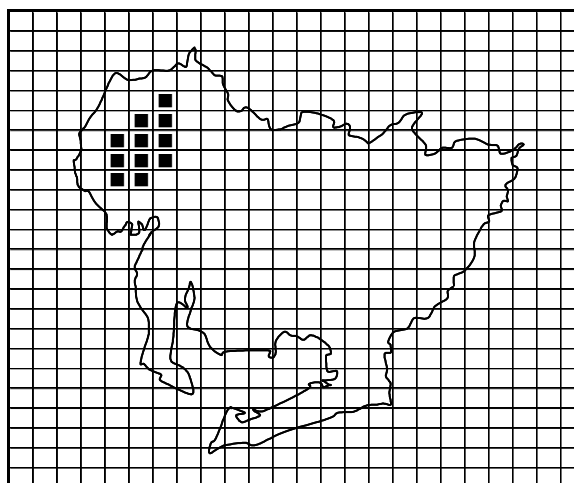
#### 【国内の分布】

本州（関東地方および愛知県）。関東地方では、利根川水系にはまだ点在しているが、東京都や神奈川県ではすでに絶滅した。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

河川敷低湿地のヨシ群落の中やその周辺に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    | ○  |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

部分的には個体数の多い場所もあり、また高さ 50cm を越す大型の個体も見られるが、生育地は新川との合流点から上流に向かって約 1.5km の範囲に限られており、存続の基盤は極めて脆弱である。最下流部の集団は、清掃工場の建設とそれに関連する河川改修により消滅した。ただし、現在進行中の河川改修工事では最大限の配慮がされている。

### 【保全上の留意点】

目立たない植物であるが、愛知県の低湿地性植物の中で最も危機的で、また最も保全を要する種である。埋土種子集団を作る植物らしいので、生育環境を維持または創出すれば、個体群は存続すると思われる。

### 【特記事項】

日本固有の 1 属 1 種の植物である。和名は、本種を最初に描画した富山藩主・前田利保の号「益斎」に因む。

### 【引用文献】

橋本啓史. 2019. 農学部標本室から附属農場に移管した植物さく葉標本目録. 名城大学農学部学術報告(55):1-11.

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.14, 平草本Ⅱ p.287, 平新版 5 p.391, SOS 旧版 p.66+図版 27, SOS 新版 p.166.

## フキヤミツバ *Sanicula tuberculata* Maxim.

### 【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 3、総点 16。全国的に少ない植物で、愛知県は隣接する静岡県西部と共に分布域の東限にあたる。県内でも個体数が少ない。

### 【形態】

小形の多年生草本。茎は高さ 8~20cm になる。葉は根生し、長さ 5~12cm の柄があり、葉身は幅 1.5~4cm で 3 小葉に分かれ、各小葉はさらに 2~3 裂する。花期は 5 月、茎の先端に 1 対の葉状の総苞片をつけ、その間に通常 1 個の散形花序をつける。花は小さく緑色、中央部の 1~4 個が雌花、そのまわりが雄花である。果実は長さ約 4mm、先端がかぎ状にならない刺毛がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東: 12 新城 (芹沢 91822, 2017-4-22)、13 豊川 (小林 36786, 1992-4-27)、15 豊橋北部 (中西普佐子 3198, 2009-5-12)、17 田原東部 (小林 50484, 1994-4-16)。

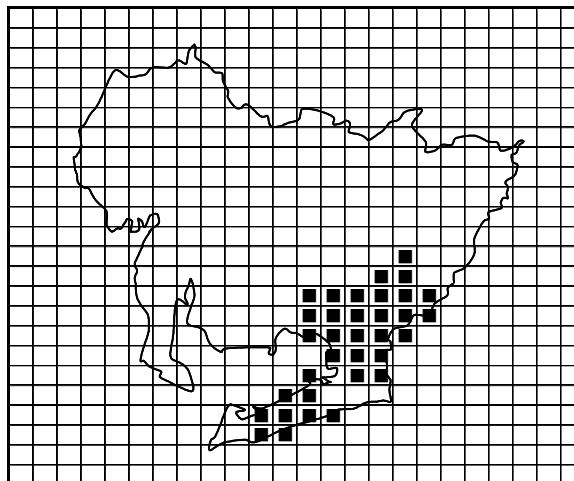
#### 【国内の分布】

本州 (中部地方以西)、四国、九州。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島中南部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境／生態的特性】

丘陵地や低山地の明るい林内に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  | ○  | ○  |    |    |
| 草・岩 |    |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

### 【現在の生育状況／減少の要因】

以前は点在していたが、どの場所でも個体数は少なかった。森林化の進行により被陰されて減少傾向が著しく、近年生育が確認できたのは 2 カ所だけである。

### 【保全上の留意点】

疎林状態のやせ山に依存する植物であり、そのような環境の保全が必要である。やせ山や砂丘、湿田のような自然・半自然環境は、そこを利用している、あるいは近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。

### 【特記事項】

目立たない植物なので、調査の際には特に注意を要する。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.7, 平草本Ⅱ p.278, 平新版 5 p.386, 環境省 p.463, SOS 旧版 p.67.